



新。盛り場風土記 江東樂天地

江東に蚊がいなくなりや大晦、などと川柳にうたわれ、震災戦災と再度にわたつて丸焼けにされたり、堤防の決壊や高潮で水びたせにされたり、江東は全く御難の土地。この隅田川と荒川とに囲まれた、仏印ならぬ東京のデルタ地区に居をかまえ、折にふれて東京の興行界に快電波を送るのが江東樂天地である。

江東樂天地は今から十七年の昔、昭和十二年、東宝の小林一三社長が、ここ一帯の工場地域に働く人のために健全明朗な娯楽をと云うので当時汽車会社の土地五千坪を買取つて、ここに江東劇場、本所映画を中心江東花月劇場、観音堂、仲見世、食堂、子供遊戯場、それに折にふれてサーカスやお化け屋敷と云つた催物、江東劇場ではドサ廻りの日吉良大郎劇団やら當時の東宝劇団第二軍と云つたものが時折かかるという、ローカル向の遊び場が出来上つた。

この江東樂天地が興行界にクロス・アップされて来る

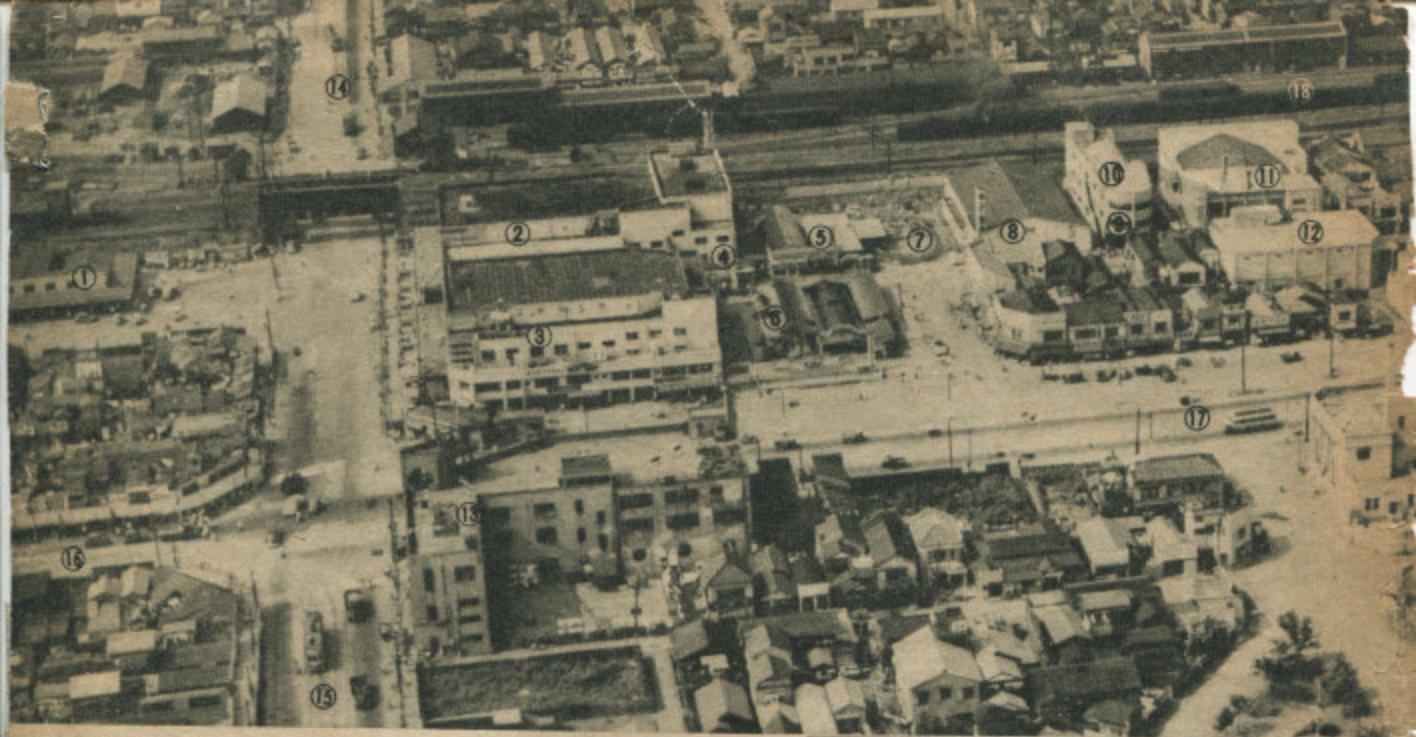
のは戦災で丸焼けになつた戦後のことだ。東宝をバージでやめた東宝を、テラン那波光正が終戦后ここに立て籠つた。当時は本所、江東の両劇場だけが本建築であつた為ようやく改修営業をしていたが、

一ス・アップされて来たのは戦災で丸焼けになつた戦後のことだ。東宝をバージでやめた東宝を、テラン那波光正が終戦后ここに立て籠つた。当時は本所、江東の両劇場だけが本建築であつた為ようやく改修営業をしていたが、



(写真説明) 東武線錦糸町駅に下りたつと、目の前に墨東唯一の盛り場江東樂天地がひらける。駅の前には株式会社江東樂天地の本陣江東劇場と本所映画館があり「写真上」、両劇場に跨るアーチをくぐると「写真中」、奥に吉本興業株式会社の有力な様子をくぐると「写真左」、写真中、奥に吉本興業株式会社の有力な様子をくぐると「写真左」、





↑ 江東樂天地を空中より見ると、—— ①総武線錦糸町駅 ②江東劇場 ③本所
映画館 ④めばえ座 ⑤リップ劇場 ⑥場外馬券売場 ⑦遊園地 ⑧キンギエキ
⑨江東文化 ⑩スポーツランド ⑪吉本映劇 ⑫花月映劇 ⑬白木屋支店 ⑭浅
草へ至る ⑮洲崎へ至る ⑯浅草橋へ至る ⑰千葉へ至る ⑱千葉駅へ至る。



リップ劇場通り向いにあるダンス教室は場外馬券売場に平交り、
の通り大騒ぎである。

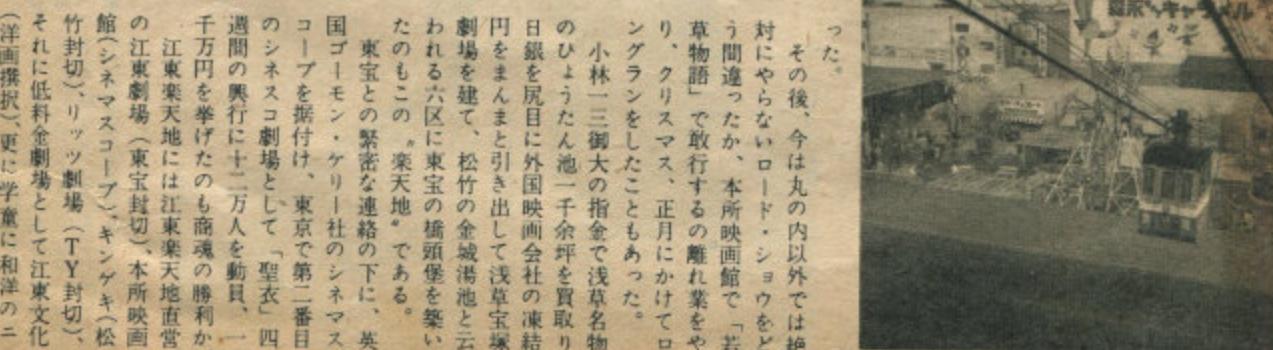


スポーツランドの屋上から子供の
喜ぶ空中ケーブルカーが出ている。

その後、今は丸の内以外では絶対にやらないロード・ショウをどう間違つたか、本所映画館で「若草物語」で敢行するの離れ業をやり、クリスマス、正月にかけてロングランをしたこともあつた。小林一三御大の指金で浅草名物のひょうたん池一千余坪を買取り、日銀を尻目に外国映画会社の凍結円をまんまと引き出して浅草宝塚劇場を建て、松竹の金城湯池と云われる六区に東宝の橋頭堡を築いたのもこの、樂天地である。

東宝との緊密な連絡の下に、英國ゴーモン・ケリー社のシネマスコープを据付け、東京で第一番目のシネスコ劇場として「聖衣」四連戦の興行に十二万人を動員、一千万円を挙げたのも商魂の勝利か。

江東樂天地には江東樂天地直営の江東劇場（東宝封切）、本所映画館（シネマスコープ）、キンギエキ（松竹封切）、リップ劇場（TY封切）、それに低料金劇場として江東文化



洋画攝撮五丁目の江東文化劇場の前には、子供を背負つたおかみさんが立ち止る。

↓ 本所映画館の屋上より樂天地のメイン・ストリートを俯瞰すると、(手前より)リツ劇場、キンギキ、江東文化が盛んに客を吸収している。江東文化のある樂天地会館の屋上には遊戯場があり、子供の天国として人気がある。



↑ 松竹封切の錦糸町映劇と、東映封切から近くTY封切になるリツ劇場。↓



→ 江東劇場地下にある「めばえ座」は二十円劇場である。



これが完成の晩には東京の温泉境として、映画館九軒と共に存する盛り昼夜にガス千二百立方メートル、温泉八百立方メートルという。これが完成の晩には東京の温泉境として、映画館九軒と共に存する盛り昼夜にガス千二百立方メートル、温泉八百立方メートルという。この温泉ブームも設けるといえれば健康にして明朗な東京新名所となるに相違ない。

もうひとつ面白いブランがある。樂天地

ユースを見せる目的でそれにターザン物やエノケン映画を付けて二十円で見せる立前の「めばえ座」があるが、これは七月十四日から邦画撰切の江東地下となり、現在の「めばえ座」は、江東文化の二階へ移転する。

他に吉本経営の江東吉本映劇（大映、東映、新東宝封切）とSY封切の江東花月映劇の九館が軒を並べている。映画館の密集盛り場としては浅草六区に次ぐものであり、それに児童遊戯場あり、食堂あり、売店、場外馬券売場ありで、計画的に組合された総合娯楽場としては日本唯一の觀がある。

江東樂天地では、更に構内に温泉ブルーを持つ千五百坪の温泉ビルの計画を持ち目下着々と準備中である。六百五十米の塩泉で、三十度に近い塩類泉が天然ガスと共に湧出し、その量も一日一夜にガス千二百立方メートル、温泉八百立方メートルといふ。



↓戦災にあったままの白木屋支店はいつ復興することやら。



↑江戸名所、図絵で名高い萩寺の跡。落合直文の碑も今でははつきり読めない。

↓ああ無情、場外馬券売場にいつまでも立ちつくす人々の堅い表情も、いつしか黃昏につつまれて行く。



↓藤の名所で知られる亀戸天神の“たいこ橋”。



今日の繁盛は結局この地区観客の支持あってのこと。この利益の一部をなる可く有意義にこの地区に返却すべきこと。

本所の七不思議おいて、堀は、その面影の沼跡もとどめず江東楽居となつた、深川三またの芭蕉庵遺跡がある。

本所の七不思議おいて、堀は、その面影の沼跡もとどめず江東楽天地として毎日数万人の人を呑吐しているが、チーモズやセーヌが倫敦、巴里の生活と文化に占める比重の大なることを思うとき、隅田川の荒廃は嘆かずにはいられない。東京の空の下隅田は流れるのイメージはいつ実現されるであろうか？

に大蔵省の渡航資金の貰ひ、朝日新聞、

文・植草甚時

明治学院、YMCAなどの後援を得て、この秋には二名の校長を派遣する準備中である。これは小学校長に海外を視察させ、その生きた国際知識を次の世代を背負う学生に植付けようという意図であり、興行企画としては素晴らしい催しであり大いに賛意を表し度い。

樂天地に近い有名な亀戸天神は人も知る藤の名所だが、本堂その他戦災に焼失して復興は遅々としている。近所に昔から名物とされた船橋屋のくず餅は、安くてうまい昔の味を伝えて貰れるのが嬉しい。

江戸の名所図絵で諷諭された萩寺も天神様に隣してあるが、やはり戦災で未だ復興の徵も見えない忙しさで、僅かに落合直文の萩の歌碑が淋しく残っている。隅田川を近くにもつ地区だけに、徳川明治の文学にゆかりの地も多く文学散歩の場所も多い。アララキ源開祖の伊藤左千夫の墓も近くにあるし、少し遠く離れるが清洲橋の附近には松尾芭蕉が東京二十年の生活の居となつた、深川三またの芭蕉庵

遺跡がある。

本所の七不思議おいて、堀は、その面影の沼跡もとどめず江東楽天地として毎日数万人の人を呑吐しているが、チーモズやセーヌが倫敦、巴里の生活と文化に占める比重の大なることを思うとき、隅田川の荒廃は嘆かずにはいられない。東京の空の下隅田は流れるのイメージはいつ実現されるであろうか？

前橋



↑群馬銀行屋上から赤城山を望む。左に側面を見せるのがオリオン、正面に銀星と前橋東宝

北に国定忠次の伝説で知られたる上毛は——という、古い群馬県歌がある。その、舞う鶴の中央部に、県庁所在地の前橋市がある。関東地方の北部に位置し、東京の上野から準急で二時間弱でつく。

赤城山をひかえ、西に利根川の清流をへだてて妙義山の峻峰をのぞみ、東南は一望百里の関東平野にひらけている、というのが、前橋の地理的条件である。山岳帯に近いから、道路は固く、街の大路小路には、せせらぎが流れ居り、場所によつては京都の下加茂あたりを思わせる。人口は約十七万、去年の四月一日付で、近郊七カ村を併合したから、昼間人口と云つても大して変わらない。

映画館は、この人口に対して僅か五館に過ぎない。一館あたり三万四千である。一館二万人を常識的な興行人口とすれば、余猶しくしゃくである。あと二館は、増加してもよい道理である。しかし、

↓アーチのあるオリオン通り



↑通勤はすべて自転車で……

県庁所在地で、人口対比が豊富な割に、前橋の映画界は活気に乏しい。まだ本建築の映画館は一つもない。シネマスコープも、本式なもののは一つもない。それはどういうわけか。

前橋には、古くから野中興行部が勢力を集注していた。現在でも、松竹、日活系のオリオン座をはじめ、大映、新東宝系の銀星座、東宝、東映系の前橋東宝と、五館のうち三館を、野中が経営している。これに外にも、野中の系統館は、高崎、



↑目なしダルマの片目を入れて、願いことが叶うと、

アトの片目に眼を入れる。これが上州の縁起ダルマ



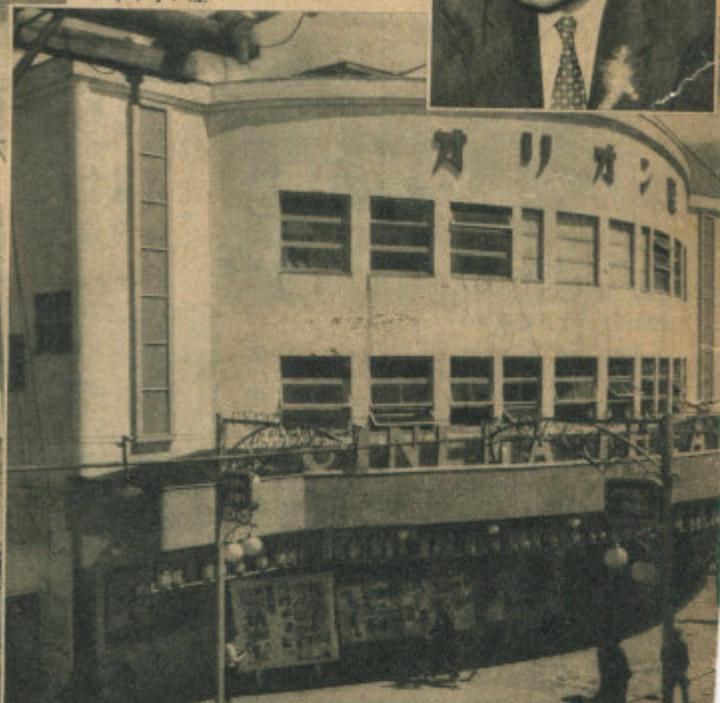


↑前橋銀座の大通り、チエツカー
のスカート娘はなに思う。

←銀星座

野中恒雄氏→

↓オリオン座



伊勢崎、相生に数館を所有している。群馬県下に於ける野中興行部は、チエーンの力を以て可成りの多角経営が出来る筈である。ところが、野中は邦画の契約を全部独占しているために、邦画各社の番組は自由だが、邦画を刺戟する洋画を対抗させないから、邦画全般が気分的に平盤化するおそれがある。映画の観客層というものは、ミーハーが大部分を占めるとは云え、洋画ファンや、インテリ、学生層が動員されて、はじめて多彩なファン層が出来上るものだ。早い話が、日本の映画が、年々進歩改善されて行くのは、おびただしい外国语映画の輸入興行によつて、その刺戟が与えられるから、活氣が出るのである。

前橋にある五館のうち、他の二館は、駅前の文化映画劇場が、シバ興業の經營で、これが洋画をやり、外に、オリオン座の近くにバラフクのアトール前橋というのが、平石門跡氏の經營で、矢張り洋画を上映している。しかし、この二館は、規模の上からも、地の利から云つても、到底野中の三館には及ばない。野中の三館は、いわゆる前橋銀座とでもいべき盛

←敷島公園の松林の中に建てられた萩原朔太郎の詩碑



り場の中央に位して居るから、野中の経営館が、盛り場を独占していると云えるのである。従つて、その盛り場に、洋画館が一つもないとことになるのである。前橋の映画界が低調だというのは、盛り場の雰囲気があまりに平穡だからである。県庁や市役所の若い吏員、女事務員に、月に何回位映画を見ますか、日本物と外国物と、どちらが好きですか、ときいて見たら、月に一回というのが多く、二回見る云つた人は極く少なかつた。

そして、一様に、良い外国映画の見られないのがつまらない。休みの日にわざわざ東京まで行くと云つていた。

主野中恒雄氏は、外国物は客が来ないので、思い切つた手が打てない、と云つていたが、それに対し、外国映画の名画座式のものをやるか、オリオン座あたりを使つて、ナイトショーで、外国映画の撲抜作品をやつて御らんなさいと勧めた。これは、地方都市の映画館が、洋画を上映していたが、火災で焼失し、そのままになつてゐる。平石氏が、もとの電気館であると云ふ。アーティスト館が八つあり、その過半数が洋画館である。又、長野は、戦前まで主野中恒雄氏は、外国物は客が来ないので、思い切つた手が打てない、と云つていたが、それに対し、外国映画の名画座式のものをやるか、オリオン座あたりを使つて、ナイトショーで、外国映画の撲抜作品をやつて御らんなさいと勧めた。これは、地方都市の映画館が、洋画を上映していたが、火災で焼失し、そのままになつてゐる。平石氏が、もとの電気館であると云ふ。アーティスト館が八つあり、その過半数が洋画館である。又、長野は、戦前まで

幸いなことに、前橋市には、医大と学芸大と工大、短期大学があり、高等学校が八つ、中学が十二、小学が十八ある。中学生以上の生だけでも二万七千人以上が在学している。外国映画興行にとって、これは豊潤な沃土である。放つておるのは惜しい。

尤も、前年まで平石氏の前橋電気館が、洋画を上映していたが、火災で焼失し、そのままになつてゐる。平石氏が、もとの電気館であると云ふ。アーティスト館が八つあり、その過半数が洋画館である。又、長野は、戦前まで

して活氣のある秋田市には、映画館が八つあり、その過半数が洋画館である。又、長野は、戦前まで主野中恒雄氏が駿前を開拓してから生じても二万七千人以上が在学している。外国映画興行にとって、これは豊潤な沃土である。放つておるのは惜しい。

尤も、前年まで平石氏の前橋電気館が、洋画を上映していたが、火災で焼失し、そのままになつてゐる。平石氏が、もとの電気館であると云ふ。アーティスト館が八つあり、その過半数が洋画館である。又、長野は、戦前まで

して活氣のある秋田市には、映画館が八つあり、その過半数が洋画館である。又、長野は、戦前まで

↑ 前橋東宝

↓ 駅前にある文化映劇



↑ 前橋テアトル



↑ 市民のオアシス敷島公園



る。殊にモダンスタイルの市役所や地方検察
院の建物は、見すばらしい商店街や、焼跡の
民家に比較して、あまりにも立派過ぎる。
隣りの長野県にくらべて、群馬県民には、政
治性が稀薄だという声をきくが、曲輪町界隈
の県街を歩いてみて、まだ封建性の色こき
ものが残っていると感じたのは、纏雜景気の
低調さで、一般県民の意氣が上らないと見た
故ばかりでもなさそうだ。

市の北方、利根川原に添つた敷島公園は、
天然の松林に、利根の水を配した自然公園で、
県立総合グランドや野球場が設けられ、アーヴ
にはボートをこぐアベックの姿も見える。
つい此の五月十一日に、除幕式をあげたとい
う、前橋出身の詩人萩原朔太郎の詩碑も、こ
の敷島公園の松林の中にあり、高さ六尺五寸、
幅四尺六寸のみかけ石に、肉筆からとったと
いうベン字で「水島」の中の詩「帰郷」の一
節が、一尺角のプロンズに刻まれて、はめこ
まれてある。筆者の落ちつかない旅の心もか
つていしぶみの詩人が愛したという、この敷
島公園の美くしい自然の環境に入つて、よう
やく和やかさをとりもどした。

プロンズに刻まれた詩文は、故人が奥さん
と離別し、一児を抱えて東京から家郷へ帰つ
た時の激烈な心境をうたつたものだという。
それは、つぎのように読まれた。

わが故郷に帰れる日

汽車は烈風の中を突き行けり

ひとり車窓に目醒むれば

汽笛は闇に吠え叫び

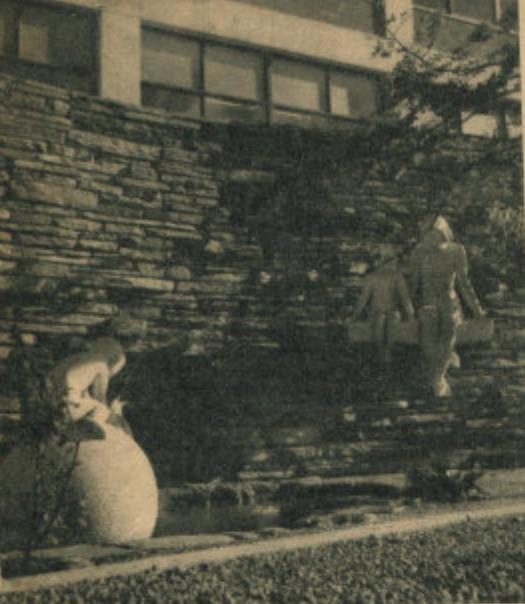
炎焰は平野を明るくせり

まだ上州の山は見えずや



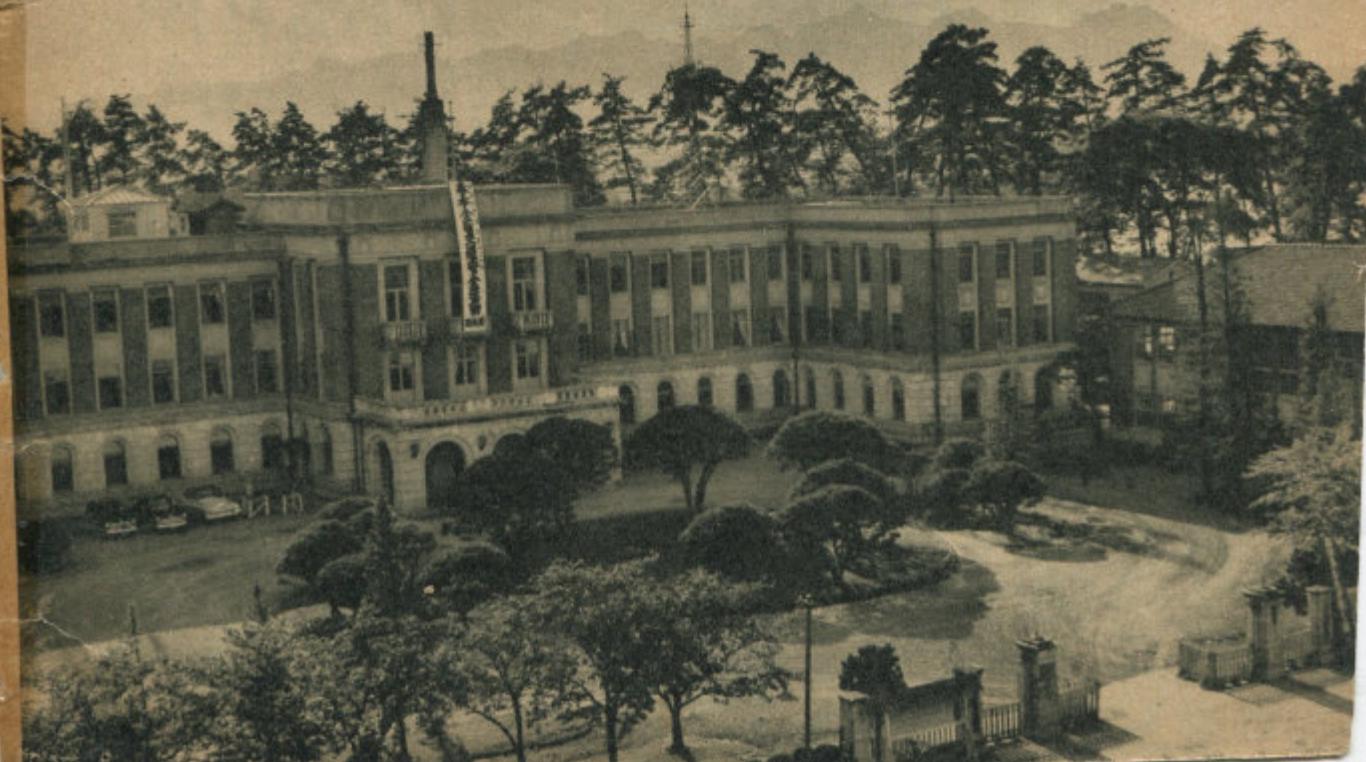
豪華な前橋市議会場

豪華な市役所、その前庭にある泉水



豪華な市役所、その前庭にある泉水

文
田 中 純 一 部
カメラ
一 置 夏 洋
協 力
ア カ ギ 商 会



名古屋・広小路



↑栄町交叉点。新名物のテレビ塔（180メートル）が見える

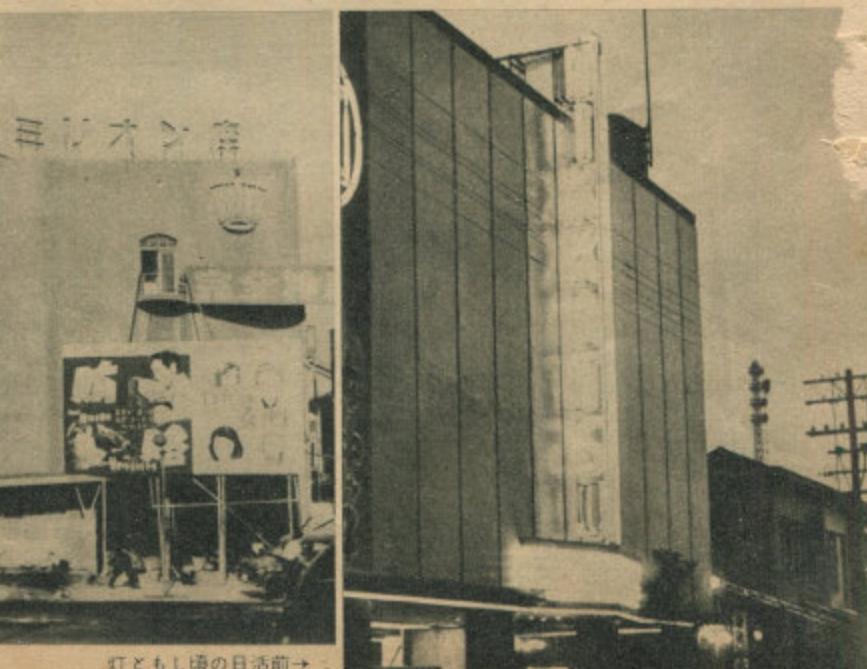
メトロの好敵手アロハ会館は去る五日から休館し、約一年半の長期間をかけて完全再建築する筈。メトロと同時開館以来ごく疏黄島の砂「ベラ・クルズ」、大須赤門のOS劇場とチエーンを組んで好況である。

アロハ会館のすぐ北には東和ビルが新築中で、その中にはシネスコ劇場、一般封切館、ニュース館

名古屋の中央盛り場ともいべき広小路は、名主・朝日ビルのある納屋橋通りから東へ市電で三区間、栄町交差点辺りまでをいふくめても、それはど無理はないだろう。道巾二十四メートル、およそ二八〇〇米程のみちのりである。

人口一二〇万の大名古屋の表玄関、名古屋駅は、東海道旅客列車だけでも一日に発着数一八〇本、乗降客一日平均六、七万。駅の南には近畿鉄道（大阪・伊勢）と名古屋鉄道（豊橋・岐阜間、他）の二駅が並び、その乗降客も一日数万をくだらない。

名古屋駅を出るとすぐ右手前には「ヨコ」を立てたような名古屋ビルがそびえ、その間にメトロ劇場がある。名古屋映画業界の雄、古川為三郎氏の系統館の一つで、二十一年十月三十一日「ザン映画」でコケラおとし、二十四年十一月十五日に改築再出発した。アクションもの、お子様イマセン映画をトクイとする。最近の大ヒットは「ベラ・クルズ」、大須赤門のOS劇場とチエーンを組んで好況である。



↑ミリオン座。彫刻を配した美しい建物。



↑名古屋駅前娯楽センター（彫刻はミリオン座前の平和女神）



←メトロ劇場 ↑千歳劇場（大映封切）

の二つが予定され、遅くとも今年の十二月には開館出来るといふ。更にその北には毎日新聞が社屋を増築中で、この中には大映系の封切館が出来るとか、この辺は、最近開店以来中央部の老舗デパートを圧迫しているといわれる名鉄ターミナル・デパートと共に、近い将来、駅前地区の大劇場センターを形成するであろう。

駅前電停から南へ一区、東へおれで二区（納屋橋東）電停下車通りすぎた橋の西北詰通りには東映映画の中央映画劇場と寄席の宿劇場が向いあつて並び、電停南側には名宝ビルと朝日ビルがそびえている。名宝ビルには定期一千五百円の洋画再映をやつてゐる。名宝ビルには定期一千五百円の「なごや東宝」は、もとより、上映系統は松竹、東映、大映の「名宝文化」で、「ヘンリイ・五世」「レベリヤ物語」「美女と野獣」「戦火の彼方」等ヨーロッパ映画専門館として、高級ファンを独占吸引していた。今は「渡り鳥」がつづけるなど自社映画の第一封切である。

五階の「なごや東宝」は、もとの「名宝文化」で、「ヘンリイ・五世」「レベリヤ物語」「美女と野獣」「戦火の彼方」等ヨーロッパ映画専門館として、高級ファンを独占吸引していた。今は「渡り鳥」がつづけるなど自社映画の第一封切である。

二階にはもとより、「名宝会館」があり、上映系統は松竹、東映、大映の「名宝文化」としたが、現在は「名宝文化」の名だけをうけつぎ、実体は

さながら東宝王国の觀がある。名宝劇場は昭和十一年十一月一日宝塚少女歌劇で「タをあけたが、後に「タをあけたが、後に」が、これは名古屋興行界の重鎮崎崎久太郎氏が育てあげた当地最

名宝劇場→
前の夜景

古の映画館の一つで、大正年間に
は錦輝館と称した。キンメン一杯
二銭ナリの時代の話である。

朝日会館はかつて進駐軍用に接
収されていたが、接收解除で二十
七年五月「凱旋門」で再出発以来、
3D、シネスコ、VV、スレーパー
スコープと何でもまっさきにやつ
てのける進取機動性を發揮して、
日とともに新鮮さを誇示している。
最近では「妙漢は生きている」が
快記録を作った。

ミリオン座は前出のメトロ劇場
と共に吉川系で、附近の資生堂(喫
茶料理)やクリルUSとともに御
曹子古川(己氏の直営)、十五年

十一月一日「ヨルスン物語」で
コケラおとしをして以来「バンビ」
「ローマの休日」「グレン・ミラー」
物語等で大いに気を吐いた。外
観(壁画、彫刻)、内容ともに異色
のロードシミウ・ハウスである。

この地区的すぐ東につづいて、
新東宝の第一封切館、中日CNCは
千歳劇場、中京劇場、松竹直営
劇場、大映系の千歳劇場、松竹直営
の中京劇場があり、これから東へ
のびて広小路劇場から栄町娯楽セ
ンターへつながる。中日CNCは
戦後流で、はじめセントラル系と
して発足した洋画館だったが(二
三・二・二一、昨二十九年十二月
に「鶴は再び鳴く」で新東宝へ転
向し、「新入社員」等で大当たりをと
った)。

千歳劇場、中京劇場は共に芝居
小屋からの劇場で、千歳の方が映
画歴はずつと古く、松竹蒲田、南
歐、北欧映画の名作はほとんどこ
こで封切られた。その後パラマウ
ント、帝キネ直営等を転々とし、



↑ 広小路劇場



↑ 中京劇場(松竹直営)



↓ ロマン座



← ヒカデリー劇場入口の
上を飾る彫刻

↓ 松映(ステート座)





ピカデリー劇場前。雨にぬれたペーパーメントが美しい



中日CNC劇場。新東宝の封切館



が中をきかせている。しかし、何よりも少いのは図書の店で、文化都市名古屋にしては、うなづけない。

そして、大通りの交叉点や、目ぬきの場所にはきっと銀行のガソリンコ建築がまくららのしかかって、土日などの休日には歩くより押し流される程の人波があるのに、通りの風景はまことに殺風景で無粋というものだ。まあたそれがに、オフィス帰りの三々五々が、屋台店の前でしばしのいこいをとる。そんな寸景が辛くも覗みみある。庶民情態を想いおこさせる。

文・カメラ 伊藤栄英

建物中の二大ビル。毎日新聞増築社屋と東和ビル

戦後一時セントラルに走つたこともあるが、大映封切館として重要な役目を果している。中京劇場はもと新守座といったのが、映画館になつて今の名前にしたのが昭和のはじめである。先頃まで松竹第一封切館だったが、お株を松映（後述）にめざり、目下は下番組によつている。

広小路劇場は大正年間に中央電気館といい、前記錦輝館と共に広小路最古の歴史をもつている。岡崎氏の直営。日活向島の立花貞一郎、京都旧派の尾上松之助時代から活動小屋として知られている。戦後はセントラル系で再出発したが、昨今はシネスコその他の二番立劇場としての魅力を發揮し

映は二十一年十月末に松竹映画で、竹に戻つて中劇に代る松竹第一線

スタートしたが、後にセントラルのロードシアターグリーン劇場となりステ

イ座と改名したが、現在は再び松

竹に戻つて中劇に代る松竹第一線

劇場として、名目としきを削り

かっている。ヒカデリーも戦後派

井定彦氏の経営、優秀洋画、本立

二番館として堅実なファン層をつ

かんでいる。

この小路にあるロマン座は精録花

井定彦氏の経営、優秀洋画、本立

二番館として堅実なファン層をつ

かんでいる。

最近栄町かいわいには新名所が

出来た。昨年六月竣工のテレビ塔

（地上二八〇メートル）と、その足許の

はじめている。

広小路の焦点は栄町の交叉点だ。

名古屋日活、松映、ピカデリー、ヒカデリーの四劇場が二つのアパート

ともに市民を惹きよせる。名目

は二十七年八月「砂漠の鬼将軍」

で開場し、昨年五月「國定忠治」

以来自社作品を封切している。松

映は二十一年十月末に松竹映画で、

は心地のヒットとなつた。その北

はヒカデリー映劇が新東宝の封切をや

ついているが、ここは前にキセヒト

ル劇場といい、「ハムレット」を五

十日近くロングランした記録をも

つてある。眼下、栄町電停近くに

は東映直営館（地上、地下五階）

送会館は七月には業務をここで

行うようになるだろう。

朝日・ミリオン地区に近く、伝統を誇る歌舞伎王國御園座があ

り、その近くにアメリカの六つの

メイジャー会社が持るナゴヤ・フ

ィルム・ビルがあることも書きそ

えておこう。

さて、これら大映画館をつなぐ

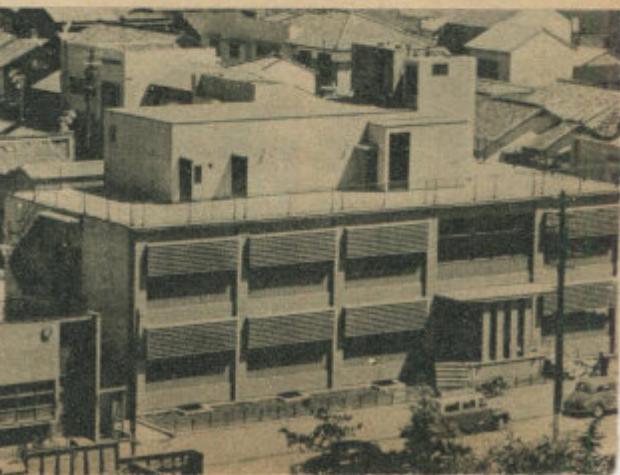
この広小路通りには、喫茶、食

堂、洋品、雑貨の店が所狭きまで

に立ち並んでいるが、いずれも特

色ある店が少く、全国主要都市な

みに、ここも東京からの出店支店



アメリカ・メジャー会社の拠点・ナコヤ、フィルム・ビル



新・盛り風場記

鎌倉

修学旅行で賑う鶴岡八幡宮



長谷の大仏



さわやかな由比ヶ浜海水浴場

鎌倉——西の京都・奈良と並んで、日本有数の観光地であることは、今さら説明するまでもない。観光客のほかにも修学旅行に、海水浴に鎌倉をおとすれる人の数は年々増加している。名所古蹟、古事由来の詳細は歴史の教科書や旅行案内にゆすることにして、映画館を中心鎌倉をみてみよう。

鎌倉には全部で五つの映画館がある。駅の裏口の広場に面して「テアトル鎌倉」(支配人三橋保氏)がある。「鉄筋二階建て設備のよさ」と地の利では、鎌倉第一である。定員四七九で東宝と日活の映画を上映している。

鎌倉銀座通りを由比ヶ浜銀座に向つて一〇〇米ばかり行くと、右側に入ったところに「鎌倉劇場」(支配人宮田満生氏)がある。三年に建つた鉄筋二階のこじんまりとした鎌倉最新の劇場で、定員二二〇、冷暖房も完備している。ここは商店街から離れた住宅地にあるので、上映映画は女性むき、文



伝統を誇る市民座



海浜に並んだ遊戯場



東映ファンに人気のある鎌倉名画座



江の電乗車口 左と鎌倉銀座 右



由比ヶ浜銀座のアーチ

部省選定作品などの家族むきのプログラムの評判がいい。系統は松竹と大映。再び由比ヶ浜銀座に出で、長谷の大仏に行く途中に、劇場前というバスの停留所がある。ここが「鎌倉シネマ」(旧鎌倉松竹・支配人橋保氏)である。戦前の鎌倉には、ここと鎌倉名画座の二館だけで、関東大震災前に芝居小屋として発足し、松竹の直営を経て現在は洋画を上映している。鎌倉最古の映画館だけあって古色蒼然としたかんじ。木造二階建定期二三回。

足をのばして長谷の大仏さんをたずねる観光客や学生さんで、あいもかわらぬ混雑ぶりである。入場料一円は、当時物議をかもしたいわくつきのもの。外人客も多く、参詣者のカメラの砲列に、大仏さんもうつむきちり? モデル料を取つたらたいしたものになるだろう。

由比ヶ浜に出ると、赤・青・黄とオモヤや箱をひっくりかえしたようなぎわき。海辺の休憩所も数がふえ、設備もよくなっているようだ。それと並んだ遊戯場には掲示、射的、金魚掬い、卓球場まで揃い、海に入らずにここに入りびたりの輩も多いところ。

昔、鎌倉幕府に伺候した人々が通った若宮大路と延々とつなぐその奥に鶴岡八幡宮が鎮座している。石造の鳥居、重要文化財である定貢五七五て本造、塔建、洋画の上映はじめての野外劇場として誕生し、一年後に現在のよな劇場に改築した。映画の上映以外にも、鎌倉在住の文化人を参加して、各種の文化活動を行い、広く鎌倉以外の人々にも有名になつた。

宋ゆの大鳥居の鳥居、まくると、大路の真中に八幡宮社頭まで一段高い中央の道を「置石」又は「段築」という太鼓橋となる。ここにも修学旅行や観光組がわんざとおしかけている。さすが鎌倉の表看板でもある現在、当古は十数点の重要な文化財を成す。



県立鎌倉近代美術館



駅前のテアトル鎌倉



小じんまりとした鎌倉劇場



鎌倉最古の様式をもつ鎌倉シネマ



鎌倉駅表口

たるところにも修学旅行や観光客がわんざとおしかけている。さすが鎌倉の表看板である。現在、当宮は十数点の重要な文化財を有している。そのほか、境内には東朝昭和、人銀杏、賴朝の墓など、国宝館は国宝大観音像をはじめ、多数の陳列品はさすがに歴史的でふさわしく、年に十万人以上の参觀者がここにあつまるという。毎年九月六日の「流鏑馬」の行事は、八月の鎌倉カーニバルと共に有名。もう一つ、今や鎌倉の新名所のみならず、日本の美術館として広く海外にまで有名な、神奈川県立鎌倉近代美術館がある。設計は坂倉準三氏でその建築様式は、あたりの静寂な寧閑気によくあって美しい。現在まで八〇余の展覽会を開き、セザンヌ、ルノアール展、ほんもの・にせもの展、例年の各國陶磁展などは特に好評で、観覧者の七割は東京の人だそうだ。

若宮大路と並んだ小町通に「鎌倉名画座」（支配人菊地武氏）がある。この館は大正三年に建った鎌倉シネマと並んで映画館の老舗。木造一階建、定員三〇四、上映映画は東映、土地ツ子や子供、店員さんなどの固定した東映ファンをもつてゐる。料金も大人、高校生、中学生、小人と四段階にわかれてゐる。こうして、名所旧蹟の間に点在する鎌倉の映画館も悩みの種が多い。鎌倉劇場（協和映画経営）を除く四館は、すべて東京テアトルの経営で、上映映画の系統もよく整理されている。しかし、人は九万のこの土地で、映画人口としての成年層のはとんどが、東京、横浜方面に働きに出かけてしまう。そこで家族向き、親子づれて観る映画を中心に入影グラムを組む。流行のギヤングやお色氣物は駄目だそうだ。そこで鎌倉以外の北鎌倉とか逗子などの近郊の客も、交通機関などの関係でナイト・ショウなどをやってみてもうまくいかないそうだ。そこで理想的には鎌倉で「館内がいいところとなるうか。

季節的には夏に悪く、何方といふ人出も映画館にはさっぱりひびかない。土・日曜より平日がよく、雨の日はホクホクといふのも、土地柄をよくあらわしている。

記 土風場り盛・新

池袋



上の写真の左方に見える建物が池袋東映で
ここは池袋最大の近代的映画館である。



池袋は通称を「ブクロ」。アンチヤン達ばかりでなく、池袋に親しみを感じている人は皆そう呼んでいる。新宿を「ジネク」と呼ぶのと同じである。

ブクロの盛り場は駅によつて東西に二分され、西武百貨店のある東口は新宿に似た感してあり、東横百貨店（支店）のある西口は浅草を思い出させる。池袋の人尋ねると、「ブクロは新宿と浅草のアノコの様な街である」という。

池袋には現在「」の映画館とストリップ劇場がある。池袋山手映画劇場（松竹系封切）、池袋東映（東映系封切）、池袋名画座（洋画）、人生座（洋画）、池袋日活（日活直営）、日活系封切（池袋アーバンストリップ上演）、池袋東洋映画

西武百貨店屋上より池袋駅構内、東横百貨店及び池袋西方を望む。

東京の西玄関新宿を狹んで両側に渋谷と池袋がある。この三つ並んだ盛り場は夫々に、新宿は中野杉並区、渋谷は世田谷区、池袋は練馬区というバックを有して勢昌している。

この二つの盛り場の将来性を比較してみると、新宿、渋谷は一応完成された——或る意味では行き詰った発展する余地のない——盛り場であり、池袋のみが今後発展の可能性のある盛り場と思われる。確かに、三越、伊勢丹両デパート及びステーション・ビルの建設などを思い合せてみると、合点の行く事である。池袋のバックを形成する今まで東京田舎といわれていた板橋、練馬両区が今後ひらくに従つて池袋の盛り場も益々発展するであろうという見通しなのである。

東京唯一を誇る西武百貨店屋上にある最新式喫茶室。天井に→めぐらされたガラスの上には冷水が流れて冷房の役割を果している。



松竹系封切の山手映画劇場。



↑改装なつた西武百貨店と、新地下鉄丸の内線の終着池袋駅の入口。
今日は旧盆なので人出が多い。



劇場（TY系封切）、池袋日勝映劇場（新東宝・大映封切）、日勝地下劇場（洋画）の九館が東口に、シネマ東宝（東宝系封切）、池袋アートホール劇場（洋画）、シネマ・ロサ（洋画封切）の三館が西口に、それぞれ散在している。池袋唯の映画街は、というと、池袋日活、池袋アバン、池袋東洋、池袋日勝、日勝地下の建ち並ぶ一列だけである。その他は、駅をとりまいて、割合い駅の近くに、一軒、二軒、と点在している。

池袋には有力な映画興行社として、池袋東映、池袋名画座、池袋エトアールを有する佐々木興業株式会社（社長佐々木進）、シネマ東宝、シネマ・ロサを有するロサ映画社（社長尾形きん）、池袋東洋を

東京唯一を誇る西武百貨店が
めぐらされたガラスの
壁で、その外観が
美しい。



↑日活直営の池袋日活。



↑池袋アバンと池袋東洋。



↑池袋日勝と日勝地下劇場。



西武百貨店の屋上より見た、東口駅前広場の表情。この当時の上手の一筋が池袋の映画街で、左より池袋日活、池袋アバン、池袋東洋、池袋日勝、日勝地下劇場が連ち並ぶ。



↑改装なつた西武百貨店と、新地
今日は旧盆なので人出が多い。

池袋駅東口前広場の真夏の午きがり。



●池袋アバンの裏壁も汗の海

有する新日本興業株式会社（社長 富田治彦）などがあるが、池袋映画界の事情も余り芳ばしくない様子で、どの劇場も客寄せに大意である。

池袋の映画館の客といふのは主に、東上線・武藏野線を利用して集まる、いわゆる田舎の人たちで、某支配人の話に依ると、全観客の略半数がそうであるという。なる程、そういわれて見ると、池袋には池袋人種といふものがない。池袋の街を歩いている人は、略半数がそれその地方からそれぞれの色彩をつけて集った、「オノボリサン」なのである。だから池袋人種といふものもなく、池袋の街に鮮明な色もないわけである。

私がこの稿のため池袋を訪れたのは一度旧暦の田舎のお盆なので、東上線・武藏野線沿線の人たちがドーナツと繰り出して、街は賑やかだった。

← 池袋西口の特飲街。ここだけは世間の不景気をよそにどんどん発展していく。

私は池袋へ行くたびに「アクロは恐い」と思い、又「不可解な街だ」と思う。「恐い」というのは西口に並ぶ暴力特飲街のことであり、その界隈を徘徊する与太者の事である。勿論これは以前の印象が胸に焼きつけられてしまつたせいでであろうが、某商店のマネージャーによると「屋上を借りて特飲街の写真を撮りたい」と申込んだところ種々の事情があつて後で文句を云われた時に困る」と返事をしたからには、やはり未だそう云つた恐怖が去つてしまつていない。

「アクロの街は不可解だ」といふのは、例えは、西武百貨店の屋上に上つて眼下を眺めた時、銀行と刑務所と映画館が肩を並べて見えたり、銀座数寄屋橋行都電の通りに、人々一人その姿が見えぬ時があるからである。又、商売だといふのに、客に対するサービスが悪い店が極めて多いといふのも不可解だ。そして特飲街があるという理論と現実が「今後平行して行く」というのもわからない。



↓洋画封切のシネマ・ロサ。



↓池袋駅西口近くにあるシネマ・東宝。



文 小泉作一
カメラ・柳谷次男

とにかく、池袋の盛り場は未だ発展の途上にあるのであるから、そいつた現象が見られるのである。これが、銀座、浅草、新宿、渋谷のように、大体完成された一つの盛り場形態をなせば、「恐らく強烈な色彩にいろいろとらえ」その特色を發揮するのであるまいか。だが、池袋はこれから大いに発展する可能性があるという理論と現実が「今後平行して行く」というのはわからぬ。問題は「何故」伊勢川、三越、ビル「池袋松竹」(松竹直営)などの建設計画があり、いまさ新地下鉄丸の内線が出来てみたら各を銀座、丸の内方面へ奪われてしまいはしないかという懸念であり、これこそ盛り場池袋の致命的な弱さではなかろうか?

東京から御用列車が苦く度に、借樂園の梅園はお祭りのよう大人出になる。

新・盛り場風土記

水戸



朝夕の食事時には農民の勞苦に感謝せよ、と云つ

て光園公
が創業し



た農人形。
梅園の茶
店で売つている

上野から三時間ばかり汽車に乗ると、常磐線最大の都市水戸に着く。人口八万三千、茨城県庁所在地であるばかりでなく、遠く徳川時代の御三家の一つて、三十二万石親藩の地であり、光圀、齊昭等に訓重された尊皇思想旺盛の地でもあつた。いま潤開を誇る梅の公園「偕樂園」は、日本三公園の一つで、親梅列車の客が東京からどつと押寄せている。その東隣りには、常磐神社があつて、光園公編纂にかかる「大日本史」の草稿が秘蔵されているといふ。

清香を早春の凜烈たる大氣の中に放つ白梅にも似て、水戸を想うとき、瘦身白首の古武士の佇を想起するのは、この梅園が水戸を代

表する名物の一つだからもある。ところが、純粹の水戸を見て、土地の新聞社に尖鋭な筆陣を張る野田光春氏の説によると、水戸人は頭が單細胞で、悪いことは行動性が強いから、桜田門や、天狗党の事件に見てもわかるように、猪突的な行動を起して、新時代の担い手となるが、まご／＼しているうちに、結果丈夫を他人に取られてしまう。よく云えば純心無垢なのだが、はつきり云えれば脳味噌がチクとばかり不足しているんだ、という。犯罪件数を見ても、詐欺のようないい智的なものは少なく、発作的逆上による暴行、殺人が圧倒的に多い、という。この意見にはおそれ入ったが、とにかく市内

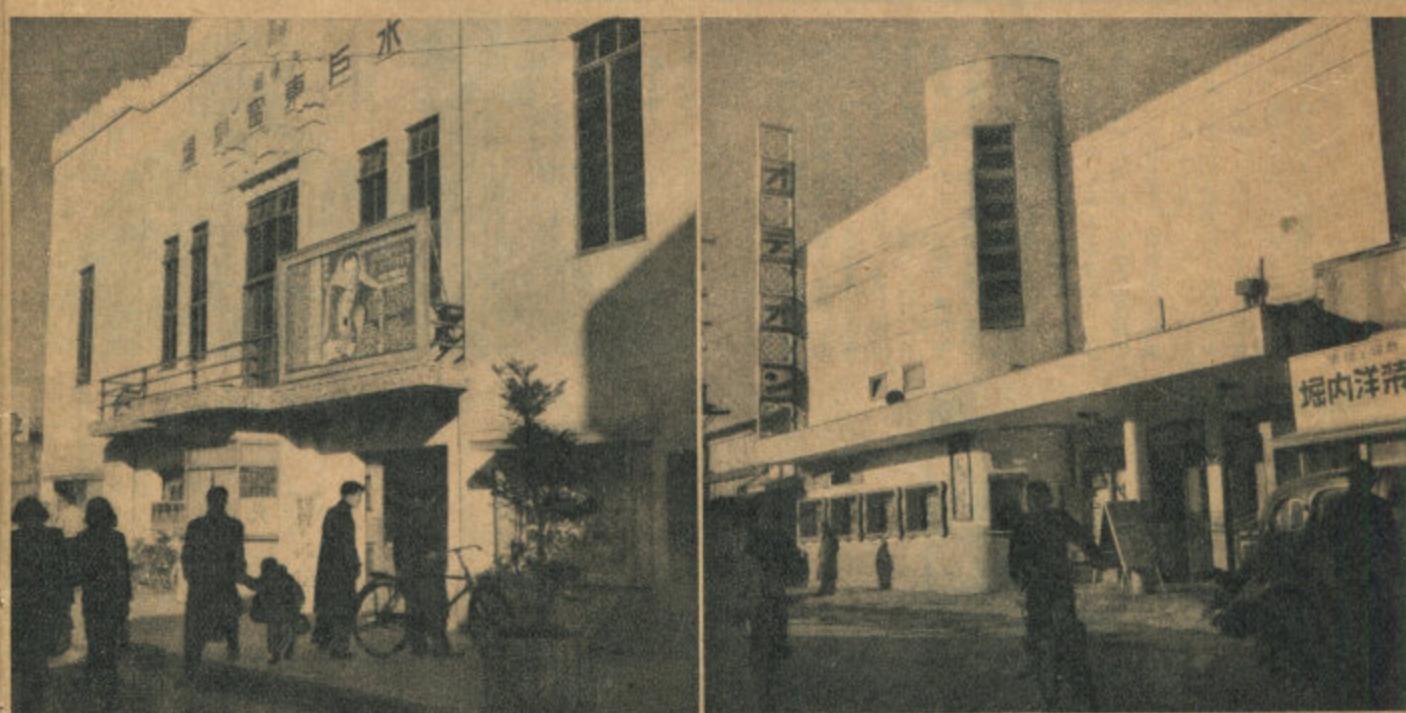
の盛り場を一巡してみよう。水戸市は、北に那珂川、南に千波沼をひかえ、水戸駅あたりから北を下市と云い、丘陵地帯になつている南の市街を上市と云つて、細長くひらけた都市である。試みに下の外れから上の外れまで歩いたら一日はかかるそうだ。盛り場ともいべきメイン・ストリートは、水戸駅前から上市へ向う電車通りの、セントラル劇場（大映、東映封切）あたりから、銀映（新東宝封切）を経て、花柳界に近い水戸松竹劇場（松竹、東宝封切）に至る間であろう。映画館はこの他に、洋画のオデオン座（封切）、水戸東宝があり、上の外れに銀星、下の電車通りに国文、榮楽の二館



← メイン・ストリートに面して建つ水戸銀映。



女性観客に人気のある水戸松竹。→



↑ 学生層に人気のある洋画セカンドの水戸東宝。

↑ 洋画封切のオデオン、これも柴田興業の経営である。

映画館は前にもいうように八館あるが、人口八万に対して、一館一万は濫設の形だ。中でも話題は、新潟の興行師柴田一家の進出である。柴田といふのは、本姓は長谷川と云つて、柴田サークス團を継承して、サーカス興行に乗り出し財をなし、新潟県の新津を根拠に映画興行にも進出し、兄弟六人がそれぞれの地盤を形成して、近頃は群馬、千葉、茨城、東京方面へも觸手を伸ばしつつある隠然たる興行王國である。

この水戸市は、一番さんと呼ばれる長男柴田隆英氏の率いる「柴田興業」の一門である柴田厚氏が、

があり、この八館が市内に散り散りに存在して、映画館が軒を並べるというような繁華街はない。

というのは、水戸人気質には、前にもいう古武士の如き氣概があるから、町造りの理想を、日本一の文教都市にしようとして、茨城大学をはじめ、短期大学一、高等学校一〇、中学校一三、小学校一二、それに幼稚園やドレメ学校等を入れると、大小六十位の学校が出来、この方へは力を入れたが、だだっ広い街路は、凸凹がはげしく、砂ぼこりは天へ舞上り、商家の軒は低く、夜になつてもネオンの灯は数えるばかり、お世辞にも近代都市の美しさはない。尤も、いまは五年越しの区画整理がまだ片づかず、電車通りのマン中に、頑として引越しない店が一軒残っているという風景もあるが、いづれにしても市政のお手際はあざやかとは云えない。

映画館は前にもいうように八館あるが、人口八万に対して、一館一万は濫設の形だ。中でも話題は、新潟の興行師柴田一家の進出である。柴田といふのは、本姓は長谷川と云つて、柴田サークス團を継承して、サーカス興行に乗り出し財をなし、新潟県の新津を根拠に映画興行にも進出し、兄弟六人がそれぞれの地盤を形成して、近頃は群馬、千葉、茨城、東京方面へも觸手を伸ばしつつある隠然たる興行王國である。

この水戸市は、一番さんと呼ばれる長男柴田隆英氏の率いる「柴田興業」の一門である柴田厚氏が、



↑ 偕楽園の丘から千波沼を望めば……。

女性観客に人気



↑ 水戸の郊外、大洗海岸。

島山純社、黒瀧繁勝両氏を參謀に、銀映、オデオン、水戸松吉の三封切館をその掌中に収め、目下さん間に隧道を突進しようとしているが、さし当つて、その傘下に屈せず、大映、東映の封切を以て对抗しているのが、関東興行界の名物女傑、駿河は清水次郎長の生れ在所からこの土地に根を下したというセントラルの出口しんという日蓮信者の末亡人。当年六十一とは見えぬ今年生れの本邦がえり、ここで一とはね、菜田の軍勢を蹴散らして、ひと泡吹かせねば死んでも死に切れぬと、仲々の元氣だ。

東宝直営から、目下三和興行の直営になっている水戸東宝は、地主と家主の名を館名の上にならべて、ややこしい内部關係を表飾りにしているが、往年の筋氣は、柴田一家にきらわれてしまい、今は洋画の番組外で手堅く経営している。何しろ八万に八館では、市内の客に観度があり、目指すところは近くの町村から出て来る学生や勤人で、それも一週間のうち土曜、日曜だけが頼りだといふ。洋物三本建六十円では、いくら番線外の配給料が安いからって、そう來な商売も出来まい。興行で料金を下げるには下手の下の手だが、ハリ切つて宣伝費を使つ



↑ 学生層に人気の



→ 近場近在から集まる自転車の客—セントラルの表



がそれぞれの地盤を形成して、頃は群馬、千葉、茨城、東京方面へも握手を伸ばしつつある興行王國である。この水戸市は、一番さんと呼ばれる長男柴田謙英氏の幸い、「柴田謙英」の一門である柴田厚氏が、

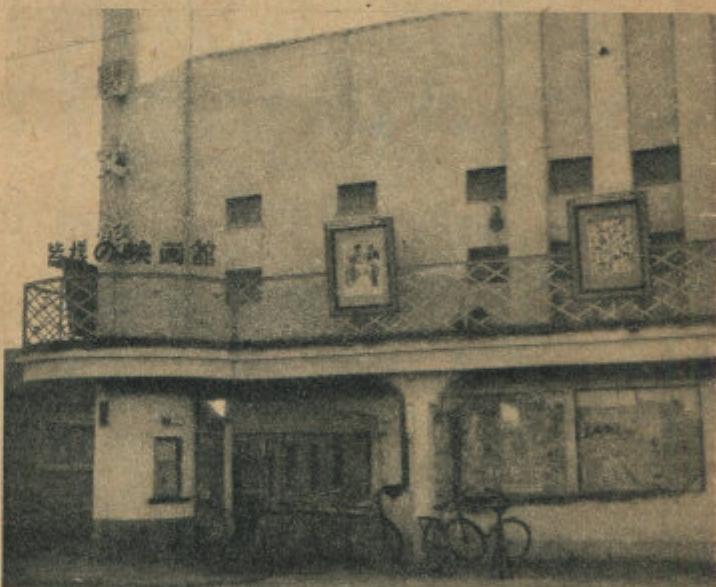


てみても、損を大きくするばかり
水戸松竹は、松竹の直営だった
が、いくら笛を吹いても水戸ツ児
がついて来てくれなかつたので、
が先頭に立つて引張らなければ動
いて來てくれないものと見える。
水戸松竹も思い切つて投げ出した。そ
だ、という。かつての水戸松竹が
そうだった。

文 市 川
カ メ ラ 坪 井 正
協 力 いはらき新聞社

皆樂園の梅林を抜けて、千波沼を見おろす丘の上に立
てば、藤田東湖が正氣歌の朗唱に和し、この間も会合
したといふ水戸出身の右翼の頭領、井上日昭、本間憲一
郎、小沼正、塙三郎、橋孝三郎、小畑五郎等の憂国懲世
の嘆きが聽えるようだ。

たそれが近い頃、鉄道疑惑のおかげで、改築のおくれ
ている水戸駅はラッシュ・アワーで賑い、弘道館の表門
に、維新当時の火縄銃の弾痕を探していると、可愛らしい
小学生の群が、学校を退けてゾロ／＼と帰っていく。
あの小供達が大きくなる頃、水戸の空には左右いづれの
風が吹くであろうか。



改築を迫られている水戸駅のラッシュ・アワー。

新・盛り場風土記

船橋



京成船橋駅踏切より国電船橋駅を見る

東京から三十分、水と煙突の街をぬけ、緑の台地がひらける頃は船橋だ。そして国電船橋駅を下車した客は見る間に、ヘルスセンター一行のバスにさばかれてしまう。朝夕の通勤時刻を除いては、この駅の扱いはほとんど、このバスの乗客であると云う。ヘルス・センターは今や、船橋の表看板である。バスで五分、十二万坪の埋立地に、新しい近代的な建物と娯楽施設の六千坪。その向うに青い海がつづく別天地なのだから。二年前、この海に千坪ほどの施設で始めた頃は、だれも今日の隆盛を考えなかつたであろう。活気のある駅前の中華街を静かな田舎の街にすぎない。

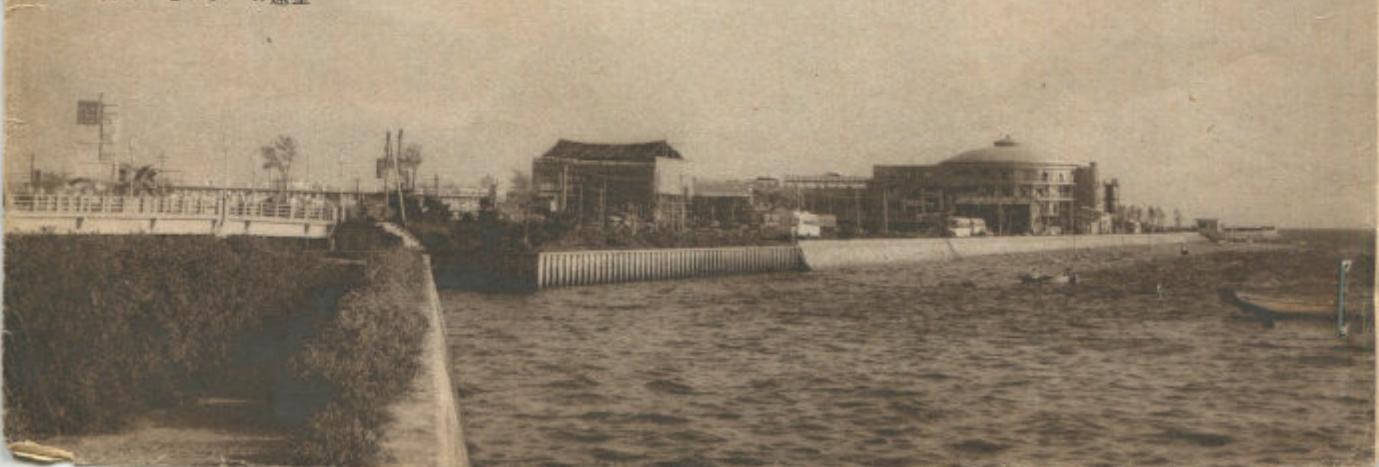
旧船橋の街は、街の東方、大日山にある船橋大神宮が始まる。ここは、市と海を一目で見わたせるところである。成田・千葉両街道の



分岐点あたり。その昔は、宿場街として販った。社の建立は遠く景行天皇の頃で、天照大神を祀つたものでは関東一古いとされる。建物はその後幾度か火事に見舞われ現在の社は、明治時代に建てられたもの。

この船橋は、もともと市の中央を南に流れている海老川にそろって早くから開けたところである。河口近くの漁師町は、今でこそさびれてしまったが、江戸時代には船橋港として歌にも詠われ、活気のあったところだと云う。その海も天然ガスの発掘、埋立工事などで、今では、貝や藻類がわずかに採れる位になってしまった。現在ここに小さな市が毎日たち、海産物、蔬菜類の交換から、日用雑貨品に至るまで行われると云う。隣りのセンターの賑いがあるだけに、ここにとり残された船橋を感じる。

ヘルス・センターの遠望



市の人口十二万、東京・千葉にはさまれたこの街は国電・京成・東武鉄道と三つの交通の便がある。都市計画、天然ガスの発掘にも成功し、五十万坪の埋立地着工と、新しい港の建設に取り組んでいる。そして、川崎に次ぐ第二の工業都市、京葉工業地帯の中心地として動き出そうとしている。

このたくましい建設力をバック

に、盛り場ヘルス・センターは誕生したのだ。戦後のヤミ市の汚名も、競馬場の不健全さも、消してしまった。この娛樂の殿堂を求めておかける人は日平均二万余で

あると云う。ローマ風呂はもとよ

り、プール、遊園地、各種の運動

競技場、ユネスコ村ばかりのバンガローに、空には東京湾を一周する飛行機もとぶ。御希望とあれば当

センター専属の舞踊団、音楽団も登場すると云う。経営は朝日土地興業だが、社長丹沢善利氏の腕は太い。

センターのすぐ隣りに海のみえ

る船橋競馬場、オートレース場が

ある。オートレースより競馬に人気があり、大井・浦和・川崎と並んで、地方競馬の賑いをみせていく。

さてここでの映画館は、これだけ並んだ盛り場の前には影も薄くなってしまうと云うもの。街中の六

館も散在しているために探すのにも案書きが必要な位だ。だから

外部からわざわざ映画を観に来る客は少く、ほとんど六館ともが、

地元の客相手の商売をしている。

「東京への上りの客は多くても、ここで下りてはくれません。もつ

と完備した館のある江東樂天地や、

ここ近辺でも市川・八幡の大きな館のあるところにはかないません」と、駅前の船橋大映の支配人

菊地氏は云う。「同じ映画の封切



海老川河口の漁師町



神社の中にある船橋日活



駅前の東宝新切館船橋名西座



大日山にかかる船橋大神宮



洋画専門の中央会館



駅前の座種大映



船橋の本町通り



東映封切館新興映劇



神社の下の船橋松竹



建設中の船橋市役所

館でも、ここは他より安くみせて貰うのですが」と新興映画の支配人も不思議がる。なるほど、駅前の広告看板も、大型バスの影になつてさっぱりはえてはいられない。

駅前の右と左に二館、東宝封切館船橋名画座（支配人経営者小泉辰之助氏）と大映・日活封切館船橋（経営者木下快方氏、支配人菊地繁夫氏）は、場所柄には恵まれているが、他の四館は街中にとんでいる。

これら支配人達の唯一の強みは、千葉第二地区の映画館十九で組織している「新映会」であると云う。お互に仲間同志で協定を結

ぶ、乱立を防ぎ、東京・千葉への

盛り場に対抗して策をついている

そうだ。だがよい映画を安く見せられる所にとびづくのは地元の人ばかりではない。もっと積極的な宣伝

にのり出してもよいと思う。「近い将来、五十万坪の埋立がなれば京葉工業都市がここに生れ、その人達が映画館を支持してくれる」と、新映会の人は語っていた。

文
カメラ
熊谷伊佐子
日下和時

新・盛り場風土記

上野



↑上野で名高い西郷さんの銅像はロケーションの名所でもある

終戦當時、いわゆるカツギ屋連中が、東北線や常磐線等の国鉄や京成電車のような私鉄を利用して、この上野駅から御徒町へおかまち駅の通りに、盛大なヤミ市を張り、浮浪見や売笑婦が上野公園の森を目指してあつまり、上野の地名をさかさにしたノガミという俗稱で、大いに風紀をみだした頃から、猥雑な盛り場として、上野がクロース・アップされて来た。それまでの上野は、史跡に富む優雅な文化センターとして、江戸時代から文人墨客の風流をたしなむ土地として知られていた。不忍池（しのばずのいけ）の中央に、弁天島があり、戦災で焼けた弁天様が再建工事にとりかかっているが、この弁天島には、江戸時代の文人の歌碑や詩碑が、いまでも数種類残つて居り、蓮の枯葉のそよぐ池を通して、はるかに岩崎の邸や、湯島天神、弥生が岡を経て、東大の時計台をのぞむあたりは、鶴外の名作で、豊田四郎がいみじくも映画にした「雁」の背景として描かれたところである。

さらに、石の階段を登つて、日本中誰知らぬものもない西郷さんの銅像の前に来ると、上野駅や地下鉄入口の雑沓を越えて、浅草や向島方面が見渡され、再建成った観音様の大きな屋根も、指呼の間に望まれる。更に、首を廻して広小路通りから松坂屋の方をのぞめば、これも雲煙漂茫たる、人口八百万の大東京が、水天彷彿として、いまの盛り場上野の姿である。例えは、この西郷さんのある間の直

↓不忍池の枯蓮。鶴外の「雁」で有名だ



国鉄地下鉄・常磐線・京成電車・都電が集る繁華街の中心→



の公楽座・大映新東宝のパーク劇場



前地下道にある地下鉄映画



↑SY系になったスター1座

のそれ系映画を封切し、名
と映画館の支配人たちはいう。
画面が、外画の再映もの、地下鉄
として、その反対に、駅裏から庄小
がシネスコ、上野東宝が東宝、上
野松竹が松竹、公楽座が東映、バ
路へかけて、こんなに人通りがな

ぐ下には、坂の土をくり抜いて、
デパートと映画館が出来ている。
西郷さんが目玉をむいて、お伴の大
を連れている銅像にかわりはない
が、その前では、映画のロケー
ションが大がかりなライトを持ち
込んで、さかんに実景撮影のクラ
ンクを廻し、お上りさんを交ぜた
見物人の群が人垣を作つて、ぐる
りを取りまっている。

さて、上野に映画館が出来たのはいつ頃だろうか。大正のはじめ
に、いまの上野日活の前身である
みやこ座が、青いベンキ塗りの木
造建物で出来て居り、その後に
三橋館というのがあり、昭和のはじめ
には鈴木キネマが、広小路通
に面して中程に建てられ、これ
は相当の成績をあげていたが、み
やこ座丈けが館名こそは変つたが、
その位置もかわらずに、残つた外
は、二つとも商店街の中に消えた。
そして、現在は、あの西郷さん
の下の、坂をくり抜いて仲よく並
んだ松竹、東宝の二館を合せて、
つきの十一館が、それぞれの特長
を生かして、しのぎを削つてゐる。
上野宝塚劇場（その地下に）
上野東宝劇場。上野松竹映画劇
場（その地下に）上野ニュー
ス館。公楽座（その地下に）
公楽ニユース劇場。パーク劇場。
スター座。上野日活館。名画座。
地下鉄映画劇場。

このうち、封切館は、上野宝塚
がシネスコ、上野東宝が東宝、上
野松竹が松竹、公楽座が東映、バ



一と同居の上野松竹



老舗。上野鈴木(スズモト)



←上野宝塚・上野東宝
学生層に人気がある



↑洒落たネオンの上野東宝



の公楽座・大映新東宝のパーク劇場



前地下道にある地下鉄映画

↑上野で最も古い上野日活

のそれぞれ系統映画を封切りし、名画座が、外画の再映もの、地下鉄が内外映画の下番線ものを、それが興行している。寄席は、いつの間にか青骨の座敷を取払って、すべて椅子席に改められた鈴本演芸場と、本牧亭の二つがある。

ところで、不思議なことに、これらの映画館や寄席は、ほとんど上野駅の裏側から、上野山下、広小路へかけての、表通りに添つて散在し、上野駅の表玄関の方に一館もないということである。

それは、上野駅前のある駄々ッ広い広場と、網の目のような電車や自動車や人道の交錯とで、人の集まりが出来ないことが大きな原因となり、直ぐ一と足の間に、大盛り場の浅草があるので、そっちへ客足がとられてしまうからでしょう。

と映画館の支配人たちはいう。そして、その反対に、駅前から広小路へかけて、こんなに人通りがないのは、どうかというと、国電の降り口が、駅の裏側になっていること、京成電車の乗降口や、地下鉄の出口が、山下の方になってしまこと、などで、何と云つても上

の下の、坂をくり抜いて仲よく並んだ松竹、東宝の二館を合せて、つぎの十一館が、それぞれの特長を生かして、しのぎを削っている。上野宝塚劇場（その地下に）上野東宝劇場、上野松竹映画劇場、上野ニース館、公楽座（その地下に）ス館、公樂ニース劇場、パーク劇場、スター座、上野日活館、名画座。地下鉄映画劇場。このうち、封切館は、上野宝塚がシネスコ、上野東宝が東宝、上野松竹が松竹、公樂座が東映、パ

映劇館やデパートをはじめ込んだ台東区長の土地計画は、みごとな成功だった。いままでには、あの辺は登でも人通りが少なく、ルンベントーキー車夫が屯していたのだが、いまやケンランたる都会文化

その修羅場から、広小路の、森水の大ネオン塔を経て、松坂屋に至る右側に、さつきあけた映画館が（地下鉄は別として）軒をつらねているのである。

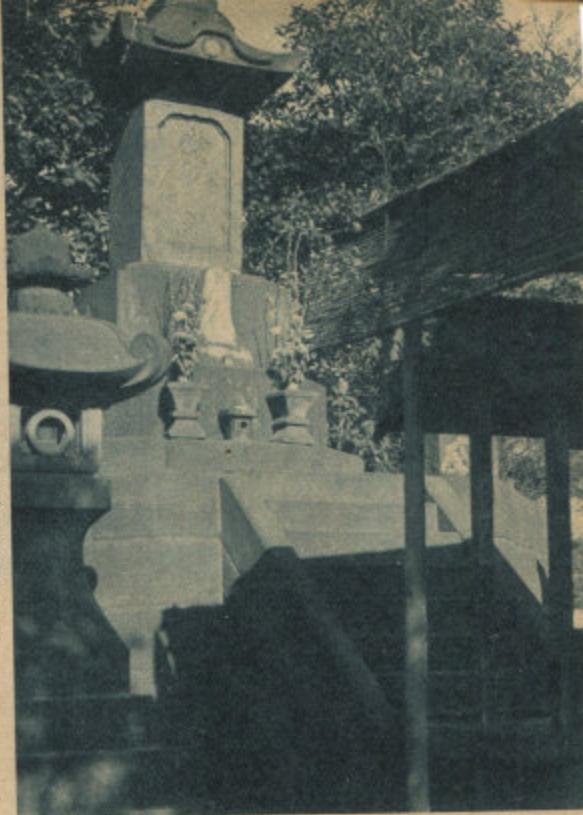
だから、公園下から松坂屋まで人通りは、ぱたり少くなる。その境目に、この間まで松竹洋画系を封切っていた松坂シネマがあつたが、デパートの方が売場不足になつたので、本家の松坂屋に接収されてしまった。

上野宝塚の齊藤支配人に、上野の今後の見通しを聞いてみた。

「この界隈は、大体が本郷、小石川地区のインテリ階級と、地元から下谷、浅草の一部へかけての、下町のお客様によつて繁昌して来た土地ですが、戦後は、交通機関の発達によつて、上野に集中する客の中には、遠く常盤線の松戸、柏、安孫子方面の人たちや、京成沿線の住宅地の發展で、この方面からも、統々と客足が増し、休日などは、電車のつく毎に、目立つて人波がふえますから、この調子で、沿線の人口がふえるに従い、上野はますます發展する可能性があります。広小路の大通りに、以前は、映画館があつたそうですが、現在あのように商店街が密集しているので、あの中に、新しく映画館が割込むことはむづかしいのではないかでしょうか」と云つて、現在の館数で充分かどうかというと、それはまあ、はつきりとも云えませんけれども……」



↑上野公園入口にある
「みどりのリズム像」



→彰義隊戦士の墓

←の茶店



↑彰義隊戦士の墓
上野公園名物
←の茶店



新・盛り場風土記

大宮

駅構内から国鉄大宮工場を望む

天気のいい朝、駅の跨線橋から首を出すと、西の地平線に富士山が、東には筑波山が浮き出て、あわただしい通勤の足を暫し引きとめる。埼玉県庁所在地である浦和から更に北へ八分、国電京浜線の終点が大宮である。かつて某週刊紙に東京のベッドタウンとして紹介された浦和に比し、大宮には四千の従業員を擁し、車輛工場としては日本一の国鉄大宮工場をはじめ、富士重工、片倉製糸、日研化学、東邦レースなどの大工場が煙を吐いている。そして、広沃な農村地帯と東京との結節点として、街は庶民的な活気に満ち溢れている。その代りここからは名のある文化人は一人も出てない。一番高い建物といつては五年前銀座通りにお目見えた四階建ての丸広百貨店くらいなもの。盛り場ではバラ売りの菓子屋が特売デーをやっていり、人気のあるラーメンも東京



一番街



南銀座通り



国際的な盆栽村



よりはひと塩辛味にしなければ出
がにぶるという。当世はやりのエ
レガント、都会的な粋やスマート
さより、安くて盛り沢山の実質が
ものをいう点はすでに東京の衛星
都市の域を脱していると云えよう。

人口十五万、世帯数三千五百、
この内三割は勤労者であり、その
又四割は国鉄職員。このような土
地柄は興行街にも反映して浦和か
ら赴任されたオリンピア劇場支配
人の言によると、「芸ものはこ
わいが、西部劇とお色気ものなら
安心して商売のできる」ところだ
そうだ。

このオリエンピア（鉄筋二階、座
席数六五〇、不二興行KK）が昨
年暮に新築開館してから、市内の
映画館もついに飽和点と見られる
九節に達した。地元民主団体の「文

化都市大宮に市民会館を！」の念
願がいまだに敷地難で実現を見な
いでいる時、映画館の数だけは市
内のしかも目抜き街に、戦後三倍
に激増しているのを皮肉な現象と
見る人もいる。

駅前のロータリーから真直に伸
びる中央道路を境に右側を南部、
左側を北部とする、南部にはこ
の二年間、焼失による再建も含め
て四館が新設された。これと同時
に商店街も南銀座通りと呼んで俄
に活況を呈することとなつた。行
き交う人の肩もそれちがう南銀座
通りにロークリーから入って、最
初の中仙道にぬける露地が大宮東
映（鉄筋一階、座席数四六〇、K
K松山会館）の入口になつていて、
東映二本立ての封切が、少年ファン
の人気を独占的形で、入場人員

でも関東甲信越のベストファブリ
に入つてゐる。さらに二〇米のと
ころに、KK者青会経営の白鳥座
(鉄筋地上一階、座席数四三〇)及び
同地下劇場(同地下一階、座席数
二七〇)が合せて四階の劇場とし
て県内唯一の容姿を誇つてゐる。
この若青会は代表者小林良正氏で、
当地興行界にあつては唯一人の地
元出身者として、ほかにスター劇
場も主宰していることを特記して
おこう。上は東宝系封切、地下は
洋画専門館としてアクションもの
が勤労者層によく受けている。この
白鳥座と肩を並べるように建つて
いるのが先にも述べた洋画系封切
館のオリエンピア、「居酒屋」道「異
母兄弟」など、同館が時折放送
州もの、独立プロの番組はハイク
ラスのファンに喜ばれている。こ



大宮東映

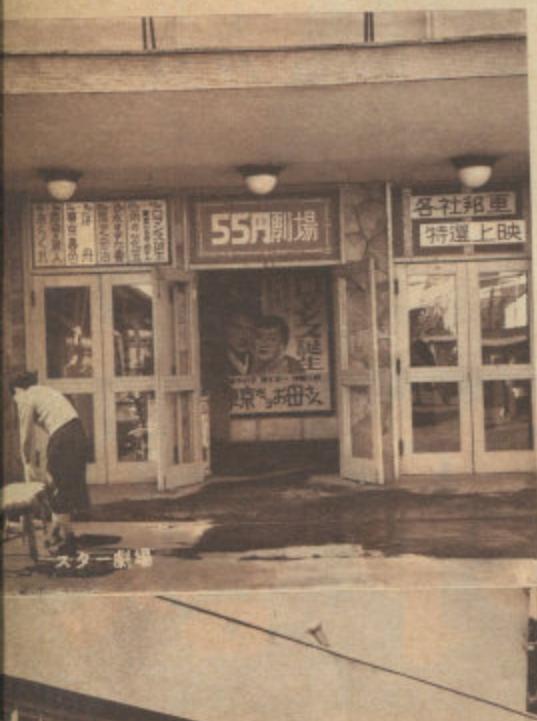


大富オリンピア劇場



大富酒場	70
酒一升	140
二升	30
三升	30
四升	50
五升	50
六升	50
七升	50
八升	50
九升	50

西新は美行街にも反映し、浦和から赴任されたオリエンピア劇場支配人の言によると、「芸芸ものはございが、西部劇とお色気ものなら安心して商売のできる」ところだ。このオリエンピア（鉄筋二階、座席数六五〇、不二興行KK）が昨年暮に新築開館してから、市内の映画館もついに飽和点と見られる九館に達した。地元民主団体の「文



スター劇場



こから左に折れて中仙道へ、丁度東映と背中合せの所に、銀映座（木造二階、座席数四〇〇）、有限会社銀映座（木造二階、座席数四六〇）がある。この館の歴史は古く、上映系統も幾度遷を重ねたが、近来、日活封切館に落着き、観客層も固定化しつつあるようだ。

往来狭しと大型バスの通る中仙道へ出て、再び道を駆のほうに戻ろう。興連長河野義一氏をいたぐく武藏野チネー、武藏野館（木造一階、座席数四五七〇）の地の利をえた広告が目をひく。ここは昭和二年創立以来の大映封切館で、仲々固いファン層を持っている。

さて北部はアーケード式のすずらん通りから一番街までの商店街が戦後目ざましい発展ぶりで、夕食後の市民をあてもなくぶらつかせるよき雰囲気をかもしている。バチンコ屋と飲食店が軒並みのす

ずらん通りの露地に入ったところに位置を占めているのが、松竹直営館の大宮座（木造二階、座席数五二〇）である。ここは銀映座と共に小屋としての戦前派、幾度か手が加えられているが、「君の名は」、「二十四の瞳」では入りきれないお客様をなだめるのに苦労されたそうだ。北に行つて一番街を少しそれるとムービー大宮（木造二階、座席数五五〇、金竜興業KK）がある。繁華街からやや離れた感があるとは云え新東宝の二本立て封切りで気を吐いている。以上の八館が線路を中心とした東側で華やかな宣伝戦をくりひろければ、市の裏玄関にあたる西側では、国鉄大宮工場前のスター劇場（木造一階、座席数二一〇）が、ひとり各社特選の五五円劇場として附近的の市民に親しまれ平均した成績をあげている。以上九館に吸いこまれる観

客が月平均二〇万、昨年比一%増だが、駅の東西を起点に農村へ向けて走るバスが十一本、汽車車が一本、国鉄東北・高崎両幹線の分岐点として大宮の盛り場はまだ伸びる可能性をはらんでいく。ここには全国のモデルサークルとまで云われた大宮映画文化会が、従業員三百人以上の職場には必ず分会がありという組織をもち、勤労者層のよきガイドとしての役割を果している。

郊外に歩を転ずると、古く隣の「青年」に出てくる大宮公園が、見事な杉並木と、松林の中に、水川大社からボート池、野球場、総合グランド、競輪場をも含めて、県民の一度は訪れる憩いの場を形成している。

の二年間、焼失による再建も含め、四館が新設された。これと同時に商店街も南銀座通りと呼んで俄に活況を呈することとなつた。行き交う人の肩もそれらがう南銀座通りにロータリーから入つて、最初の中仙道にぬける露地が大宮東映（鉄筋一階、座席数四五六〇、K.K.松山会館）の入口になつていて、東映二本立ての封切が、少年ファンの人気を独占の形で、入場人員

の二年間、焼失による再建も含め、四館が新設された。これと同時に商店街も南銀座通りと呼んで俄に活況を呈することとなつた。行き交う人の肩もそれらがう南銀座通りにロータリーから入つて、最初の中仙道にぬける露地が大宮東映（鉄筋一階、座席数四五六〇、K.K.松山会館）の入口になつていて、東映二本立ての封切が、少年ファンの人気を独占の形で、入場人員

が勤労者層によく受けている。この白鳥座と肩を並べるように建つてゐるのが先にもふれた洋画系封切館のオリエンピア（居酒屋「道」異母兄弟）など、同館が時折放つ欧洲もの、独立プロの番組はハイクラスのファンに喜ばれている。こ

新・盛り場風土記

築地 アミューズメントゾーン



▲松竹まつりの提灯

明治、大正にかけての庶民娯楽の中心地は浅草であった。観音様を中心にしての繁華街は、ジンタの音色と共に若い人達の夢の場であった。

その後、交通の発達、人口の増加、あらゆる新しい産業の発達、國家機関の発展等、時代的な変化に伴って都市の様子も変り、盛り場も又浅草から次第に変遷し、神田、神楽坂、白山その他方々に小さな盛り場が出来たが、やがて宮城を中心とした丸の内に大きく移ったのである。

その頃、既に築地には歌舞伎座、新橋演舞場、丸之内に邦楽座（後のビカデリー）があつたが、いさかブルジョア的で大衆を相手とする娯楽は丸の内界隈に集中はじめたのである。又、その他にも上野公園を中心とする一角、学生の溜り場から発展した新宿、渋谷等が浅草娯楽街の分派として発展しつつあった。

これらの多くは戦争に依つて大きな変貌を果した。終戦と同時に新しい都市計画が出来たため、交通機関が戦前と変り、銀座が東京の中心となり、日本の中心地となつて来た。銀座からモードが生れ、流行語が発生し、銀座の話題がすべてジャーナリズムを動かした。白山、神楽坂、赤坂、神田など、戦争前に発展のきざしのあつた盛り場は次第に衰亡して行つた。そこで新宿、池袋、上野、五反田、江東等、新しい盛り場が非常に発展して行つた。

この様に常に盛り場が変貌しつつある昨今、東宝が日比谷を中心



▲アミューズメント・ゾーン俯瞰



▼勝鬨橋

に娯楽街建設のきがしがあるが、ここに於て水い伝統と勢力をを持つ松竹は、時勢の欲求に伴い、一大娯楽街、即ちアミューズメント・ゾーンを設立するに到つたのである。

場（定員七二〇名）歌舞伎座（定員二八〇〇名）新橋演舞場（定員一五六八名）東京劇場（一八五〇名）築地大映（二〇〇〇名）センターラル劇場（二〇〇〇名）松竹中央劇場（一一〇〇名）築地東宝（五〇〇名）名画座（三〇〇名）など九つの劇場から形成される。これは松竹が銀座を含む築地界隈に一大発展の態勢を完成しよう

とするものであり、単に日比谷娯楽街に対する排撃でなく、映画、演劇だけでなく、あらゆるすべてを包含した東京アミューズメント・ゾーンの確立の第一歩でもある。

昔、築地は塵芥の捨て場所であったのが、元禄以降に正式に埋立て開拓された土地で、今の銀座東場所は銀座に隣接し、東京港の発展と埋立地の開発に依り、将来の発展が約束されている東京築地で、その全貌は松竹アカデミー劇



▲ 東全劇景



▼ 築地大映



松竹会館

れた野原であつたが、安永年間（一七八〇）に見世物小屋が濫立して繁昌した処である。従つてこの附近には芸妓、私娼などの岡場所となりて居り、両国に次ぐ繁榮を呈した。会館の後に控える築地明石町は、明治元年（一八六八年）外人町で、明治元年（一八六八年）外人正の屋敷跡で、木挽町馬場と呼ばれていた。馬場は銀座に隣接し、東京港の発展と埋立地の開発に依り、将来の発展が約束されている東京築地で、その全貌は松竹アカデミー劇場

台の自動車で有名な築地の料亭も附近に特な雰囲気を醸し出している。

又、明治初期より大正、昭和を経て、築地木挽町は戦前までは演劇の中心地帯をなしていた。明治八年（一八八五年）「新富座」が出来、明治中期の演劇をリードしていた。明治二十二年には、「歌舞伎座」が一八二四人収容の大劇場として設

に娯楽街建設のきざしがあるが、ここに於て水い伝統と勢力をを持つ松竹は、時勢の欲求に伴い、一大

娯楽街、即ちアミューズメント・ゾーンを設立するに到つたのである。

場所は銀座に隣接し、東京港の発展と埋立地の開発に依り、将来の発展が約束されている東京築地

(山下清作品)

場（定員七二〇名）歌舞伎座（定員二八〇〇名）新橋演舞場（定員一五六八名）東京劇場（一八五〇名）築地大映（一〇〇〇名）センターラル劇場（二〇〇〇名）松竹中央劇場（一一〇〇名）松竹中央劇場（一一〇〇名）築地東宝（五〇〇名）名画座（三〇〇名）など九つの劇場から形成される。

これは松竹が銀座を含む築地界隈に一大発展の態勢を完成しよう

とするものであり、單に日比谷娯楽街に対する排戦でなく、映画、演劇だけでなく、あらゆるすべてを包含した東京アミューズメント・ゾーンの確立の第一歩でもある。

昔、築地は塵芥の捨て場所であったのが、元禄以降に正式に埋立て開拓された土地で、今の銀座東八丁目から四丁目は昔、戸田采女正の屋敷跡で、木挽町馬場と呼ば

れた野原であったが、安永年間（一七八〇）に見世物小屋が建立して繁昌した処である。従つてこの附近には芸妓、私娼などの岡場所となつて居り、両国に次ぐ繁榮を呈した。会館の後に控える築地明石町は、明治元年（一八六八年）外人居住地となり、ハイカラ風俗の源泉地であつた。今は川面に柳がなびいて明治情緒もしのばれ、四万

人で賑わう。

台の自動車で有名な築地の料亭も附近に粋な暮闇気を醸し出している。

又、明治初期より大正、昭和を経て、築地木挽町は戦前までは演劇の中心地帯をなしていた。明治八年、「新嘉慶」が出来、明治二十二年には「歌舞伎座」が一八一四人収容の大劇場として設



立され、「歌舞伎」の本城となつた。大正十四年新橋演舞場開場、昭和五年東京劇場開場、大正十三年築地小劇場開場、新劇運動のメカとなつたが戦災によつて焼失した。

以上の様に築地界隈は演劇、映画の黎明期を作つた所であり、今日尚、大きく發展しようとしている所である。

今日、有楽町駅の一日の乗降者は三十万から三十五万。朝は殆んどがサラリーマン、それに魚河岸族がまじる。昼は高級銀座マンが横行する。夜は朝と同じくサラリ

ーマンの駅である。

この様な人々に依つて形成される銀座の「人の流れ」はどうなつてゐるであろうか。都立大学磯村博士の精密なるデーターに依ると、

戦前は新橋から銀座四丁目を通つて京橋へ行くつまり「横の銀座」であった。戦後は数寄屋橋一丁目——新橋を結ぶ鍵の手になつて來ている。昭和三十一年、つまり松竹会館の誕生に依つて築地方の發展を考える時、数寄屋橋一丁目——築地つまり「縱の銀

四丁目から築地にかけて、どんどん改装、並びに移転しているのが目立つてゐる。

交通は現在の所、都電、地下鉄、バスが銀座四丁目を中心につつて発達しているだけであるが、築地を通る地下鉄が近い将来開通の予定である、その一つは帝都高速度當団による武藏小山——日比谷——築地——浅草橋——築地があり、もう一つは都營地下鉄による五反田——虎ノ門——築地——雷門——北千住のコースがあ

る。

その他は上野——新橋（昭和通）

を結ぶモノレール、押上——茅場町

中央劇場のどんちょう（高岡徳太郎作品）





▲ 松竹会館入口のモザイク（岡本太郎作品）



▲ 築地本願寺



▲ 中央劇場・名画座・築地東宝



▲ 交通整理も出るさわぎ

—三原橋—有楽町—品川に抜ける
京成電鉄の発展、浦安—越中島—
晴海—中央市場—汐留—品川を結ぶ
臨海線、又、帝國ホテル—数寄屋橋—銀座四丁目—歌舞伎座を含む
大地下街の建設等がある。これ等に依ると、築地は今後交通の面に於ても岐点となつて来るであろう。後には雄大な東京湾を控え、月島の埋立地には高層アパート建築のプランも着々進んでいると聞く。

地上十一階、地下二階、総坪五
千六百坪の松竹会館は近代設備を備めた一大観堂で、装飾もあく

どさを避け、夜間照明はパリ一風の白、黄、水色を配したスマートなデザインで、東京名物にふさわしいスタイルと雰囲気を醸成しているのも吾々の自慢の一つである。三原橋から築地にかけての街路樹も整備され、散歩道としても好適である。銀座通りが継になり、「娯楽街は築地」の本領を發揮する日もう遠くはあるまい。

文・浅尾忠義
カメラ・松原繁
谷元之徳
協力・一瀬夏洋



▲ 明石町河岸一聖ロカ病院



新・盛り場風土記 倉敷

倉敷民藝館

「倉敷」はすでに映画ではおなじみの町である。大映の「花の講道館」をはじめとして、東宝の「嵐の中の男」「黒帯三國志」「麦笛」近くは松竹の「花は嘆かず」など、この倉敷にロケした映画は実に多い。ロケと人ばかりはつきものだが、いまではロケ隊の撮影に出会つても、この町の人たちはさしてめずらしがりもないくらいに、地方都市にしてはロケそれがしたといえる。倉敷の町がこんなにまで映画の背景としてよく使われるには、ほかでもない倉すくりの古い家並が建ち並んで独特の美しさをかもし出していることによる。

倉敷は江戸幕府直轄地「天領」として、年貢米を納める倉屋敷のあつたことから、「倉敷」の地名が生まれたと言われ、その倉屋敷や



倉敷考古館

代官屋敷の面影は、いまでも町の至るところに残り、容易に往時を偲ぶことが出来るのである。

いまの倉敷は岡山から山陽線を西へ三〇分余り、高梁川の分流に沿つて岡山県下では第二の都市。山陰の米子を結ぶ伯備線はここで乗りかえである。倉敷は文化の町、その倉敷の文化は、この町の大原財閥の手で育てられてきた。

倉敷の米子を結ぶ伯備線はここで乗りかえである。倉敷は文化の町、その倉敷の文化は、この町の大原財閥の手で育てられてきた。

知られた「倉敷天文台」や、「民芸館」「考古館」など貴重な施設があるのも有名である。

倉敷の盛り場は駅前地区の一帯である。代官屋敷の名残りともいえる迷路のように曲りくねり、せまい道をはさんで、商店がギッシリと軒を連ねて、映画館は大部分がこのせまくるしい商店街のなかにある。戦前派の老舗が四館、戦後派の新館が同じ四館であれば、ここも新館アーム

ヨンにも及ぶ現在の大原の基盤をつくりあげた大原孫三郎氏の倉敷への文化的貢献は、この町にとつて、忘れえぬ尊い存在であらう。

「中央病院」「美術館」「労働科学研究所」「農業生物研究所」など、い

すれも大原氏が生みの親である。

またこの町には、「本田慧星」で

の経営であつてみれば、なおさら深刻といえよう。

まず老舗から紹介しよう。駅に

最も近いのが「阿知館」(脇本満氏経営)で、東宝邦画の封切館である。木村支配人によれば「改革したいのだが、都市計画が決まらないので——」といふ。焼けない町にはまた別の悩みがあるものである。「倉敷大映」「大新興行経営」は大映封切館だが、こんど尼崎大映から転任したばかりの森支配人が、館のたてなおし役と張り切つていて、館のなかにも新しい息吹きを感じられる。「千秋座」(鳥居徳三郎氏経営)は、日活と松竹の封切館で、裕次郎のなら何でも商売は決して裏ではないところ。

ところでそれもここ二、三年のうちに一撃に二倍の数にふくれあがつたのは、いすこも同じ。

御多分に洩れていないといったところで、それもここ二、三年の

うちの一撃に二倍の数にふくれあがつたのは、いすこも同じ。

商売は決して裏ではないところ。

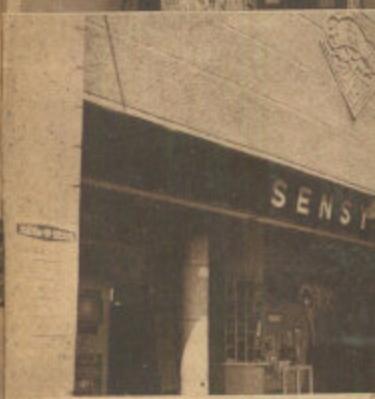
数からみても限界をこえた感じだ

し、それにここは殆んど一館づつ

ある。もう一つの老舗「松栄映画劇場」(杉守堅一氏経



松栄映画劇場



（営）は、駅から西に離れて町のはすれに近い地理的不利を、専ら低料金興行でカバーしている堅実派といったところの東宝の二番館である。戦後派になるとその親玉的存在が、「倉敷東映」（古川健三郎氏経営）で、鉄筋三階建に冷暖房、休憩室にはテレビを備えるなど、新しい設備を充実し、加えて東映系封切の強味もあり、三十二年の正月興行から開館——以来大いにかせいでいる。「三友館」「三宅金三氏経営」は、ただ一つの洋画専門封切館で、地方都市で難しい洋画興行も、封切一館であればさほどの難事でもなきさう。「空中ぶらんこ」「OK牧場の決斗」などがヒットしたという。「倉敷映画劇場」（横山儀尾氏経営）は、新東宝の封切と洋画の再映館。「倉敷

日活」「千秋座の鳥居氏経営」は松竹・日活・大映のそれぞれの再映をやっている。ほかに実演をかけた小屋「大衆座」というのがある。

最後に水島地区のことにつれておこう。ここは旧海軍の施設のあつたところだが、現在はその施設を利用して新三菱重工の水島製作所が、「三菱三輪トラック」をつくり出している。この新興水島の工業街は、倉敷駅から南へ市営のバスか鉄道で三〇分足らず、最近はさらには新しい工業の誘致もつたられ、倉敷の新しい原動力となりつつある。この地区に「水島大映」「東洋劇場」「水島映画劇場」の三館がある。



神田・お茶の水



お茶の水駅のまわり



そり立つニコライ堂のドーム

東京都千代田区神田。このあたりは、古い歴史のにおいのするところである。そもそも地名のおこりは、昔この一帯が、伊勢大神宮領であつたことによるという。物の本によれば、今は昔、伊達政宗が徳川家康と将棋に興じた時、政宗が駒攻めに熱中して、「本郷より攻めん、本郷より攻めん！」と思わず声をもらした、よって家康は、本郷高台に切通しを作つたと伝えられる。現在の「お茶の水」がそれである。加えて、駿河台がけずられて、残りの土をもつて下町が埋め立てられた。こうして神田は、今の姿をかたち作つたのである。

中央線「お茶の水駅」おりたては、神田川は目の下である。承応年間、ときの官府により井頭の水道が神田にひかれ、これを神田上水と称したと、江戸名所図会にある。当時淀橋付近にはひなびた水車があり、江戸の文人墨客は、中国の赤壁になぞらえ、このあたりを小

赤壁とよんでその趣きを受したもの」という。

聖橋をわたれば、湯島聖堂が白壁にかこまれて静まりかえっている。江戸幕府の精神的支柱として、

孔子像の祭られてあるところ、さらに昌平坂をのぼると神田明神の大鳥居に出る。江戸鎮守の神として、古来あがめられ、神田祭は江戸情緒をほこる情景の一つかつた。また西にもかつて歩けば泉鏡花の名作によつてその名をしられている湯島天神がある。

足をかえしてお茶の水駅より駿河台の方向にむかうと、ニコライ堂のドームが美しく眺められる。明治二十四年、大司教ニコライ大教主によつて建てられたところからこの名があり、正式にはハリストス復活堂とよぶ。

しかし一方、現代の歴史の波は、この昔の面影をとどめた神田一帯にもひたひたとよせてきている。聖橋に立てば目の前に眺められた



お茶の水駅を右に聖橋と神田川を望む



正面よりみた神田明神



神田唯一の洋画封切館 神田東洋キネマ



カート下にある神田アカデミー劇場



神田駅西口附近



駅に近い新東宝封切館 神田角座



並び立つ各大学の建物

ニコライ堂の姿は、現代的な日販ビルの壁面にさえぎられて、今は見えなくなってしまった。駿河台から神保町にかけては、明治大学、中央大学、日本大学等の交通博物館の異様な建物に、見学のビルが現代建築の美しさを誇ってたまつた。竹橋の前にはゴルビュ風のリーダース・ダイジェスト社の社屋がある。須田町通り等の人々にぎわいも、変つてゆく神田の姿のあわただしさを伝えるようだ。

街の相貌を詳細にみれば、名物古本屋街も、昔はどの学生のおとずれもなく、店を閉じるものが数を増し、盛り場としての上野の隆盛や、丸の内、有楽町方面に足をうばわれて、万世橋、須田町近辺も昔はど人々の目をひきつける場所ではなくなつた。後楽園が近いのも、娯楽をもとめる人達の足を神田から遠のかせる。こうして、今の中田は、古い歴史と、江戸っ子たちが誇った腹わいの姿を、徐々に新しい性格へと、変化させつづる。人口七万八千百余。電気機具関係の卸小売店や、印刷、製本等書物関係の小工場、衣料品卸小売店等々の、中小企業者の密集をかかえ、文教地区として、数多くの学校、書籍店、出版社等を含む神田といふ街の動向は、古き歴史への感慨にかかりなく、日々かまき、とうとうたる流れとして、新しい明日へと移りかねり、発展をとげていくのである。

この移りゆく街、神田には、八つの映画館があつて、それぞれの特殊性を誇つてゐる。街の歴史が古いたけに、多くの館は由緒ある伝統のひだをさみこんだいわれをもち、そのある場所も、それ離れはなれに異なる。

関東大震災直後の開館という神田シネマパレスは、淡路町二丁目にある定員四百六十席の映画館。久雄支配人の建築は戦前物が学生層をよぶという東日本興行の系統館である。

神保町一丁目の神田日活は、日活直営



有名な神保町古本屋街

地元ファンをよぶ神田東映銀映座

駅に近い新東宝封切館神田角

同一丁目国電ガード下の神田アカデミー劇場は、定員七十六名の洋画名画小劇場。一日七、八回の回転でアクション物が呼物。鈴木隆社長のもと松崎浩支配人が男性客を吸引している。

以上八館を総合する神田映画興行街の目標は、学生層か、地元中小企業者の娛樂面に、館によつてその割合の多小の変動はある、積極的に働きかけていくという、神田の性格を明らかに示したものであつた。

小川町三丁目の神田南明座は松竹系封切館で定員三百四十一名。中大生のファンが多いといふ。相馬竜夫支配人に由る東日本興行系。

国電神田駅に近い鍛冶町一丁目の神田ニュース劇場は、玉井竹藏支配人のもと定員二百四十名の邦画名画座。サラリーマン物が地の利をえていい。経営辰巳不動産。

同一丁目国電ガード下の神田アカデミー劇場は、定員三百四十一名。中大生のファンが多いといふ。相馬竜夫支配人に由る東日本興行系。

小川町三丁目の神田南明座は松竹系封切館で定員三百四十一名。中大生のファンが多いといふ。相馬竜夫支配人に由る東日本興行系。

柳沢定支配人は学生向プログラムによる啓蒙を工夫している。経営は三和興行。

小川町二丁目の神田角座は定員二百五十名の新東宝直営封切館。肉体ものが案外に学生を呼ぶといふ。支配人宮田全藏氏。

この移りゆく街、神田には、八つの映画館があつてそれぞれの特殊性を誇っている。街の歴史が古いだけに、多くの館は由緒ある伝統のひだをさみこんだり、われをもち、そのある場所も、それぞれ離ればなれに異なる。

関東大震災直後の開館という神田シネマバレスは、淡路町二丁目にある定員四百名の定員千九十九名、山の手の客を吸引する中村仙之助支配人による老舗館。同じく神保町二丁目の神田東映銀映座は、南星合名会社経営、戦前來の伝統で、最終回を遡くして地元の店員、工員さん達をひきつけているといふ東映封切館。支配人は大島一郎氏、定員五百三十四名。

神田東洋キネマも同じ二丁目があり、定員四百名のSY系封切館。どうも近頃の学生層は昔ほど洋画にひかれないと、柳沢定支配人は学生向プログラムによる啓蒙を工夫している。経営は三和興行。

小川町二丁目の神田角座は定員二百五十名の新東宝直営封切館。肉体ものが案外に学生を呼ぶといふ。支配人宮田全藏氏。

学校書籍店出版社等を含む神田といふ街の動向は、古き歴史への感慨にかかりなく、日々さかまき、とうとうたる流れとして、新しい明日へと移りかわり、発展をとげていくのである。

新・盛り場風土記

新宿歌舞伎町

歌舞伎町娛樂センター俯瞰

西武線新宿駅の前面に立ち並ぶ異形の大ビル群、それらは窓が少なくさまざまなおンサインに飾りたてられている。これが、東京でもっとも新しいアミューズメント、センター、新宿歌舞伎町興行街である。

広場をかこむ劇場群

新宿娯楽センター、入口とネオンのある大アーチをくぐると、三方を劇場に囲まれた広場がある。この噴水と藤棚のある広場とそれを取まく建物の対照は実際に美しい。

この劇場群は、先ず右側の大ビルが定員二七五〇名を収容する新宿コマ劇場、この地下にコマ東宝劇場とコマシネマがある。

左側は三月まで新宿オデヲン座があつたが、現在はグランド・オデヲンの地下に移つて新宿オデヲン座となり、その後はパチンコ屋とダンスホールに改装された。コマ劇場の右向いが新宿劇場、その隣がグランド・オデヲンで五階はクラブ・オデヲンというキヤバレー。

コマ劇場の正面向いは新宿東急会館で、ミラノ座と地下の新宿東急の他に、四階が東京スケートリンクとしてスケーター達に愛用されている。

オデヲン・ビルの正面向いは娯楽のデバ



新宿娯楽センター・入口のネオン・アーチ

通りの雑踏



さりつけも美しいコマ・スタジアム正面



地球会館——新宿座、地球座のほか各種の娯楽の殿堂

松
ル



ンド・オテラン、地下に新宿オテラン座、階ホール・オテランがある



ミラノ座——併設のスケートーリングが人を呼んでいる

ートと名のる地球会館。地下が新宿座、一階バチンコホール、二階、三階がコンサート・ホール（クラシック音楽を演奏する喫茶店）、四、五階は地球座、六階はトルコ風呂、七、八階はキヤバレー、ムーランルージュと、現代都会人の娯楽場として至れり尽せりの設備。

歌舞伎町の生いたち現在、新宿の町は、デパートの並ぶ旧都電通りと、歌舞伎町の二つに二分されているが、戦前は新宿といえども、この歌舞伎町は都バスの車庫につづく住宅街であった。戦災を受けて一面の焼野原となつた新宿の復興計画がたてられたが、それは現在の歌舞伎町一帯に二つ

宿名画座がある。

このように、演劇々場一、映画館一〇が広場を閉んでひしめき、年間七百万、一日平均一万九千名の観客を吸収している。



歌舞伎町建設記念碑



歌舞伎町の夜景を彩るネオン

の演劇々場、四つの映画館と演芸場、子供劇場で囲んだ芸能広場を設け、一大アミューズメント・センターにしてしまった。それでこの歌舞伎町という町名が生まれたが、この計画は不急建造物の建造禁止令にあい、かろうじて地球座（社長林以文氏）が、この歌舞伎町発展の先覚者といわれている（だけが昭和二十二年の十二月に開場できた）。二十六年暮になると、産業文化博覧会の建物を利用して東京スケート・リンクと旧新宿オデヲン座がふたを開け、二十八年一月に新宿劇場が開場した。この劇場は演劇々場としてスタートしたが、またその頃は歌舞伎町界隈は、その名とともに新宿に娯楽を求めて来た人達になじめないで客足が遠く、映画館に転向してしまった。次に三十年の末グランド・オデヲンの開場、三十一年末東急会館、新宿コマ劇場と相次いで開場し、にわかに面目をあらためて、歌舞伎町の名を一躍東京人に印象づけた。

現在、新宿西口に大きな一郭を占めている淀橋浄水場が移転し、その後をビジネスセンターにする計画があるそ



↑新宿松竹センター——松竹映画劇場、新宿松竹名画座、新宿松竹スター座のある劇場ビル



↑リつけも美しいコマ・スタジアム正面

ント・オデヲン、地下に新宿オデヲン座ホール・オデヲンがある



上 中 新宿劇場
コマ・スタジアムの中にあるコマ東宝とシネマ
下 外装工事中の新宿名画座



文 桑野 明
写 真 日 下 和 時

さくらの飾りつけにもぎやかにコマ劇場からミラノ座をのぞむ風景

うだが、これが実現すれば、そこに職場を持つサラリーマン諸氏の娯楽センターとしてこの街は、距離的にも地域的に最も適の場所となるだろう。都会に住み、都会で働く、騒がしく毎日を明け暮れる労働者に、一日の健全なるレクリエーションの場を提供するところとして、ますます発展するよう業者はそれに向つて努力している。

歌舞伎町の興行街が現在、日平均約二万人の観客を動員する、といつてもその七〇から八〇パーセントが学生で、サラリーマンなどの一般の客は新宿を素通りして都心に行ってしまう。

新宿は、国鉄の他に西武・京王・小田急の三私鉄に、都電の狹霧線の各終点となっているのだからもとと巾ひろい観客層を動員できるはずである。

新宿を素通りして都心に向う観客の足をここで止めさせるには、戦前から

庶民的な街として親しまれている新宿の性格をもつと生かして、商店街では良心的な商品を安く売ること、興行街は、散歩のついでにもフリリと立寄れる気安いふん閑氣を作ることなどであろう。

うだが、これが実現すれば、そこに職場を持つサラリーマン諸氏の娯楽センターとしてこの街は、距離的にも地域的に最も適の場所となるだろう。都会に住み、都会で働く、騒がしく毎日を明け暮れる労働者に、一日の健全なるレクリエーションの場を提供するところとして、ますます発展するよう業者はそれに向つて努力している。

歌舞伎町の生い立ち

現在、新宿の町は、デパートの並ぶ旧都電通りと、歌舞伎町の二つに二分されているが、戦前は新宿階は地球座、六階はトルコ風呂、七、八階はキヤバレー・ムーランルージュと、現代都會人の娯楽場として至れり尽せりの設備。

この外に東急会館の隣りに地下劇場新宿

戦災を受けて一面の焼野原となつた新宿の復興計画がたてられたが、それは現在の歌舞伎町一帯に二つの車庫につづく住宅街であった。それは現在の歌舞伎町一帯に二つ

戦災を受けて一面の焼野原となつた新宿の復興計画がたてられたが、それは現在の歌舞伎町一帯に二つ

新・盛り場風土記

郡

山

安積國造神社

まや



安積國造神社の秋祭り

その昔橘為仲が陸奥守に任せられて郡山地方を治めたとき、ちょうど美しい山桜がいまを盛りと咲き乱れていた。かぐわしいその花の香りに誘われて

みちのくの

芳質のしは原春くれば
吹く風いとどかほる山里

と一首を詠んだ。

これ以来、かほる山が郡山に転化したといわれている。その頃の広ばくとした風雅はいまはどこにも見られない。それはかりか明治のはじめまで戸数僅かに七百、人口四千人に満たなかつた奥羽街道筋の三商七農の一寒村だった郡山が、東北本線をはじめ磐越東西線、水郡線の開通から太平洋と日本海を結ぶ陸の中継港として、福島県の中央に座を占める人口十万の商工都市に素晴らしい勢いで躍進し



松竹 郡山



郡山市の玄関口、駅前大広場

てしまつた。

笛に黄金がなりさかる。宝の山の歌とともに有名な観光地梯懸山これに連なる安達太良山、その麓に美しく横たわる猪苗代湖と無数に点在する温泉群の南支閑口としての郡山駅は、毎日平均二万人の乗降客で賑っている。

猪苗代湖の電源開発により国鉄郡山工場、専売公社郡山地方局、日東紡績三工場、日本化学、郡山工場、保土谷化学郡山工場とそぞそく主要工場が建ち並んで工都としても発展している。更に現在は東



東映富士館



郡山大勝館



大映清水館

北本線の電化工事や須賀川市、安積町などの隣接町村を一直線に結ぶ弾丸道路二級国道建設工事が着工進められて、郡山の経済圏はぐんと拡げられ、これに付随する各種工事が次々次々に行われて市内には建設の鬨音が高らかに響いている。

このため郡山の街並は一年も経たぬ間に見る見る美しく生れ変り時折り訪れる旅行者は猫の目のよううに変る街だと驚いている。人口十万人の内面を見てみると純粹の郡山っ子ごく僅か、まして親子三

代と続いているものは珍らしく大半は他所からの移住者達、このため西部の街ともいわれている。生存競走はとりわけ激しく、県下のたくましい商魂を見せており、商店街は常に商戦に自身をかけずつており、例年年々木を越えると開いてつかれたみじめな敗戦者が姿を消していく。しかし商店主達は激しい競走が郡山の商店街を一層賑やかにしている一因になつていると語り、あくまでもたくましい商魂をみなぎらせている。

市内の工場数は三百を越え、工

業生産は年間六十億円にのぼつて
いるが、工場地帯の中心は駅の東
部にあるため、ちかごろでは、東
京降口設置の声が高まっている。
商店の数は三千に達し、東京は
もち論北海道東北の商取引は年間
八十億といわれている。駅前を中心
とした駅前大通り商店街、駅前
南大通り、さくら通り、中央商店
街と去る二月東北一を誇る全蓋式
アーケードの完成によつて誕生し
たアーケード商店街（すすらん通
り）はその代表的なものである。
この付近は毎日近郊からくり出す

大正座が大勝館（椅子席四〇〇名）として面目を一新、洋画専門館に生まれ変わっている。さくら通り入口には日活直営の都山中央日活があり、収容人員は八百五十名で都山一大きい。更に駅前と肩を並べる繁華街、龜山、一心坂、前川橋場、本町商店街の中心みどり座通りには洋画専門館の都山映画劇場（椅子席五五〇名）、名画座を称えるロマンス座（椅子席二七〇名）、邦画二番館のみどり座（椅子席五百名）が一角にかたまっている。駅前と比べればぐつと下町好みで

として普通映画とニュース館として開館した。暖冷房エレベーターつきという近代設備が近郊近在の好奇的となつてなかなかの繁昌振りを見せている。この他アーチード街には二年前大映直営館となつた大映清水座（椅子席五〇〇名）、東映系の富士館（椅子席六百五十名）、東宝系のシアトル都山（椅子

そしてちょうど駅前広場の北西の一角アーケードの西入口には都山一のモダンさを誇る映画と娯楽の殿堂地下一階鉄筋五階造りの三信ビルがそびえている。奥会津の只見電源開発で巨額の補償金をもらい一躍補償成金となつた皆川唯雄氏が松竹と手を握つて地上「松竹館」(椅子子席四五〇名)地下「シ

人で出でこつたがえしている。アーケード商店街南入口には大きなオシャレがでんと車道にまたがり、駅前ロータリーの真中に立っている。平和の女神の回りには五彩の噴水が美しい水しぶきをあげている。



テアトル郡山



郡山映劇



市内唯一の繁華街、アーケード入口



郡山日活

それがかえって大衆の人気を集めている。しかし商店街同様興業界の競争もすさまじいもので、一時中央劇場、郡山劇場、みどり座、ロマンス座と市内の四館を擁し、更に福島、白河と県北、県南まで進出していった佐藤興業が、ちからほはとんど振わない。こんな中で大衆映画が売りものの富士館がここ四、五年市内興業界の王座にのしあがっているのがめずらしい。

市が新らしいだけに歴史的事蹟や名物にはとほしいが、それだけこれから伸びようとする意気込みはすさまじいばかりである。主な年中行事を見ても正月七日に行われる七日堂祭りを皮切りに四月の桜まつり、七夕祭りをトップにくりひろげる花火大会、花市、悲恋うねめ物語に因んだうねめ祭を中心とした夏祭り、九月には郡山社祭り、お伊勢まつりと伝統は浅いがなかなか賑やかである。

それによると、これは十月一日から二ヶ月間、市制三十五年を祝つて全市をあげての賑やかな祝賀行事がくりひろげられ公会堂、公民館、公民館記念館の立ち並ぶ麓山公園内には、モダンな図書館や、工費一億三千万円を投じた椅子席二千十三人というマンモスビル市民会館が新築され、文字通りこの一角を文化センターとして彩づくった。

そしていま郡山は西部の街から安積良齋（幕末の儒者）や文豪久米正雄、宮本百合子、高山樗牛の出身地にふさわしい文化都市にしようと十萬市民がたくましい意欲をみせていく。

本町商店街の中心みどり座通りには洋画専門館の郡山映劇場（椅子席五五〇名）、名画座を称えるロマンス座（椅子席一七〇名）、邦画二番館のみどり座（椅子席百五十名）が一角にかたまっている。駅前と比べればぐっと下町好みで



新・盛り場風土記

徳山

糸島の娘のふぐおどり

急行列車で国際空港岩国から西へ一時間、下関港から東へ一時間半、山口県の中心部に徳山市がある。多島海美を誇る徳山湾にのみ、湾の東に国立公園太華山があり立ち、西側は黒髪、大津、馬鹿島、竹島の群島が湾を静かに抱きこんでいる。

徳山のフグ料理屋で食べさせるフグは生きていて、他では御法度となつてゐる肝を食べさせタゴ味を味わせる。徳山湾内の糸島（スクモジマ）がフグ漁の基地で、フグは鼻先でとれるからだ。

徳山は油の都市だ。旧日本海軍が東洋一を誇った海軍第三燃料廠があつたところで、その跡地へ再び最新設備をほこる大製油工場の建設が進められている。旧海軍の遺産として市の北郊大迫田の丘陵地帯にはアメリカにもないという十万トンの地下タンク五基がそのまま残つている。

徳山市の人口は現在七万人（そんなんべラボーな：）といふ横まがりがいる。その音い分は一光市、下松市、徳山市、南陽町、防府市と連なる臨海都市群の生産工場をあげて見ると、八幡製鉄光製鉄所、武田葉工光工場、日本石油下松製油所、日立製作所笠戸工場、東洋鋼板下松工場、笠戸ドック、日本鐵板徳山工場、日本精鐵徳山工場、出光興産徳山製油工場（六十億の予算で建設中）、徳山ソーダ（ソーダ、セメント）日本鐵板富田工場、東洋ソーダ工業（ソーダ、セメント）、クリンペール富田製礦工場、世界最大ゴム福川工場、鐘紡防府工場、協和醸酵と一流会社工場がひしめ

駅前案内板



↑南国情緒をただよわす駅前ロータリー

き合つてゐる。この大産業都市群の下真中に位してゐる所に、徳山の産業経済性格と将来がある。だから徳山の実態人口二十五万、背後人口二十万だ」というのだ。この話がハッタリばかりでない証拠に徳山市が世話をとなつて、周南大都市合併建設案がねられ、数回にわたる協議会がもなされている。

観光の面では、太華山の半島が国立公園に指定されているが、観光施設が伴なつていないので残念。旅館業者で、戦後純一本で叩き上げた福山広政氏が徳山湾の真ん中に浮いてゐる蛇島(サシマ)といふ二万坪ばかりの無人島を、観光地にするという条件で国から払い下げをうけたが、話が違うと大蔵省から返命令が出て、國を相手どつての裁判沙汰にまでおよび話題

をまいたが、結局貰い分が通つて正式に所有が認められ、島の酋長になつて觀光の樂士にするのだと張り切つてゐる。

觀光とはいえないが、散策に狂つた日本海軍が起死回生の悲願から考へ出した人間魚雷回天特攻隊はさきに映画化されたが、大津島がその基地。あたら戦乱のあらしに、生きながら爆薬を抱いて散つた若桜の悲しい物語りは、折にふれ島の人々の心に暗い影像を投げかけている。

このほか、徳山湾からきれいな花崗岩が産出される。その昔大坂城の城壁となり、国会議事堂にもつかわれている。その埋藏量は無限といわれる。

太華山麓には市営徳山競艇場があり、東郊久米には四月に開局し



徳山映画劇場



徳山文化劇場の大看板



徳山公園夫婦ヶ池

園芸公園に指定されているが、観光施設が伴っていないのが残念。旅館業者で、戦後税一本で叩き上げた福山宏政氏が徳山湾の真ん中に浮いていた蛇島(ヤシマ)といふ二万坪ばかりの無人島を、観光地にするという条件で国から払い下げをうけたが、話が逸ると大蔵省から返還命令が出て國を相手どつての裁判沙汰にまでおよび話題。

た若様の悲しい物語りは、折によれ島の人々の心に暗い影を投げかけている。このほか、徳山湾からはきれいな花崗岩が産出される。その昔、大坂城の城壁となり、国会議事堂にもつかわれている。その埋藏量は無尽蔵といわれる。太華山麓には市営徳山競艇場があり、東郊久米には四月に開局し



↑赤線地帯をひかえた喜楽座



↑徳山歌舞伎座

↓徳山セントラル



↑邦画専門の新天地劇場



県下に十二のチーンを持ち邦画専門の毎日興業(本社徳山市)はいわばホームグランドであり、市内の歌舞伎座、徳映、新天地で松竹、東映、大映、新東宝の一級封切物を上映している。社の代表三好又郎氏は松竹のはえぬきで、映画の草分け時代からこの道一筋を歩んできたオーバーリティ。それに社の感覚はするどく経営も堅い。だから邦画に関しては大都市のみのめぐまれた条件にあるわけだ。

歌舞伎座(古重晴基支配人)

は定員千三百、市内では最も設備が充実していて、実演がよく行われる。最近千四百万円かけて一流冷暖房装置を完成した。

徳映(藤田武雄支配人)は東映、新東宝のフィルム専門、座席数は七百五十。

また新天地(山中宣昌支配人)は洋邦画の二本立てを続けていたが、本年一月から邦画専門館につた。

新天地の邦画転向で拾いものをしたのが岩崎興業の文劇(奥村吉樹支配人)。市内唯一の洋画専門館となり、洋画各社のフィルムで映画人口中三十五パーセントを占める徳山の洋画ファンを一手に引き上げている。シネスコ、スーパー・スコ、ピクタビジョンも完備。ファン育成機関として同好会を作っている。現在会員一千名くらい。洋画観賞水準も向上してきたので番組編成には気を配っているという。最近の例でも「エデンの東」と「文なし橋」の人々などA級フィルムの組合せが目立つ。

街の中央街が主な商店街で、その間を縫うようにして有楽町、常盤通りのいわゆる裏町。栄町、銀座通り、旭町、開ノ丁など横丁が左党の盛り場。映画館は市内に六つ、隣りの南陽町を含めて九館が毎日興業、岩崎興業それに加藤興業のチーンで、三ツ巴で七万五千の映画人口を引っぱり合っている。



新・盛り場風土記

丸亀

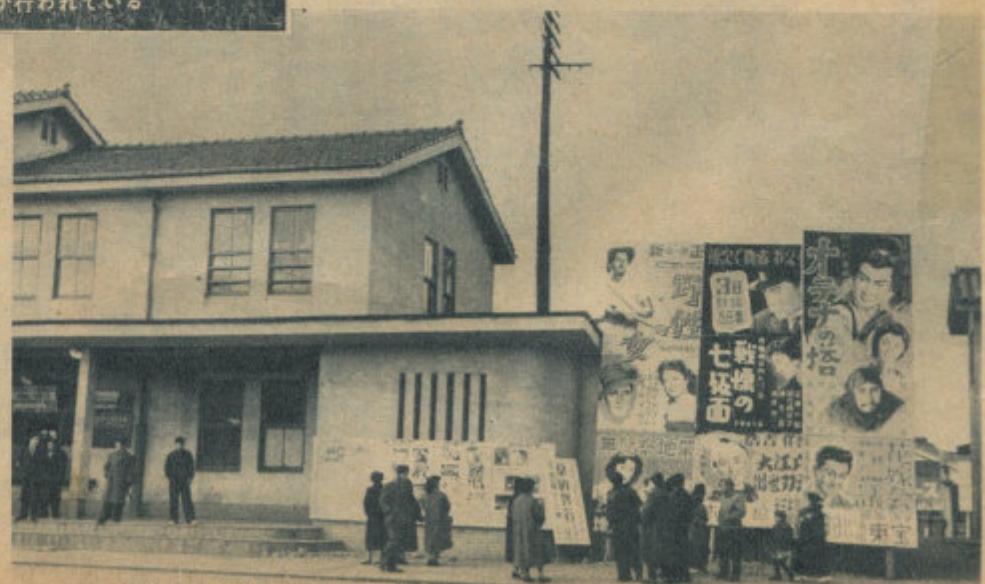


映画館の前にむらがった少年たち



丸亀城——その前ではロケーションが行われている

瀬戸の島 譜岐の島のおしなべて
さざ葉のこと 美しきかな（与謝野晶子）
海に瀬戸内海国立公園の中心地備讃海峡を、
陸に国宝丸亀城を抱いて人口六万・香川県下
第二の都市として高松に次ぐここ丸亀の一九
五六年の新春は今年も又金比羅參詣の大漁舟
の祝歌に明けた。古くは十返舎一九の滑稽小
説や、馬鹿で正直者の森の石松の時代から金
比羅参りのともづなはこの地に結ばれた。金
比羅筋の港町として、秀麗典雅な瀬戸内海の
多島美をぬって往来した月参船の面影は今も
そのまま港のたたずまいに、青铜燈籠に江
戸上總辺の金比羅大権現信者が海上安全の為
に寄進したもので鏽刻された寄進人名の中に
は塙原多助の名もみえる。丸亀港頭にあり、
その参道筋に残る鳥居に、いさかの変りも
ない。隣の戦災復興の新装高松にはみられない
古き城下町そのままに、丸亀は白壁の土蔵
に、無名の路地の優美な家並に、日本的な庶民



国鉄丸亀駅前をいろどる映画の広告

の古いたたずまいの美しさをみせて今日も又
平和な一日を迎える。この暖い郷愁は豊田四
郎（春の驕り）木下恵介（二十四の瞳）等のロケ
で人々の興味を呼んだ事もあり、市制六十年
に及ぶ歴史の重みであろうか。
猪飼弦一郎や中河与一をそなでた丸亀中学
附近の番町住宅街は、城下武家屋敷を今もそ
のまま登尚静闇そのものであり、それ故に
こそ最近迄文化熱草に輝く吉丸耕堂がこの地

に居を得て制作を続け、高浜虚子
又、稻葉あり飯野山あり昔今。と歌
つたのである。町の南方高くそ
びえる丸亀城は、国宝天守閣を
空に浮ぶ白雲の不夜城は正式燈台
にも指定されて、旅情への想と共に
安全航海の指針ともなっている。

市の西端塩屋、新浜の地は西本
願寺別院と藤井高校（矢島ひろこ
はここ出身）を中心に市的一大産
業団扇作りの町である。全国生産
の八割を生むこの町の「うちわ」は
この界隈で純然たる家内手工業で
作られるという内輪の話もある。

印の金比羅土産に起案されたこ
の地の団扇も、古くは奈良朝に唐
から渡来し支那の僧侶が蝶や虫を



丸亀東宝——銀映から変ったばかりで、飾りつけも不充分

殺生戒で殺さずに追放う為に考案
したものといわれ、平和の象徴で
もある

伊予竹に土佐紙はりてあは(阿

波)ぐれば讃岐団扇で四国(至

極)涼しい」という訳である。

国鉄丸亀駅は市の北端、岡山県
下津井に通う関西汽船の桟橋に接
して近代的建築をほこり、高く石
段を上ってホームに入る構造は四
国でもめずらしい。この国鉄丸亀
駅が北の玄関なら、丸亀城門前琴
平行きの琴参電車の通町駅が南の
ターミナル。坂出琴平普通寺への
電車と高松、多度津等へのバスは
この地を起点に四通八達している。
この二つの駅を結ぶ通町、富屋町、
浜町が繁華街を形成している。市

中唯一のデパート大松屋も昨年バ



日劇——丸亀で唯一のネオンサインをもつ映画館



唯一の洋画専門館——地球館



丸亀市全景——向って左に塩田がみえる



「二十四の瞳」ロケの
行われた浜町食店街

チシコ屋に転向し、すらり並んだ自転車の一大オランードが大衆の町通町の新しい面を代表するなら、この盛り場にお茶屋（煎茶やお茶の道具を売る店）が一軒あり、雜踏の人波をくぐって店に入れば香りも高き煎茶のサービスにあります。このあたりは、古き面を代表するものであろう。今ではめずらしくないが、夏のナイトショウは県下のトップを切って隆盛を続け、この地興行街の輝ける未来を暗示している。現在唯一の映画鑑賞団体として残っているのは、「良いものをみる会」で、市内の若いインテリ層を網羅し、芸術性の香り高い詩味豊かな欧米映画などを自主上映して高級ファンの絶対的支持を得ている。

讃岐の地は所謂「二十四の瞳」アームで観光客が押しかけるようになり、映画の持つ力が認識されたのは良いが行き過ぎもある。例え



千代之介、錦之助のファンをつくり出すホーライ館

は香川県はお隣りの多度津町出身の竹田敏彦原作になる「少女の家」。何故彼女等はそうなったか。が映画化される事になつて清水宏監督がロケハンに来県するやあの市この村の名士が「おらが町でロケーションを何卒」と誘致運動を初め同監督の予定はめちやくとなつたという様な事も起るのである。その清水宏が「古いものと新しいもののからみあつてる街」としてロケ地を選んだのが丸亀なのだ。ところで、古きものと新しきものとのコントラストの街丸亀の映



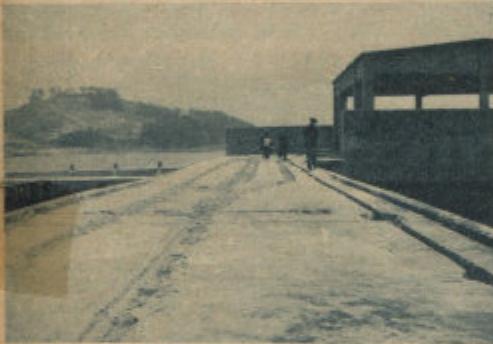
丸亀東宝——銀映から
平行きの琴參電車の通町駅が南のターミナル。坂出琴平善通寺への電車と高松、多度津等へのバスはこの二つの駅を結ぶ通町・富屋町・浜町が繁華街を形成している。市中唯一のデパート大松屋も昨年バ



唯一の洋画専門館



↑ 海を渡るみこし



↑ 人間魚雷回天の基地跡



↑ 水源地帯のつつじ



名物 ふぐ料理

セントラル（奥村吉樹支配人）も洋邦画二本立てから邦画専門に変った。東宝専門、森繁や成瀬監督もの人気がよい。

加藤興業系で赤線地帯をひかえた喜楽座加藤芳秋支配人）は一番前じの各社ものと低料金で、ふるいカツドウファンにうけていたが、最近日活新作ものと抱き合せるためかえってファンを足ぶみさせているようだ。このため市内の西部

に一館（みなと劇場）を建て、それを日活封切館に、喜楽座は大飛むきの三番館にもどそうと新館の工事を進めている。

このほか二つの映画館が新らしくお目見えする予定だが、それには映画設備をもつ市民館が七月には完成するので、好むと好まさるといかかわらず徳山映画興業地図も

されたぐらいで、残念なことに徳

山を舞台にした映画は一本もない。

有名な演劇人もいない。監督では

大映の弘津三男、お茶漬の味や春

秋の日活プロデューサー山本武の

商氏は当地の出身。山本武の

も

大

映

画

監

督

も

変

つ

た

セントラル（奥村吉樹支配人）も洋邦画二本立てから邦画専門に変った。東宝専門、森繁や成瀬監督もの人気がよい。

加藤興業系で赤線地帯をひかえた喜楽座加藤芳秋支配人）は一番前じの各社ものと低料金で、ふるいカツドウファンにうけていたが、最近日活新作ものと抱き合せるためかえってファンを足ぶみさせているようだ。このため市内の西部に一館（みなと劇場）を建て、それを日活封切館に、喜楽座は大飛むきの三番館にもどそうと新館の工事を進めている。

このほか二つの映画館が新らしくお目見えする予定だが、それには映画設備をもつ市民館が七月には完成するので、好むと好まさるといかかわらず徳山映画興業地図も

されたぐらいで、残念なことに徳

山を舞台にした映画は一本もない。

有名な演劇人もいない。監督では

大映の弘津三男、お茶漬の味や春

秋の日活プロデューサー山本武の

商氏は当地の出身。山本武の

も

大

映

画

監

督

も

変

つ

た

新・盛り場風土記

木更津

歓迎



東京へ船で近道
本館・通信社・旅館・宿泊
房観光
バス交通
はく
遊目



駅前十三間通り

しがねえ意の情が仇、命の網の切れた
のを、どうとりとめてか木更津から—

ダンディ与三郎と、浮名の横櫛お富との馴れ初めの場として知られる千葉県木更津は、房総半島のちょうど中間、東京湾に突き出した地方小都市である。隣接は、近来新興工業都市の千葉と、人情風俗至つてのんびりし過ぎた南国情緒館山。もつとも「近くで遠きは何とやら」両方とも列車に揺られて一時間の距離がある。

最近、私はこの市に移住して来たが、まず平穎無事、何の特色もない町である。市当局の掛声よろしく駅から港迄、十三間通りと称する不釣合な程立派な道路が伸びているが、それも何とはなく寒々しい。その両側に雑然と商店街が密集しているかと思うと、その真中の県道沿いに置き忘れたようにはりと弁天様が祭つてあつたりする。特色はない」と書いたが、町を歩いて目立つのは、派手な姿の芸者のまた何と多い事。

木更津照ると東京は覺れ——。

木更津甚句が有名なら芸者の多いのも当然。人口約五万。五十軒の置屋に千人の芸妓がいる。大工場、大会社はない。従つて平穎無事なる事は保証つきだが、発展的活気はない。斜陽的消費都市と言えるだろう。ただ、この市にも年に一度のブームがある。それは、沿岸遠浅を利用しての海苔栽培と、その出荷が正月と重つて、深夜迄絶歌さざめく新春の夜を開する。芸妓・旅館・料亭の書き入れとはなる。が、短いその期間を過ぎれば、また木更津は晏天の良く似合う町に一変する。夏の黃立、春の沙子狩——、しかし房総の觀光は館山、外房の一手販売の觀光を呈し、東海汽船・京浜急行等の資本投下により積極的に觀光宣伝を呼びかける館山に較べれば、火の消えたような淋しさはどうしようもない。中山晋平・野口





鉢々寺全景 右上と三郎の墓

左、鉢々寺の狸塚

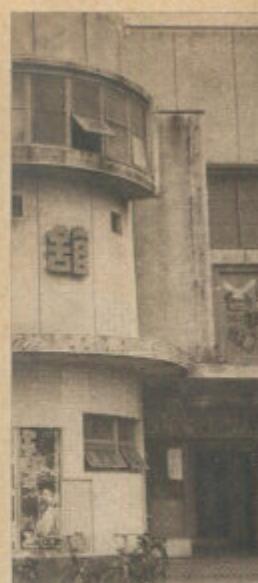
雨情のコンビになる——、と言うよりは、アーサー・キットによつて遠く海外に迄知られた「鉢々寺」もこの救世主とはなり得てない。観光要素と見るよりも、むしろ市街地の一帯に、黙々たる古刹としての方に遙かに面目を保ち得るのだが。

しかし、映画興行には一つだけ強みがある。この事が国鉄房総西線と久留里線の分岐点にあること。西線十駅・久留里線十駅の乗客がこの市に降りる。村部からの通勤者も約七千を数える。

映画館数は五。内訳は洋画二、邦画三。系統館は地方都市の趨勢で東映のみ。他は契約館であるが、大勢はこれまで邦画の圧倒的優勢。では洋画から、橋館、ここは地味な固定層を幾分持っているようである。上映プロも地味だが俗に言う芸術作を連発。抱き合せも巧妙。インテリも活劇ファンも吸引している。そして立体音響装置を持つただ一つの館。ただし、映画館が小さい。ザ・ワリュームを最低に下げてもなお、生理的不快感を覚えてほど響く。

弁天座、プログラムから見れば横並と同等、或いはそれ以上の観客を吸引していい筈なのだが、どういうつもりか時々ストリップや性映画をかける。それ自体としては充分に採算もとれ収入源とはなろうが、長い目の映画興行としては見れば明らかにマイナス。六割を占める婦人層を失う事にはないか。経営は苦しいらしい。

邦画へ移って、東映、系統館ではあり地方の常として強い。市第一の収入を挙げている。邦画他



左・鉢々寺の

鉢々寺全景

木更津市役所観光課

の二館・エビス館・富士館。ともに経営者は同じであり特色がない。積極的な宣伝もなければ、館の特色を作ろうと言う気を、経営者、支配人ともに持ち合せないらしい。

私は他の地方都市の映画興行がどんなか、多くは知らない。しかし、ただプログラムを掲げて観客を待つだけのものならば、遠くない将来、テレビが現在の高級品の場を降りて、ラジオのような対人口比を占めた時、決定的打撃を受けるだろう事は明白である。

まだ洋画系ならばプログラムの選択等によって館の特色も出せ、対策もあるかも知れない。が、邦画のように製作されたものを天下通りに連続してただ上映するだけならば、経営はテレビの普及につれて下降するだろう。実際、週一本ずつ製作されてゆく乱造邦画は製作者側がいかに力んでも、テレビの劇・映画と何程の差があろうか。いや、西鉄・巨人戦で見せたあの迫力には到底及ぶまい。

この市には文化団体と呼べるもののが一つもない。お隣り館山には隔地なりに同好者の集まりがあり、文化の日を中心として、映画・絵画彫刻・音楽・写真等の発表会がある。それぞれ市主催のもとに開かれ、ささやかながら詩・小説の同人誌も、各個の会報も発行されていた。中央に近いと言う事が、それだけマイナスに作用しているようである。因みに県下各市の中で労働運動の一番低調なもの、この木更津市である。

文・カメラ 高田潤
協力・木更津市役所観光課

て見れば、明らかなマイナス。六割を占める婦人層を失う事になりはしないか。経営は苦しいらしい。邦画へ移つて、東映・系統館ではあり地方の常として通い。市第一の収入を挙げている。邦画他

新・盛り場風土記

松江

城下町の昔をしのぶ並木通り武家屋敷。

山陰という地方は、どうかすると八千万同胞の皆様より忘れられ勝ちな程、日本の片隅的存在です。中国山脈の山影、日本海の高波に洗われ、年間快晴三十六日、十日に一日の割しか青空がのぞかず、残り九日は雨、雪、曇天ということになります。この山陰路最大の都市として君臨するのが松江市です。松江市は松平直政が雲州一八万六千石の領主として信州から移封され、明治の藩籍奉還まで二百三十年間、その城下町として発達して来ました。宍道湖の水が中海へ大橋川となつて流れ出る湖脚をはさみ、大橋、新大橋を軸として町は南北に展開しています。この大橋から見た湖の眺めは、かつて此の地に住み、愛した文豪小泉八雲をして「東洋のジユネーブ」と感歎させた程で、湖上には大橋近くで溺死した美女をのせて一夜のうちに浮上ったといふ伝説の島「嫁ヶ島」があり、この島に映える落日の殘照は何人をもとらえずにおきません。このような松江市は昭和二十五年全国十八の都市と共に国際観光特別都市に指名されています。

この町は、町全体が静けさ、古さ、落付いた日本の鄉愁すら感じさせる雰囲気をもち、所謂盛り場と称するものは「無い」といつた方が正直かもしれません。それでも相次ぐ町村合併で人口は八万にも増え、人の往来も繁く、集りも生じますから、これをを迎える商店街、興行街らしいものも全く無いわけではありません。映画館は市内四館、何れも横濱にあり、北では興行が出来ないといわれているそうです。駅を下りて西へ行きますと、路上正面に「忠臣蔵」等と染め抜いた広告幕がかけられてあります。ここに国際劇場、東洋劇場、興映劇場があり、銀映劇場はここに来るように道を折れた鉄道線をこえた所にあります。四館という現状は「人口二万に一館」の常識が守られている点で、観客動員の限界内にあり、堅実な経営も可能なようです。勿論人口の八万がそのまま市の映画人口ではあります。

松江市の表玄関、山陰線松江駅。





↓興行街につづいた繁華街・白湯街。これをぬけると松江大橋がある。



りません。これは映画に限らず三分の一が商家である町の顧客の構成でも同じですが、地方の文化的、政治的、経済的中心地として諸官庁、会社等の通勤者が非常に多く、これらが映画人口の三分の一を作っていると思われます。国際劇場、東洋劇場は戦後の新築で冷房暖房は不完全ですが、一応スマートで見心地よい劇場です。銀映、興映は戦前の建物の改装で、経営は国際劇場（松竹・大映）が大山文二氏、興映（東宝・新東宝・日活）、東洋（東映、銀映（洋画）が大阪に本社をおく興映企業株式会社、支配人中山長治氏です。配給は何れも四番乃至五番が流れ、宣伝は啓蒙の立場からじっくり地味に滲透させるのが得策のようです。邦画館三館に對して洋画館一館、この比率がそのままそれぞれの支持観客の比率でもあるようです。洋画でも特に音楽映画ともなると観客動員に一苦労だそうですから、仮に音楽への関心が地域社会の文化水準の尺度だとすれば、松江市もまだまだ文化的都市と評するには遠いようです。今年度興収の高かったものでは、「君の名は」、「女の暦」「山の音」「七人の侍」洋画では断然「ローマの休日」あたり、一般的傾向としてはオーム・パリューのある文芸物やスリラーものが強く、量産的傾向の明かな作品などは弱いようです。観賞団体として松江映画同好会、学生映画研究会、職場同好会等の組織があります。さて繁華街といえば、興行街を更に行くと白湯本町があり、橋にかかると対岸に川を背に旅館が並



←町を横切って流れる大橋川（大橋橋づめの船着場）。



↑大橋川にかかる松江大橋。



↓松江市の裏玄関・一畑電鉄北松江駅。



↓興行街に



↓興行街の中心にある国際劇場。



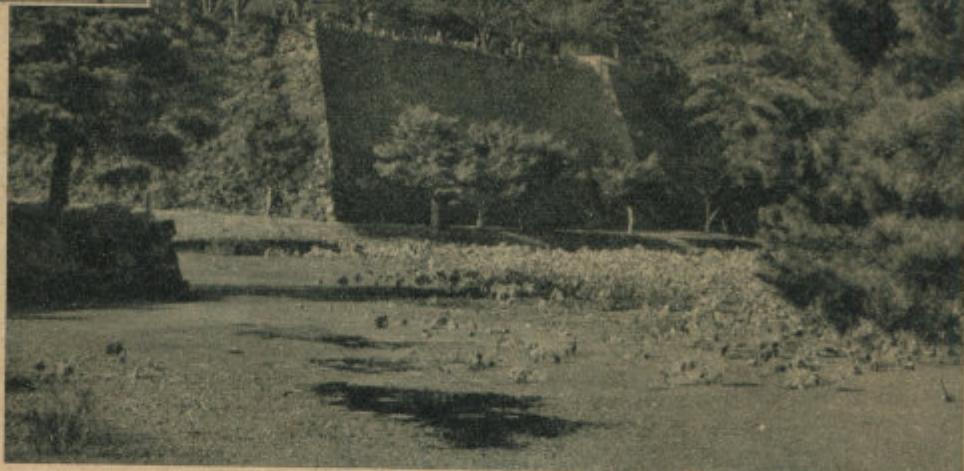
び、観光の町らしい風情が見られます。橋を渡ると左に切れて京都の町にまねたといわれる京店があり、何れも商店街で小じんまりした店が並んでいます。

最後に郷土の祭りを少しばかり一静かな水の都にも大搖れに揺れる時があります。嫁ヶ島に祀る弁財天の水郷祭をはじめ、城山稻荷の神事ホーランエンや、大橋の人柱となつた源助の靈を慰める源助祭、湖岸の天神社の天神祭など、時ならぬ盛り場が現出します。

は弱いようです。
松江映画同好会、学生映画研究会、
職場同好会等の組織があります。
さて繁華街といえば、興行街を
更に行くと白洞本町があり、橋に
かかると対岸に川を背に感館が並



↑珠ヶ島を浮べた宍道湖の風光。



千鳥城天主閣とお濠 →
(現在解体修理工事が
つづけられ、近く完成
を見る)。

↓興映劇場の入口。



←松江をたたえた小泉八雲の記念館。



今、松江は国際文化観光都市として新しい都市計画を進めつつあります。古い城下町の保存に併行して近代産業の振興も望まれています。古さと新しさをよりよく交錯させることが、この町の課題でありますよう。

文・小王光郎
カメラ・高橋惟之

新・盛り場風土記

盛岡

岩手市の中にある不來方城より岩手山を望む。



盛岡は、一度、一発の爆弾を受けた。人伝てに聞けば、青森爆撃の帰途、爆弾を持て余したB29が、間違つて落して行つた、ということだ。さぞかし、爆弾も落ちる場所を探すのに苦労したことだろう。そんな町だ。奥の細道の芭蕉ですら、この町までは来なかつた。盛岡の別の名は、杜の岡・杜陵。という。つまり、色濃い緑葉が、さわやかな空の色と、鳥の鳴き声を伝えるが、煙を吐かない町だ。民主主義も、この町では、まだ表通りを素通りして、そして通り抜けで行つてしまいそうなのである。徳川治政三百年、可憐説求の南部様も未だに、この町では、昔ながらの南部様であり、南部伯爵だ。つまり、どこまでも人情素朴おつとりして、「そうだ、なつす。」—長く語尾を引きながら、天皇陛下が御巡幸になれば一家絶出でお迎え申上げる町なのだ。いわば、—日本の黄瀬さには、やはらかに柳青める北上の岸辺目に見

旧暦五月端午の節句に市内を行進するチャグチャグ馬ッコ。



ゆ泣けごとくに」—啄木の心情が失われてからすでに久しい。科学的な正確さを期せば、上流の松尾鉱山（硫黄鉱山）の鉱沢の故。東に岩山、北に姫神、愛宕山、西に岩手山、南に南昌山と山また山に閉まれた中津川畔の風景から「盛岡は北の京都」と町の人は自慢する。都市美学の石川栄耀博士は「盛岡は、日本でも有数な名都。山と川に囲まれ、城趾を中心とする文化センターを含みこんだ姿は、理想的な都市形態」とこの町の人の高さを保証する。城の名は不來方城。南部藩三百年の居城。明治維新に奥州連盟に参加し、朝敵となつたため、城はとりこわされ今は城壁の一部を残すばかり。啄木が中学校から抜け出してよく寝ころんでいたのはここ。不來方のお城の草に寝ころびて空に



←近く拡張改築される盛岡駅。

↓不來方城の濠の一部をうめて作った東大通りは盛岡の新興商店街となつた。



↑河北のアミューズメントセンター
といえる大通りの中央ホールは洋
画専門館。

↓同じく大通りにある中央劇場。

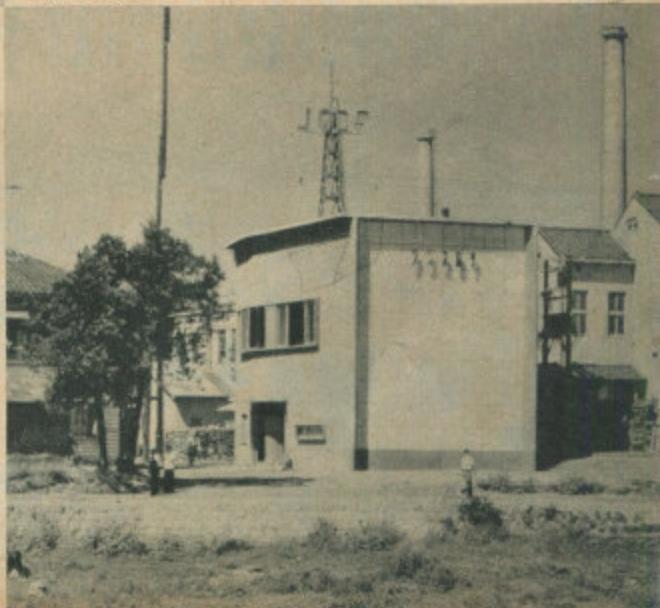


→中央劇場隣りの三ニュースポーツランドのパチンコ
台数は東北一だという。



↓市の中心部、中津川の渓流にのぞみ“ラジオ岩手”的スタジオ
がある。

すわれし十五の心。
この公園を中心にして、駅前の「大通り」、
側に「材木町」、「肴町」、「八街町」などが盛
岡の代表的な盛り場。南部榮城のおかげで、
今も盛り場が四散分散しているのは、旅人に
は一寸不便だ。大通り」というのは、ごく
最近まで樂園といって、昔の高等農林の実習
圃があった。埋めなたて、梅ヶ枝町、若竹町、
鶴舞町、とシヤレた名の町が田臭も知らずに
並んだいわば戦後派町、料亭・キヤバレー、
飲み屋・喫茶店が、映画館・中央ホール、
(洋画専門)、第一映画(東宝、東映その他
邦画専門)、中央劇場。(大映、日活等邦画専
門)を取巻いてる。パチンコ屋の多いことも
この辺りだが、中劇隣の三スポーツラン
ドは東北一ということである。中劇の裏は料
亭が目白押し。キヤバレーは、レインボー、
フロリダ、紫煙荘、ドリーチー。バーはセ
ン・ポン、バリジャンヌ、多賀会館、コーナ
ーと、これまた少なくない。大通りを北に抜





↑ 松竹直営の内丸座。



↑ 東宝直営の第一劇場。



↓ 一流老舗の並ぶ肴町通り。



↑ 中央劇場隣りの三ニユースボーツランドのパチンコ台数は東北一だという。



門) を取巻いている。パチンコ屋の多いこともこの辺りだが、中劇隣りの三ニースポーツランドは東北一ということである。中劇の裏は料亭が目白押し、キヤバレーは、レインボーシー、フロリダ、紫煙莊、ドリー・チー、バーはセ・シ・ポン、パリゼンヌ、多賀会館、コーンナードなど、これまた少なくない。大通りを北に抜

けた通りは仁王通り。コーヒーパーラー、薈場(すいじょう)がある。主人の薈場太郎氏は、長く中南米にいた人。ここでのコーヒーは本物である。公園前から北に進んで、大手先。本町、本街として古くから知られた花柳界。花芳久。その他の料亭があり、花芳久は県政治史に、屢々話題を提供する。中津川を渡れば河南は肴町、そして生姜町・八幡町が中心。肴町は、松屋、川徳のデパートをはじめ、一流老舗が並んでいるが、最近は大通りにおされ勝ち。八幡町は、本街に対して幡街といわれる花柳界地。貸席十二、三軒ある。

映画館は、戦後の五館が何時時間にか、ふえて九館になつた。河北からいへば、前述の中央劇場、中央ホールと向い合う。共に南部土地経営の姉妹館。

中劇(支配人は今野環氏)は大映、日活もの、ニュースを沢山やるので評判がよい。ホール(津田辰夫氏)は最近は二本建の洋画専門となつた。せまいが感じはない。中劇隣りの、東部興行の第一劇場(朝妻昇治氏)は東宝東映。大手には松竹内丸座(長沢良氏)は松竹直営である。少しはそれで長町には銀映座(野坂種彦氏)がある。河南へ渡ると紺屋町に国民劇場(小笠雄治氏)は昔藤沢座と云つて芝居等もかかつた歴史ある劇場で洋画専門、収容力は千二百人と云つているが市内で一番大きい。生姜町にはシネマ・ミソ(道又清蔵氏)、花街の真中で邦画のセカンドだがミーハー族がよく入る様

けた通りは仁王通り。コーヒーパーラー、薈場(すいじょう)がある。主人の薈場太郎氏は、長く中南米にいた人。ここでのコーヒーは本物である。公園前から北に進んで、大手先。本町、本街として古くから知られた花柳界。花芳久。その他の料亭があり、花芳久は県政治史に、屢々話題を提供する。中津川を渡れば河南は肴町、そして生姜町・八幡町が中心。肴町は、松屋、川徳のデパートをはじめ、一流老舗が並んでいるが、最近は大通りにおされ勝ち。八幡町は、本街に対して幡街といわれる花柳界地。貸席十二、三軒ある。

映画館は、戦後の五館が何時時間にか、ふえて九館になつた。河北からいへば、前述の中央劇場、中央ホールと向い合う。共に南部土地経営の姉妹館。

中劇(支配人は今野環氏)は大映、日活もの、ニュースを沢山やるので評判がよい。ホール(津田辰夫氏)は最近は二本建の洋画専門となつた。せまいが感じはない。中劇隣りの、東部興行の第一劇場(朝妻昇治氏)は東宝東映。大手には松竹内丸座(長沢良氏)は松竹直営である。少しはそれで長町には銀映座(野坂種彦氏)がある。河南へ渡ると紺屋町に国民劇場(小笠雄治氏)は昔藤沢座と云つて芝居等もかかつた歴史ある劇場で洋画専門、収容力は千二百人と云つているが市内で一番大きい。生姜町にはシネマ・ミソ(道又清蔵氏)、花街の真中で邦画のセカンドだがミーハー族がよく入る様

→ 洋画専門館で市内で一番収容力のある国民劇場。

↓ 市の端にある文化劇場。



↓ 長町にあるセカンド館、銀映座。



戦前の三笠劇場が最近名画館として再発足した。



だ。新馬町には六月から名画館(伊藤重弘氏)が開場した。三笠劇場(ダンスホール一名画館)と変転し、伊藤氏は昭和二年マキノ映画

に入つて以来映画界一本の人で苦労しただけに巧な経営で、おセンタナスホール一名画館と変転し、伊藤氏は昭和二年マキノ映画

だ。明治橋際に今度文化映画劇場(佐藤治昭氏)が千二百万円かけて出来たが、今まで恵まれなかつた仙北町方面からは近くに出来たと喜ばれている。総合セカンド館。



八幡花街に近く、河南の盛り場生糸町にあるシネマ・ミンノ。



兎も角も人口十二万五千に九館あるが映画館といいうものは人口二万で一館成り立つとその道の人はいうが、もう盛岡では限度だろう。今度郊外の新住宅地青山町に一館出来ると言ふ。市内の映画を見に青山町から客も来るが、市内から青山町まで見に行く人はないから経営も苦心を要するだろう。

文・七・宮・計・伍
写・真・氏・家・正・時
写真協力・岩手日報写真部

新・盛り場風土記

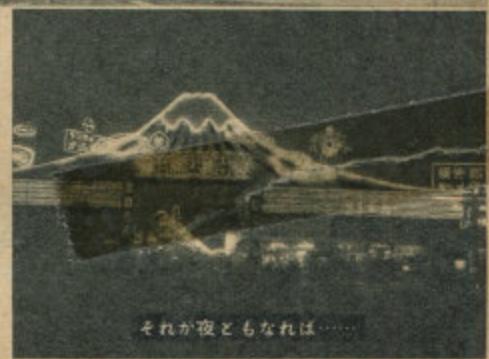
静岡



流石は富士山のお腹元だけあって盛
り場入口にも富士山のアーチがある

静岡——お茶と蜜柑とわさび漬。そのわさび漬も今では殆ど全国の駅の立賣りに現れるようになり、静岡名物としての影がうすくなつたのと同様、戦前の再三の大火灾と、戦災のため、すっかりその都心部を焼き払った静岡は、家康公御隠居以来の古い城下町としての面影を失つてしまつた。

東海道線の静岡(宿)は、ファースト・シートでもなく、ラスト・シートでもなく、長編メロドラマの真中頃のようなところだ。先ず順序として静岡駅。こゝも何時の間にか戦争名残の薄汚いカモフラージュを洗い落して、小綺麗になつた。駅前の型の如き広場には、これ又型の如き小都會用のバスが客待ち顔に並んでいる。駅を枕に両手を括げ、一人の男を大の字なりに寝かせて見ると、右脇の下あたりに、静岡最高の建物、M百貨店が聳え立つて居るが、その威圧的な風貌は庶民的な静岡



それが夜ともなれば……

人の気持には、あまりビッタリと来ないらしい。右脚の大通りが旧駿府城のお濠端に沿つてグーンと伸び、市公会堂・市役所・県庁・警察署・消防署・病院・それから静岡北部の繁華街馬場町を経て、春は桜・夏は新茶・秋は紅葉の浅間山に突き当る。左側の脚がいよいよ本論の新盛り場吳服町である。

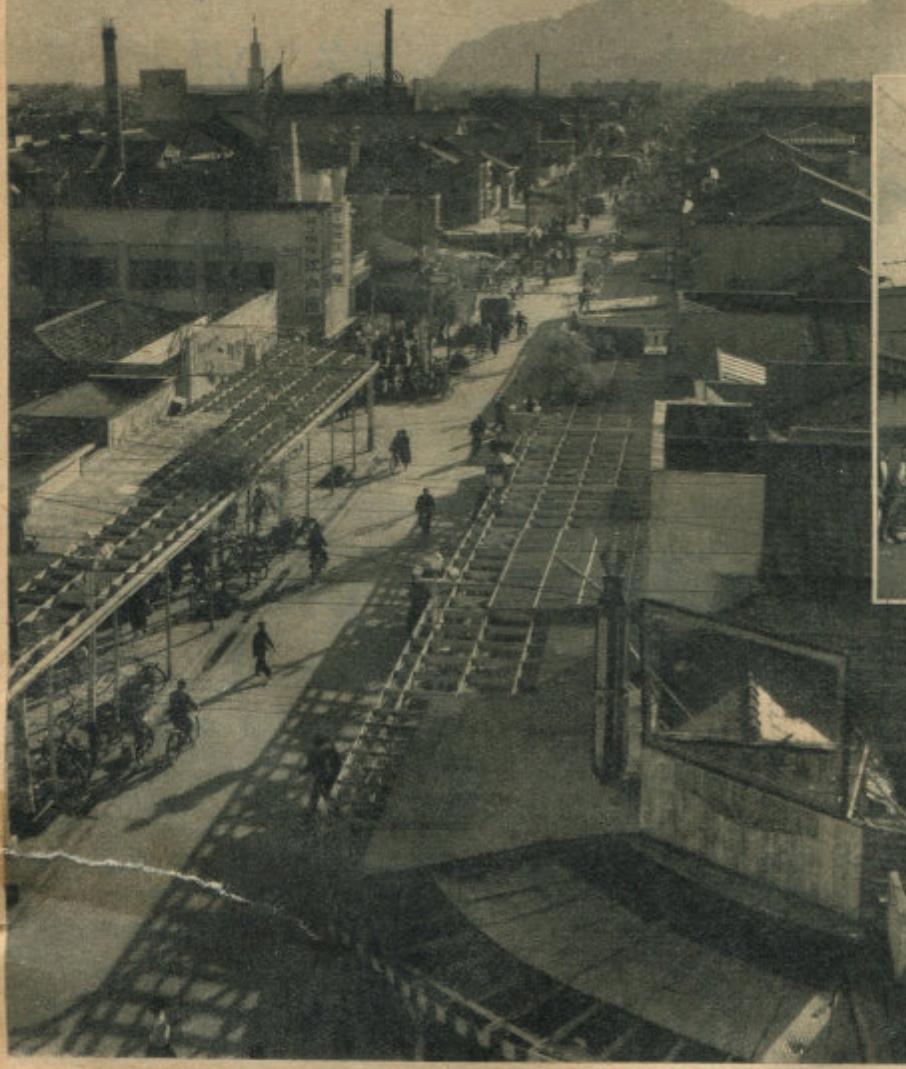
即ち前斜左前方の大袈裟な富士山型のアーチをくぐれば、もうそこが吳服町通りの入り口である。このアーチについては、泥臭いだけの、どうも見つともないだとの兎角に静岡知識人の悪評が飛んで居る。

やはり喰べ物屋が多い。何しろ天産物の豊富な土地柄、果物屋・海産物屋・お茶屋・そば屋・漆器屋・化粧品屋・パチンコ屋・その他正にオール・スター・キャストである。所がこの通り、何処まで行つ



松竹映画でお馴染みの静岡映画劇場

七間町の大通り、この中に七つの封切館がある



↓新盛り場の吳服町に対し、格式の古い
七間町もすっかり表を新たにした



↓静活株式会社々長江崎銀兵衛氏と
(その下)舞台も持っている歌舞伎座



ても映画館が一つもない
程よい所で左にそれる、其處に
一軒小ぢんまりした小屋がある
小屋と言つても定員は四百名
「君の名は」と問えば「静映」と
答える。年々松竹映画を上映し、
松竹のお客か、映画館のお客か、
市内では最も固定した観客層を構
んでいる。こゝはもう七間町であ
そ

城内に銀座する県庁の前、市役
所と警察署の間を通つて真直ぐ來
ると、そこから先が吳服町と稱を
削つて居る盛り場七間町となつて
いる。街の姿がたちは吳服町通り
と大差はないが両側に銀座風の
柳の並木を植えつけ、極く最近に
は街の真中に、四脚の鉄骨を組み
上げて、その上に地球を型取つた
大きな玉を載せ、これを何馬力か

↓設備とい、定員とい、東海第一を誇るモダン・シアター、オリオン座

七間町の大通り、この



のモータードでクルクル廻し、併せてネオンをチカチカ光させて、商魂未だ劣えずの心意氣である。毎週新作を上映して居る八つの映画館もすべて、この七間町界隈に蟠居してゐる。

カブキ座は舞台を持つて居る。

戦後暫くは、専属の劇団もあり、

映画と共に軽演劇などもやつて

いたけれど、今はなくなつた。月

一回の「三つの歌」などに僅かに

その名残がある程度。「禁じられ

た遊び」や「アンデルセン物語」

もやるかと思うと、平気で二三流

の西部劇も上映する一風変った洋

画の封切館である。

更に七間町を行くと場所的には

一番恵まれた中央映画劇場がある。

戦後長い間洋画専門の封切館とし

て親しまれて來ていたが、去年あ

←東宝系の中央劇場は最も
地の利を得ている

小屋と言つても定員は四百名。
「君の名は」と問えば「静映」と
答える。年々松竹映画を上映し、
松竹のお客か、映画館のお客か、
市内では最も固定した観客層を構
成している。こゝはもう七間町であ

ると、そこから先が呉服町と鎮を
削つて居る盛り場七間町となつて
いる。街の姿かたちは呉服町通り
と大差はないが、両側に銀座風の
柳の並木を植えつけ、極く最近に
は街の真中に、四脚の鉄骨を組み
上げて、その上に地球を型取つた
大きな玉を載せ、これを何馬力か

全国でも目新しい16ミリ映画の常設
劇場の平和館がついこの間開館した



吳服町と平行する岡替町に
東映封切の第一劇場がある



十二間道路と称する国道に面して、東海第一を誇る映画の殿堂オリオン座がある。定員一〇五名、十月はじめの「クオ・ヴァディス」上映からワイド・スクリーンになり、夏冬の冷房、暖房の装置など東京あたりの映画館に比してもさしたる遜色はない。

この十二間道路を越して、七町は更に西へ西へと伸びて居る。戦後はじめて本格的に映画の上映を始めたという、電気館、現在は大映映画の封切館である。それに続いて、新東宝並に独立プロの作品を上映して居る銀座劇場。更に七間町を外れて、洋画封切の國際

劇場がある。こゝは十月末の「地
上より永遠に」の試写会以来ワキド・スクリーンを設備して、グットリップ小屋がある。文字通りバタック建の小屋掛けで、何度も解いたり組立てたりしているが、演り始めてからかれこれもう四・五年になる。

十二間道路と称する国道に面して、東海第一を誇る映画の殿堂オリオン座がある。定員一〇五名、十月はじめの「クオ・ヴァディス」上映からワイド・スクリーンになり、夏冬の冷房、暖房の装置など東京あたりの映画館に比してもさしたる遜色はない。

この十二間道路を越して、七町は更に西へ西へと伸びて居る。戦後はじめて本格的に映画の上映を始めたという、電気館、現在は大映映画の封切館である。それに続いて、新東宝並に独立プロの作品を上映して居る銀座劇場。更に七間町を外れて、洋画封切の國際

劇場がある。こゝは十月末の「地
上より永遠に」の試写会以来ワキド・スクリーンを設備して、グットリップ小屋がある。文字通りバタック建の小屋掛けで、何度も解いたり組立てたりしているが、演り始めてからかれこれもう四・五年になる。

十二間道路と称する国道に面して、東海第一を誇る映画の殿堂オリオン座がある。定員一〇五名、十月はじめの「クオ・ヴァディス」上映からワイド・スクリーンになり、夏冬の冷房、暖房の装置など東京あたりの映画館に比してもさしたる遜色はない。

この十二間道路を越して、七町は更に西へ西へと伸びて居る。戦後はじめて本格的に映画の上映を始めたという、電気館、現在は大映映画の封切館である。それに続いて、新東宝並に独立プロの作品を上映して居る銀座劇場。更に七間町を外れて、洋画封切の國際

劇場がある。こゝは十月末の「地
上より永遠に」の試写会以来ワキド・スクリーンを設備して、グットリップ小屋がある。文字通りバタック建の小屋掛けで、何度も解いたり組立てたりしているが、演り始めてからかれこれもう四・五年になる。

十二間道路と称する国道に面して、東海第一を誇る映画の殿堂オリオン座がある。定員一〇五名、十月はじめの「クオ・ヴァディス」上映からワイド・スクリーンになり、夏冬の冷房、暖房の装置など東京あたりの映画館に比してもさしたる遜色はない。

この十二間道路を越して、七町は更に西へ西へと伸びて居る。戦後はじめて本格的に映画の上映を始めたという、電気館、現在は大映映画の封切館である。それに続いて、新東宝並に独立プロの作品を上映して居る銀座劇場。更に七間町を外れて、洋画封切の國際

文・内田正美
カメラ・本間潔



洋画ファンを喜ばせる名画選抜の地球座

新・盛り場風土記

福島県・平

たいら

上野駅から土浦、水戸、日立を過ぎて、幡太郎義家が「吹く風を勿来の闇」と思えども、道も背に散る山桜かな」と詠じた奥州三闇の一つ勿来闇を通過してから約三十分、平市は安藤対馬守信正公十二万石の城下町だ。當盤線は旧城の外堀を埋立てた上に設かれ、市街地を南北に二分している。商店、官庁、映画館、盛り場は駅の南にある。

また、平市は常磐炭田と「石城七浜」と称される漁港をひかえた

過景から土浦、水戸、日立を

商業都市。大工場はあまりない。

昭和二十四年六月三十日の「平

最近不景氣で話題となつた中小農礦は想像以上ひどい。地方事務所は小さな県の県庁くらいの大きさで、國や県の出先機関が約三十、市の南に集まつて官庁街を形成している。町村合併で市内に海岸線を持ち、塩屋崎燈台は新名所、附近の海水浴場は大賑わいだ。戦災で市街の西半部と中央を南北に焼かれ、復興されて立派な三十米道路のグリーンベルトにユツカ蘭が植えられている。

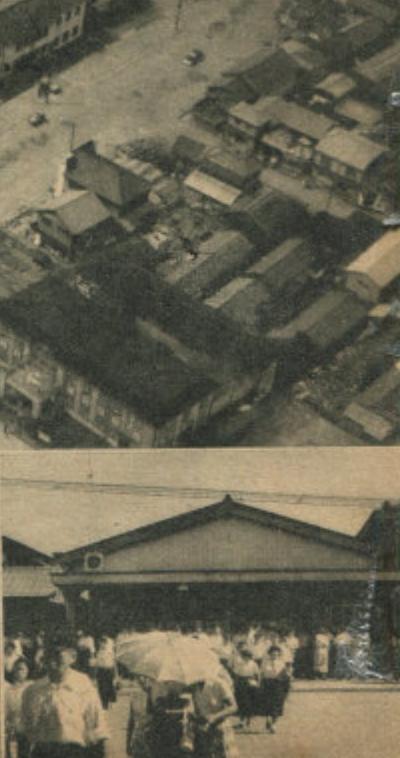
事件」は、満六周年を迎えても騒乱罪の初の適用をうけ、全員有罪の求刑があつたまま。平市に特に赤い思想の持主が多いわけでもなく、市民ですら忘れかけている。人口七万に六館、そのうち駅前に三館、一番遠い館でも駅から十分という有利な条件に恵まれているが、その一番遠い館では地の利が悉いといってコホシている。中央通りを東に入ると大映専門館「世界館」(株式会社世界館(社長鈴



↑七夕祭で花火
わう祭



→三〇メートル道路ロータリー
附近と国鉄平駅前



↑七夕祭で花火
わう祭

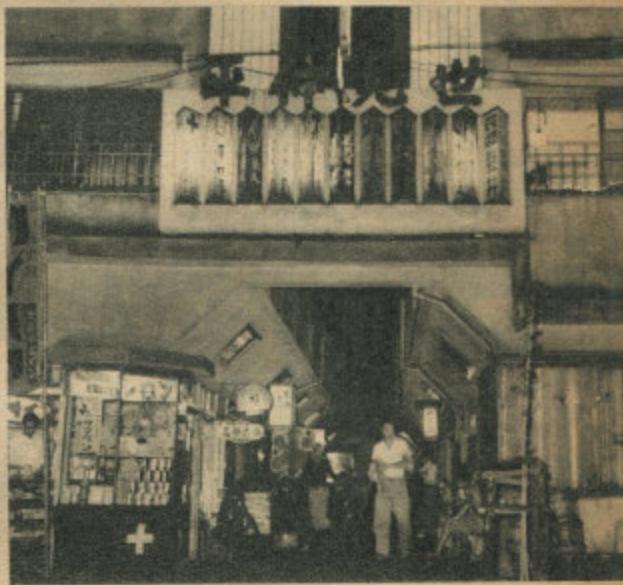
→三〇メートル道路ロータリー
附近と国鉄平駅前



↓建築中のタイラ東映



世界館前仲見世→



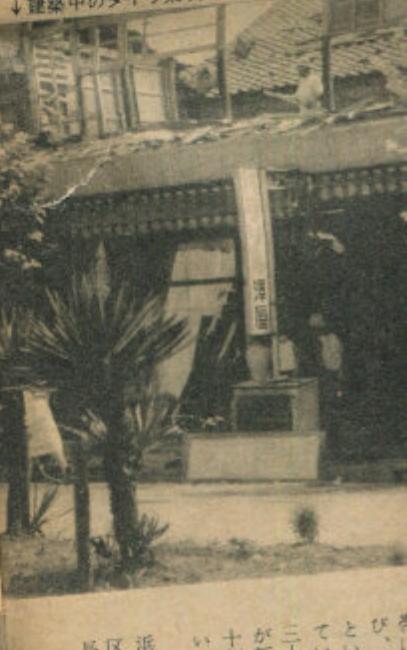
木寅次郎氏がある。七月までは東映作品を添えて子供を特に吸引していたが、同じ駅前に八月上旬から「タイラ東映」が東映専門館として開館したので新東宝を併映している。社長鈴木氏は美しい白髪をたくわえ七十四才、最年長の市議会議員で初市会では仮議長を勤める。戦前は「有声座」といつて駅前西隣にあつたが戦時中強制疎開で取払われ、戦後現在地に再建。附近は飲食店、パチンコ店など（仲見世と称する）多く歓楽街を形成し市内随一の良い環境にめぐまれている。

駅から西へ銀座街の大きなネオン・アーチをくぐると左手に「ひかり座」がある。昭和二十六年四月田町通りの商店で結成している銀座街商店会で、町内発展の一助に各商店が株主となつて建設され、東京新宿ヒカリ座を模したといわれる。開館当時は東宝映画を上映し、サラリーマンやインテリ層をあつめ、素人ばかりの経営陣の割には順調な稼ぎをみせている。平銀座興業株式会社（社長堀江正敏氏）の直営館。この南側裏手一帯は花柳街で柳暗紅灯が立ちならび、料亭、芸者置屋だけで新田町というなまめかしい町内をつくっている。平市内には五十軒の料亭、二十余の芸者置屋に百名余の芸者が新田二つに別れ、飲食店は百四十軒で飲食町の無い町内は無いといわれる。

市街地を東西に貫く国道（陸前浜街道）を越えて南町という赤線区域の中に平和興業株式会社（社長島田勝吉氏）経営の「平館」が

ある。大正初めの建物を昨年大改築した日活、松竹上映館。支配人の阿部元久氏は三十五年勤続、市内映画館従業員中最年長者で平市内オールド・ファンには懐い顔。平館は特に目立った派出な宣伝もないが、松竹もので地味な稼ぎをあげ、ファン層が固定している。そこから西へ五分ほど歩くと四ツ辻の傍に「聚樂館」がある。明治三十八年日露戦争直後の好況時に建設され、昭和初期までは芝居小屋、のち東宝映画で映画館となり、戦後はセントラル系で市内唯一の洋画専門上映館として郡内に名を亮った。昨年新築して市内映画館のうち最高の設備を誇り、酒落たロビーに赤色レザーソファアゲが印象的。館主飯田近治氏は隠居格で、賢夫人の誇れ高い飯田ティ女史が支配人菊地直次氏と組んで洋画上映を継続した。最近東宝映画も散見するようになつたが、ファンは洋画専門上映を希望している。戦後十年洋画ファン層を開拓してひかり座にお株を分けた形になっているが、八月からはシネスコ劇場（市内唯一）として発足した。

さらには西へ行くこと五十メートル（この五十メートルがいけない。遠いといつて客足が絶える）で「民劇」が洋画二番館五十五円劇場で奮闘している。福島県映画興行界の腕ききといわれた内郷市第二イワキ経営主惠原猪万夫氏の経営により、このほど館内を改装、設備を改善した。元来この附近は東京と同じく二月十日に空襲をうけた焼けあとで、昭和二十一年秋佐藤子之吉氏らが有限会社民衆劇場として小屋



び、料亭、芸者置屋だけで新田町
というなまめかしい町内をつくつ
ている。平市内には五十軒の料亭、
三十余の芸者置屋に百名余の芸者
が新旧二つに別れ、飲食店は百四
軒で飲食町の無い町内は無いと
いわれる。

市街地を東西に貫く国道II陸前
浜街道を越えて南町という赤線
区域の中に平和興行株式会社（社
長高田勝吉氏）経営の「平館」が

といわれた内郷市第二イワキ経営
の五十軒（うち料亭三十二軒、
客足が絶える）で「民劇」が洋
画二番館五十五円劇場で奮闘して
いる。福島県映画興行界の腕きき
た。元来この附近は東京と同じく
二月十日に空襲をうけた焼けあと
で、昭和二十一年秋佐藤子之吉氏
らが有限会社民衆劇場として小屋



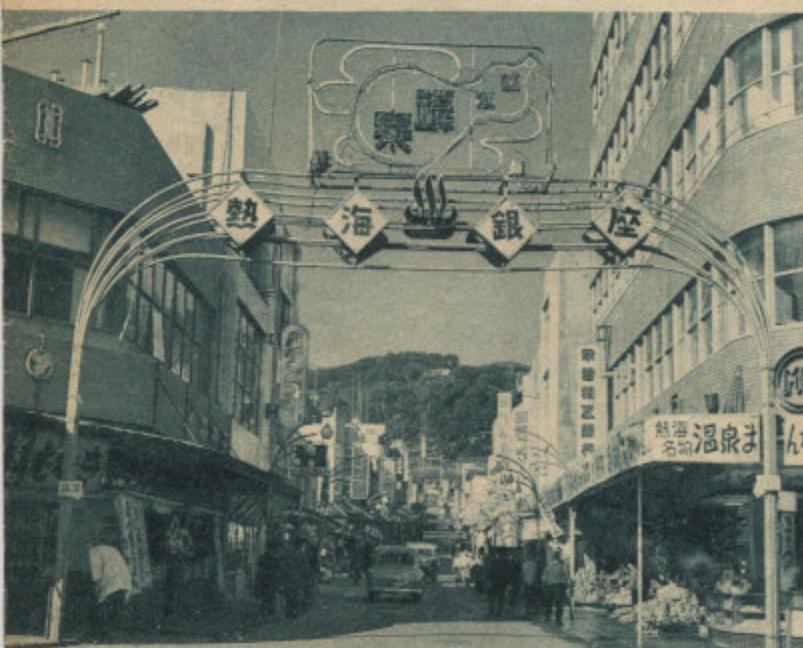
熱海

ミカンと魚で名高い南熱海

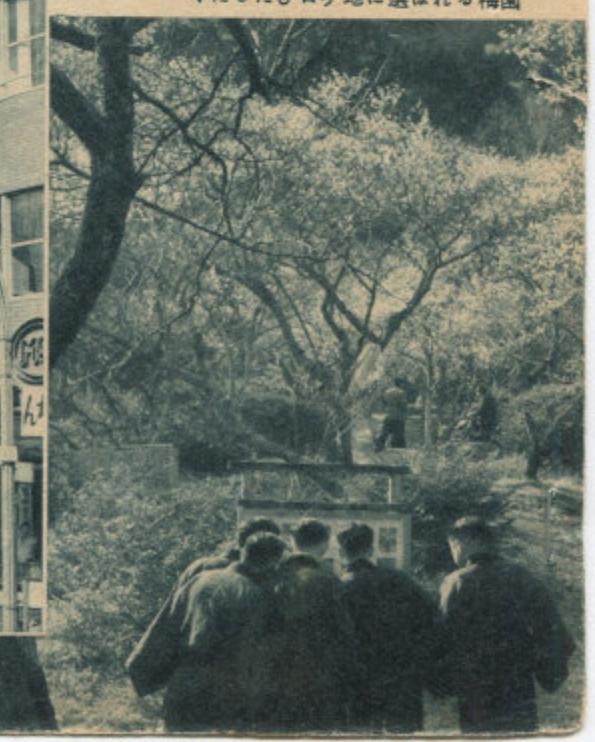
明治三十年尾崎紅葉の「金色夜叉」で全国にその名が知れ渡り、昭和九年の丹那トンネル開通以来温泉、風光の美に加えて地の利を得、いまでは東京から準急、いでの号で一時間半、東京の応接間として名実ともに日本の観光地になつた熱海には、いま三百に近い源泉から一昼夜十五万石の熱泉を噴いている。人口三万九千戸数八千、この中に二百五十の旅館と二百の寮があり、接待業者とそれに準する業者が市民の大半で、全く文字通りの觀光地である。旅館の収容力は優に一晩二万人を泊めるに足り、しかも一泊百円のバンガローから工費四億、五百人の宴会ができる大広間をもつた大酒店、三千五百円の特級旅館までどんな種類の客にも応ずる用意と、旅館から一步も出さずに何でも間に合う娯楽設備、豪華な浴場など、一と頃の豪遊地も近年とみに大衆的な温泉地へと脱皮しつつあり、各種も昭電競獣や組闘の下相談からメークーの招待団体、杜用族、積立族、新婚さん連れ込み、家族連れ、農村団体、売出しの当選者招待など各種各様、関東だけではなく最近は東京への途中ここで一泊する中京、阪神の商用族もかなりふえた。

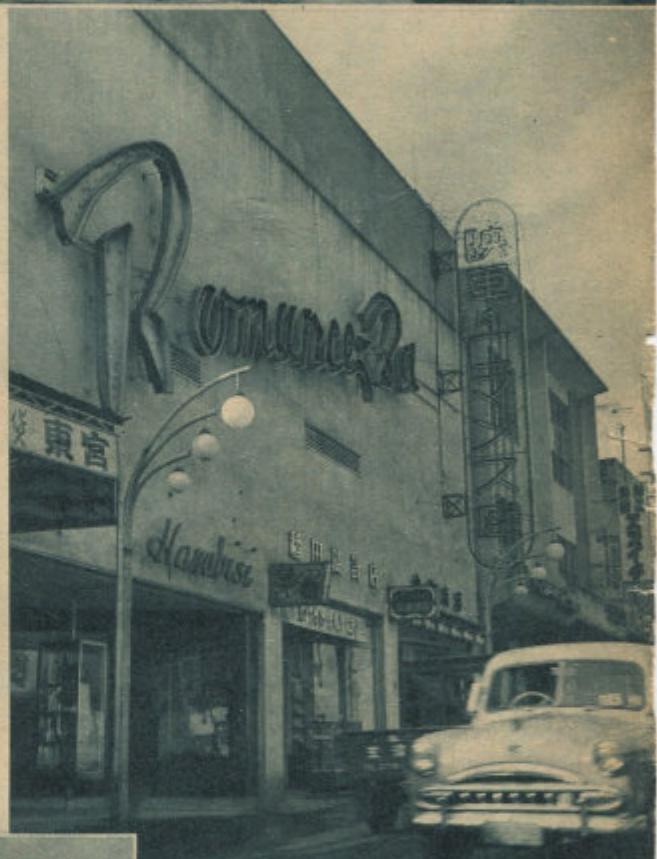
新婚の夢に入人生への出発を誓う人あり、人生の敗北を精算する自殺の名所錦ヶ浦あり、老人の天国である福立、郵政省など三つの老人ホームもあれば地上天国と名付ける世界メシヤ教の本山もある。地獄と極楽が同居する奇妙な町であり、まさに現代日本の縮図と

↑たびたびロケ地に選ばれる梅園



↑ビルが軒を並べる熱海銀座





上 热海駅全景
中 商店街の二階にあるロマンス座
左 シネスコ館宝塚劇場



ナイトショウは毎日十時から十二時まで、昭和二十三年頃からやっている。今ではロマンス座、国際の二館が一年中通し、他の二館も夏はこれに和すが、一寸よそでは見られない現象だろう。上映するものは大体好評だった再映もので、いつも満員、ようやく仕事から解放された旅館の女中さんや土産物店の店員などが多い。

銀座通りの中央にロマンス座がある。防火地区指定の副産物で、

云つても過言ではあるまい。世相を敏感に映して千変万化するさまも一寸よそには見られない特殊地だろう。

熱海はロケにもよく利用され、十数回映画化された「金色夜叉」は必ず梅園にロケしているし、オール熱海ロケの作品も木下恵介の「女」「日本の悲劇」「結婚指環」その他「雪夫人絵図」「伊豆物語」などがあり、松竹の中野実もののラストは大がい熱海へ来る。ロマンスものばかりでなく、最近はギヤングものにも登場するようになって、年間二十本くらい、多い時は三組くらいのロケ隊が鉢合せすることもある。また多くのシナリオがこの町で生れていることもご存知の通りである。

下四軒の商店が共同出資し、そ

日替り。ここのお客層は木下恵介も

梅園などの名勝は市街地を包み、お宮の松に続く海岸に迫って、熱海連山の裾、だらだらした傾面にギッシリ建ち並んだ建物は、暮色とともに銀河を地上に移したようなイルミネーションを海に映し、夢幻境のような不夜城の門が開く。東洋のモナコ、東洋のヴェニス、日本のリヴィエラ、日本のナポリ、いろいろ絶賛されるのもこのエキゾチックな美しさにある。

熱海の映画人口は一万といわれ、人口四万足らずに四館、近郊部落も学生層もサラリーマン層もなく、最大の客層は花柳界だ。だから女の客が多く、長谷川一夫に一番人気がある。次いで「平凡」の人気投票に準ずるらしい。市外の客といふものはわずか五%。接客業の町、夜の町だから昼間映画館に入ると脂粉の香に息もつまるばかり、

「熱海ロケの作品も木下恵介の

東洋のモナコ、東洋のヴェニス、日本のリヴィエラ、日本のナポリ、といろいろ絶賛されるものこのエキゾチックな美しさにある。



←ナイトショウの元祖国際劇場



「女」、「日本の悲劇」、「結婚指環」などがあり、「雪夫人絵図」「伊豆物語」などがある。松竹の中野実もの、ラストは大がい熱海へ来る。ロマンスものばかりでなく、最近はギヤングものにも登場するようになって、年間二十本くらい、多い時は三組くらいのロケ隊が鉢合せすることもある。また多くのシナリオがこの町で生れていることもご存知の通りである。

十国館、錦が浦、十二月下旬からほころび始める早咲きで有名な

階下四軒の商店が共同出資し、その一階が劇場になっている。社長は大野博道氏、事務所に當時詰めて陣頭指揮の池島勘一専務はここが出来るまではレストランの主人で、経営者はみなズブの素人だが、それだけにまた清新な経営を行つてゐる。客席三百、ロマンスシート二十、松竹二番館で時には封切り、また月一度くらいずつ特別試写会が行われる。洋画はメトロ、SY、東和などで二本立て平均五

日替り。ここのお客層は木下恵介の、高田浩吉ものなら絶対安心で、やはり「君の名は」が最大のヒットだつた。

銀座通りの上の四ツ角を南へ一寸行った本町通りにある国際劇場は戦後の開館だが、大火で焼けて再建、ナイトショウの元祖で客席三百、シネスコ装置をもち、日活、東映の三番線とワーナー等の洋画で、西部劇やチャンバラものに特色があり、男の客が多いのは熱海



↑旅館の一・二階を占める大映



→土産店のたち並ぶ仲見世通り



←熱海湾夜景

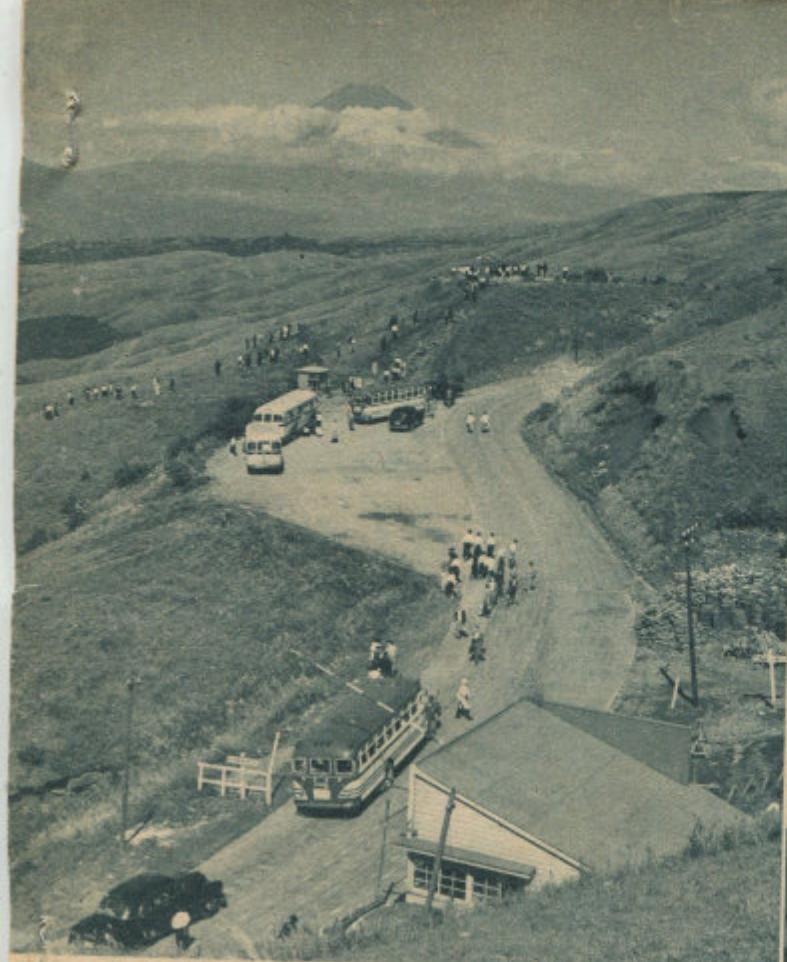


では異色。三日四日の短期二本立てで、今年のヒット「砂漠は生きている」は東静西部からかなりの客を吸収したという。社長は小川吉衛氏の実兄保人氏。盛り場は銀座通りを中心南北へのびていて、南へ桜と柳を両岸に、文字通りの花柳街のある糸川のも一つ南を流れる初川をはさみ、海岸通りに面して熱海宝塚と熱海大映の二館が並んでいます。

宝塚は昭和十二年開館、大火で焼けなかつたのはここだけで、准東宝直営、東部興行の経営である。客席四二〇、支配人は間島栄一氏、

東宝の三番線とコロムビア等の洋画で、本格的なシネスコ装置をもち、ことと大映は一週間興行である。今年のヒットは「浮雲」で、十日間続映してなお落ちず、またナイトショウでいい成績をあげた。隣りの熱海大映は「番新しく二十九年八月に開いた大映直営館。地下とも五階の旅館の一階に陣取り、客席三二五。大映二番線と新東宝ものを上映、花柳界が上顎客で「揚貴妃」「新平家」「珠はくだけず」などのカーラーものが強い。支配人は高崎大二郎氏。

ニュース映画は四館とも封切り



↑十国峠

↓熱海の看板お宮の松



↑左党の天国祇園横町



で、土地柄、徳富蘇峰、佐々木信綱、谷崎潤一郎、庄津和郎、福島繁太郎、吉川英治、高畠達四郎、宇野千代、北原武夫氏などの名士が多く、また映画人も飯田蝶子、日守新一、清水宏氏などが住み、これらの人達のための特別試写会も時々行われる。

映画館ではないが、市庁舎に接した鉄筋コンクリート五階建ての観光会館は客席八百五十、地元P.T.A.の募金映画会、芸妓組合の発表会から労働組合の大公まで、全国的な催しだけでも年間十指に入る会合が行われる。

もう一つ、地上天国瑞雲境と名づける桃山の高台に、新興宗教のトップ、世界メシヤ教のメンヤ会館があり、故岡田茂吉教主没後計になる窓のない鉄筋コンクリート一千坪、客席三千、電動式のオーケストラボックス、ウエスタン发声の映写装置を備えた一寸した劇場ではとても追いつかない設備をもつていて。

市内にはほかに、山を距てて、最近神奈川県への分離運動で町村合併促進法のモデルケースとなり、一躍有名になつた泉伊豆山権現を中心に発展した伊豆山。伊東線網代駅を中心にならぶ南熱海温泉も忘れてはなるまい。(応募作品)

新・盛り場風土記

大阪梅田

阪急百貨店

空からみた梅田ターミナル附近

現在の京阪神急行の前身である箕面有馬電鉄が、沿線風物の宣伝のために「箕面電車唱歌」なるものを作った。その一節は「東風吹く春にさきがけて、聞く梅田の東口、ゆきかう汽車を下に見て、北野にわたる跨線橋、業平塚や萩の寺・新淀川の春の風、十三塙の野遊びに、摘むやたらほほ五彩花、菜種の花の道ゆけば……」とある。

ようすに、明治末期の梅田界隈はなお野趣ふんぶんたる大阪の北の果てであった。

更に年代をさかのばれば国鉄大阪駅は梅田三昧といふ莫所跡につくられたステーションであり、旅客の他は僅かに春陽の候、前記の歌にうたわれている通り、北野に菜種の花が咲くころ、都人士の杖について、今でいうピクニック

当時の言葉で遊山する位が関の山であった。今この附近に茶屋町の名があるのも、それら遊山客を目当ての「鶴の茶屋」というお休み所のあつた名残りだといふ。近松の名作『曾根崎心中』の舞台である曾根崎新地へ北の新地はこの大阪駅の南方三丁位のところに幣の露……と果林子の通事につづられた道行の場が曾根崎の森といふこと、ひとたび赤線地帯をはぐれるとそここんどキツネの鳴く森であつた。明治生れの古老人は子供のころよくキツネの鳴き声をきいたものだと語っているくらい。

今は「虹橋」の跡を示す鋼製のバルが堂ビル前の旧い薬局の横に

九月完成をめざして建設中の梅田コマスタジアム

残り、お初徳兵衛のかりの露天神社（俗称お初天神）が梅田新道交差点の東北角に、映画館やバーニングの昔をしのぶよすがといえる。如何に梅田のステーションが出来たといえ、なぜこの辽びた上地が今日の盛り場に姿貌したか。このきっかけとなつたのは、昭和十二年、小林一三が東京有樂街の構想をそのままこの地に移して北野・梅田両劇場を新築した時に初まる。ただし、それより遙かにはやく、梅田のターミナルとしての位置に着目、南の繁華街に対抗し、かつ北の繁榮策として在阪財界人有志による「大阪歌舞伎座」の建設があつた。その場所は現在の曾根崎



梅田駅前。右に見えものが阪急



梅田 大阪



DSの横手、劇場とともに飲屋、パチンコ街ができる

警察署附近（現東宝関西支社筋向
い）で、大阪では最初の二階建、
木造洋式の堂々たる劇場であつた。
さきの箕面有馬電鉄創立にさきた
明治三十一年の事。そのこけら
おとしには金五万円也の出演料で
九代目團十郎を東京から迎えたと
いう華々しい歴史をもつ劇場だつ
た。これは後に焼失したが、小林
一三の梅田有楽街構想には、この
「歌舞伎座」の思い出が大きな要因
としてひそんでいたといわれる。

却説。現在の梅田地区は、道頓
堀千日前の「南」に対する「北」
の盛り場として大阪の興行界を掌
分する大きな比重もつてゐるが、
御多分にもれず、この地もまた今
次の戦争によつて、北野・梅田の
両劇場等を残してすべて空襲によ
つて失われ、焼野原と化した。そ
して興行街としてこの地区が大き
な比重をもつたのは戦後に於いて
である。敗戦直後この附近一帯は、
一時の東京新橋駅周辺と同様焼野
原全体が一大ブラックマーケット
となつたものだ。戦前には国鉄及
び阪急、阪神という二大私鉄のタ
ーミナルとして、主として阪神間
の西屋敷川等高級住宅地をふくむ
沿線のサラリーマンをお得意とし
ていた。盛り場といつよりはむし
ろアミューズメントセンターとい
うハイカラな語感のより相応しか
つたこの地区的劇場地図、その劇
場の分布や観客の構成も戦禍のた
めに変したのである。

京都大阪の玄関口として戦後の
整地や復興は順調しかつたが、
ブックマーケット時代に産をな
した第三国人やよそものが相当数



梅田 中央劇場



お初天神境内の水天宮



↑シネラマのO.S.劇場



隣り合った梅田、北野両劇場



次の戦争によって、北野、梅田の商店劇場等を残してすべて空襲によつて失われ、焼野原と化した。そして第一国人やよそものが相当数



梅田日活

ここに定着してしまつたし、復興インフレのブームに歩調を合わせて、新しい興行者の映画館を新築するものも相次いだ。これらは大阪駅の北側が国鉄及び阪急の軌道によつて分断されているため勢い、敷地を南へ求めて拡がつていつた。そして将来的の梅田アミューズメントセンターは、おそらく西は桜橋の「産経会館」、南は渡辺橋の「毎日会館」(毎日新聞社により改築中の現社屋の南向)に新築予定。そしてかように、私鉄資本、新聞資本、興行資本が三つともえに入りまじつた興行街といふものも恐らく全国でも珍しいケースといえるであろう。

興行資本として梅田で最も立ちおくれたのは松竹であった。松竹はその牙城たるむ「南」地区に東宝の進出をゆるしながら、戦後十年まだこの「北」地区に一矢をも報えないでいる。自社の直営館を一館もたず、それが大きな痛手となつてゐる。「梅田レーナー」四十五〇万円、「梅田セントラル」七〇〇万円という呼値で売り出されたときも、前者はO.S.に、後者は日活にもつてゆかれて手がなかつた。「梅田大映」の新築で大映に迄先を越されたのである。今その松竹も大阪会館(大阪駅南二丁)附近に新館建設をもくろみ、東映もまたこのあたりに敷地を物色中で、邦画各社もそろつてこの「一千金一升」といわれる土地に

右に見える。



梅田シネマ

角逐の態勢を整えつつある。

今既設及び建築中の劇場名と経営者名並びに封切系統を簡単に列記すると次の通り。「阪神ビル映画劇場」(阪神電鉄・松竹)「梅田映画劇場」(東宝・洋・梅田チエイ)「梅田地下劇場」(東宝・洋・敷島チエーン)「梅田ニース劇場」(東宝・東宝及びニース)「O.S.ミュージック」(東宝・メードンショウ)「北野劇場」(東宝・東宝)「梅田グランド劇場」(吉本・洋・グランドチエーン)「O.S.劇場」(東宝・シネラマ)「梅田シネマ」(O.S.・洋・梅シネチエーン)「ステーションシネマ」(興味企業・東映)「梅田大映」



梅田地下劇場



梅田グランド劇場



阪神ビル地下にある阪神ビル映画劇場

文 滝沢
カメラ・渡辺邦夫
一

奈良

新盛り場 風土記

二月堂

↑東大寺二月堂

奈良で一番古い映画館・尾花劇場→

東大寺二月堂の修二会が今年も近づいた。名にしおう籠松明、お水取りの行事が竣工されると春が来るといい伝えられている。そして作家堀辰雄がこよなく愛した春日の社の馬酔木（あしひ）の白い小さな花がつましく香りをはなつ頃になると、遠近から古都奈良を訪れる観光客は次第に数を増し、街は国際観光都市らしい雰囲と活気を呈してくる。

奈良市の人口は戦時中疎開者の増加と、近接町村の合併によって八万を突破した。観光客の人気の焦点である神鹿は、戦後は一時三十頭余りに減つていたが、今は二百頭を越え、浅茅ヶ原や飛火野に群れ遊び、角伐り行事も復活した。東京のお茶の水と共に全国に

二つしかなかつた女高師が、今は奈良女子大学となり、文学部には附属高等学校、中学校、小学校、幼稚園のほか、芸術大学もある。近畿日本鉄道を利用すると四十分で大阪へ、奈良電特急では三十五分で京都に達する。この二つの大都市を近くに控えているだけに、八つを数える映画館は観客の吸引策に汲々としている。

その映画館の中で一番古いのは尾花劇場だ。衣笠柳で有名な猪沢池の南一町、新築の奈良市庁舎前にある、松竹映画に日活を併映している。館主の中野正夫氏は、奈良市会議長を一期もつとめた温厚の士、先代の中野平兵衛氏が実弟の経営する大阪千日前アシベ劇場を手伝つたのが動機で、大正八年尾花座を手に入れ、翌九年九月尾花劇場と改称、現在は阪大出の長男中野重宏氏が支配人をしている。



春日大社の節分万灯籠→

↑猪沢池と五重塔





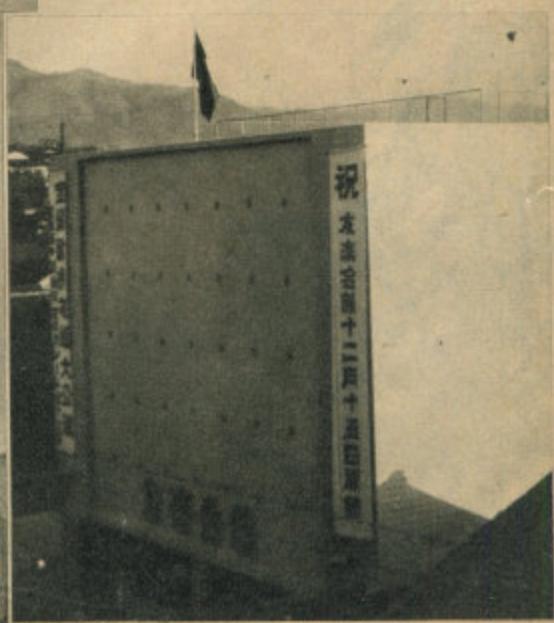
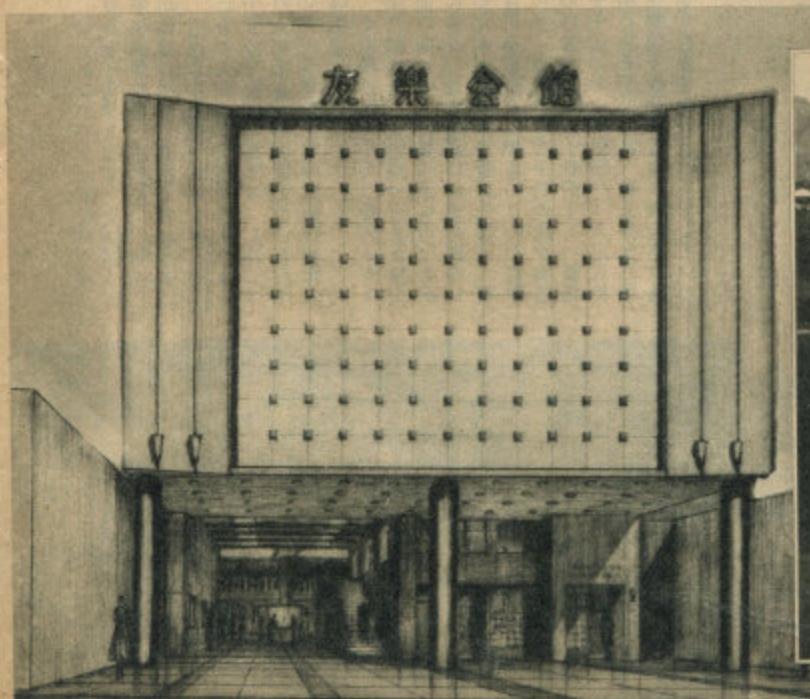
↑奈良の表玄関・国鉄奈良駅

東京から急行「やまと」に乗ると十時間で伽藍作りの奈良駅につくが、駅前が往時の三条大路の遺影である三条通りで、これが市のメインストリートだ。しかし狭い道路をトラックや自動車が激しく交錯し、詩と美を求めて奈良に杖をひく観光客や通学の学童が怪我をしないかと

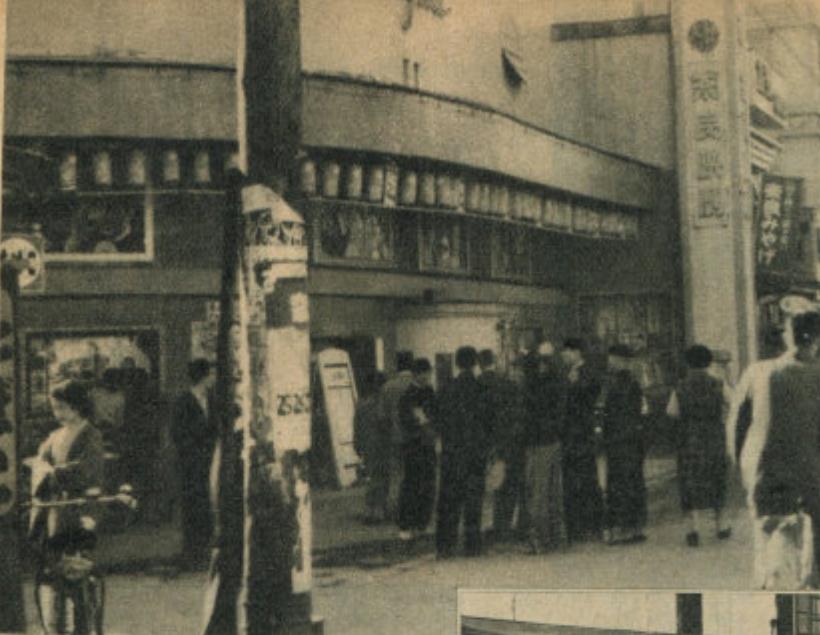
ハラハラさせられる。旅館、土産物店、奈良特産筆墨や一刀彫を売る店、食べ物屋等が立並ぶ間に、奈良初の綜合劇場、友楽館が暮の十二月十五日に開場した。谷井興業経営になり、鉄筋



↑洋画で人気のある奈良セントラル劇場



←↑最近完成した奈良友楽館



←ニュースから転向した奈良映画劇場

が上映されたのみで、洋画大作はほとんどここに上映され、中でも「第三の男」「禁じられた遊び」「ローマの休日」、近くは「ケイン号の叛乱」「恐怖の報酬」「モダン・タイムス」等が好成績を収めた。ワイド・スクリーンの設置、奈良初の3D映画公開、と常に他の先を越える興行でファンの要望に応えている。数少ない映画文化運動の中で、奈良セントラルを中心とした奈良アメリカ映画研究会は、もつとも有意義な会であった。これはその頃M・P・E・A大阪支社の宣伝部長をしていた中西源三郎氏（現在はN・C・C常務）の



↑奈良の表玄関



↑中央映画劇場



三条通りの有楽座→

肝入りで、奈良に在住する文化人を委員としてつくられたもので、アメリカ映画の愛好者多数の参加をみた。

委員の中の変り種には、当時日本染織に勤務していた十朱久雄氏（本名小倉久雄）がおり、業界人として村上忠久、松下兼一、（現中外映画社長）、納富嘉之（現日活関西支社配給課）、近藤寅雄（現フォックス関西支社宣伝部長）、山村謙一（現東和映画）、関西支社宣伝課長、亀山昌弘等の諸氏が監賞指導の講演や座談会に出席し、会の発展に大いに

寄与したものである。

南市花街にかこまれた中に小じんまりとした中央劇場がある。尾花劇場に次ぐ古い映画館で、戦時中一時大映の倉庫で、アメリカ映画の愛好者多数の参加をみた。

ある。尾花劇場に次ぐ古い映画館で、戦時中一時大映の倉庫で、アメリカ映画の愛好者多数の参加をみた。

に二十一年二月開館した奈良セントラルがある。これは大阪の近畿映画直営で、洋画専門館としてインテリ層の支持が多く、今迄邦画は「相模風雲録」一本を売る店、食べ物屋等が立並ぶ間に、奈良初の綜合劇場、友楽館が春の十一月十五日に開場した。谷井興業経営になり、鉄筋

今迄邦画は「相模風雲録」一本

→ロケーションでにぎわう古都・奈良

の映画を中心とした番組で、よく孤軍奮斗が
んばっている。

三条通りには戦前のニュース館から転じ
た奈良映画劇場及友楽座がある。共に谷井興
業経営で、友楽座は二十三年開館当初中村雁
治郎一座、長谷川一夫の新演技座、高田浩吉
一座、大江美智子一座等の実演が数多くかか
つたが、最近はあまりなく、大映、東宝、東
映、新東宝四社作品が適当に組合わされ上映
されている。

近鉄奈良駅北二丁の處に松村克彦氏経営南
都映画劇場が、三本立五十五円の低料金で昨
年開館した。

優れた自然の風景はロケ地として今迄数多
くの映画が撮影されているが、昨春の関川秀
雄監督作品「狂宴」では撮影妨害の話題をま
き起した事もある。一番新しいところでは田
中組代第二回監督作品「月は上りぬ」のロケ

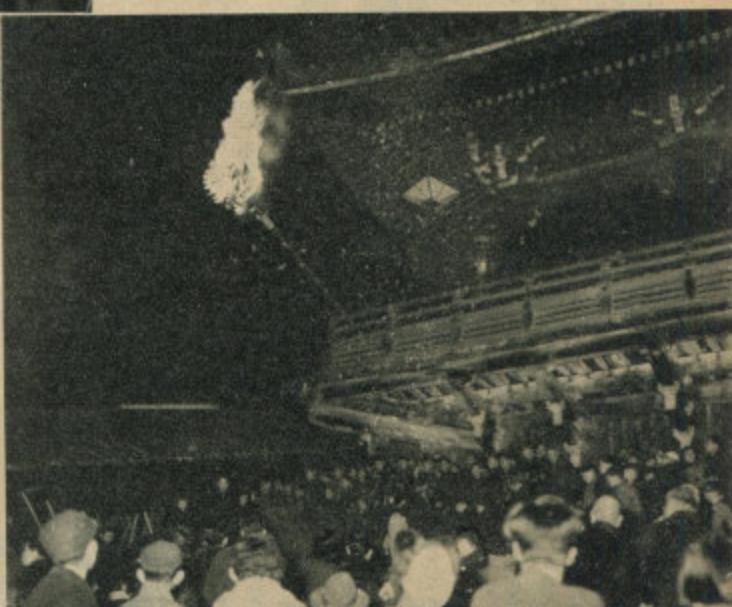


が行われた。
奈良年中行事の殿りに国の無形文化財に選
定されている春日若宮おん祭りが十二月十七
日を当日として、美しい時代行列の大絵巻物
として繰り上げられる。この時は十数万の人
出で全市は全く人の波に埋ってしまう。
崇高幽玄な三月堂の仏像のたたずまいに思
惟三昧の境を悦び、千年の杉の繁りと石灯籠
や青丹の色さえる春日の社頭に万葉の歌を偲
び、仏教日本の象徴大仏殿の六角塔を越えて
乳房の様なスロープの若草山に郷愁を感じる
とき、日本人の心のふる里奈良は、平和の統
くかぎり年々歲々観光客のあとを絶たない
であろう。

カ
メ
ラ
文
市
橋
若
林
喜
才
一
次
路
郎

↓春日若宮おん祭

二月堂のお松明→



新・盛り場風土記

津市

新橋商店街の水
上マーケット
(橋は堀田橋)



京口、立町通り

塔津（今の博多）と共に日本三津の一つで明治との貿易港として有名であったと郷土の本は記しているが、今日勿論当時のものかげなく、加えて伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ」と伊勢音頭も高らかに伊勢参りの百姓、町人衆で賑わった藤堂高虎二十五万石の城下街は、二十年六月の大空襲で殆んど灰燼に帰し僅かに残る本丸城址の石垣に当時を偲ぶのみである。この本丸は現在、市の中央公園となり、藤堂家歴代主を祭る高山神社、図書館などがあり、春秋の候には蒼然たる古松の下に人々五々、杖を曳く人の跡が絶えない。ところで、津市は東西八軒、南北二十軒の街である。狭い東西の東側は伊勢湾に臨み、西は鈴

昨年上京した時、新進女優で相当前の売れ出した人（名前はないことにするが）に逢った時、「津って何処にあるんですか」ときかれてクサッた事があるが、考えて見れば十万五千人位の小都市は全国に数え切れぬ程あるのだから「どの線に乗って、どの駅で降りるんですか」と尋ねられるのも無理からぬ話だとあとでツクヽヽ思つたことがあった。キネマ旬報の愛読者諸賢にはそんなことを訊ねられる方は万々あるまいと思うが、御参考迄にする所、近畿日本鉄道だと名古屋から一時間十分、大阪から一時間五十分で来られ、汽車で伊勢參宮に来れば、どうしても通らねばならない三重県の所在地である。

津は仁徳天皇の昔、安濃津と呼ばれ、薩摩の場の津、築前の花旭



国鉄津駅・朝のラッシュ

鹿山系の裾近く迄達し、この帶の
まん中を幅員五十米の国道二十三
号線が遠く伊勢市（旧宇治山田市）
へ南下している。山から出た川は
北から云つて志登茂、安濃、岩田
川となり津市を横断し、志登茂、
安濃川間を橋北、安濃、岩田川間
を橋内、岩田川以南を橋南地区と
呼んでいる。津の中心地帯は橋内
であり、その心臓部、市役所や電
報、電話、郵便局等のある通りが、
津の代表的盛り場である丸の内本
町通りである。武家屋敷を表わし
た国鉄駅をバスに乗ると僅か数
分でこの盛り場のまん中の京口交
差点に着く。この交叉点から東へ
三丁程も亦、京口商店街といい夜
ともなれば五色の灯が入る盛り
場である。この通りに四階建の大



松竹・東映の二本立てで稼ぐ新世界

（左端は市役所、右の見やぐらの後が曙座、右の建物は大門デパート）

デパートに隣接の中日映画劇場（定員五百）はパラマ、メトロを主軸にした洋画専門館で、経営者坪井淳美氏は元中部日本新聞三重支局長だった人で、業界では戦後派だが、経営は開館以来ます順調の様子、この南に新世界（定員五百）松竹・東映（あり、館主小川兵一郎氏は県興行協会会長、昨年四月頃は国税移管反対運動のため殆んど東京に泊り込んでいた。この館前附近は名古屋市、伊勢市や近郊の町村行のバス発着場で日曜、祭日は乗客でゴック返す。



洋画ファンに魅力のある中日映画劇場

門デパートあり、四階に洋画専門

の大門劇場（定員三百名）がある。

館主兼支配人の岡説氏は戦後派で
あるが、プロ編成には卓抜な腕を

有し、高級洋画ファンや観賞団体
に喜ばれている。この北にある津

観音は東京の浅草、名古屋の大須
と共に日本三觀音の一つと呼ばれ

ているが、ここも祇火で本堂や山

門が消失してしまい、昔日の影は
ないが、四月の会式、秋の大祭、

お盆や正月には市内、近郊の善男
善女が出て大賑わいを呈する。

この境内に第一劇場（定員二百五十
名、日活・新東宝と大映の再映）

と曙座（定員八百名、大映・新東
宝）があり、曙は県下最大の常設

館である。映画の他に一流芸能人
のアトラクション東西歌舞伎の公演等

あり、この二館の経営者は若松宗
次氏で県下興業界の大先輩である。

丸の内本町通りの中心にある中日

デパートに隣接の中日映画劇場
(定員五百)はパラマ、メトロを主

軸にした洋画専門館で、経営者坪井
淳美氏は元中部日本新聞三重支

局長だった人で、業界では戦後派
だが、経営は開館以来ます順調の

様子、この南に新世界（定員五百）
松竹・東映（あり、館主小川兵一

郎氏は県興行協会会長、昨年四月
頃は国税移管反対運動のため殆んど
東京に泊り込んでいた。この館前附近
は名古屋市、伊勢市や近郊の町村行の
バス発着場で日曜、祭日は乗客でゴック
返す。

丸の内の盛り場は京口から此処迄
で、館のすぐ南の岩田橋を渡れば橋南、
西へ行けば津東宝劇場迄の数町の間が、新町通りの盛り場



場である。この通りに四階建の大



← 大門デパート (この四階に大劇がある)

となる。津東宝（定員五百名、東宝、松竹と東映の再映）も前述の小川氏の経営で、支配人の船橋修氏は若手ながら宣伝が巧い。とりわけ劇場週報の編集は他館より堀抜けがしているとの評判である。



← 津観音境内にある曙座



↑ 新町通り西端の津東宝劇場



← 第一劇場

↓ 丸の内本町通り



白砂青松といたいが、一昨年の十三号颶風で老松は吹き飛ばされ、寸断された防波堤が、写真で御観の通り此程ヤクト完成された計りという痛ましい姿、然しそれでも夏ともなれば京阪、奈良方面から学童数万が長期滞在して浜は芋を洗う如き河童天国を現出する。

この海岸の南の岩田川口に津観艇場がある。一昨年六月に全国初の公認観艇場となり、一ヶ月に六日間ずつ二回レースを開催、一日の平均入場者千五百人、同じく売上げは平均五百万円、開催以来赤字なしという好調の由、オーナーの津市にとつては金のなる木みた存在である。その南の阿漕浦は橋干や海水浴場としても近県で知られているが、詠曲阿漕浦や浮城物語阿漕浦鉛鹿合戦で、病父

（左端

台風で坊主になつた津海岸防波堤→

の為禁漁を犯して魚を獲つた為斬首に処せられた孝子阿漕平次をまつる阿漕塚のあることで有名、その塚の傍に「月の夜を何を阿漕に鳴く千鳥」の芭蕉句碑もあり訪れる人は四季絶えない。この海岸線一帯と新しく市に編入された真宗高田派本山尊修寺のある一身田町の古めかしい寺町通りは、戦前戦時中よく日活や大映の時代劇ロケ隊が來たものであるが、現在は時々東映京撮が京都の小プロの時代劇のロケがくる程度である。

以上で津の盛り場と名所のあら方を遍歴したことになるが、とく津の街は外來者の方には、良いいえば、静かで落ち着いた所、悪くいえば、封建的で消極的な街であるとの印象が第一らしい。実際この言葉は当らずといえども遠からずで、織維工場で二千の従業員を越す所が三つあるが、本来は生産地でなく消費地だからこそ、潤滑したる活気が街にみなぎっていないからこそこうした印象を旅の人間に



←阿漕塚の芭蕉句碑

←京口通りの夜景



↑お正月・津觀音のにぎわい

与えるのであろう。津はどちらかといえば県立の図書館、博物館、県立国公立市立の三大学、放送局等の所在する文教的色彩の濃い街である。だから興行もサラリーマンやサラリーカール、学生層を基礎数字にして、その上に一般人を加算したものと對照としているから、正月やお盆、祭日を除けば毎週で勝負する日は土、日の二日間である。この二日が駄目ならその週は赤字というのがこの土地の興行の常識である。キバレーだの、カワエーだのは一野もないし、特飲街は町端れや基地跡に追いやられ、盛り場といえど映画がはねると間もなく戸を降してしまい、ネオンだけが徒らに輝いている計りだから興行も土、日で稼がねば稼ぐ日がない、というのも当たり前の話であろう。

文・有
カメラ・太
田・保・爾
金・政
典・仁・男



新・盛り場風土記

宇都宮



火の見やぐらから市街の展望・手前の市庁望楼上では時間をつくる鐘がなる

東京の上野から日光・黒磯行きの快速ディーゼル・カーで関東平野を横切ること約一時間半余、車窓に栃木名産カンピヨウの畑を見るようになると間もなく、四面を東は茨城県、西と南は群馬県、北は福島県に囲まれ、関東地方北部に位し関東地方最大の面積をもつ内陸県、栃木県庁の所在地、人口二十万余の宇都宮市に到着する。

豊富な森林資源に恵まれ、戦災を受けた全国の諸都市に先がけ復興した宇都宮市は、今また衣がえの真最中である。国鉄宇都宮駅に降り立ち、関東、東野、東武、国鉄バスでぎわう広場を横切ると新都市計画による商店街が軒を並べ、その前に戦後十年の風雪に汚れた古い街並が淋しく整理の日を待っている。駅から田川を渡つて大通りを西にダラダラ坂を、絶え間なく流れるバスの流れと共に行くと右に銀行が並び、やがて二荒神社下の宇都宮の盛り場、馬場町、通称「バンバ」に出る。色々の商店、百貨店、映前は朱塗りの柱に青瓦、浅草の仲見世を思わせるような店が、今はバラックの仮普しんではあるが客を呼んで、これらあたりは文字通りの宇都宮の目抜である。またここは、明治年間故齊藤金次郎氏によって創られた齊藤興行部の金城湯池、現在は女主人齊藤テツ氏及びこれを助けて興運橋木県支長をも勤める税支配人石海勇氏の活躍で映前以上の繁栄ぶり。ドル箱は区画整理で改装



↑アーケードのある馬場の商店街・御自慢のオリオン街ネオン→



高級紳士服の鈴木



↓盛り場の中心にある歌舞伎座と改築中の松竹映劇



↓オリオン座



↓花屋敷と齊藤興行社長齊藤テツ氏

中の松竹封切の松竹映劇、今年の正月に「紅孔雀」で東京の渋谷、池袋に迫る稼ぎで東映から表彰された東映封切の花屋敷、新東宝、日活二番の歌舞伎座、洋画の電気館が仲見世をはさんで軒を並べてシノギを削り合つて活気がみなぎつている。また二荒神社の横にシンエスコ・ピースタビジョンの宮樹座が人目を引いている。また、古い歴史をもつ、上野デパート、が鉄筋三階の本建築の新装が終つていてぎわっている。

さて、この「バンバ」を過ぎて西に行くと右に昔からの土地の興行者五十嵐富衛氏の主に欧州物で高級ファンに呼びかけるメトロ、左杉原町に大映二番のセントラル劇場がある。この先に大通りが新し



曾島付近で落葉の木、現在の本丸跡、当時の高田邑に御所を造つて

かえられたが、奥羽への抑えとして水戸城と相対して他の関東の諸

い都市計画で抜けられた場合のモデル地区池上町に戦前有名であつた料理屋、八百駒の主人中村辰三郎氏の東宝一番の宇都宮第一東宝がある。また、この大通りと平行して東武宇都宮駅と「バンバ」をつなぐ戦後派のネオンまばゆいオリオン通りのはすれ江野町に、パチンコからキバレー、キバレーから映画と三転した黄義信氏の洋画二番のオリオン座、これら四

館が齊藤興行部の牙城にいどむものであるが、地の利から見ても未だしの感はまぬかれない。

ここで、宇都宮の歴史をつらつらおもみるに、約二千年前、崇神天皇の御代に東国の大平定のため豊城入彦命が征夷大将軍となつて東国に下り、今の雀の宮、江



↑メトロポリス ↓盛り場の自転車預り所



↓電気館



↑セントラル劇場



↓二荒神社から見た馬場の盛り場（左は上野百貨店）



曾島付近で激戦の末、現在の本丸跡、当時の高田邑に御所を造つて東国鎮護の本拠としたことに始まる。また宇都宮の名稱は、今の相生町招魂社跡、そのころの菖尾崎に豊城入彦が祀られ、のち二荒神社、白が峰に移されたところから「うつしの宮」と呼ばれ、これが転説したものであろうといふのが數ある伝説の中でもつかわしく思われる。ここ宇都宮城築城は、冷泉天皇の御代、藤原道兼の曾孫宗円が源頼家の安倍頼時征討のうち下野の守護としてこの地に築いたといわれ、代々関東の豪族として栄えたが、二十二代國綱の代、慶長二年豊太閤に国を奪われ、徳川幕府になつて屢々城主が

かえられたが、奥羽への抑えとして水戸城と対して他の関東の諸城と同様、城主はいずれも普代大名の中から選ばれたといわれる。この間、宇都宮城主、二十三代上野介正純逆謀の顛末が、のち講釈によつて河竹熟阿弥が脚色して守田座で上演した「宇都宮紅葉」など、宇都宮釣天井として作劇されたが、実録体小説風の脚色で事の真相は幕府をないがしろにしたことについたが、この数々の伝説を秘めた宇都宮城も明治維新、戊辰の役の兵火にかかり僅かに残つた本丸も今次太平洋戦争の空襲ですでにその面影求めるすべもない。

今、宇都宮は徳川の昔から、観光百選第一位の日光、鬼怒川、川治、



↓盛り場の中心にある



さて、この「パンパ」を過ぎて西に行くと右に昔からの土地の興行者五十嵐富衛氏の主に欧洲物で高級ファンに呼びかけるメトロ、左杉原町に大映二番のセントラル劇場がある。この先に大通りが新し

だしの感はまちがひない。ここで、宇都宮の歴史をつらつらおもんみるに、約二千年前、崇神天皇の御代に東国の蝦夷平定のため豊城入彦命が征夷大将軍となつて東国に下り、今の雀の宮、江



↑道幅をひろげたモデル道路の本通り



↑バスの発達でにぎわう国鉄宇都宮駅



文・市川は
カメラ・一置夏洋
沖

↓広場をひかえた栃木県庁の建物

塙原、那須などの温泉郷を近くにかかえているが、宇都宮車輶、バンミシンを除いては大工場といわれるものはない。周囲に拡がる平野と山林を背景に農・林産物の集散地、都会と地方の文化的な結節点としての消費都市の性格をもつていて。また住民の気質にもいわゆる水戸の水戸っぽ、前橋、高崎の上州っ子に比すべきものはない。しかしこの一見農民的平凡さの中に新しい都市計画を立て、次々と実現させていく底知れぬ力がひそんでいるのかもしれない。

ともあれ新憲法の制定で憲法に地方自治の一章が設けられ、従来の大陸法系の地方制度が根本的に改正され英米法系のものとなつて地方自治が施行されて都道府県、市町村は同質の自治体となり、その長および議会は住民の公選によることとなつた。これを象徴するが如くにかつての天皇の権威を代表するグローミイな県庁、明るい近代的建物の新市庁のコントラストはお隣りの前橋市によく似ているがここ宇都宮でも印象的である。明日に夢と希望をかけて鳴り渡る宇都宮市の新市庁の、望楼のチャイムが、いつまでも平和で美しく響けと祈るのは旅人の感傷ゆえではなかろうと思う。

新・盛り場風土記

鳥 取

大自然の美とロマンにあふれる巨大な鳥取砂丘

鳥取は何といっても砂丘と温泉の町である。市中から東北に約四糸、日本海の鮮やかな碧さを背景に、東西二十糸、南北二糸の広大な砂丘の起伏に、四季折々彩なす風紋の自然美は全くすばらしい。「砂丘とは浮べるものにあらずして踏めば鳴るかなさびしき音」とは与謝野晶子の歌。阿部知一は小説「砂丘」に、「砂丘の線と色の中に、バッハなどとでもいうのか、古典の音樂のもつどこまで行つても汲みきれぬような絶対の複雑さと深さがある」と、嘗て遊んだ感動を表現している。観光地百選、国定公園と指定される反面、砂丘は確かに詩と安息を与えてくれる。戦前戦後を問わず、沙漠映画は殆んどここで撮影され、そのエキゾティックな効果を一層強烈に印象づけてきた作品はおびただしい。その昔、「東洋武俠団」「血染の十字架」以来最近では、「孫悟空」、「右太衛門」の「ジルバの鉄」、松



伊賀上野の仇討で有名な荒木又右衛門の墓



鳥取名産の松葉かに



駅正前の大丸百貨店

竹の「美男天狗党」などエキストラの学生や映画ファンを喜ばせてくれた記憶も新しい。

汽車を降りると、そこはもう豊かな温泉地帯で清潔な市営大浴場はじめ、情緒たんめん、軒をならべた真正銘の温泉宿が、旅に疲れた人々の心をやわらげてくれる。県庁の所在地で然も駅近く一帯にこんないい温泉が滾々と湧き出るなどとは大概の人々が信じてくれない。汽車待つ間で、十五円の湯代で何時間でも温泉に浸つていられる楽しい暢気な町なのである。



温泉街の中心・とりせん百貨店

・とりせん



鳥取市は池田侯三十二万五千石の古い城下町。北正面に聳える久松山は城趾であり、秀吉を迎えた落城戦説は、今も市民の心底に去来している。剣削荒木又右衛門も藩主であり、仇討をとげた渡辺數馬の墓と共に史蹟として香煙がゆらぎ、江戸の美男白井権八も鳥取の産。古来、この町は天災に悩まされ続けてきたが、昭和二十七年の大火災は戦後最大の記録を作り、五千四百戸約二百億円という損害を受け完膚なきまでに叩きつけられた。然し粘り強い市民は不死鳥のように立ちあがり、伝統と封建の沈滯を打破して、全国初の防火建築都市の指定を受け、合理的な都市計画によって、山麓を住宅街、駅前から都心部を商店街、駅裏南を工業地帯として整然と統一し、県庁への中心路線は二十二米に拡張され、両側が防

駅前本通り・富士館





↑温泉街の中心・末広映劇



←立川町・松竹座

火建築の堂々たる鉄筋建造物が建ちならび、街の様相は一変した。銀色のアーチードの下燐然と輝く電光燈の連続は、新名物の一つとして近代的な息吹を感じさせ、今や古き要書の町は、新しい文化都市に脱皮しようとしているのである。

さて、鳥取の盛り場は、駅前末広温泉町と袋川を渡った中心部川端通、本町片原町界隈の三つのかたまりといえよう。人口十万の市に映画館は五。駅からまっすぐ百米ばかり左側に、富士館（松竹、東映）がある。固定席は多くないが、「君の名は」アームに「二十四の瞳」、更に東映「霧の小次郎」シリ

ーズと圧倒的人気を集めて、近郊から汽車臨時バスが観覧に出かけているという大盛況。館の前はいつも雜踏して時に警官が整理に当ることもある。竹迫支配人を中心にして、実際に観客を集めている。自転車が多いのは農村ファンの支持の故であろうか。大通の交叉点を右に折ると、末広町温泉街で、はでなバ

チンコ店雜貨菓子小料理温泉旅館バー百貨店酒屋など、観光と遊覧客を満足させてくれる繁華街。從横に通る裏通りには、十円の江戸物がある。五十円のもものもあるという風に各人の好みとピッタリで楽しませてくれるのも嬉しい。左手に末広映劇（東宝・日活）がある。音キネ時代の古い館は焼失し設備のいい新装館となつた。小便小僧の像で有名。支配人の竹内、宮川両氏は長年の苦労から、戦後東宝一本とフランス、ソ連ものが必ず市民にマッチすると確信し着タインテリ層に確固としたファンを獲得し數と質は第一だ

と自負を語った。四月から日活を加えて一層の躍進したいといい、「浮雲」はここでも戦後最高の収益をあけたという。百米離れて洋画専門のスバル座がある。大阪スバル座の提携館。かなりいいアリントが早く安く配給があるので、若い洋画ファンに強く支えられている。堅実な経営、宣伝に力を入



は不死鳥のように立ちあがり、伝統と封建の沈滯を打破して、全国初の防火建築都市の指定を受け、合理的な都市計画によつて、山麓を住宅街、駅前から都心部を商店街、駅裏南を工業地帯として整然と統一し、県庁への中心路線は二十二米に拡張され、両側が防

駅前本通り・富士館

←川端銀座の中心
世 界 館



円通寺人形淨瑞璃（無形文化財）

れ、クイズ大会、サビスカイド、館の松竹座がある。前記の富士館
スボンサーつきパンフレットなど
で大いに観客の吸収をはかつていい
もの面白い。市の中央繁華街川
端通には、世界館（大映専門）がある。
大火罹災後、館主中村俊見
氏の異常な努力でいち早く再建され、
復興に苦しむ殺伐な市民生活
に娛樂の新風を送った。彼は大映
永田社長の鳥取型みたいな男で、
只映画が好きでたまらないといふ。
年中無休午前八時開演場内絶対禁
煙はずつと戦し日本唯一を自信
し映画文化前面には常に先駆的
役割を果してきた。現在世界館大
映ファンを強力に安定確保し健全
明朗な経営を続けている才能は大
方の認める所。最近は「眞白き富
士の嶺」「月よりの使者」がヒット
した由。山手に近い立川町に再映

系で邦洋一本、低料金で各社のい
いものか見られるので学生サラリ
ーマンに喜ばれている。ベスト・
テン映画の再映が格別楽しい。子
供向きの映画では児童会館がある。
大火の見舞金で建築された固定席
三百の大ホールで、毎週土、日に
は児童向きのものが、田畠主事な
どの努力で上映されてここも楽し
い子供の盛り場となっている。組
織は、映画同好会が最も強力。各
職場のサークルを結集して手堅く
鑑賞批評を前述させており浅沼、
村田氏などの努力は大きい。日本
海新聞で独自な紹介と批評をもつ
て映画文化を推進させている大久
保氏も忘れてはならない。鳥取市
の名産も多いが、何と云つても無
条件で二十世紀梨と松葉蟹をおす。



湯の町・温泉宿の情緒

この味覚だけは完全に鳥取獨得で
ある。因幡の桑浦り、円通寺人形
淨瑞璃などは貴重な文化財であり、
湖山長者や因幡の白兔の伝説も豊
かである。大自然の風物と伝承の
ロマンにみちあふれた町というこ
ともなる。

鳥取市の映画人口は大体五万と
業者はふんでいて今まで均衡を
保つて来た。所が目下駅の大丸百
貨店構に吉本興行パックの日の丸
劇場が鉄筋二階建の近代劇場とし
て完成間近い。従つて既成五館と
新劇場間は陽春に先がけて早くも
興行界の風雲急をつけ、激しい映
画合戦が町の話題を賑している。

文
カメラ
野村
原田
不二夫
義登



↑市を中心・防火建築地帯



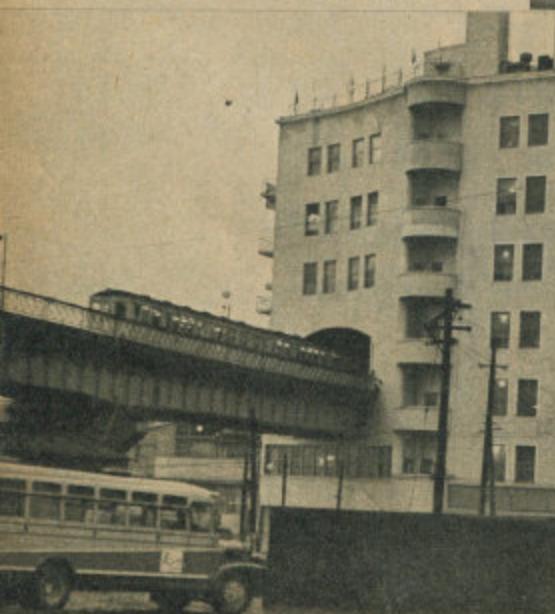
久松山遠望→

新・盛り場風土記

渋谷



せまい土地にたちならんだ家、盛り場のいぶき。→



↑東横デパートのドッペル腹に地下鉄が入る。

←渋谷の名物ハチ公の銅像と新築の東横デパート。

渋谷は、青山方面から下る宮益坂と、世田ヶ谷方面から下る道玄坂の二つの丘にはさまれた細長い盆地である。その中央には渋谷川が流れ、宮益坂の方から降りて来る。道玄坂の丘の彼方に、駒沢村をこえて多摩川の川べりまで、雜木林をまじえた武藏野がぬつくりとしたスロープでひろがっていた。国木田独歩は、このあたりを歩きまわって、雨にぬれた林の静けさや、農夫の純朴な会話を詩情をわかせた。今は遠い明治の頃の話である。

昭和の今日、この丘の谷間は、多數の人々とのり物の渋谷となり、デパートや、ビルや、民家や、店舗が重なりあい、六つの電車線路と無数のバスが流れ込んでいる。その渋谷の中心が、ハチ公という犬の銅像で知られた国井の頭線の沿線に沢山できた。沿線に住む多くの学生、

朝と夕方、人々はこの六つの電車と無数のバスを利用して、殺氣だつた渋谷の駅に集つて来る。戦後、東京は渋谷を出発点として、焼けのこった郊外はるかに遠く発展した。中学校、高等学校、大学が、東横線、玉川線、井の頭線の沿線に沢山できた。沿線に住む多くの学生、

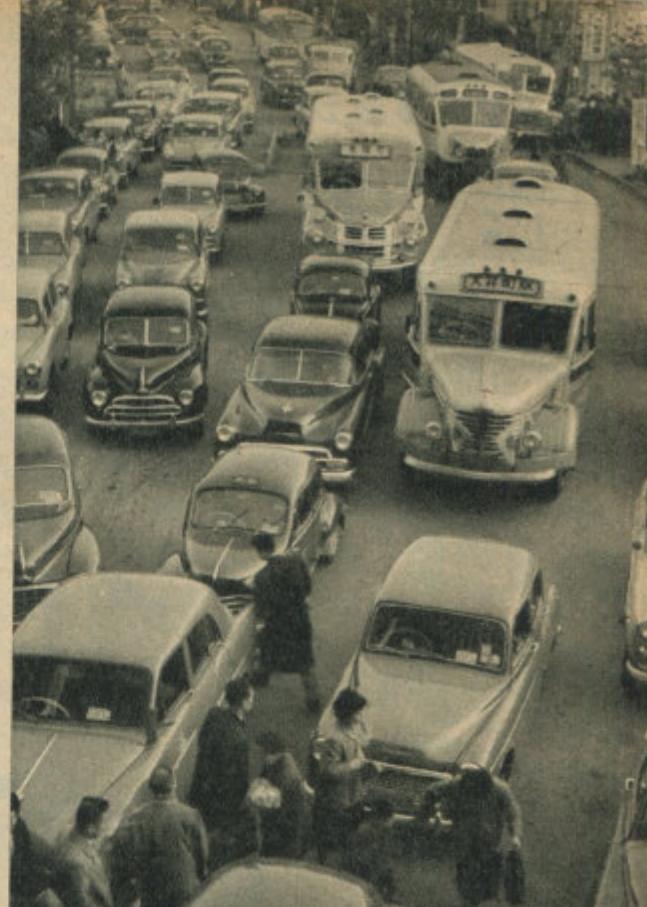
いうのは、国鉄と、東横線と、玉川線と、井の頭線と、都電と、そして、デパートのドッペル腹から出たり這入りしている地下鉄線であり、多数のバス線の中には、東宝や新東宝の撮影所へ行く「成城行」というのも出て



↑ 渋谷の迷路は「恋文横丁」からはじまる。

理するには、この渋谷は、これで最も狭すぎる。ホームにのぼるの階段も、駅前の十字路も、さらに道玄坂の上の方まで、人間、自動車、バスがあふれ出す。そこで渋谷大映の近所から、恋文横町、百軒店につづく右側の裏街は、丘の斜面に階段をまじえたかっての闇市が、そのまま現在につながり、複雑な迷路となつてのびて行つた。飲み屋、バー、喫茶店、支那ソバ屋から特飲街、花街など。雨の日には、闇にねれたアーケードの燈にさされてこの小路にまよい込んだら、恐らく出口を見失うほど、こみ込つた一角だ。傘をさして歩けないほど迫つた両側の店は、壁だけに看板を描いたセツのようを感じられ、酔っぱらいや赤い唇の女たちがゾロゾロと通る。そし

↓ 雨にぬれる道路にはえたネオンサイン。ここにも都会の哀愁がある。



↑ 朝と夕ぐれの一時、道路を流れる自動車のむれ。

サフリーマンは毎朝この階段を上り、階段を降りて電車を乗りかえ、それぞれの渋谷へ向つて流れ込み、夜は、家路に帰るひととを、ここに雜踏にまぎれ込んで、疲れた神経を都會の夢に泳がせる。このひと時、ハチ公の銅像を中心においた駅前の広場は、たちまち人間で一杯となる。人の集まる場所に当然生れる盛り場は、戦後このあたりに急速に発展した。渋谷は現在、池袋、新宿、五反田などとともに、山手よりで有数な盛り場の一つとなつた。一日の交通量を国鉄の駅で聞いてみると、三十四、五万で、山手線では前頭筆頭だという。

しかし、これだけの交通量を整理するには、この渋谷は、これでも狭すぎる。ホームにのぼるの階段も、駅前の十字路も、さらに道玄坂の上の方まで、人間、自動車、バスがあふれ出す。そこで渋谷大映の近所から、恋文横町、百軒店につづく右側の裏街は、丘の斜面に階段をまじえたかっての闇市が、そのまま現在につながり、複雑な迷路となつてのびて行つた。飲み屋、バー、喫茶店、支那ソバ屋から特飲街、花街など。雨の日には、闇にねれたアーケードの燈にさされてこの小路にまよい込んだら、恐らく出口を見失うほど、こみ込つた一角だ。傘をさして歩けないほど迫つた両側の店は、壁だけに看板を描いたセツのよう





←↑休日の渋谷盛り場は、映画館前の人波から。

て、そこに雖然とした人種が網を張つて生きている。うつかり通ればカバンを取られ、帽子を取られ、うす暗いバーに引張り込まれて身ぐるみハギ取られるような暴力バーや暴力女給も、かつてこの界隈の名物だったという。

そうかと思えば、安価をほころぶ渋谷食堂では、ハイヒールの娘さんも小学生も、杖をついたお婆さんも、一杯の井や一皿のカレーライスに見得も外聞もなく取りついでいる。現代の作家丹羽文雄は、かって「恋文」(田中綱代監督で映画にもなった)という小説の中に、ここの大衆の生態を描き出した。外人相手の娼婦とその変文を代書してやる男、古本屋(この古本屋

←東京奥行のサービス・バス。 ↓栄町通りから見た東横デパート。



には映画の本や雑誌が多く、時々映画人がのぞきに入る、不良少年、復員軍人……。だから、この迷路の入口には「恋文横丁」というネオンがあって、現実を虚構の世界へさそい込むマジナイをしている。

元来、渋谷の盛り場は国鉄の駅から花街のある道玄坂上に至る右の方にひろがっていた。映画館も坂上にあった。その中間に、箱根土地という土地会社が「百軒店」という新興盛り場を作ったが、人工的な盛り場だから、あまりはやらない。渋谷が発展したのは何とい



道玄坂下を右におれたところには、渋谷松竹劇場、キャピタル座、渋谷国際劇場、それに松竹の地階の銀星座と、四つの映画館がかたまっている。



↑キャピタル座。
← 渋谷国際劇場。

映画館も坂上にあった。その中間に「新興盛地」という土地会社が「百軒店」という新興盛り場を作ったが、人工的な盛り場だから、あまりはやらない。渋谷が発展したのは何とい

これに対して、最近松竹劇場に食いさがり、トップを争うようになったのは渋谷東映劇場だ。今までの館がすべて国鉄線路から東の道

道玄坂下
渋谷松竹
各國際劇
銀座星堂
正在

←渋谷大映劇場。

玄坂よりに集っていたのに対し、この館は青山よりの都電線路に面している。いいかえれば、渋谷の盛り場を、西の方にもふり向けてようとした感じだ。だから渋谷東映ができた時は、地の利が悪いが……と、玄人も頭をひねった。ところが今日では、東映の人気とともに、この館の前には延々たる列ができる。

中学生・高校生を中心としたその顔ぶれは、今までの渋谷の、家族づれを主体とした盛り場人種と非常にちがっている。彼等は、住宅地から学校へ行く電車の乗りつきを利用して、青山よりの都電線路に面している。いいかえれば、渋谷の盛り場を、西の方にもふり向けてようとした感じだ。だから渋谷東映ができた時は、地の利が悪いが……と、玄人も頭をひねった。ところが今日では、東映の人気とともに、この館の前には延々たる列ができる。

東京興行は栄通りの渋谷大映と百軒店の奥に三つの映画館を経営している。テアトルSS、テアトルハイツ、テアトルシブヤ。いわば東京興行の牙城だ。



↓テアトルSS。



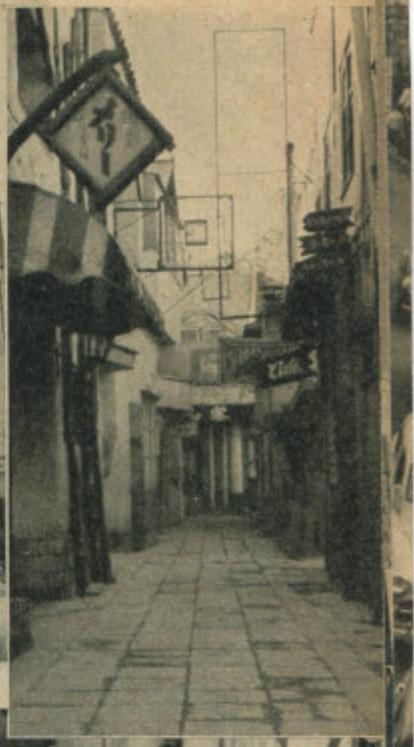
テアトル・ハイツ（左）、テアトルシブヤ（右）→





†道玄坂のメインストリートに足をかまえた渋谷東宝。

喫茶店とバーと飲屋の露次。→



†渋谷東宝の地下には渋谷文化劇場がある。



†雨の日の渋谷には、渋谷だけの情緒がある。

これもまた新らしい渋谷の発展圏を形成するであろう。

さて、歩をかえして、ふたたび道玄坂のばかり口にかかると、左側の大通りに面して、

渋谷東宝映画劇場がある。まだ町の真中を肥

車の通る頃、いち早く渋谷のメインストリ

トにドカンと座を構えたかつこうは、流石に

東宝である。キャバシティも松竹劇場を上ま

わる広さだが、外観はやや古くなつた。戦前、

この地下には食堂があつて、映画を見た後の子供達にぎわつていたが、戦後これを利用

して洋画を再映する渋谷文化劇場ができた。

月平均六百万円の上り、映画料十八ペーセン

ト、東宝直営館のうち、最高の純益率をあげ

ていると聞く。

坂のたもとから榮通りによつた右側、「恋文横丁」のネオンに面した渋谷大映劇場がある。直角な壁面に窓をとざした近代建築を大映が建て、大映映画を封切して、東京興行が直営しているという、ややこしい経営だが、流石に家族連れの大映ファンで、広いロビーまで一杯だ。

道玄坂の丘の頂上に、ようやく古色の出た石だたみの百軒店がある。背後はすぐ花街、バー、温泉マークの断層となる。この百軒店の一一番奥に、道の三方をふさいで建つてあるのがテアトル渋谷、テアトルハイツ、テアトルSSSの三館だ。三つとも東京興行の直営、正に東興の牙城をなしている。百軒店が渋谷の特殊な盛り場として、奥また情緒をただよわせていた頃、このあたりには道玄坂キネマと聚衆座という映画館があつた。雨にぬれた百軒店の石だたみに、下駄の音をひびかせながらこの道玄坂キネマにやつて来ると、フランスの无声映画をやつていた。昭和のはじめの頃のことだった。

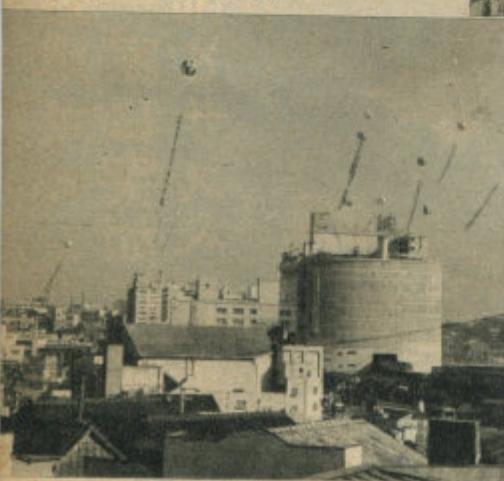
現在、名画再映のテアトル・ハイツ、テア



↑東横デパートの内部にて。



↑新しい渋谷の中心、渋谷東映劇場。



↑渋谷の空に浮んだアドバルーン。



↑小説「恋文」にも登場する露路の古本屋。

↑百軒店裏に、昔も今も変わらぬ花街の一角。

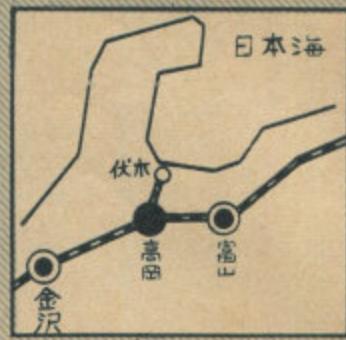


文・岡田
カメラ・一置夏洋

トルSSSには、封切で見そなつた学生やサラリーマンが押しかけ、いつも満員。たまには近くの東宝や新東宝スタジオから、監督や俳優さん達も、チャンと入場料を払って見に来る。岡田茉莉子や久我美子と、肩をスレスレに再映々画が見物できるのも、ここの大特典だ。駅から一寸おみ足を運ぶので、東京興行では、これらの館をむすぶ無料バスを運転して、駅前からお客様にサービスをしている。日曜や祭日にでもなると、渋谷の盛り場には、六つの電車や無数のバスから吐き出される人波が溢れるようになる。十一月の末に、新館の店を開いた東横デパートは、あまり広くない渋谷の空一杯に二十いくつのアドバルーンを浮かせた。「恋文横丁」の迷路をぬけて、道玄坂の雑多な商店街をぬけて、百軒店の頂上に立つと、ひしめき合い、重なりあい、混雜した生活のいぶきと、土地特有的盛り場のさわめきが、せまい土地にこもっている。誰もここに、かつてひろがっていた武藏野のさやかな丘のスロープや、詩人独歩の憂愁を思いおこす人はいないだろう。いま、眼の前にあるのは、絶え間ない人の波と、原色の多い街の看板と、動いてやまぬネオンの彩りと、そして逞ましい食慾と、猥雑な性的取引と、種々雑多な路音と、現実的な、あまりに現実的な人、人、人、顔、顔、顔であつた。



ラムスの無声映画をやっていた。昭和のはじめの頃のことだった。現在、名画再映のテアトル・ハイツ、テア



新・盛り場風土記 高岡

珍らしい河童塗像

泉鏡花の初期の小説「義侠侠血」といっても気がつかぬかも知れないが、かの水芸人白糸が乗合馬車の御者村越欣弥のために学資の仕送りをつづけるうち、借りた大金を奪われたことから人を殺害、いまは検事となつた欣弥によつて裁かれるという悲恋物語「滝の白糸」といえば、まず知らぬ人はなかろう。この物語の書きだしに、「高岡より俱利伽羅下の宿場なる石動まで四里八町の間を定時発の乗合馬車あり……」とあるごとく、「滝の糸」発端の地が、ここ高岡である。

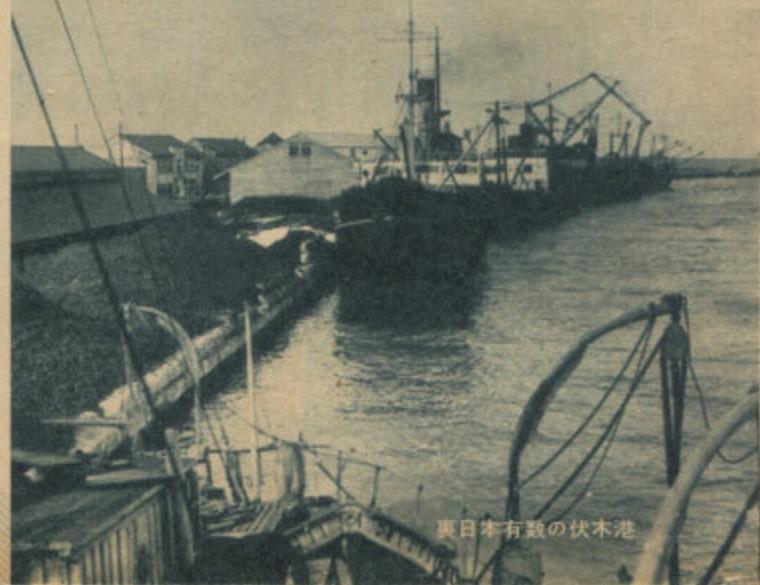
人口は約十三万余、全国で五位というから必ずしも小さい都市とはいえない。それでいて、さすがに有名なのは県庁所在地でないからであろうか。戦後にわかる人によって、乗合馬車の出发点跡に「滝の白糸の碑」が立てられた。

すぐくなるのは止むを得ない仕儀と影はなく、かつて白糸を乗せて走ったという道もアーケードの商店街とかわり、良き明治の情緒をしおぶすべもない。だが、戦災に会わなかつたせいか、街全体に北陸の中都市としてのたゞまいが残っている。試みに空から見れば屋根の連りもいかにも雪国のからしの重い渋みがある。

伏木地区を含めて八館



古城公園中之島附近



裏日本有数の伏木港

文藝劇場



松竹・東宝系の大和劇場



再映の帝国劇場



第一東映劇場

日活・新東宝系の文化劇場



やはり邦画が圧倒的である。たつた二館の洋画館も、例えは「わかれ巴里ッ子」のような渋好みのものや、「スター誕生」のような音楽ものはあまり歓迎されず、西部劇活劇が好まれる。といって高級な洋画が全く受け入れられないわけではなく、「エデンの東」や「波止場」古くは「天井機敷の人々」などが大当たりをすると、いうこともある。皮肉な見方をすれば、それらが好成績をあげたのは一種の見栄をはる洋画ファンの多いためとあらう。邦画では娯楽ものが受けるのは他都市と同様。

さて、駅前から登場させると、まず高岡劇場（北陸映画合資会社経営）が小じんまりとまとまつた洋画専門館として市民に親しまれ

ている。戦前の建物でありながら一応の暖冷房装置を持つてゐるのも特筆すべきだが、戦後松竹から洋画に転換しただけにシネスコを持たないのは玉にキズである。支配人沼口兵太郎氏はサッパリした人柄。高劇と裏づきで同経営の文化劇場がある。かつてニース

の「一本立・大物」一本を抱えているだけに番組は豪華だがその割に良い成績でもない。支配人は増野忠明氏。この「桜馬場」は昨年まで桜並木の美しさを誇っていたが、道路拡張でつぶされた。数少ない名所の一つとして名残り惜しいものであった。

これとほぼ時を同じくして駅前大通りの都市計画により古い家並みの商店街が面目を一新、瀟洒なビル街となつた。これらによつて繁華街は次第に駅前末広町方面へ移行する傾向があるけれど、今ところやはり盛り場としての中身売りされるとともに邦画館に転向したもの。中途で挫折したとはいえ洋画ファンを育成した成果は見のがせない。現在は松竹・東宝

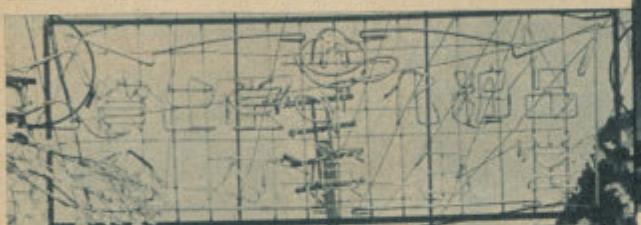
の「一本立・大物」一本を抱えているだけに番組は豪華だがその割に良い成績でもない。支配人は増野忠明氏。この「桜馬場」は昨年まで桜並木の美しさを誇っていたが、道路拡張でつぶされた。数少ない名所の一つとして名残り惜しいものであった。

これとほぼ時を同じくして駅前大通りの都市計画により古い家並みの商店街が面目を一新、瀟洒なビル街となつた。これらによつて繁華街は次第に駅前末広町方面へ移行する傾向があるけれど、今ところやはり盛り場としての中身売りされるとともに邦画館に転向したもの。中途で挫折したとはいえ洋画ファンを育成した成果は見のがせない。現在は松竹・東宝

けるのは他都市と同様、さて、駅前から登場させると、まず高岡劇場（北陸映画合資会社経営）が小じんまりとまとまつた洋画専門館として市民に親しまれ

て建設されたものの経営不振から身売りされるとともに邦画館に転向したもの。中途で挫折したとはいえ洋画ファンを育成した成果は見のがせない。現在は松竹・東宝

心は大和デパートから東へ折れた御旅屋通り（オタヤ）というべきである。さらに横小路の大福院通りは中見世的な盛り場となつてい



にぎやかな大福院通り



洋画の高岡劇場



大映系の日本劇場

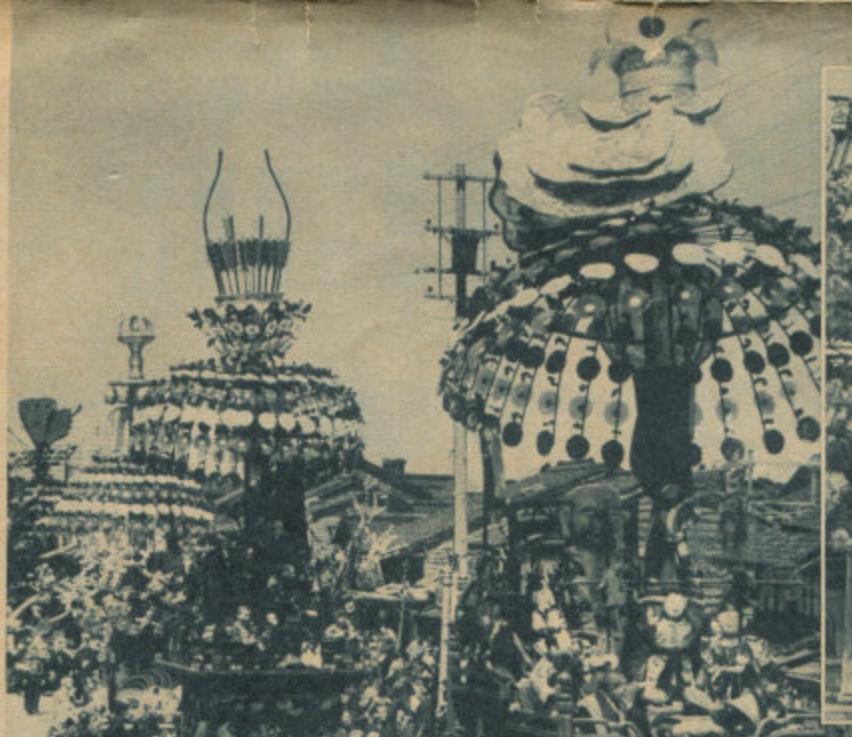
以上の封切館につづき再映館の帝国劇場（伊藤美直経営）が小馬出町にある。やや都心を離れていたが、それでも「當時は日本館・歌舞伎座とともに小馬出町が娯楽街の一角をなしていた」という。都心から約二キロのところに伏木港がある。裏日本有数の河口港として今

富司人氏。時代の流れによって盛り場も推移するもので、「當時は日本館・歌舞伎座とともに小馬出町が娯楽街の一角をなしていた」という。都心から約二キロのところに伏木港がある。

以上の封切館につづき再映館の東亜劇場（東亜興業経営）である。昔、世界館として親しまれたが戦後経営者の変ると同時に洋画館となつた。高岡で唯一のシネマコ装備の劇場で座席数も多いが、観客動員はムラがある。支配人は土田

の主な純喫茶もここにかたまつてゐる。この盛り場の中心にあつて地の利を占めているのが日本劇場である。前者の日劇（伊藤美直経営）は大映専門館として巾の広い観客層を持ち安定した営業ぶり。前身を日本館といい下川原町にあったものだ。支配人林源一氏は業界のまとめ役。後者第一東映劇場（高岡土地興業経営）は戦後建設、昨年より東映専門館として時代劇ファンを吸引、好成績をあげている。

今春の「赤穂浪士」では二万五千人という記録的数字をみせた。支配人林騏一郎氏は若手ながら精力的なやり手である。この二館と反対側の高宮関野神社前にあるのが東亜劇場（東亜興業経営）である。昔、世界館として親しまれたが戦後経営者の変ると同時に洋画館となつた。高岡で唯一のシネマコ装備の劇場で座席数も多いが、観客動員はムラがある。支配人は土田



国宝の瑞竜寺総門



春祭りの豪華な七本山車



高岡市の俯瞰

も貨物船の出入が絶えない。交通の便がいいので本格的劇場は無理だが、再映館として伏木劇場（牧野雄二郎経営）がある。

ここで特記すべきものは日劇、帝国劇を除き各館とも戦後十年の間に一度或は数度も経営者が変つていることである。これは一体何を意味するものだろうか。それはとりもなおき、高岡における映画館経営の至難であることと商都らしい駆け引きの激しいことを物語っているものではないだろうか。

そんな空氣の中で映画旬刊紙として「高岡映画ブレス」が鑑賞上に大きな役割を果しているのは注目していい。

さて、眼を転すると高岡にも捨てがたいものが幾つかある。古城公園は慶長年間前田利長によつて築城されたものの跡で、幽邃の自然美はつとに知られている。この公園内に昨年「河童像」が作られた。水商売に縁があるとかいわれているが、一風変ったものとして



日本三大仏の一つ、高岡大仏

新・盛り場風土記

立川

立川市街案内図
立川商工合議所



東京駅より中央線で約一時間、こゝ立川は「基地の街」である。人口五万余、映画館五館、ストリップ劇場一、バア六二、キヤバレ一五、ビヤホール二六、ホテル八四、宿屋二五〇、特殊婦人・駐留米軍人・保安隊員などを極めて多数、etc.

日本全国に七一九もあるといわれる米軍基地の一つ立川の朝は、激しい米軍機の爆音によつて明け放たれる。この爆音が激しければ激しい程立川は榮えるといふのである。

立川は昔、織物の町であり、工業（立川飛行機）都市であつたのが、敗戦で米軍基地となり、現在はフィンカム・ベース（アメリカ極東空軍兵站司令部とアメリカ空軍立川部隊）が経済の中心となり、米軍の落す莫大な金によつて市は繁昌している。但し、昔の街の面影は何處へやら、いたる所に背の高い米軍人と尾の短いパンパンが氾濫し、チヤチなホタル・バー、キヤバレー、スープニア・ショップ（土産物店）、パンパン宿が建ち並び、娘たちは笑いを派出にし、子供たちはベーゴマに賭けている。

市は東西に走る中央本線によつて二分され、全市にアメリカ色が漂つているが、強いていいうならば、南が日本人の街であり、北は駐留

日本銀行

立川駅南口大通り

↑立川駅南口大通り。この
写真の突当りが駅である。

先ず駅の南口に下り立つと其処が官庁街、柴崎町で、銀行、保健所、職業安定所、地区警察署、市役所、公民館、柴崎小学校、第一中学校、夜間高校などがある。官庁街といつても決して密集している訳ではなく、町内に点在しているのであり、市役所は駅前大通りを南へ八百メートル行った所にある。市役所を南へ行くと根川を経て多摩川に達する立川松竹（松竹系）と日活直営のか川日活（洋



←立川駅北口大通り。フィンカム・ベースから駅へ向う日本労務者の群衆。

立川駅北口の夜景。ここからこの先にスープニア・ショッピングが建ち並ぶ。



立川駅北口
洋服店
TEL. 8229

カバヤラブル

← フインカム・ベース正門前にある
横文字の案内広告が人目をひく。



大正年代の建築を誇る立川松竹。
立川日活の前には何時も米軍人の姿が見える。



大正年代の建築を誇る立川松竹。
立川日活の前には何時も米軍人の姿が見える。



（画系）は柴崎町の中でも駅の近くにあり、立川日活は駐留軍とその同伴者（入場者の略半数）で大いに稼いでいる。柴崎町の西にあるのが一時パン宿で繁昌した富士見町。東にあるのが錦町。錦町の東に隣接して羽衣町。南部線は錦町と羽衣町の境界を南へ走って川崎へ達している。錦町には南部線西国立駅、立川病院、市警察署、税務署、検察院、裁判所、立川高校、第三中学校、錦小学校、多摩川べりに市総合グランド、それを越つて甲州街道、などが点在し、立川大映（大映、新東宝系）は駅に割り合いで立川の赤線区域は南部線を跨いでいる。羽衣町と錦町にあり、ネオン切りし頃ともなれば保安隊員が肩を組んで現われる。立川駅を北口へ出ると此処が曙町、青梅線に沿つた商店街の中に新宿伊勢丹（デパート）の出張所がある。道路改修などの財源となる立川競輪場は曙町の東端にあり、その先には厳めしい看板を五つも掲げた保安隊が駐屯し、未だ若い門衛が子供と戯れていた。



↑ フィンカム・ベース正門附近。立川の駒部高松町はこの奥にある。

譲町全部を占める米軍基地。バットをくわえ乍ら米軍機に見入る日本青年の姿がみすぼらしい。



↓ 市内いたる所に背の高い米軍人と足の短い日本婦人がアベックしている。



← 横文字の案内広告が人目をひく。
↑ フィンカム・ベース正門前にある。



小ぎれいな婦人が何人もする／＼と門の中へは入つて行くので、巣内に見学を申し込んだら見事に拒绝された。さき程の婦人は飲み屋のマダム（借金取り）との車であつた。駅北口から曙橋を渡つて北へ延びるメイン・ストリートはフィンカム・ベース正門まで由於が広く、朝夕のラッシュ・アワーには其処へ勤める日本人労働者で一杯になれる。立川セントラル劇場（洋曲系）は曙橋附近にあり、こゝも駐留軍とその連れの日本人婦人が稼いでいる。この附近ではスミベニア、ショーファーが繁昌しているが、朝鮮動乱終結と同時に駐留軍の数も減り、それに伴い特殊婦人の数も減つたので、倒産した店が何軒もあるといふ話であった。現在の立川商人にとって、彼等及び彼女らは人のお得意様で、もしも彼等が全部本国へ引き上げてしまつたら、恐らく立川は大恐慌に襲われるであろう。だが、である。狭い街にシーフを素っ飛ばされたり、緑の川を糞尿で汚されたり、市の風紀を乱されたり、廢油施設の不備で油臭い水をのまされたり、学生か

達は櫻音に授業を都廢されたり、人の通用門から隣接する立川の小供達は妙な遊戯を覚えたり……。そんな代價を立川市民は払つてゐるのである。

立川の経済の原動力、フィンカム・ベースへ目を移すと、こゝ縁町は昔立川飛行場であったのが終り、金網の外からパトクトをくわえ乍らこれに見入つてゐる日本青年の姿がひときみすばらしい。フィンカム・ベースの内は、貪弱な立川市街とは打って變つて、パラック等も文化的であり、クラブ、映画館（Tachikawa Theatre）等の娛樂設備も完備している。足らるのは女だけだ。

夕方五時頃になると、駐留軍はスリー・ゲイト（第三門）で駐留軍翼を連ねている。広大な滑走路ではひつきりなしに米軍機が発着し、戦と同時に米空軍に接収され、今は毎日二、三十機の米軍機が銀

市には櫻音に授業を都廢されたり、人の通用門から隣接する立川の小供達は妙な遊戯を覚えたり……。そんな代價を立川市民は払つてゐるのである。

立川の経済の原動力、フィンカム・ベースへ目を移すと、こゝ縁町は昔立川飛行場であったのが終り、金網の外からパトクトをくわえ乍らこれに見入つてゐる日本青年の姿がひときみすばらしい。フィンカム・ベースの内は、貪弱な立川市街とは打って變つて、パラック等も文化的であり、クラブ、映画館（Tachikawa Theatre）等の娛樂設備も完備している。足らるのは女だけだ。

夕方五時頃になると、駐留軍はスリー・ゲイト（第三門）で駐留軍

翼を連ねている。広大な滑走路ではひつきりなしに米軍機が発着し、戦と同時に米空軍に接収され、今は毎日二、三十機の米軍機が銀

上曜日ともなれば、街は挙つて西部劇を見るブーム・タウンと化し、その建物の古さを誇るシネマ立川（東映系）も此處にある。

夜が更けるに従つて櫻音は益々激しくなり、駐留軍は女片手にウ



↑ 瞳橋附近にある立川セントラル。



立川大映は鶴町の雄踏の中にある。

イスキー、ビールをがぶ飲みし、日本人労務者は焼酎をチビリとやる——だが一体、こんな莫迦騒ぎが何時迄続くのだろう？「再び立川駅に戻つてホームに立つと、勤務を了して故国へ帰る米軍人とオシリーの別離のシーンが目には入つた。男と女、富める者と食しき者、去る者と残る者」「グドリ・バサ」、悲しい女の声を遮つて電車は走り去つた。独り途方にくれた女は、仲よく並んで走る

レールの上に眼を落して鄉愁にふけつてゐる様子であつた。ホームの上では別離の星がまた、いた飛行場の探照燈の光は皓々と空へ走つてゐるが、その先には光明も何もない。唯、重い米軍機の爆音があるだけだ。もしもこで再び駅の外へ出て見た所で、其処には櫻音があるだけであつた。櫻音とレコードと、嬌声と——そんな不調和音に何時迄も、何時迄も夜の扉を閉じそつうにないのが基づて立川用である。



↑ 瞳橋東端にある立川競輪場。この收益は市の有力な財源となる。

堺



道巾の狭い堺銀座街

人工二十五万の堺市は、大阪府の中央、大和川の河口南側を占めている。東方に金剛、萬城の連峰を、西方大阪湾を隔てて海上蓬かに淡路島を望める。東は一帯に丘陵地、西は平坦な市街地をなしている。

前方後円の大墳でしられた仁徳天皇の百舌鳥耳原中陵が歴代山陵中規模のものとしてここにあり、北に建正天皇御陵、南方上ノ芝に磐中天皇の御陵もある。

堺の最盛時と言われたのは、足利義満時代、大内義弘が市区の整理、港湾の修理を行つて貿易港として以来八幡船の根拠地、西欧文明の輸入港として、塩町、安上、桃山時代にかけて大いに繁栄した。千利久を生んだことでも知られる通り文化の一中心地でもあった。江戸時代に幕府の直轄地となり

奉行を置き、外国貿易が長崎一港に制限されたので堺の殷盛は昔の如くならず、刀物、鉄砲等、特殊の工業が発達し、大阪市の衛星都市として今日に及んでいるわけである。

自転車、継通、織織物、清酒等有名物産が多く、福助タピ、久保田鉄工所、薬品等の大工場の他、近く大浜海岸に八幡製鐵所の分工場の建設、大築港の計画があり、再び往時の繁榮が約束されている。

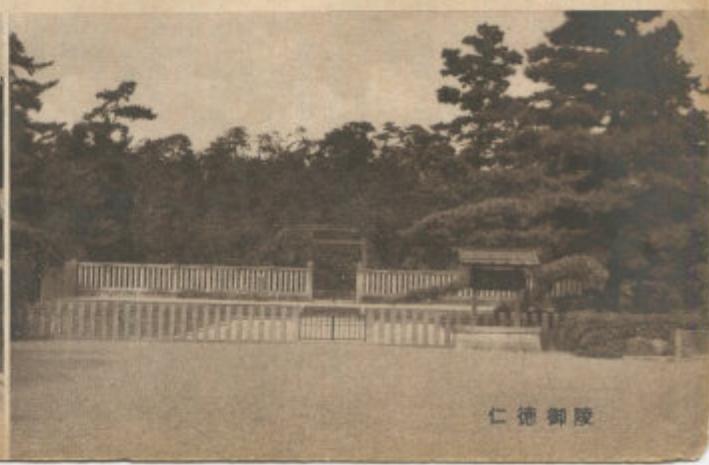
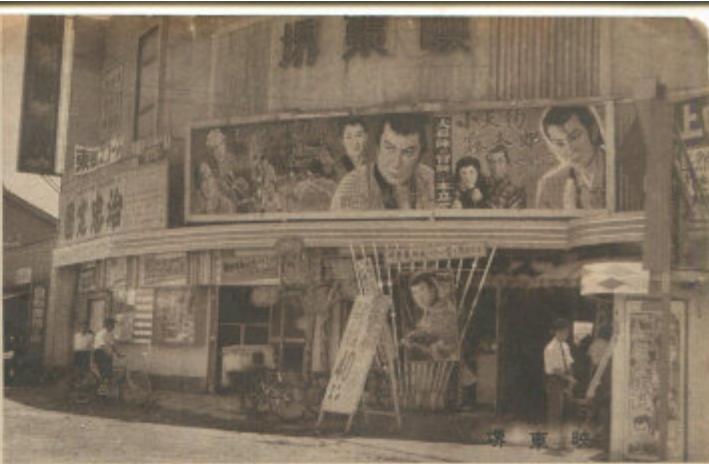
堺に市制がしかれたのは明治十二年四月で、古い都會にありながら、狭い道路、低い軒並、寺村の多いところであるが、中心繁華街は第二次大戦で焼夷弾に見舞われ、焼野原となってしまった。その後市区改正構想により、今では南北五十メートルのメイン・ストリートが縱横に貫通され大都市の様相を示



高野線堺東駅



日本最古を誇る水族館



している。

南海本線堺駅を下車すると、東西に大道路があり、西に二十六号国道を越すと大浜海岸に出る。

ここに日本最古を誇る水族館がある。

駅の東向い辺りは竜神遊廊のあつた盛り場で、ここに堺松竹（滝野福松氏経営）がある。今年の春から遊廓は無くなるし、裏の方は焼野原のまま人家も少く、映画館の位置としては不利をまぬがれない。

ただ堺市における松竹映画独占封切という点が強味である。

ここをなお東に進むと、阪堺線宿院に出る。戦前市内で最も繁華な通りは、菅原神社の南門から宿院に至る山の口筋であった。戦後も急速に、商店街山の口筋は復活したもの、中心地の復活が遅く、

周辺の焼け残った土地が開けて来るため、戦前の活気は見られない。

宿院の北側に宿院劇場（正木正氏経営）がある。戦後いち早く鉄筋冷暖房館として建てられ、洋画封切をつづけている。

宿院劇場の横を行った左側に堺国際劇場（支配人大国満弘氏・新東宝封切）、山の口大劇（支配人大中竹馬氏）二軒が、大寺餅で有名な大寺さん（開口神社）の境内に並んで立っている。

宿院劇場を東に行くと、堺東映（東映封切・山口勝氏経営）と大映ニーサカイ（大映興行直営）

とが向い合っている。前館は戦前太陽館と言つて歴史のある館であり、ニーサカイは戦後建築された近代的映画館である。

堺の映画館の殆どは、館外に並



山の口大劇場・国際劇場

んだ、預り自転車の数を見れば、その日の入場者数の察しがつくほど、自転車による来館者の多いところである。これは自転車工業とは関係ない。最近はバスがかなり便利に動いているとは言え市内交通が不便であること、まだまだ中心地に人家が建ち揃っていないためなどではないかと思う。

両館を過ぎて、東へ向へば、高野線三国ヶ丘、なお進めば中百舌鳥総合運動場があるが、三国ヶ丘の手前一条通りを左折北上すると右側に電気館（本山敏二郎氏経営）がある。一年半ほど前は洋画封切がされたこと、官庁街に接していること、ここから少し東の全岡町に駐留軍がおり、後に集團アパートが出来たこと、山の口商店街の復興前に市場商店街が増大したこと、バスのターミナルになつたこと、等々の理由でこの駅前が市第一の繁華街となつた。

駅の西向うに銀座街があり、この右側に界東宝（支配人正木寿雄氏）がある。鉄筋コンクリートで、戦災もまぬがれ終戦間もなく東宝館切で再開し、堺田市内でただ一館の映画館として市民に健全娯楽を提供し、文化的使命を達成した。館は、大阪ミナミ繁華街に近接しと書くとこれは表彰ものだが、他館が出来るまでに相当の利益上げ、それで宿院劇場を建てたと聞いている。

この商店街を進むと右側に少し引込んでパール座（支配人浅田常郎氏）がある。ここも鉄筋コンク

リートの冷暖房館、開館の頃は二番であったが、電気館が邦画に転向してから封切となり洋画専問である。

街の背中合せの通りに、堺日活（高橋重幸氏経営）がある。駅の北西に大蘇鉄で知られた妙国寺がある。堺事件として、明治元年フランス兵士十一名を、土佐藩士が殺傷し、隊員筑波猪之吉以下十一名が寺内で切腹させられ、妙国寺の北にある宝珠院に葬られている。

阪堺線に沿って大和川鰐、南下すると、猿之町劇場（住吉樽男氏経営）と、猿之町東映（竹村勇造氏経営）がある。焼け残った旧劇場（金岡）もある。東凌にまで足を伸す人々に親しまれている。更に南にチモリ劇場（田中長逸郎氏経営）もある。東凌にまで足を伸すと、「深井」、「八田」、「鳳」等映画館は多い。

この外にも、「戎シネマ」、「富劇場」、町名を劇場名にした「金岡」、「深井」、「八田」、「鳳」等映画館が多い。

人口に比して劇場数が多過ぎるほどではないが、劇場の位置が、戦災復興の速度や人口配置と一致しないため、各館必ずしも好調としないから、各館必ずしも好調とするべき現状である。堺市の映画館は、大阪ミナミ繁華街に近接している為、不利な立地条件だと見えるかも知れない。



五十米巾のメインストリート



宿院劇場

新・盛り場風土記

松本

松本城落成記念・松本美人コンクール代表

アルプスの玄関松本市がある。真夏には重いリュックに登山帽のキンバードが日に何千となく上高地に向う姿は、松本ならではの一壯観である。

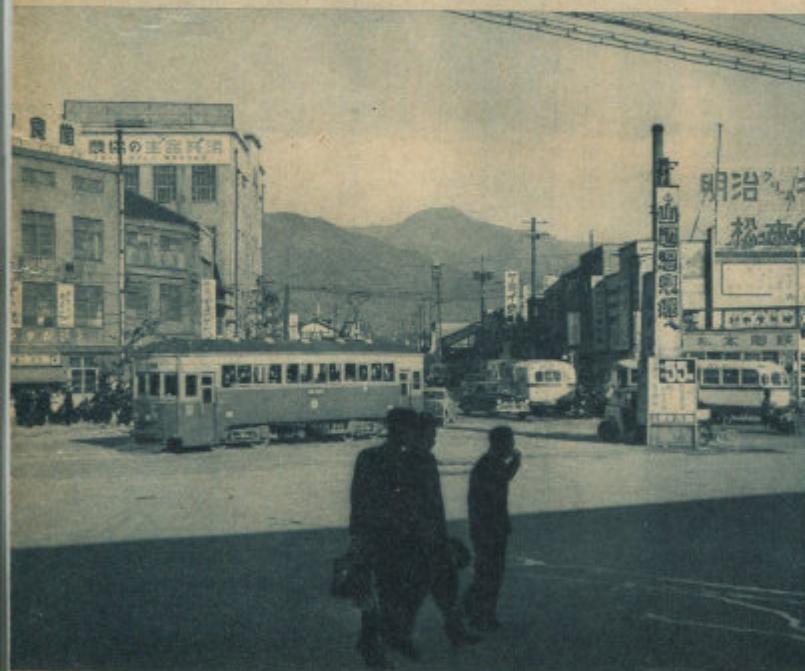
日本の屋根長野県の中央に日本アルプスの玄関松本市がある。真夏には重いリュックに登山帽のキンバードが日に何千となく上高地に向う姿は、松本ならではの一壯観である。

新宿、名古屋駅から準急で約六時間、東京関西方面よりの登山客で賑わう観光都市であり、文教商工都市である。昨年八月、近村を合併して人口八万五千人から一躍十五万となり、面積は旧市の十一倍余の二二五平方キロに達した。

コロナ観測所、宇宙線観測所の夏スキーフィールド、アルプスの最高峰徳高岳、槍ヶ岳、白馬岳等の中部山岳国立公園の峻嶺を西に望み、東には美ヶ原高原を仰ぎ、日本のスイスの感じがする。この、山高く、水清く、風光る街松本を中心におけされた映画は数多くあり、最近では独立プロの「姉妹」から「朝霧」「陽気な渡り鳥」等がある。アルプスを舞台に「銀盤の果て」「死の断崖」(谷口千吉監督)などが有名である。

この市内の名所旧跡を拾つてみると、ます第一に市街の中央にある松本城をあげることができる。これは今から四百五十年前島立貞永の創建したものに始まり、三百七十年前には城下町としての骨格を形成した。この城は五層六重連立式城郭の初期のもので、現存する五層天守の中では日本最古の城郭建築として国宝に指定されている。

この松本城が昭和廿五年六月解体以来五カ年間、七千万円の予算と延六万人の労力によってこの度



松本駅より国府町を望む



松本城落成記念・お城まつりの花火

竣工、十月一日松村文相が参列して落成式が行なわれた。市内の商店街で目につくものは本屋とお茶屋、パチンコ屋の多いこと、このパチンコ屋は三十軒で毎日百五十万枚のメタルを動かしているというから驚く。市街より住宅街に目を移すと文教都市だけに各種学校があり、信州大学（田松本高等学校・松本医大・油師院）、重要文化財で明治初年の建物開智小学校等古くから知られているし近くには温泉郷、浅間温泉（山辺温泉など）があり市民や観光客の想いの場所である。

城を中心として発展した市街も城と松本駅との間、松本市内を貫く女鳥羽川を境にして盛り場がある。ここには旧松本市民会員を氏とする四柱神社があり、十一月一日から三日間続けられる神道祭は松本市の大きな年中行事の一つである。駅から北東に盛り場伊勢町を通り本町に出て女鳥羽川を渡ると松本唯一の繁華街繩手通りに出る。洋画専門封切館「中央劇場」がある。昭和廿一年十月開場、館主藤本徳次氏は独立映画配給株式会社の重役であり音楽評論家でもあるところから、自分の好みに合

った商利を半ば無視しても高級ファンに向く映画を二本立て上映している。独立プロ映画も上映するが、いち早くシネスコ館として立体音響設備を持ち、館内にお茶、効見の遊び道具、テレビ等の設備も設けられており、総じてインテリの観客層に好評である。最近は、砂漠は生きている？がヒットした。

この繩手通りを東に進んで上土町、市役所の北に「開明座」（館主丸山銀松氏）がある。松竹映画封切で松竹歩合館、地方にあって東京と同時封切を度々行い成果をあげているが劇場の歴史も古く明



↑最大の設備を誇る中央劇場



↑開明座

↓近郊の浅間温泉



↑飲食街にある演技座





↑ 松本隨一の繁華街、御手通り



↑ 変った建築様式の松本大映



↑ 最大の映画館セントラル座

↓ 浅草を思わせるオリオン座



治十七年に建立、昭和九年から映画を上映している。長野県は松竹映画が根強いファンを持っており、固定した観客層がある。遠い昔が盛況だった。市役所より西に二分くらい飲食街を行くと、右手に平形興行株式会社（社長平形とく女史）経営の「演技座」（支配人平形松三郎氏＝県興行協会副会長）と、ここから北に一分、上土町に「オリオン座」（支配人平形台介氏）がある。両館共歴史は古く松本で最初の映画館がオリオン座であり、浅草の盛り場を思わせる所現在東映・新東宝映画を封切し、

時々ストリップも併せ興行している。ここは終戦直後は電気館としてアメリカ映画を上映していた。演技座は大正十年頃日活キネマ当たり、時代劇、現代劇、洋画の三本立て興行により大当たりをしていたと云ふから当時の盛況が伺える。現在「日清」東宝の封切館として新在、「日清」東宝の封切館として新作「一本立て興行」をしている。最近では、官本武蔵、「くちづけ」、大庭善哉などがヒットした。平形とく女史は全国でも有名な女優で、老

体にもかかわらず興行界を押さえている。上土町中心部より北に百メートル、片端町に「松本大映」（館主小林けさえ女史）がある。大映映画封切館で、やはり歩合館である。戦前、戦後数年は松本座と呼ばれ、松本唯一の演劇場であった。映画館となつてから数年間と呼ばれ、松本唯一の演劇場であつた。映画館となつてから数年間立興行により大当たりをしていたと云ふから当時の盛況が伺える。現在「日清」東宝の封切館として新作「一本立て興行」をしている。最近では、官本武蔵、「くちづけ」、大庭善哉などがヒットした。平形とく女史は全国でも有名な女優で、老

体にもかかわらず興行界を押さえている。上土町中心部より北に百メートル、片端町に「松本大映」（館主小林けさえ女史）がある。大映映画封切館で、やはり歩合館である。戦前、戦後数年は松本座と呼ばれ、松本唯一の演劇場であつた。映画館となつてから数年間立興行により大当たりをしていたと云ふから当時の盛況が伺える。現在「日清」東宝の封切館として新作「一本立て興行」をしている。最近では、官本武蔵、「くちづけ」、大庭善哉などがヒットした。平形とく女史は全国でも有名な女優で、老



↑ 飲食街にあ



重要文化財に指定された開智小学校（明治7年建築）



盛り場、伊勢通り

宝直宮宝塚劇場の後身、中信地区最大の映画館である。場内のシネスコ用スクリーンは五十尺あり、社員の支持を受け、新作一本、会員料金五十五円制で特に学生、会員ド一本の二本立洋画館として毎月かなりの興行成績をあげている。

なお市内にセントラル、シネクラブ（会長春宮保雄氏）があり一千二百名の会員を持ち若い映画ファンの集いとして創立一カ年余、さかんに活動しているが、月一回の映画鑑賞と雑誌発行をしている。

活動写真が初めて松本で上映されたのは明治三十三年の十月だといふ。当時の映画館で現在残っているのは一館だけ、劇場を映画館にしたのが四筋、戦後の新築一館と今松本に六館の映画館がある。人口十五万弱に六館では約一万五千に一館の理想計算からいくと少ない。松本市の面目にかけてもと全国にめずらしい四館共同出資の映画館を駅に近い本町に新春封切を目指して建築中である。九月の観客動員数を調べてみると、夏場の不利にもかかわらず六館で計十九万二千人の千二百万円という実績。近村の青年層もい込んでいるが、一日平均六千人の観映者がある事になるので、映画人口は他市をしのぐ勢いである。市の発展とともに、今後一層映画界は活潑になるであろう。（応募作品）

文・カメラ 百瀬 清美



大名町の本屋街

新・盛り場風土記

福岡



↑毎日十万人が集まる福岡最大の盛り場、東中洲の全景、中央が玉屋デパート、橋の手前が川越商店街。

「筑前博多の帯しめて……」の博多節で有名な福岡市は西日本唯一の文化都市、風光明媚な博多湾に臨み、旧幕時代黒田氏五十二万石の城下町だった福岡と、那珂川を距てて東の博多商人の住む博多と合体して福岡市となつたもので、今日人口四十五万（書簡六十万）の都市、映画館は三十一館（内訳は中部十一、西部八、南部六、東部七）で、些かオーバーしているが、戦前は十七館のうち、洋画専門館は僅かに二館にすぎなかつたのが、現在は半数近いというのも時代のせい。盛り場は都心の東中洲から川端商店街、西部の岩田屋デパートと戦後に出来た新天町商店街を含む天神町界隈、南部の新柳町遊廓から一丁目にかけての新柳町界隈、場末では西新町附近、これからのがいそなのは東部の博多駅から呉服町の大丸、東町の大博劇場附近。そのうち最大の盛り場は東中洲で、市の真中を貫く那珂川が海に注ぐ川口に出来た三角洲で、往年は人家もなればうぼうたる葦原。面積僅かに三万坪位の処で、二十年六月十九日の空襲で九分通りとなつたものだが、この戻り、家が建ちならん以前にまさる繁昌ぶり。ここに定住している者は、僅かに四千五百人、戸数九百戸に過ぎないが、その三分の一はキヤバレー、バー、おでん屋などの料飲店、二分の一は遊戯場、映画館、商店など、素人衆の家は一軒もない。そのうち映画館が十一（戦前は十館のうち五館は芝居小屋であったのが、今は全部映画館になつたのが特色）



←四月から東映封切に決ったタマヤシネマ。

今年の一月中の中洲の映画館の入場者はナント五十七万二千人（福岡市の全人口より多いこの比率は全国でも指折）、一日平均十一館で一万九千人、それに建坪千百坪、七階建の玉屋デパートに入り出すお客様約五万、その他を加えると、全市及び附近から中洲に集る浮動人口は一日十万を越えるという。（同じ月の全市二十館の入場者は百五万人、興収は約八千万円で、中洲だけて五千万円というから、その比重が分るう）周辺の映画館は地元の盛り場や密集住宅のお客だけを目當てにしているのに対して、中洲のは全市のお客を対象としている所に根本的な違いがあり、それだけにここには一流の直営館、封切館が悉く集つており、定員席千名を越える鉄骨鉄筋の本建築の堂々たる劇場が殆んどである。洋画の一流どころは公楽、福岡東宝、博多日活の三館、一流がタマヤシネマ、文化の一館、第2画の一館が松竹座、太洋、有楽の三館、二流が日劇。月でも年でも興収のベス

左に大映系の太洋映画劇場。



↓高級洋画で人気のある公楽映画劇場、その右方ホテルの右に新しく日活博多会館が出来る。



↑右に 洋画専門の博多日活映画劇場。



↑新東宝の独占 封切で氣勢をあげる有楽映画劇場。

ト5は、この邦洋六館の一館どろが常に独占しており、場末の小屋は月の興収五十万円前后、周辺の代表館で百万円前后なのに、この六館は五百万円から八百万円に及んでおり、二流どころでも二百万円を越えるというから、ケタが違う。

もつと具体的にいえば、公楽の大映の永田雅一氏を社長とする京都の公楽会館のチエーンで、芸術性の香り高い欧米の優秀映画を上映して、インテリ層の絶対的な支持がある。昨年初め「風と共に去りぬ」を六週間ロングして、興収一千円万以上という空前の記録を作っている。開館以来一本立て押し通している。同じく那珂川に面した、東宝直営の福岡東宝も、大体公楽と同じ傾向、特にミュージカル物がお好き。日活直営の博多日活は西部劇、ギャング物、戦争物などアクション一点張りで、その方面のお客をシッカリ握んでしまったので、たまに文芸物などをやると、却ってお客様が来ない。東宝も日活もこの二月から二本立てに転向した。タマヤシネマは玉屋の五階の演舞場を改造したもので、玉屋の姉妹会社というところが特色。洋画一本立て、封切と再映をチャンポンにやっており、内容は日活流のアクション物。新東宝直営の文化は洋画一本立て、公楽や東宝で当ったものを二ヵ月遅れ位でやる。

邦画では、松竹直営の松竹座が第一、定員千三百、一億四千万円

↓高級洋風で人
方ホテルの右

↓那珂川に五色のネオンの色映えて、川端のそぞろ歩きに、春の宵の博多情緒は更けていく。

↓那珂川に五色のネオンの色映えて、
川端のそぞろ歩きに、春の宵の博多情緒は更けていく。

↑天神町の西鉄始発駅を中心に新天地繁華街がひらける。



↑天神町の西鉄始発駅を中心に新天地繁華街がひらける。

邦画では、松竹直営の松竹座が第一、定員千三百、一億四千万円でやる。

邦画では、松竹直営の松竹座が第一、定員千三百、一億四千万円でやる。

かけて設備を完備した大殿堂、二本立て松竹邦画の独占封切に、ロングや再映ものや洋画も入れ、灰田勝彦やアジヤバーなどの実演が強味で、そんなアトラクションのある時はいつも物凄い入りだ。大洋は土建業の岡部氏の経営だが、松竹と同じく大映邦画の独占封切館となっている。一週づつずらしての二本立て。新東宝直営の有楽は、新東宝と東映作品の封切館ではあるが、周辺の吉塚、新演劇、柳橋、朝日、聚楽などとのかけ持ちで、松竹や太洋にくらべると分が悪い。但し三月一杯で東映と手が切れるので、そうなると新東宝独占の道をとる筈である。日劇は東宝の直営封切館だが、定員三百五十位の木造の仮建築で、これも周辺の蓮池、演技、朝日のかけもちで、どんなに努力しても月二百万円を越えない。

中洲には、他にストリップを売り物にして洋画の再映をしているテアトル川丈と、邦画の再映物三本立て主に時々ドサ廻りの劇場や浪花節を入れる多聞座がある。前者は川丈旅館主長尾氏の経営、后者の支配人藤岡敏行氏は現福岡市興業組合長である。

周辺から目星しいところを拾うと、西日本新聞社が半ば棲を入れてやっている天神町のブロードウエイも確かに変り種の一つ。洋画の封切と再映の二本立て。支配人の松居孝氏は福岡市映画界の元老、生字引とアダ名がついている。西



蓮池通りで景氣のよい蓮池映劇。



西新町の東洋シネマ。



文・林
カメラ・安田
健

→大映の石橋支社長が
乗り出した国際映劇。

お好きで、聚楽、東洋、光、天神聚楽と、一人で四館もやっている。千代町の国際映画劇場は終戦直後出来た当初は、中洲未だ復興せず、洋画の第一封切館として、いつもトップの成績を見せていたが、その後は軒落の一途、昨年は到頭売りに出たのを、現在は大映九州支社長の石橋一雄氏が経営しているが、どこまで回復出来るかが見もの。東町の大博劇場は昨年八千万円かけて豪華な殿堂にしたので、芝居をやればドッとお客様が来るが、そのつなぎの映画はサッパリ駄目。周辺では西部の聚楽、新柳の朝日、大博劇場近くの蓮池が好成績。

最後に今年の話題は中洲に目下建築中で七月完成予定の九階の日活直営の博多会館、二階、三階が日活製作の邦画封切館となる筈で中洲に根據を失った東映が直営館をどこに建てるかということが注目の的だ。

新・盛り場風土記

長野



駅から爪先上りに2キロ程メイン・ストリートを行くと善光寺の山門に突き当る。



掲るもの。像は佐々木大樹氏の作で、病いえて歎喜の舞をまつてゐる姿が彫られている。夏の夜、この像の附近には小さな屋台が作られ、映画や踊りやノド自慢が催され、市民の盛り場ともなる。また広場の左側の一角にはよくサークスやストリップの小屋がかかる。ストリップは京都の空閑を汚すからやめではいと主婦から抗議が



これが善光寺本堂。一茶曰く「信濃路は月と仏とが薙糞」。

長野市は本州の屋根にてきた最大の都市である。この四月からアンズの安政里、リシングの長沼など、近村を合併して人口十五万になつたが、面積の方もまた約百六十平方キロとなり、市内に山あり田畠ありて、市境の一部は千曲川に

洗われている。また東には富士、志賀高原を指呼の間に望み、北には飯綱・芦ノ瀬などの山々を背負つていて。まさに屋根の上の都市といふ感じ。信越線急に来れば東京から約五時間で着くというのも観光客にとっての魅力の一つ。

長野市のもう一つの特色は、善光寺をもつてのことであろう。たしかに長野市の盛り場には京都の陰影が濃い。そして京都の盛り場はまず駅前からはじまる。長野駅の屋根は寺院風につくられ、駅前広場に建てられた如是姫像といい調和をなしている。如是姫といふのはインドの月蓋長者の愛娘、長者が釋尊に帰依したために娘の大病が治つたという伝説に

← 善光寺へ行く大通りの途中から右へ折れると、市内唯一の盛り場がある。



専攻した人、「ホールの少ない市民男女のため」に開放した由。またこの通りにはパチンコ屋もなく市電もなく、中ほどから坂になつた街路にはプラタナスの並木が続き、善光寺山門から見下すと、戦災にやられなかつたためもあつて落ちついたおもかげを宿している。夏の夜このメイン・ストリートでは恒例のお花市が開かれ、人の波で埋まる。

さて長野駅に隣接して活動館、千石劇場、千石小劇場の三つの映画館がブロックをなしている。いずれも県興業協会会長をしている小山貞雄氏の経営するもの。活動館は新東宝系のはかに独立プロ作品を一手に上映し、労組の映画サークルなどから支持をうけている。千石劇場は洋画とくにアメリカ映

駅前に近く独立プロ映画の封切で知られた活動館がある。



↓ 仏都長野市の御苦笑、ダンスホールになった禪宗のお寺。



画の市内唯一の専門館。昭和十五年早大の十代田教授の指導で設計されたもので、換気、冷房、客席の配置、休憩室などに最新式の方法を採用しているのが特色。また最近はいち早くワイドスクリーンをとりつけ、立体映画の設備をいれるなど、施設の完備は市内一である。これにつづいている小劇場町にある高波兼雄氏経営の相生座と演芸館。権堂町というのは、これと肩を並べるライバルは、権堂町にあり、周囲に喫茶店飲食店が簇生し、新しい盛り場「千石街」をつくりあげた。



← 権堂の中心に松竹映画の相生座がある。

← 善光寺へ行く大通りの途中から右へ折れると、市内唯一の盛り場権堂がある

品を一手に上映し、労組の映画サーカスなどから支持をうけている。

千石劇場は洋画とくにアメリカ映

← 善光寺へ行く大通りの途中から右へ折れると、市内唯一の盛り場権堂がある



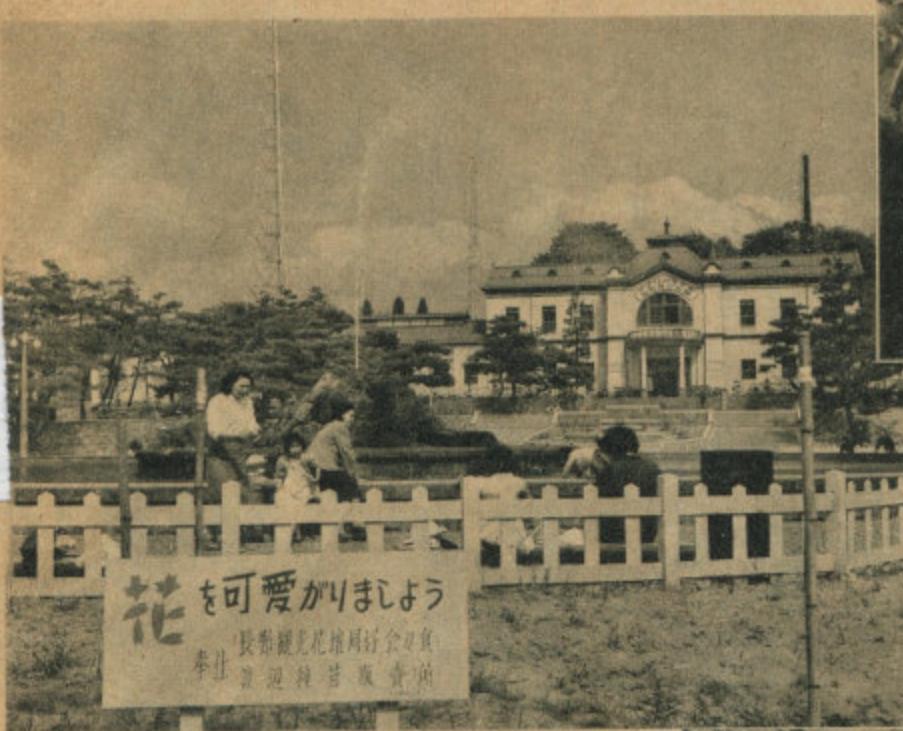
映館に変わった。
なお市内には千石映画クラブ（会長桑原春雄）と欧洲映画同好会（会長宮沢憲衛）の二つの組織があり、それぞれ三千名からの会員をもち、映画館と緊密なつながりをもつて計画的鑑賞に成果をあげている。
さて高村光連作の仁王門をくぐると善光寺の境内。石燈の参道をはさんでみやげ物店が軒を連ね、三十九宿坊がこれを回繞している。
法燈の奥では大勸進（天台宗）大本願（淨土宗）の努力争いが絶えないが、「善男善女み堂に満てりはるばると國々を出てて心足らはむ」といみじくも平福百穂が詠んだ風景そのままに、いまも善男善女の群がひしめいている。

← 中劇も権堂の中心にある。

善光寺の開山とともに古くから知られている盛り場で、現在も料理店や娯楽施設などが密集し、長野市の盛り場の中枢をなしている。この橋町の盛り場のセンターが相生座というところ。松竹系と歐州映画と一緒に上映し広い客層を吸収している。相生座の宣伝を担当している笠原隆一氏は、シニセの若旦那衆を集めて青年商工會議所を組織し、新しい盛り場商法の研究を行っていることもつけ加えておきたい。

権堂の相生座に対して、裏権堂の中心をなすのが中央映画劇場。戦後いち早くアメリカ映画専門館として生まれたが、中途でこれを千石劇場に譲って東宝、東映系の上





花を可愛かりましよう

長都健光花壇月好会員眞
奉仕 菊田劇場



↑さて、いよいよ善光寺境内にぬかずく善男善女の群。

・善光寺の裏に、市民の誇り城山公園があり、放送局もあり、文化センターを形成している。

・高工会館はその名も懐しい菊田劇場の後身である。

善光寺に隣接して城山公園がある。ここにはアメリカ文化センターがあつて、洋書のはかレコードと映画の施設をもち、子供や学生のために無料でプログラムを組んでいるほか、市営の球場、コート、市民会館などの施設もある。また公園をめぐる桜の並木は名高く、松橋市長自慢の有料観光館。三階建延二百三十坪、建設費千七百余万円、この四月から開館したもの。入場料茶葉茶つき百円はちと高いとの評があるが、川中島古戦場を含む善光寺平を展望できるのが



旅人にとっては魅力。市では「二年間で元をとる」といっているが、そのためには一日平均三百人入場しなければならない計算、ところが目下のところは一日百人はどの入りである。

市の中心部から離れたところでは、商工会館、吉田映劇、七瀬映画の三つが、各社の月おくれ作品を上映して受けている。商工会館の前身はかつて日活系を上映していた菊田劇場。七瀬映劇は昨年暮に新しく建てられたものだが、はや附近は小さな盛り場をなしつつある。

文・東栄藏
カメラ・清水秀二



↑市のはずれに出来た七瀬映画劇場。

戸畠



大海の怒濤を越えて、猛進する
漁船商船、日暮高くかがやく、
ああ戸畠……。
これは戸畠市歌の一節である。戸畠
は歌詞にもあるように漁港とし
て有名である。日本における遠洋
トロール船の根拠地として、最盛
時には全国トロール船の約八割の
在港があつた。漁獲高年間八百万
貫で日本が中心となつてゐる。北
九州五市の中で市制が一番おくれ
て大正十三年に施行された。人口

十万四千、面積十二平方キロ。福
岡県の東北端にあつて北九州五市
の中央に位し、その周囲は若松、
八幡、小倉の各商業都市に囲ま
れてゐる。日水、八幡製鉄戸畠工
場、日立製作所その他大小百数十
の工場があり、北九州工業地帯に
重要な地位を占めている。四周を
海と都市に囲まれ、市域拡張の可
能性が少いことは、戸畠の著しい
特徴である。八幡製鉄が七百億の
巨費を投じて溶鉱炉その他、それ





につながる大工場群の建設を開始した。その埋立敷地二百二十万坪は戸畠總面積の約五割を占める広さだ。また、若松市と結ぶ「夢のかけ橋」若戸架橋が工費五十億で今春から着手した。世界第二といわれるこの巨大な橋が四百米の潮流を中空高く、虹のようにまたぐ壯麗な姿は、人々の眼をそばたたせるものがある。この二つの大工事が完成した暁には戸畠の産業地区は大きく塗りかえられるだろう。

都市計画による住宅地城は44%、工業地城は41%、商業地城は7%で商業地城が狭いのも戸畠の性格である。一万円以上の買物は小倉へ、十万円以上は博多へ。といわれるねえんだ。バスや電車で小倉へは十数分でゆける。買物について、設備の良い小倉の映画館で映画を見て帰ることになる。戸畠の映画界でも、倉にと

られないよう色々と苦心している。劇場（支配人鹿田善太郎）、旭館（支配人岡村義助）の各邦画再映館が開業半真大の週刊紙「映画新報」があり、中央資本は、大映の直営館を発行して、観客の足止めにPRを行っている。

ところで、戸畠の繁華街といえは中本町、天神町が中心で市場、商店街、映画館と活況がある。映画界は地元資本の八波興業系の第一国際（東宝日活封切、支配人麻生房雄）、第二国際（洋画各社封切、洋画三に対し邦画が七と圧倒的で、支配人谷川善朗）、ニュー国際（洋画再映、支配人島立義三郎）、天籟（洋画再映、支配人松下博隆）に、臣藏（洋画再映、支配人岡富久男）、大成映劇（邦画再映、支配人岡富久男）、大丸劇場（支配人松尾他助）、中原（天神東映（東映、支配人中島豊）、泊大皇と日露大戦争）はあてたが

柴田系の戸畠松竹（松竹封切、支配人岡富久男）、大成映劇（邦画再映、支配人岡富久男）、大丸劇場（支配人松尾他助）、中原（天星・皇后と日清戦争）はさほど



新・盛り場風土記

八王子

左 八幡神社。神社と並んで八幡会館（洋画系）がある

下 近代建築の中央線八王子駅

相生、伊勢崎、足利、秩父大宮などと競い、織物の生産地として名高い八王子市（東経一三九度二三、北緯三五度四一）は、西に武甲の連山や富嶽を望み、北は川口丘陵に連なる日野台地を越えて多摩の清流に対し、南に遠い万葉の昔、東の国の歌びとから「多摩の横山」と詠まれた横山、多摩の丘陵をひかえ、太古は湖水だったと伝えられる八王子盆地を市街としている。

戦国時代の八王子は現在

だが、元八王子城の跡地には、元北条家の臣、長田作左衛門は荒廃した城下町の回復を頼まれ、現在の八王子の土地に眼をつけた。そしてまず元八王子城下三宿をここに移すと同時に市場を開かせたところ、四散した連中も戻って城下町は次第に繁榮し、それが今日の八王子市の基礎になつたといわれる。

浅川の河原に発展したこの宿場は、地下の湧き水も豊富で、染物には好適だし、古来この四辺が「桑の都」とよばれるほど桑樹に富むことも、八王子織物と切り離して考えることはできない。

戦時中の企業整備により機台の三分の一を失い、その後え戦災の劫火によって潰滅的な打撃を受けた八王子市の紡織工業は、ようやく戦前の盛況を回復しつづける。八王子織物共同組合の調べによると、加盟業者は七五〇——八〇〇。最近好評なのは、多摩結城、多摩優美、美多摩お召、その他の銘仙、椅、ネクタイ、雑貨、男物は振わない。また終戦後、最好調の月間取引高は五億円、年額六〇億円で、昨今はその六、七割程度だが、昨年に較べて若干上回っている。

沼津駅とそっくりな中央線八王

の市から二軒ほど北にある加住村の横山、八日市、滝山の三宿のことで、滝山城の城下町だつた。元亀二年、北条氏照が甲州武田に備えるため滝山城を元八王子城（城山）に移したとき、城下町三宿もそれに従つて移動することになつた。降つて天正十八年、元八王子城は豊臣勢のため落城の悲運にあり、町の人々は四方に離散したが、土地の情況に精通する元北条家の臣、長田作左衛門は荒廃した城下町の回復を頼まれ、現在の八王子の土地に眼をつけた。そしてまず元八王子城下三宿をここに移すと同時に市場を開かせたところ、四散した連中も戻つて城下町は次第に繁榮し、それが今日の八王子市の基礎になつたといわれる。

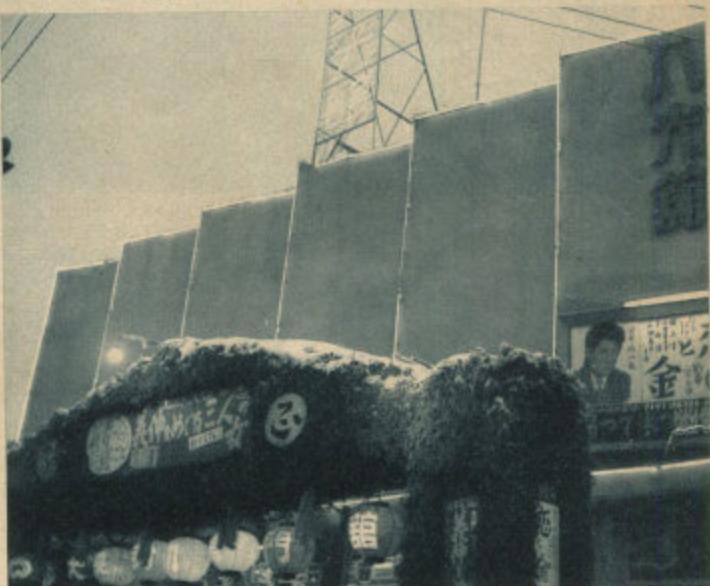




↑ 市内をつらぬく甲州街道



シネマのたまご映劇



▲ 甲側街道に面した八光館

子駅を北口広場にすると、都市計画によつて完成した巾の広い道路が放射状に流れているが、その彼方に建ちならぶ家々は何といううすばらしさであろう。これが大八王子市の玄関なのかと、眼を疑わざにはいられない。風雨にさらされた撮影所のオープン・セットのような、寒々とした眺めである。だが三崎町と中町の間を左斜に走る放射道路を、甲州街道に突き当ると、もう一度びっくりする。帶のように一直線にのびた街道を挟んで、間口二、四間の大商店や銀行、会社が遙か向うまで並び、

ているのだ。しかも両側の大道に人道とは、銀色の軽金属とガラス板を組み合せた日暮いが、これも果して全く統一している。裏通りが汚いだけに、この商店街は夢のように美しく思われる。

この市にはキヤバレーが一軒もなく、純喫茶を見つけるのに骨が折れる。その代り、料理屋や侍会社が繁昌しているのは、三多摩社士人が巾を利かしていた時代からの遺風かも知れない。しかし、昔は時の政府を動かしたほどの三多摩社士の血をひく連中も、今ではみんな正義についているようだ。

料理屋と待ち合がてたからついてに書くが、田町に焼け残った遊廓が古い面影をそのまま残しているのは何よりである。

映画館は戦前四館あつたが、二十年八月二日の空襲で市の九割が焦土と化したとき、みんな島有に帰してしまった。

市のはずれから駅が見えるくらい根こそぎ焼かれ、敗戦にあえぐ市民たちが戦後、最初に見た映画館は「愛染かつら」だという。浅井の向うにある番場工場を、松竹が直営館にしたのである。

「愛染かつら」が大当りしたの

八王子東宝（三和興業）→



↑ お子様の人気をあつめる東映八王子



↑ 松竹映画で評判を呼ぶニュー八王子



← 商店街にはさまれた八王子日活

で、その年の十一月に着工、翌年二月に開館したのが横山町の八光館（八光映画KK経営）で、センタル解体まで洋画と邦画を併映し、現在は大映全プロ。以前は毎週アトラクションを添え、美空ひばり、江利チエミ、小畑実、近江俊郎もこの舞台に立っている。

「六年前、小唄勝太郎が出演したとき、生憎大雪で入りがわるく、電燈をつけるのが辛かつた」と、支配人の岩田幸一氏は昔話を一席語ってくれた。八光館より一ヶ月おくれてフタ

を開けたのが本町にある八王子東宝映画劇場（三和興業KK経営）で、七代目市長関屋源兵衛氏（空襲で死亡）が建てた当時は実演専門だった。支配人の大谷津博氏は新宿で叩き上げた敏腕家だけあって、スマートな興行法でファンを集めている。

小屋の前に築山のあるのが大横町の東映八王子映画劇場（薔薇興行経営）で、この土地でも東映映画は子供に人気があり、正月はトソブだった。「赤穂浪士」を東京より早く封切ったのは、吉岡銀之

駅にいちばん近い寺町のたつみ映画劇場（タツミ興業KK経営）は洋画専門、シネスコの装置もあるし、市内唯一の暖冷房の設備もある。支配人山形敬三氏の話では、「新宿に出してヒケをとりませんよ。ここはミュージカルものはダメで、アクションものがよく稼ぎますよ」だそうである。



八王子市役所庁舎 雪にけむる



紡績工場の一景
織物仲介所

元横山町の八幡神社の境内に八幡会館（高橋寅之助氏経営）がある。古い洋画と邦画の五十五円劇場だが、もとの神殿は焼け、小さな仮神殿とそれよりずっと大きな小屋がならんでいるのは、奇妙な風景で、斎藤寅次郎監督に見せたら忽ちナンセンス映画ができるそうな気がする。八幡さまは八幡会館の方がお賽錢が多いので、無念の涙にくれているにちがいない。

この小屋は館内の休憩室でテレビも見せていている。

同じ元横山町に八王子自活映画劇場（扶桑興業KK経営）があり松竹映画は横山町のニューア王子映画劇場（タツミ興業KK）で上映している。

八王子市は昨年十一月、隣接七ヶ町村を合併して面積は約五倍、人口も一三三、八七八人（旧市域九七、〇六六人、新市域三六、八一二人）とふくれ上ったが、一館一ヶ月二万人動員しなければ儲からないという計算から、昨年末、事業者が共同でハイヤーを雇い、日野、上野原（中央線）、相模原（相模線）、原町田（横浜線）の村や在から、それこそ能や理の出そうな山の中まで歩き回って動員につとめ毎週共同ボスターを送つていい。相當に効果が上っているようだ。

文・渡辺恒茂

カメラ・一置夏洋

↓ カイコの街を象徴する桑の並木



新・盛り場風土記

久留米



石橋文化センター

終戦直前の戦災のため中心部の約70%を失い、ついで昭和二十八年六月の水害は全市を一夜にして壊滅に陥入したが、その復興は目さましい。繁華街は往年の大坂商人も三舎を避けると言う久留米商魂の名に恥じず、商工都市の面目を一新し、市勢は急ピッチで昔日をしおぎ、名実ともに筑後地方の政治、経済、文化、学術の中心地として長足の発展を遂げつつある。

交通的には国鉄鹿児島本線、久大線、長崎本線の要衝に加えて福岡一大牟田間西鉄急行電車の中間主駅である。今は昔、終戦まで肉彈三勇士の軍都として勇名をはせたが、その跡に自衛隊が入り色々との切れぬ因縁を表している。市の西北一帯に年間二五〇億を誇る日華日本、ブリッヂストンの三大ゴム工場が夜昼となくゴム

加硫の煙を吐き、一五〇年の歴史と伝統を持つ久留米餅とともに、「ゴムとカスリの都」として、全国にその名をほしいままにしている。一方藍胎漆器、造園、植木(ツヅジ)の県外進出は見るべきものがある。又観光地としても遜色なく、周辺を彩る原鶴、船小屋等温泉、桜の行程約一時間前後、市内でも筑紫一郎の筑後川の水辺には全国の總本社水天宮、鎮西一の禅林道場梅林寺、有馬藩三百年の治世を秘める藤山城址、筑後一の官國幣大社高良神社と高良山。さらにブリッヂストン社長石橋正二郎寄贈になる、石橋文化センターは近代建築感覚の粋を集めた美術館、ホール、音楽堂、体育館、白鳥の池等観光客、市民とのこよなき憩の場として愛されている。

さて盛り場に目を転ずると、い



黒川



銀座商店街



ンティアンのウォークライ響く西
部劇か、チャンバラの白刃舞う興
行街。卵と鶏の比喩の如く、映画
館が先か、盛り場が先かと、その
因果関係はども同じ! 主要繁
華街を大別して四つの集落。その
中に邦画封切館及び上位再映館
がそれぞれ群雄割拠の形を成して
いる。

市中心、西鉄—国鉄駅間を東よ
り西に結ぶ五十米幹線明治通の北
側（他は全部南側）に久留米の浅
草文化街、翁春生氏の持小屋二館、
皆二百から三百の定員で名画座と
文化会堂は若冠翁幸光支配人の采
配良く、邦画六社を一手に引受け
堂、飲み屋、バー等がひしめく。最

た一番館で低料金が魅力の大衆的
人気は絶対。もう一つの日活文化
は昨年まで新文化と言い東和、N
CC、独立系等の封切館としてサ
ークル（映画演劇懇話会、会員約
三千）映研（久留米大学「医、商、
学芸」、高校で形成する学映連）
が常客だったが（昨年は「居酒屋」
が大当たり）、正月より貸館、各地

近有楽町と改名したが、本場のロ
マンチックムードには程遠し。過
日唯一の本格的暖房設備を施した
久留米東映は市議原口久人の経営、
御自慢の髪を剃落し見違えるばかり
の紳士振り。昨年は大東映の企
画の馬鹿当りそのまま、郡部の客
を一度は館前に引寄せる稼ぎ頭。
隣接して洋画封切の寿座（草野定
一支配人）、昨年は「道」が一番
の由、大作は殆んどここが消化す
るが、福岡市が近いだけに時期的
にはずれると痛い。寿座に尻を向
けた六ツ門通に大勝興行の東宝封
切大勝館。敏腕一枚目社長脇山広
海氏の叫き上げたセンスで著名歌



井上伝女の墓

新・盛り場風土記

神戸・三宮



神戸名物の一つとなった市庁舎前の花時計

神戸の街は東西に長い。山すその住宅街を抜けて、急坂を下れば、市の目抜通りに出る。そこを過ぎると、潮の香にのつて汽笛の音が聞えて来る。慶応三年十二月、兵庫開港と共に開けたこの街は、港と共に成長して来た。戦災の痛手も今は癒え、一時は三十万に減った人口も、この八月百万を突破し、出船入船の賑いも戦前以上の華やかさ。これが国貿易量の約三十%を占めて、名実ともに国際港都の名を取り戻している。

このミナト神戸の表玄関、中心部といわれているのが「三宮」で

ある。この四月近代建築の幹を集めて落成した市庁舎や、世界各国の領事館、海運貿易、金融等を集めた行政、商業の中心区でもあり、それに戦後元町をしのぐ勢にある。

三宮センター街等、ショッピングセンターとしても、三宮は神戸の中心であり、ミナトの心臓として日夜人の流れを止める事がない。こうした交通の便と人の動きがかつては神戸の盛り場の代名詞であつた「新開地」にとつて代り、今では市の興行景気を左右する程の勢にあるのも当然であろう。

現在、三宮地区の常設館は二十館であるが、このうち洋画専門



雨のメリケン波止場



トーアロード筋

近代的な建築の神戸市庁舎



市電山手線が三宮へ南下する加納町には、セントラル会館（洋画再映）があり、ここから南へ下った国鉄三宮駅の高架下には、ステーションシネマ（洋画再映）と三宮ミユージック（洋画再映と実演）がある。この三宮駅を中心神戸新聞会館、そごう百貨店、国際会館、阪急ビルが並び、そこの地下に阪神劇場（新東宝封切）、新聞会館の向い側にピック映劇（洋画再映）がある。この新聞会館には七階にスカイシネマ（洋画再映）と共に文化の殿堂と云われ、時年開館して以来、神戸っ子を喜ばせているが、最近これ等大劇場で時折洋画を上映するのは余り感心出

館が十四館、封切は京阪神三市でチーンを結成して、六系統六館が顔を並べて居り、他の八館は何れも二本立低料金の再映館である。一方邦画上映館八館のうちには、邦画六社の封切館が揃っているのはとも角、再映館が一館というのは、サラリーマンやオフィスガールが観客の大半を占めているこの街の性格を物語るものである。

細長い神戸の街、その一部である三宮では、盛り場は映画館が軒を並べている様に思われ易いが、事実は全く逆で、不便さを感じる場合が多い。元来がコスモボリターンな神戸っ子には一致団結などには無関心で、個人の好みで生活していく気風があるのかも知れないが……。



新・盛り場風土記

尾道



千光寺ロープウェイと市内展望

景色のいいところだった。前の島に造船所がある。志賀直哉の『暗夜行路』に、こう書かれてある尾道は、広島県にあって人口九万、瀬戸内海航路の中心地である。港町としては千二百年以上の古い歴史を持っている。向いに島を抱えて天然の良港、めまぐるしく行き交う船は、内海の島々へ通うもの、四国への連絡船、或いはその間をぬう漁船などと、尾道水道は、瀬戸内海の銀座といえる。

みなと尾道は観光都市である。山と海にせばめられた市街は、家並が山の上までつづき帶のように細長く、水にぬれたせまい石疊の道、白壁に閉まれた寺町のたたずまいなど、或いは夜ともなれば、家々の灯は空へ星のように落けて、古い寺院のいらかに映える月あかる。

大宝山千光寺のある千光寺山には、NHK尾道放送局があり、瀬戸内海を一望に見下ろせる自然美、

さらに全山奇岩奇松も見事で、春には桜の名所としても、西日本屈指である。この千光寺山を中心とする公園には、四季を開わす訪れる

観光客がたえない。今春からは登山口から山頂まで、新しくロープ

ウェイが開通して、施設も一段と整備され賑わいを増した。千光寺

は平城天皇の御代の中興といわれるが、山寺としての配置の美しさ、

は格別。『暗夜行路』にも書かれている伝説、玉の岩がある。夜

はネオンに飾られた鐘楼が、尾道



中央桟橋

の夜を彩る風物の一つ。千光寺のほかに、尾道には三十カ寺以上の寺院がある。足利尊氏の開基といわれ、小津安二郎の『東京物語』のロケにも使われた淨土寺、平安時代行基の開基と伝えられる西國寺など、古い街にふさわしい古刹である。

*

*

*



尾道駅

あるはずの島政部までも、四国は今治あたりにさらわるとあって業者の悩みは深刻。なかでも苦しいのが映画興行である。高いプリント料と、映画人口に比例して、多過ぎる小屋をかえ、館主は口を揃えて、どうにもならん。という。

県連協の副会長である盛久慎蔵氏の「尾道東映」、「スバル座」、「松栄劇場」、「興栄座」の四館は、どれも小さい小屋ばかりだが、久保町の一角に軒を立て、千日前と名づけて、一つの劇場街を形成している。「東映」は以前玉栄館といい、古い小屋の一つだが、そ

のほかは何れも戦後派。現在は松竹以外の邦画の封切を一手に收めているが、「スバル」は今年二月までは、洋画をやっていたものの、それをもてあました恰好。勉強してせめて一館でも洋画をこなすだけの意欲がほしいところ。「スバル」で「明治天皇と日露大戦争」が不調に終ったのをみても、映画興行にもやはり新しい感覚による、たぬまざる研究の必要なことがわかる。

「尾道松竹」、「セントラル」、「祇園座」の三館を持つ有限会社尾道松竹（社長住広茂代氏）は、RKO大阪支社長の中西秀一氏の



松栄劇場



尾道東映



セントラル



祇園座



仁王門 西國寺



帯広劇場



日本劇場



東映オリオン劇場



帯広大映

弘)は洋画のセカンド館。東銀座のマーケットの中に邦画のセカンド館のプリンス劇場(経営者夷石勝、支配人石井武)と合計四館。帯広大映は一年前の開館当時は東劇の名で洋画の封切館としてスタートしたが、意外の不振でことしから大映に変わった。これで洋画の封切館は駄菓子通り七丁目のスバル劇場(経営者浅川公平、支配人中村義雄)だけとなつたが、自称文化人族の多い帯広で洋画がふるわないのは不思議。と関係者も首をひねっている。一方藤下(チエーン)は東宝系封切館の帯広劇場(経営者藤下儀右衛門、支配人菊地勉)。

山良二)で、帶劇はことし改築された。東銀座は一年前開館といずれも近代的な建物。中心街をすっと離れた市北部帯広川の近くにある邦画館端ですしね。競争が激しいとそれだけ宣伝費はかさむし楽しんであります。支配人のグルーヴー貴村きよ、支配人中村哲)も同チエーンに属している。西銀座にはもう一館東映オリオン劇場(経営者前川弥輔、支配人勝尾正男)があるが、やはりここには「一番人義雄」だけとなつたが、自称文化人族の多い帯広で洋画がふるわないのは不思議。と関係者も首をひねっている。一方藤下(チエーン)は東宝系封切館の帯広劇場(経営者藤下儀右衛門、支配人菊地勉)。

この辺に興行街の悩みがある。観客の動員数は、数年前とくらべて決して落ちてはいない。しかし館

数がふえたので、一部当たりでは少

くなつてているところもあります。

当るものとならぬものとの差が確

実ですしね。競争が激しいとそれ

だけ宣伝費はかさむし楽しんであります。支配人のグルーヴー

貴村きよ、支配人中村哲)も同チエーンに属している。西銀座にはもう一館東映オリオン劇場(経営者前川弥輔、支配人勝尾正男)があるが、やはりここには「一番人

義雄」だけとなつたが、自称文化

人族の多い帯広で洋画がふるわないのは不思議。と関係者も首をひねっている。一方藤下(チエーン)は東宝系封切館の帯広劇場(経営者藤下儀右衛門、支配人菊地勉)。

この辺に興行街の悩みがある。観

客の動員数は、数年前とくらべて

決して落ちてはいない。しかし館

新。盛り風土場記

因島

桟橋を上ったところにある観光案内図

四国、島諸部を結ぶ連絡船で一時
間半あまり、「七里七島又五里五
島、瀬戸をとりもつ因島」と歌に
唄われている周囲七里の島、これ
がここに紹介する因島市である。
一島と隣りの島の一部を加えて、
島をもつて一市となつてある全国
でも珍らしい海の都である。島の
名の由来は種々いわれているが、
本土から数多くの島を隔てて、隠
見している島という意味から来て
いるらしい。

島の北方及び東方海岸は屈曲に
富んでいるが、西岸は出入が少な
い。島の中央部には多くの丘陵が
起伏しており、島を東西に横断す
る狭い二条の平地によつて、北中
南の三部に分れ、海岸づたいに町
は伸び、周囲七里の島をかこんで
いる。島の朝は潮の香りが瀬戸内
海一面にひろがり、朝もやを破つ
て太陽は静かに銀波に映えて、島
の眠りをさますのである。

昭和二十八年五月に市制が布か
れた。毎年四月になると、全島い
や全市をあげての島祭りで、大賑
わいである。この島も最近ではい
ろいろの方面に紹介されて、その
存在も大きくなつて来てはいるが、
何といつても「放浪記」（久松静
児）「由起子」（今井正）などの
映画ロケによる宣伝は大きい。か
つての林芙蓉子の恋人といわれた
人も市内に住んでいる。「由起子」
に出て来た箱崎という漁師部落は、
水上生活者の部落として特異な存
在でもある。

島の南側には、因島市の唯一の
工業地帯であり、また心臓部にも

田熊町の沿岸（手前的小島は愛媛県）





市内最大の因島映画劇場



田熊町にある繁楽館

当る日立造船因島工場があり、最近の造船ブームの波に乗って活気を呈し、ことに進水式は壯觀である。外国航路の巨船や外國船の入港も多く、毛色の違つた人々を多数見かける。この造船所の景気によつて左右されているのが商店街で、その大部分は土生町に集り、軒をならべている。「放浪記」の中にもあるように、昔と変らず、まずは目につくのは精大師である。ここは島四国八十八ヶ所の巡礼地として、遠く大阪方面からの遍路



因島の中心地、土生港

精大師像



の姿も見え、それらの人々を迎えるが如く柔軟な顔をしている。雨さらし陽ざらしのこの大師の銅像は、立像として全国一の折紙付の大師像で、因島に足を運んだ人の忘れることの出来ない大師像である。

この大師には次のような伝説がある。昔、漁師が車に一杯の鰯を積んで歩いていると、そこを通りかかった大師が「美しい魚ですね」と言つたのだ。ケチな漁師が「いやこれは皆くさっていません」といふと、たちまち鰯はくさつてしまい、驚いた漁師は一匹の鰯を大師にあげ、許しを乞うて元通りにしてもらつた。その徳を讃えてこの立像が出来上つたといわれている。

細長い町のすぐ上には因島公園

があり、登るほどに景色は開け、附近の島々はもとより、遠く四国の連山や反対側の中国山脈の連峰まで望むことが出来る。足下には紺碧の内海水道、砂浜青松の島岬、丘が墓石を並べたように点在し、その間をぬつて行き交う連絡船、さては漁の小舟の趣きなど、まさに一幅の絵であり詩である。

繁華街は土生町に集り、映画館も四館のうち二館はここにある。因島映画劇場は定員千百名で市内で最も大きく、また唯一の実演劇場としてのステージを持ち、実演が、昨年度のヒット作を支配人の田窪さんに聞いてみると、「浮雲」が、「渡り鳥いつ帰る」と「夫婦善哉」

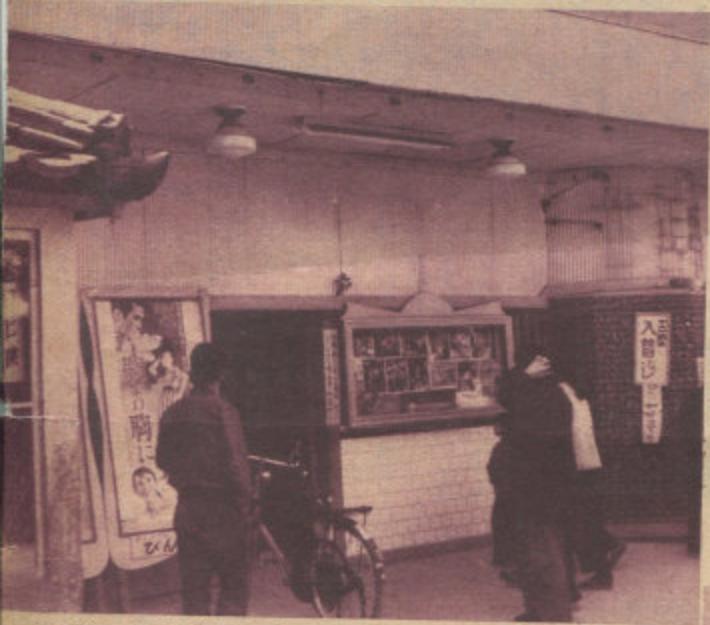
など、いわゆる東宝の文芸作、及び東映の連続物「紅孔雀」などが子供たちの人気を収めたとのこと。洋画の方では「青い麦」「ロミオとジュリエット」「青い大陸」がヒットし、森繁の人気はここでも相当なものである。なお、今後はシネマ劇場として出発し、娯楽施設の少い市民へのサービスをしたいと大気泡をあげていた。外観の一一番明るい大正座は、松竹、大映、新東宝と洋画を上映している。つまりこの二館で邦画六社の作品を分けて上映していくことになる。市内唯一の大スクリーン

（一といつても三十一尺×十二尺）で、シネマの味を少しでも味わおうというものの定員は六百名。壇上支配人の話によると、やはり文芸物が好調で、西部劇も好まれるが、洋画の甘い恋愛ものは悪いとのこと。全国的に大ヒットした「砂漠は生きている」がここではヒットせず、地元でロケされた「由起子」も調子が悪く、同支配人は客の気持が分らないといった。スターでは高田浩吉、長谷川一夫らが女学生に人気がある。因島市民四万三千のうち、一万四千が土生町に住み、これらの人をこの因

映、大正座の一館で争っているわけになる。隣り町にやはり壇上さんの経営している聚樂館があるが、ここは大正座との掛け持ちが、一通りして来たものの再映であり、のんびりした映画館である。やはり同じ町に市内で唯一の洋画専門館があつたが、経営不振で倒れ、おしまっている。もう一館は三庄町にある常盤座で、ここは大正座、因映のフィルムの掛け持ちで、流れを上映している。こは昼間の映画人口が少いため、晩だけ上映するというひつそりした館であるが、



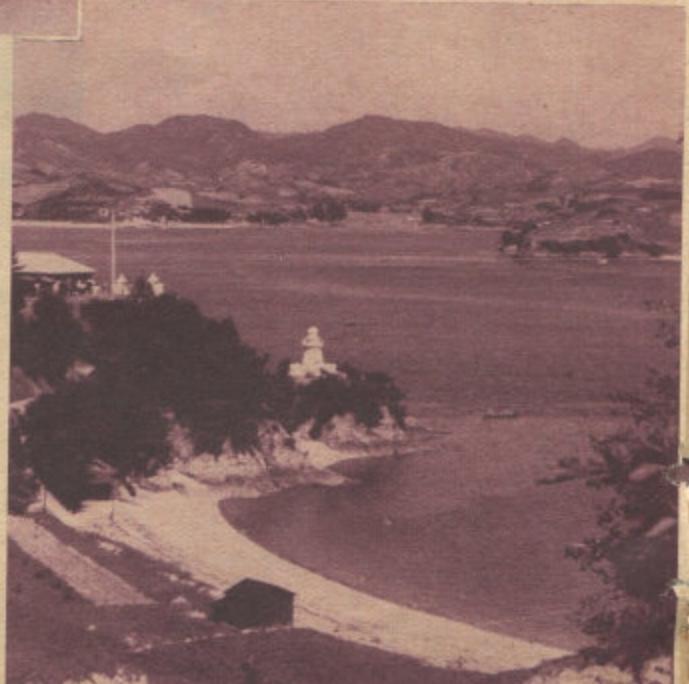
夜だけ興行する常盤座



土生町の中心にある大正座



←盛り場、土生町の本町商店街



大浜燈台の景観



因島公園から土生町をへて瀬戸内海を望む



密柑の豊作

因映と大正座はナイトショウも行っている。四館を通じて設備が悪く、椅子は連結の長椅子で、暖房設備もなく、われわれ映画ファンにはあまり有難くない。娯楽機関の少ない当市にとって、この状態はまことに残念なことだ。

因島の主要な産物は柑きつ類と除虫菊で、田舎を中心とする密柑畠の景観や、除虫菊の開花期の美しさなど、海を行く人の眼をみはらせる。また潮流六ノメトという速いめかりの瀬戸は、一日千艘を超える船の安全を守る大浜燈台とともに市民に親しまれている。



「由起子」にも出てくる箱崎部落の漁船

因島の映画人口というものは固定しており、他から増すこともなくまた少くなることもないので、革々しい宣伝戦はほとんど見られない。観客層としては、造船所の従業員の占める八一セントージが多く（日立の従業員で構成される映画サークル、シネマフレンドは会員千一百人位）、昼間と夜とでは客種が全然違ってくる。傾向としては、さきにものべたように文芸作品が好まれる反面、時代物の活劇が人気を呼ぶというふうに、完全に二つの層に分かれているのが因島観客層の実態であろう。

旧正月の「赤穂浪士」は開演以来の入りであった。以上四館のほかに二館はあるが、どちらも映画館として紹介するほどのものではない。

ない人物は、倭寇大将軍と称せられた村上三郎左衛門尉義弘である。青影城（今は城趾のみであるが再建の話もある）にこもって海上を扼し、諸海賊を統制して、讃岐国塩飽七島以西、瀬戸内海および豊後の諸島を領した。強大な水軍を持つ遠く元の南方ヤルソン、アンナン等に至るなど、史上に名高い「和寇」の名をほしいままにしたのである。この他、幕末時代には幕の傳材、本因坊秀策が出ており、墓は市内外ノ浦町にある。

新・盛り場風土記

浜松

動物園とケーブルカー



浜松駅風景

静岡県第一の工業都市として知られている浜松は、東京から汽車で六時間程かかる。駅は小さくすぎたない木造建で、おおよそ工業都市というもののではなく、昔ながらの城下町浜松という觀がつよい。全国でも一、二を争う程多い爆撃にも、不思議とこの駅だけは殆ど無きずに残ったのが、いつも古めかしい浜松駅になつてゐるわけであろう。そのかわり駅以外の全てのメイン・ストリートはきれいに焼き払われて戦前のそれとは全然趣きを異にしている。

駅前には、バスが発着する広場がある。そこには、市内循環のバスだけではなくて、近郊農村、小部落からのバスも相当数ある。その広場を中心にして二本の国道があり、その一つは、北にのびていて広小路方面へ行き、もう一つは、西に

ひらけてみゆき通りとなつてい
る。

一体に浜松という土地は氣性の
はげしいことを自認していく、五

月五日のタコ揚げでは、その面目
躍如たるものがある。一、二年前
に、やくざどうしの市街戦があつ
たりしたところなどは、城下町的

な古い封建性と、この気性の荒さ
がもたらしたものとみられる。街
の人たちの英雄は、何といつても、
浪花節などで有名な森の松原であ

り、白浪五人男の弁天小僧、日本
駄石門である。

この様な氣質が、また戦後、日
本国に被撃回数の多いとまでいわ
れるこの街を、開拓としてではあ
るが、東部地方での商業取引の中
心地として勇名をはせさせたので
ある。

戦時中は軍需工場になつた紡績
や鉄工場が、また昔の姿にもどり、
名物の遠州綿布や、ベッキンなど
を生産したり、染もの工場も復活
した。新しくは、スクーターなど
も特產品である。全國的に有名な
のは、日本樂器の樂器である。こ
のために、文化面でも浜松音樂協
会があつて活潑に運営され、毎月、
定期演奏会が開かれている。

浜松城の跡には、動物園や公園
があつて、市民に親しまれています。



有楽街入口



日活封切の者劇場



大作封切の東洋劇場



洋画の松葉劇場



有楽街入口近くの富士館

浜松の海岸、中田島海岸は砂丘が美しいので有名である。古くは「花咲く港」、最近では「泉」などがロケをしている。

ところで、浜松の盛り場であるが、広小路方面は、戦後、真先に開市が出来て復興したところで今でも、この闇市的な商店が多いが、現在計画中とさく遠州鉄道ターミナルビルが建設されるまでは、あまりハツとしない。ここには、国際劇場（洋画系）、文化劇場（邦画系二番）、洋画系（邦画系二番）の三館が散在している。

広小路に比べて、みゆき通りは、

戦後すぐには復興しなかったが、着々と復興されて、新川をはさんで建ちならぶ郵便局、電話局、諸銀行、松葉交差点の西側のビル、

この松葉の五階には、松葉二丁目劇場があり、広範囲の客層に親しまれている、などの鉄筋コンクリート建の建物がある。松葉交差点は、近郊からの交通の分岐点になる関係上、交通量は、県下一、二位を争うといわれている。この交叉点の西側一帯は、古くから繁華街で、有名になつた市川少女歌舞伎の本拠として美しい舞台を誇る浜松座の通りを中心とした芸者町、千歳町がある。これは、バーレイ、料理屋が密接してい、深夜までにぎわっている。

交叉点の南側の通称バチンゴ通りといわれている通りにそつて、帶が、いまの浜松では唯一の盛り場である有楽街がある。この一带は、戦後出来たもので、戦前は沼



東宝と名画座

文
カ
メ
ラ
・
大
庭
・
鉢
木
初
進
美



平日に激しいひらきがあるために、小望の館が自然に多くなり、最も大きい東洋劇場でも、定員六四四人といつたところである。これはこの興行街に近郊農村、小部落などのお客様が、いかに多いかを表わしている。第三には、数多くの劇場のなかで、松竹映画が、長年の老舗の力で、何時でも興収がトップを記録しているということである。活劇ものが好まれる一方こうした松竹大船調の好まれるところもあるわけだ。活劇ものが好まれるということは、浜松っ子気質をある意味でよく表わしている。

画の選択一本立て評判がよい。東洋劇場は、米画系のロードショウ形式で、十日間興行を行つてゐる。浜松最大のシネスコを完備し、大劇場の雰囲気に満ちてゐる。名画館は、浜松名物の三十円劇場で、学生、サラリーマン、に専ら親しまれています。富士館は、五月開館したばかりの新設館である。

浜松の興行界の特徴について各劇場支配人の意見を総合すると、第一に、受ける映画は活劇物が何といってもトップであり、豊橋、静岡にも、この種のものでは絶対にひけはとらないということである。第二に、入場人員が、土日と



松菱百貨店附近のにぎわい



有楽街の繁華街



少女歌舞伎の本拠として美しい舞台を誇る浜松座の通りを中心とした、静かな芸者町、千歳町がある。これは、戦後出来たもので、戦前は商店街の中心だった。

少女歌舞伎の本拠として美しい舞台を誇る浜松座の通りを中心とした、静かな芸者町、千歳町がある。これは、戦後出来たもので、戦前は商店街の中心だった。

現在では、映画館十館が目白押しにたちならび、その間に小間物店、洋裁店、洋品店、レストラン、喫茶店などが、ところ狭いまでにならんでいる。

映画館も、有楽街の中央にある老舗の小間物屋、ぬい屋の南から、先ず、すぐ南に建つ浜松松竹座、松竹系封切、松竹直営、浜松東洋劇場（洋画系選択）、大映系封切、

名画館（洋画系選択一番、低料金劇場、東宝直営）があり、北入口に浜松大映劇場（大映系封切、協和興行系）がある。南入口の西側に、浜松東洋劇場（洋画系封切、浜活系）、看街劇場（日活系封切、浜活系）、看街劇場（日活系封切、浜活系）がある。

これらの館を総合してみると、浜松松竹座は地の利がよく、松竹映劇場（東映系封切、浜活系）、その裏の有楽劇場（洋画系選択二番、浜活系）、有楽街入口の富士館（新東宝系封切、浜活系）、ぬい屋の北側には、松菱劇場（欧米系封切）、東宝劇場（東宝系封切、東宝直営）、

ショーン装置を持つ、美しいフロア「が自慢の劇場なのだが、成績は余りかんばしくない。東宝カラーライブが好まれない土地柄だと、映画通はいつている。大映劇場は、宣伝が上手く、地の不利をよくカバーし、お客様をつけている。松菱劇場は、開館以来、東和映画などの欧洲映画を上映し、高踏的雰囲気の東京支店管内の方々館では、一二位の成績優秀館であるが、昨年開場した東映劇場の出現で、今後は苦戦を予想しているという支配人の弁である。東宝劇場は、横浜、名古屋間で、唯一のエマ・コンティ



處刑の部屋に人気わく大映



再映で稼ぐ文化



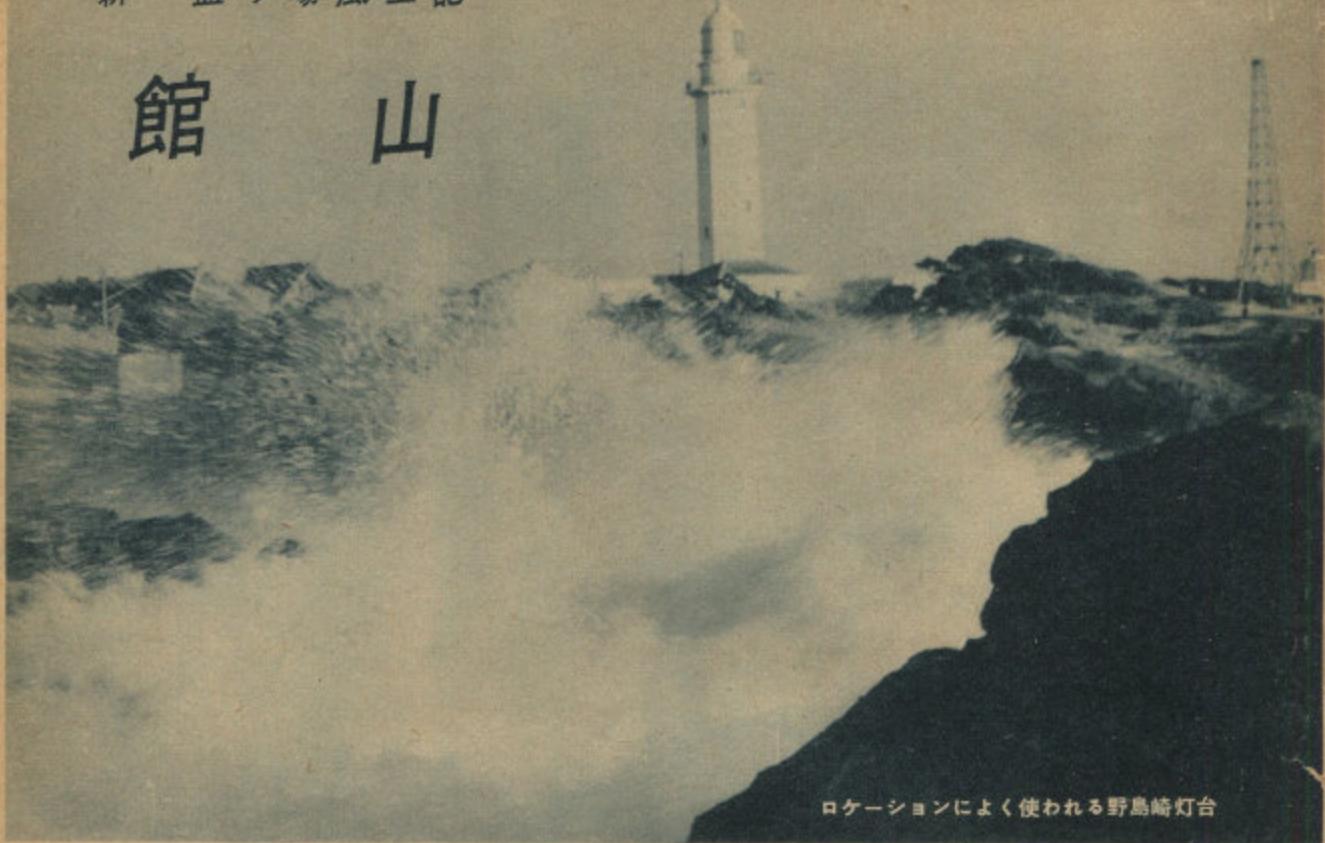
有楽街中央から松竹座、東映をのぞむ



国際劇場

新・盛り場風土記

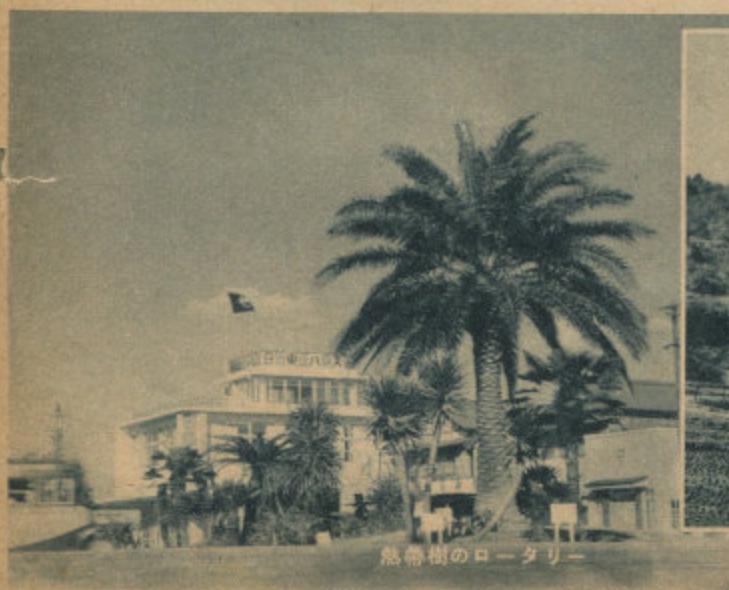
館山



ロケーションによく使われる野島崎灯台

東京の都心から汽車に乗ること約四時間、直線距離に直すと百数十キロ、黒潮洗う房総半島最南端に館山市がある。歴史に興味をお持ちの方々のために、「安房郡誌」なるものを聞くと、聖武天皇が国分寺を建てたとか、石橋山の合戦で敗れた頼朝が命カラガラ逃げて来たのが、この地方の浮島という所だとか書いてある。屬つても鰐という諺の通り、頼朝は敗れてもいうことは大きい。かくまつてくれた漁師に向つて、シオムスピカなどとか書いてある。屬つても鰐なにかを喰りながら、「オレが天下を取つたら、オマエに安房一国を呉れてやるであろう」といつたという話だが、漁師には話が大きすぎてビンと来なかつたらしい。粟一石と間違えて「そんなもん、いんねえけどこの島を一つ下さい」と、周囲一キロにも満たない浮島を貰つたという。房州の人間とはこういう人間である。悪くいえば「アバラが二本足りねえ」つまり間が抜けているのであろう。その代り底抜けの善人である。だからビニール温室の屋根に積つた草花の花粉を「放射能灰」と大騒ぎをしたりするのだ。しかし、その浮島も今は入島料を取り、なまじな場末の映画館と同じくらいの入場税を払つて納税表彰を受けたりしている。

その次は「日蓮」に関する逸話とか、自然科学を無視した有難い法力の話で埋まつて、さてその次がいよいよお待ち兼ねの「里見時代」である。滝沢馬琴著の傑作——というよりは、かの有名な千代之介、錦ちゃんを無名の新人か



熱帯樹のロータリー



里見城址



山の斜面のお墓地は冬でも緑豊



ひびひた情結の船形クラブ



洋画専門の竹沢映画劇場



東映北監キネマ



浮島の夕暮。「蟹工船」のオープン・セットはこの付近

ら、鳩山さんは知らずとも錦ちゃんは知っているという程の一躍大スターたらしめ、頬きかけた東映の屋台骨を一気に恢復したと伝えられている。「里見八犬伝」の背景となつた時代である、といつた方が判りはよからう。これは諸賢先刻御承知の通り、伏姫なる絶世の美女が、夫と交つて人間の男子を八人も生んだという、生物学的にはあまり信用の取れないフィクションをとつてあり、それをまた、尤もらしく市役所の観光課が「これは伏姫がお産をした洞穴です」と宣伝している。今、その城跡を訪ねば、草も枯れ、つわものどもの夢の跡も留めない全くの廢墟である。

時代はとんで現代、開戦の前夜。海水浴場として有名な鏡ヶ浦は要

塞地帯となつて、海水浴には籠札が必要となり、更に海水浴は禁止となつた。『館山海軍航空隊』の時代である。その頃であった。『ハイ・マレー沖海戦』のロケが華麗に行われたのは、サイレン、探照燈、高射砲の響、そして終戦。更に十年は過ぎた。その名は『自衛隊』とこそ変れ、また往年の時代へと逆行しつつある。町をゆく自衛隊の制服に、かつての帝國海軍へと連想を馳せつ、町の人々の表情は複雑である。

歴史は切りあけ、次は文学。エニースク」という情熱的象徴が光地にまで高めた文学は、不幸にして房總には持つていない。せいぜい「母もの」のクラシックとして、また善良なる明治婦女子の紅涙をしばらせたと伝えられている菊地幽芳の『己ヶ罪』くらいの所であろう。他に『富士に立つ影』と『大菩薩峠』の房總篇を読んで頂きたい。

さて、水色のスーツ、ケースを提げた貴方が館山駅前に立つたと三分の一週間ということになる。新東宝、日活系時々封切館。この劇場の女の子はサー・ウイスがよろしく。一言映画ファンとして苦言を呈すれば、一日も早く経営状態を整備して、マシン映画を上映して頂きたい。シネスコ、立体音響

もし、「ここで貴方のお気に召す映画を上映していかつたら、道を東へとつて百メートルばかり歩いて下さい。いま舗装工事を終ったばかりで、両側にスマラン燈の立ち並ぶ『竹沢チエーン』ストリートなるものがある。手前からいて、洋画専門館『竹沢映画劇場』この館は大体において月に一本乃至二本はベスト・テン級の映画を上映している。シネスコ、立体音響装置あり。その隣が『館山銀映』邦画専門館、平均して高級な映



邦画専門の館山銀映



館山映画劇場



館山中央劇場夜景

篠山映画館の「己が罪」で知られる篠



画の上映館である。二階はネオ、ロマンティック・シートで、お直り代はお人様二十円也である。一番向うが「東映北条キネマ」。主として千代之介、錦ちゃんを上映する。竹沢チーンは他にもう二館「館山映画劇場」、「船形クラブ」を持っておりが、これは盛り場からはずれている。しかし、それらは、それなりにその地方の人々を対象に存在価値を持つてゐるのである。

波静かで気候温暖、大して大きな工場も官序もない。平々凡々、たた少々道幅の広さの目立つこの地方に、文化サーグルの生れ育つという筈がない。映画関係の文化団体としては、「中劇友の会」と竹沢チーン側の「館山SSA」があるが、そういう名前があるとい



金谷カ浦鏡

うだけの存在。だから北陸のどこかでは全員千人を越える団体があると聞いても、ヨタレを流して寝でもしようと思うだけ。文化人よ起ち上れ!と叫んで見ても、土台文化人がいない地方なのだから仕方がない。

× × ×
青い空の下、休日ともなれば盛り場は大賑わいの盛況である。例えアパートは建たなくとも、養老院には雨が洩ろうとも、盛り場だけは発展する。職もなく、住む家もなく、町には重苦しい生活の吐息が溢れ、浜では不漁の一家がおマジマジに追われようが、盛り場は夜ともなれば赤く黄色くネオンが点滅する。

文・カメラ・高田秀作



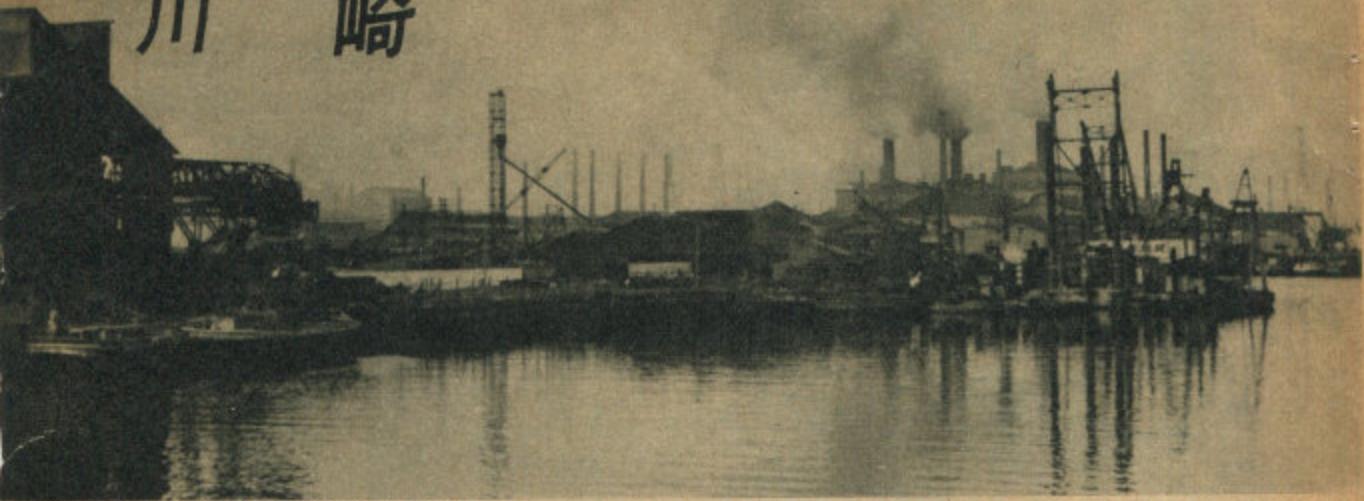
もと海軍航空隊跡、いまは自衛隊



夏の夜の鏡カ浦

新・盛り場風土記

川崎

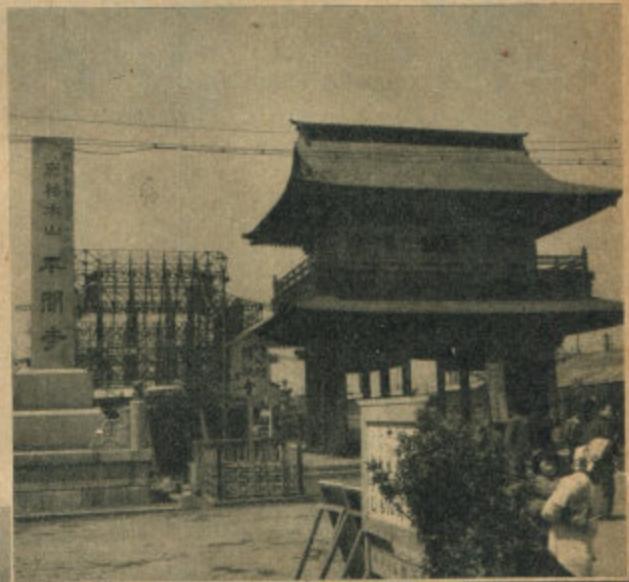


新工業都市としての川崎は活気にあふれている

「川崎」と云えば京浜地区随一の工業都市である。

その昔、莊園として開かれた川崎は、東海道五十三次の一駅にもなつていたが、明治以降急速な産業の発展に伴い、多摩川の地の利を得て河川を始め、港湾と水陸交通の至便の良さを見込まれて、大工場が次々と林立するようになつた。しかも両翼に東京、横浜を控えて特に戦争中は重工業の生産工場の進出が目ざましく、軍需工業都市として大活躍をしたのである。しかるに街の中心地は戦災に逢い、平和憲法が施行されるや、一瞬にしてそ

→一日十数万の乗降客に賑う国電川崎駅・危険で名高い川崎大師→



←駅前盛り場・銀暎街は美須興業の本陣



川崎東宝の向うに新館が出来かかっている



川崎大映の向うに川崎東映がある



小学生に評判のよい川崎東映



洋画の名画再映で人気のある銀星座→

しく、道路計画にしても住宅の整然たる建物にしても、他にその類がない程である。さよよる過去の川崎が、はつきり明日の川崎へと成長しつつある息吹きを感じられる。

川崎市は、現在人口四十万人以上を擁し、東西二秆、南北二秆の地形で細長くなっている。だから東西に川崎市を突き抜けていながら、南北に湘南電車が、多摩川の鉄橋を渡り切るや否や、わずか一分たらずで「川崎市よさようなら」となる。しかし東西二秆の中間にある国電川崎駅は、南部線（川崎—立川）の発着駅にも接続し、一日の昇降客が十万人は下らない。その外に京浜急行もおびただしい昇降客を呑吐し、これらの大半が工場街への通勤者で、製鉄、車輌、電気関係、自動車、造船、ショート、製菓という多種多様の有名無名の大工場に吸い込まれていく。この多くの工場は川崎駅を中心に北に南に縦長く海岸まで伸びて発達しているので、駅前のバスの発着所はひっきりなしに動いている。

川崎市の盛り場には、銀映会通劇場（シネマスコープ洋画系）、川崎日活（洋画系）、ナディオン座（東宝、日活系）があり、右側には同じ美須興業の手で建築中の新館（上映系統未定）があり、つづいて川崎東宝（日活、新東宝系）、川崎大映（大映系、川崎東映、東映系）も駅の南側にある。戦後も早く復興したのが駅前新川通りの京浜急行、市電の踏み切りを渡ってすぐ右に入る銀映会通りで、これは美須鉱氏の経営する美須興業が、独占的に一つの映画街を形成した。

まず「銀映会」というネオン・アーチをくぐると、左右にすらりと映画館が並んでいる。手前左側から戦後一番に開館した銀星座（洋画系）があり、その次に川崎市最大の川崎映画劇場（松竹系、文化劇場（シネマスコープ洋画系）、川崎日活（洋画系）、ナディオン座（東宝、日活系）があり、右側には同じ美須興業の手で建築中の新館（上映系統未定）があり、つづいて川崎東宝（日活、新東宝系）、川崎大映（大映系、川崎東映、東映系）と都合八館（全部封切）がある。

なるほどここに来れば、必ずこの映画でも、通りは見られるわけだ。

毎日全館が朝九時半から夜十時半までの興行で、まさに「映画のチ

バート」の観がある。見物人の動員は、この八館で一日平均一万人、入場料は、木造を出来るだけ早く鉄筋、



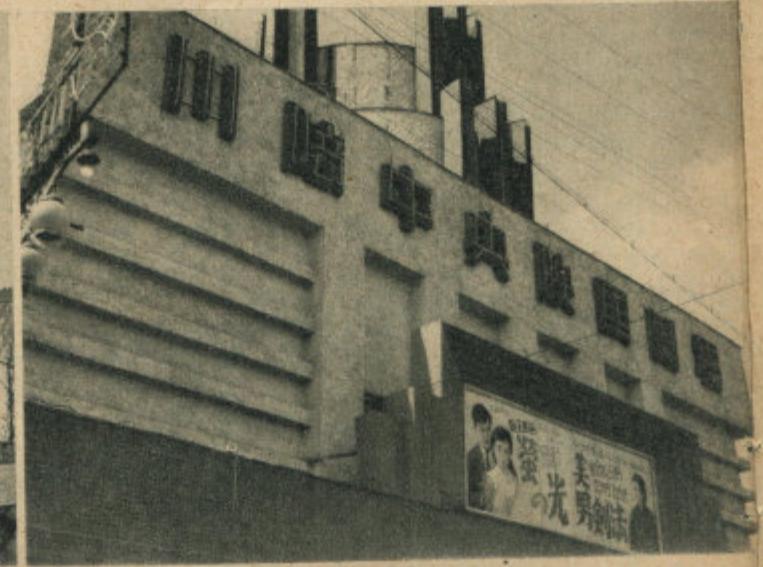
二本立五十円で人気のある平和通りの国際劇場



国際の隣りにミナト座がある



川崎日活の「砂漠は生きている」は大当たりだった



これも五十円劇場の川崎中央

「一上」の觀がある。見物人の動員は、この八館で一日平均一人万前後というから、月には三十万人となり、ローカル館としては一つの壯觀たるを失わぬ。そのかわり入場料は特別興行（実演）一五〇円をのぞいて、普通は五〇円から一二〇円止りにしてある。宣伝には、美しいお嬢さんが主任になつて、超短波の無線放送で系統館全部の綜合アナウンスをやっている。美須興業の人々は、せめて入場料でも安くして戦後の川崎市民に平和な夢を与えるといふ云つて、この映画街の第二の計画の夢は、

いまの木造を出来るだけ早く鉄筋、鉄骨の立派な映画館に切り換えることだそうだ。すでに建築中の新館は、この七月に完成するという。さて、この銀映会通りから更に南に新川大通りを行くと左側に平和通りがある。ここには五〇円二本立劇場が二館ある。そのうち国際劇場（洋画・ミニト座）（邦画）の二館は、宇佐美サーカスの宇佐美謹氏が、宇佐美興行の名で経営に当つてゐる。洋画はピストル、邦画は刀なら入り満員という小屋だ。もう一つは川崎中央映画劇場（美須興行）で、いすれも低料金



川崎東宝の向うに新館が出来かかって

川崎市は、現在人口四十万人以上を擁し、東西に一軒、南北に二軒の地形で細長くなつてゐる。だから東西に川崎市を突き抜けている湘南電車が、多摩川の鉄橋を渡り切るや否や、わずか一分たらずで「川崎市よさようなら」となる。しかし、その東西二軒の中間にある国電川崎駅は、南部線（川崎一立川）の発着駅にも接続し、一日の昇降客が十万人は下らない。その外に京浜急行もおびただしい昇降

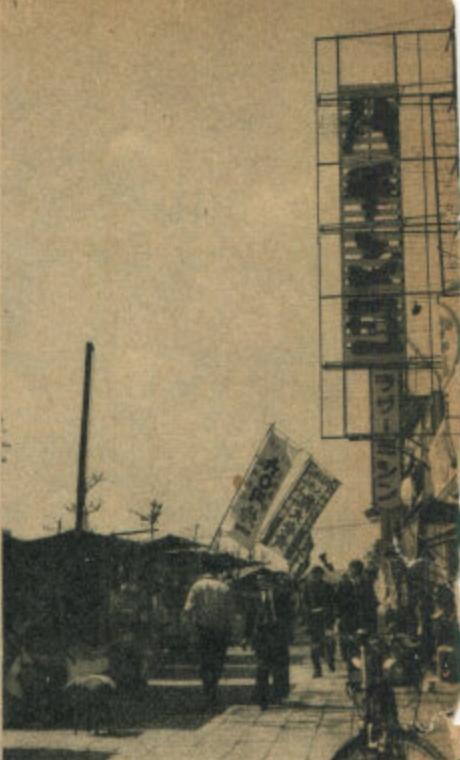
所はひつきりなしに動いてゐる。川崎市の盛り場には、銀映会通り、平和通り、仲見世通りの三つしかしその東西二軒の中間にある急行、市電の踏み切りを渡つてすぐ右に入る銀映会通りで、これはも駅の南側にある。戦後いち早く復興したのが駅前新川通りの京浜急行、市電の踏み切りを渡つて、そこに入れる銀映会通りで、これは美須謹氏の經營する美須興業が、独立的に一つの映画街を形成した。

崎日活（洋画系）、オデオン座（東宝・日活系）があり、右側には同じ美須興業の手で建築中の新館（上と都合八館（全部封切））がある。なるほどここに来れば、応と云ふ映画でも、通りは見られるわけだ。毎日全館が朝九時半から夜十時半までの興行で、まさに「映画のチ

洋画の名画



市役所の塔は川崎市のどこからでも見える



で成功している。

庶民の町、川崎市街を歩いてみると、実に標語が多い。現金は、流れれる、燃える、溢まれる。選挙の悔よりも、悔い以前の心がけ。追わざる馬買うべからずなど。このあとの標語は、も

一つの土地の名物である競馬ファンのためのものだ。

市役所は、駅前大通りに面して

いる。この高い塔の上にあがると川崎全市が一目に展望出来る。

工場街の煙突、港湾、野球場、競輪場、競馬場と多様多彩の川崎の

営みが一目で分る。

川崎市中心の近郊で有名なものに厄除けの恵方詣りで知られた川崎大師がある。縁日は毎月二十日で、まだ焼跡に本堂再建の鉄骨が銷び付いている。工事は資金不足で思う様に済っていないようだ。

最後に、書き忘れてならないのがパチンコだ。パチンコは松葉屋というチーンが全市に根を張っている。この松葉屋が映画の美須とともに、川崎の二大財閥と称されていて。

夜、ひるなしの露店街が、目貫きの大通りにズラリとならんでいるのも今の東京には見られない川崎市異風景であるが、町全体が得体の知れない活気で、うわーんと溢れ上つてゐる物凄さにはとにあるかく圧倒される。そして、その町場がこの裏側にはかつて近代映画の製作馬鹿とした映画「どぶ」のような世界があるかと思うとモンスター怪物、川崎は、一層不可解な新興都市の感じである。

文 洋
カメラ・一置 夏
長谷川

平和通りの近くに川崎競馬場



佐世保



↑ 国際的な軍港佐世保の景観



← 佐世保駅・軍港の表玄関



佐世保は日本の西端、九州長崎県にあつて、昔、日本帝国海軍華やかなりし頃の軍港で権威の兄弟分である。現在、アメリカの陸海軍基地で女の多い町である。と説明すれば成程と分った様な分らない様な返事をされるのが佐世保である。

東京映画製作にかかる観光映画「コンクール」で一位になつた「西海国立公園」が五月から松竹系で一般公開されるので、これが活字となる頃には多少はセセホの認識も湧くことと思われる。歴史を持たぬ土地柄だけに止むをえない。

サテ、三方を山にかこまれ南の一方に海を抱く佐世保は終戦迄海軍鎮守府のあつた軍港で、日露戦争の時ロシアの提督ロジエストウエンスキイ中将を東郷元帥が親しく見舞つたのはこの海軍病院「現

在米軍病院」である。

一と頃は炭坑ブームで北松炭田を控え、漁業、SSK（旧海軍工廠）などの基幹産業で活気を呈したもの、これらの衰頼と共に経済の大半を駐留軍に依存しなければならない何れもが辿る基地の様相を呈している。

駐留軍に直接勤務している者が九千人、その給与が約一億五千万円。キャバレーニュードル、ビヤホール、カフェー、バー、ハムバーガー等約百五十軒、スープニア二三十軒。寄生虫的存在のハウス四百余軒が市内全地域にバラまかれ、住宅街にまで入り込んでいる。

隣接町村を合併して人口廿四万。



数十四という珍らしいものがテッ
子上がつてしまつた。

旧市内は南北に漫の寝床のよう
に細長い帯の様な一本道である。
駅から北に少し行つた處が京町、
島地・山県町を含む所謂「夜店」
地区と呼ばれ、此処にバー、小料
理屋、ハチンコ屋、映画館の目白
押しに節比した界隈である。そこ
から更に北進して玉屋デパートか
らP-Xのある國際通りまでが米軍
向けのバーと商店街と映画館街と
なつて、映画館は邦画を主とする
夜店地区群と、洋画を主とする国
際地区群とに大別されている。

先づ夜店地区には千日劇場（大
映）安福チーンの東宝中央（東
宝日活・新東宝（新東宝・洋画二
番館セントラルが軒を並べている。
その夜店通りを横に這入つて、鮓、
天婦羅、おでんの食物横丁に松竹
三要（松竹）、更に本通りを突き切
つて勝富樂園寄りに佐世保東映
（東映）。以上六館が夜店で白熱戦
を展開しているわけだ。

千日劇場では「風雪講道館」「薔

薇いくたびか」がヒット版。この
正月に名支配人の藤武雄氏の逝去
というう痛打を蒙つた。その千日の
对抗馬とも言ふべき東宝中央は安
福チーン（社長安福秀治郎氏・
長崎県映画興行組合長）の本城と
して「赤と黒」「警察日記」「浮雲」
「天下泰平」などで堅実に稼いだ。
その隣のセントラルは洋画セカン
ド一本で40円。封切館の激闘を尻
目にニンマリと平均して稼ぐ小屋
である。その向い側の新東宝は軒
心の作品にヒット版が少いだけに、
95円の低料金で數でこなす戦法に
出て夜店街のダークホースと見ら



↑キヤバレーから転向の第一劇場・↓洋画のテアトルダービー



↑安福チーンの本城東宝中央

↓国際劇場



←夜店の一署奥・千日映劇

「廿四の瞳」は佐世保でも記録的な動員を収めた。東映のヒットは何と言つても「紅孔雀」「喧嘩若衆」「隼の魔王」と東映ファンの焦点少年層も馬鹿にならぬプラスを示

夜店地区を浅草とすれば、国際地区はさしすめ丸ノ内といった感じでここは全部洋画壇。此の辺一体外國兵相手のキヤバレー、バーの密集地域で看板は横文字の記載である。

島瀬町駅和銀行本店前のアートホール・ダービーは、去年十月キヤバレーから転向したシネスコ館。W.B・MGM系統「ダイヤルMを廻せ」第8ジエット機「掠奪された七人の花嫁」が近來のヒット。



その裏の国道筋の高台にシオスコのカズバがある。昔海軍工廠会館から終戦と共にキバレー、去年十一月三転して洋画専門館に転向した「狂熱の孤独」現金に手を出すな「ユリシーズ」などで儲けさせて貰いましたとのことである。玉屋デパート裏にある国際映劇へ安福子トーンはその昔「みなと劇場」という実演・漫才などの実演劇場だったが戦災で全焼した跡に建てられたガラリと変ったシネマコ西洋専門館で、此の地区の老舗である「ケイン号の叛乱」「長い灰色の線」「砂漠は生きている」等で相當稼いだ。

国際から「プロトクル寄りに是
亦キヤベレーから転向した富士映
劇がある。『ローマの休日』『怪らざ
る河』『ホワイトクリスマス』など
で荒稼ぎした。これもSCとVV
設置であるが取容力の少いのが頭
痛の種である。

カズバの通りに一月スタートした洋画二番館弥生ニュースがある。昔は鉄筋コンクリートの弥生座という劇場だつたが戦災のあと、同じ場所に再建された小屋で洋画一本40円というのがミソ。

国際、富士の通りの是々々キヤバレーから転向組の二番館第一映劇は邦洋二本立。55円を売り物に



↑ヒットをつづける佐世保東映・↓セントラルに向いあう新東宝



* 洋画の第一映劇前を宣伝カーが行く



してデフレ族の懷をねらって案外
小じんまりと稼いでいる。これが
国際地区の六館である。

← 豊や街の松竹三要



この他に北佐世保に邦画二番館
日劇・日字駅と佐世保駅の中間に
ある邦洋二番館の大宮映劇は、夫
夫間辺部の客層を集めている。四
月の実績入場人員二十五万興収一
四八〇万（佐世保税務署調）程度。
以上述べた様に夜店地区は邦画。
国際地区は洋画で激烈的な観客争奪
戦に筋を削っているが、宣伝もあ
る手この手は当然のことである。

各館共ニースカートを持ち、「一番
館に至る迄ダックサンのニース
カト」を飛ばしている。JOMFLA
ジオセボが地元にあることも大
いにこれに拍車をかけ、放送は勿
論、×メアワー、○○タイム、△
△スクリーン便りと各館時間を持
ともなれば、「楊貴妃」「青龍街の狼」
「亡命記」「ゴジラの逆襲」「麦笛」
「天城鶴」「バルテルミーの大魔殺」
「リチャード獣王」「星のない男」
「ララミーから来た男」「裏窓」と
いった大物ズラリ。

↓ 映画館・夜店のある盛り場風景



張し、既に二分の一はこれで切り
抜けつてある。その点佐世保はセ
ールス泣かせのエルサレムともい
えよう。また昔は映画といえば、
「夜店」にきまっていたが、洋画
ファンの増加と共に夜店の客が国
際地区に吸収され、映画決戦の天
王山は国際地区を見る向きもある。

従つて外人の多い処だけに、表看
板は勿論便所、非常口の掲示に至
る迄米両語、座談会も時には彼
等も招いてやらねばならぬ厄介な
事も起るのである。今までえ悪戦
苦斗の処にこれ以上常設館が出来
ては流動人口の少い町だけに共倒
れになる。此の点何等かの方策が
講ぜられなければならぬ極めて危
険な状態である。

カメラ・矢
文・岩
動・永
丸・光
広・生



← 富士映画劇場

↑ 映画「望郷」の風景に似た映画館カズバ

新・盛り場風土記

大阪・阿倍野



阿倍野の中心をなすターミナルデパート近鉄

浪速の南端、大阪の新宿といわれるアベノ地区の盛り場を云々する前に、その間近にある数々の歴史の跡を素通りにすることは出来ない。

その昔、今から一千三百五十年前、或は当時として既に盛り場であつたかも知れず、よし又盛り場でないまでも季節々々には沢山の人出のあつたことは間違いないと思われる。日本最古の寺院四天王寺が、国鉄天王寺駅から少し北へ行つた所にある。周知のように聖徳太子建立にかかる仏法最初のこの寺は、四天王大護国寺と称し、山号を荒陵山と云い、東西八町・南北六町の広大な寺域に伽藍の結構を極めたが、創立以来幾多の兵火と天災の異変に遭い、最も近くは大東亞戦争の爆撃のために旧態を残さぬまことに焼失し、今は僅かに六時堂、本坊、大寺の池、石舞台及元和再建の諸門数字が残されておるのみであるが、最近一大伽藍の再建が計画されていることは誠に喜ばしいことである。善男善女の参詣常に絶えず、春秋二回のお彼岸及お盆には殷盛をきわめ、わけても中日には百万の人出で賑ううと云う。南へ一丁程の所に難波戰記で有名な茶白山があり、附近の邦福寺は普通雲水と云い普茶料理で知られ、歌舞伎で有名な史蹟合邦ヶ辻閻魔堂もこの近くにある。

盛り場の源である国鉄天王寺駅は関西線最大の駅で、戦争のため駅舎の改築はおくれてゐるが、関西線（奈良・名古屋・急行「大和」）のれば東京まで直通）、城東線（天王寺・大阪駅・阪阪駅）阪和線（和歌山市）紀勢西線（和歌山・白浜・新宮方面）などの起点で、一日の乗降客約四十万という。此の駅の構内に南海電鉄天下茶屋線のホームがあり、乗降約三万、天王寺駅の向い側に近鉄南大阪線の終着駅阿倍野橋駅（吉野・櫻原神宮・河内長野）があり、乗降約十七万、南海上町線（住吉公園）約五万、地下鉄約十五万、計約八十万の人々がそれぞの鉄道を利用し、この他市電・バス等の交通網がここに集散し南大阪の玄関の面目



三館を容する近映会館

アポロ通



阿倍野セントラル



劇場ビルアポロ会館

を遺憾なく發揮している。この人波を吸収する興行街に目を転じてみよう。近鉄アベノ橋駅に隣接して近映会館がある。之は旧近畿劇場、近畿地下劇場を根幹に三十年十一月竣工の鉄筋五階の大劇場ビルで、二階より上が近映大劇場（定員二〇〇・TYスバル系洋画ロードショウ・支配人山田哲夫）一階が近畿劇場（定員八五〇・大映封切・支配人山田博昭）地下が近畿地下劇場（定員七〇〇・東宝封切・支配人木口保）で、地下鉄・近鉄百貨店・阿倍野橋駅から直ぐ入れるようになっている関係上興行成績は頗る良好である。南側の阿倍野ビルの屋上にはあべの文化劇場（定員六五〇・東映封切・支配人八部安太）がある。

上町線の電車通りの西側の繁華街

街、旭通りを少し行くと近映座（定員六五〇・支配人藤井市郎）、近く寄席として新発足があり、その筋向いにボケット劇場として誕生したあべの名画座（定員一五〇・新東宝封切・支配人武林建）がある。

天王寺駅前の大通りに面してアポロ座（定員一二〇〇・TY南街系洋画ロードショウ・支配人丸岡英明）が開館したのは二十五年十二月である。芸術院賞の村野藤吾氏の設計になり、東郷青児氏の壁画も美しく、華々しく興行界にデビューして以来洋画ファンの人気をあつめている。そのアポロ座を中心におこなわれていた劇場ビルアポロ会館が、去る三月二十六日の阿倍野セントラル（定員一二〇〇・松竹SH封切・支配人中村



あべの文化劇場



天王寺駅前



市大附属病院

文化劇場（定員六五〇、東映封切
支配人八部安太）がある。

上町線の電車通りの西側の繁華

ル・オーラ全館が、去る三月二日
日の阿倍野セントラル（定員一二
〇〇、松竹SH封切・支配人中村



四天王寺



あべの名画座



近映座



近畿地下劇場



合邦ヶ辻間羅堂

秋義）の開館によりいよいよ実現した。即ち先に開館したあべの劇場（定員六〇〇、日活封切・支配人今村好孝）阿倍野シネマ（定員六〇〇、SY角座系洋画封切・支配人橋弘）の四作の総称がアボロ会館である。

盛り場発展の功績は劇場の建設が大きいにあづかって力あることを思つて、この十館全部が株式会社近畿映画劇場（社長小松茂二郎氏）の経営であることは敬服に値することである。

「アベノへ来れば邦・洋画を問わずどこの映画でも全部みられる、ということがお客様へのサービスであり、アベノを一大繁華街にす

る第一条件でもあるから必要なだけの劇場は必ず建てる」との同社常務取締役営業部長岸本勇吉氏の常々の言葉が実現したわけである。この会社の前身は、昭和十二年創立された、株式会社大鉄映画劇場（社長佐竹三吾氏）で定員五〇〇の大鉄ニュース館のみであったが、戦後急速に大きくなり現在二億四千万円の大興行会社となつた。そのスタッフをみると重役陣に往年学生相撲の横綱で有名な竹田繁七氏（総務担当）、山田良二氏（經理担当）、営業面は次長小松茂雄、営業課長田和雄、営業係長田中邦輔、宣伝係長東満龜雄の諸氏が第一線に活躍している。

阿倍野第一の建物はロータリーの角にある近鉄アベノ百貨店である。

文 本間 仁太郎
カメラ 日下 和時

る。四月一日大増築して延焼坪一三〇〇坪八階建の像容は周辺の買物客を一手に引受けている。この様に交通・娯楽・商店街とあらゆる点で東京の新宿と共通点は万人の認めるところであるが、レストランにしろ、割烹にしろ、又ホタルにしろ高級な店がないのはアベノは大衆的と云えはそれまであるが何か心淋しいものがある。興行の場合にも近くの新世界が通天閣の復活によって往年の生気を取り戻しつつある折柄、より以上の一サービスによって観客招致に万全を期すべきであろう。

記風土場盛り新・山口



記念碑



↑ フランシスコ・ザビエルの傳業を傳ぶ遺産

京の榮えをそのままに、街にわきたつ温泉の香り、ここは山口歴史の都。あける絵巻もなつかしく、山口市民歌にもある様に、山口は四百余年の昔キリシタン大名で知られた大内領主の全盛時代には戸数約二万戸、市街も京都にまねて整然と区画され、政治、経済、教育、交通、文化、など文字通り西日本の雄都として栄えていたといわれる。時あなたも、京都は打

続く戦乱によって極度の衰微を見せ、ために多くの堂上人、文人、墨客らは相次いで来山し、遂に山口は、「西の京都」とまでいわれた。花がさやく代々の趾、山口市民歌にもある様に、山口は、西の京都」とまでいわれた。

きものを大別すると、山口駅通りに始まって今市、米屋町、中市大市、道場門前、西門前に分けられ山口市は、三方を山に囲まれ南に瀬戸内海に達しておるほど繁栄を來し、いわゆる大内文化の絢爛なる華を咲かせていた。

山口市は、三方を山に囲まれ南に瀬戸内海に達しておるほど繁栄を來し、いわゆる大内文化の絢爛なる華を咲かせていた。山口市は、三方を山に囲まれ南に瀬戸内海に達しておるほど繁栄を來し、いわゆる大内文化の絢爛なる華を咲かせていた。



古風な山口駅、朝夕のラッシュアワーには人で一杯になる。

路にあり、前身は演劇場であったが映画劇場に改装され、最近は東宝と洋画の封切館となつてゐる。又夏期時分のナイトショーもこの映画館の名物である。この今市通りを上りつめると米屋町に統く交差点に達し山口銀座とも言ふべき一大繁華街が東西に連つてゐる。この交叉点は最も交通量の激しい所で、一日中交通調査が忙しく、立働いてゐる。交叉点の東側は米屋町、中市、大市、と続く最大のメイン・ストリートで賑やかな大

盛時は勿論、毛利氏藩政時代から明治維新にわたり多彩な歴史をもつ古都であり、市内には湧出する天惠の湯田温泉を中心に、往時の文化を偲ぶ幾多の古跡、名勝、天然記念物、国宝建造物が点在し、閑静温雅な自然環境と光輝ある歴史を有し、県庁を始め官公署、会社及び団体事務所が多く、政治の中心都市。又、山口大学を始め、大小さまざまな学校の多い事など、たしかに学都山口の偉業をはなつている。別名山口市は、サラリーマンと学生の町と言われ、朝夕の通勤時は市内の盛り場を通つて駅に続く狭い道路には、人の列が続き、山口駅は一度にラッシュアワードで賑わうのも珍しい事ではない。市内の映画館五館の内、戦前からあるのは山口松竹と金龍館の二館だけで、後は戦後、芝居から映画へ転向又は新しく出来たもの。先ず山口駅から北上する駅通り、今は昔のままの道で、古風な山口地方裁判所がこの通りにあり続いている小さな商店が並び左側に洋画専門の山口セントラル映画劇場がある。戦後いち早くデヴューした洋画の封切館で、小じんまりした建物だが天井が低いので夏期時は非常に熱苦しい感じがする。「終着駅」「シェーン」が最近ヒットしたせいいか今まで絶対の人気をもつっていたジョン・ウェイン、ゲイリー・クーパーをはじめ、ソンゴメリイ、クリフト、アラン・ラッドがトライブに出ていた様だがやはりアクションものと恋愛ものが一番受けている様だ。また「風と共に去りぬ」を二週間ロングして有名になつた山口東映は、セントラルを少し離れた右側の後町の小

BUCHI Central

日本本の春物大賣出

右京邦柄大賣出

西村

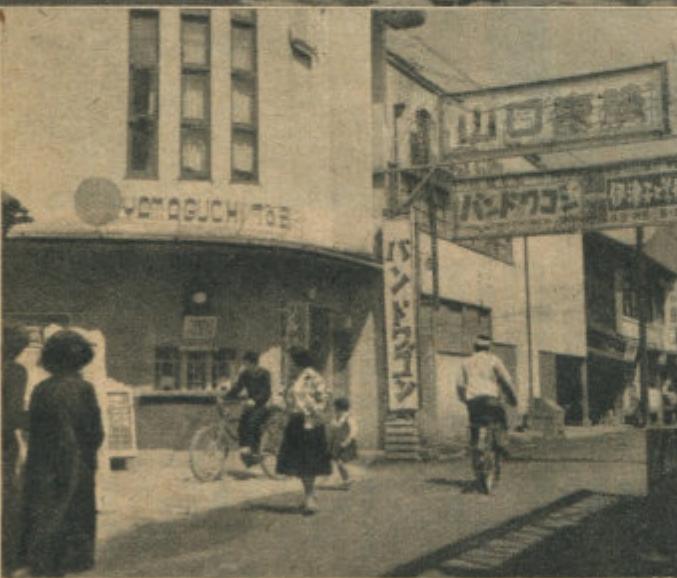
大賣出



↑洋画封切専門の山口セントラル映画劇場。

←山口銀座とも云うべきメイン、ストリート、米屋町の商店街通り。

数万箇の紅提燈で飾られた有名な七夕祭。



小の商店街が続き、夜ともなれば
数万箇の紅提燈で飾られる有名な
七夕祭も、この街路で催される。

又この街、唯一のデパート、八木
百貨店。が中市通りの右側にデン
とかまえ、最近新しく改築され、
恒例の大賣出し。山口デーには、
近郷近在からの買物客で雜踏をき
わめ、表はバスの発着場となつ
てゐる為に人の波で賑つてゐる。

中市通りを更に東へゆくと一番
新しい有楽座が大市通りの左側に
ある。小さいながらスマートな劇
場でここは邦画の再映専門で興行
成績は山口随一である。二本建五
十円が大衆に親しまれている様だ。
観客層も大衆的で家族連れが多く
山口松竹で封切られた。君の名は。
が二ヵ月遅れて再映されたが、
それでもヒットしたというから。
君の名は。の馬鹿当りも大したもの
だ。又この劇場の近くにはバチ
ンコ屋が軒並みにかたまつて狭い
道路には、づらりと並んだ自転車
が一大オバレードをなしてチン

日本



↑空より見た山口市——右下に見えるのが山口駅、駅より上手に延びる道が繁華街、左上に見える建物は山口大学、高校、県庁舎など。



↑女性に人気のある山口松竹。

山口市の中心交差点、これより北に早間田通り、南に今市駅通り、東西に米屋町、道場門前通りとなる。



東宝 各社封切の山口東映。

山口松竹の裏を流れる一の坂川に沿って白壁の三階ビル山口市庁舎が建っている。この市庁舎附近は道路も広くすぐ前方には山口大本部の建物が最近完成されたばかりで北に続く道路は山口県庁に達している。

市庁舎の前方の丘陵地は龜山公園で、公園の南側はカトリック教会の聖城になつておらず、スペインにあるザビエル城を模したローマ様式で聖フランシスコ・ザビエルの記念聖堂が建てられている。

公園の麓には山口大学を始め各学校があり、北隣には博物館、図書館が連つており、その昔山口藩の館が現在の県庁舎がある。

久、五百年の昔大内盛見が建立した有名な五重塔はこの附近の瑞光寺境内にあり、寺やかであつた大内文化をしのばせる代表的国宝の一つである。更に桜の名所

ジャラとレコード音楽に明け暮れしている。

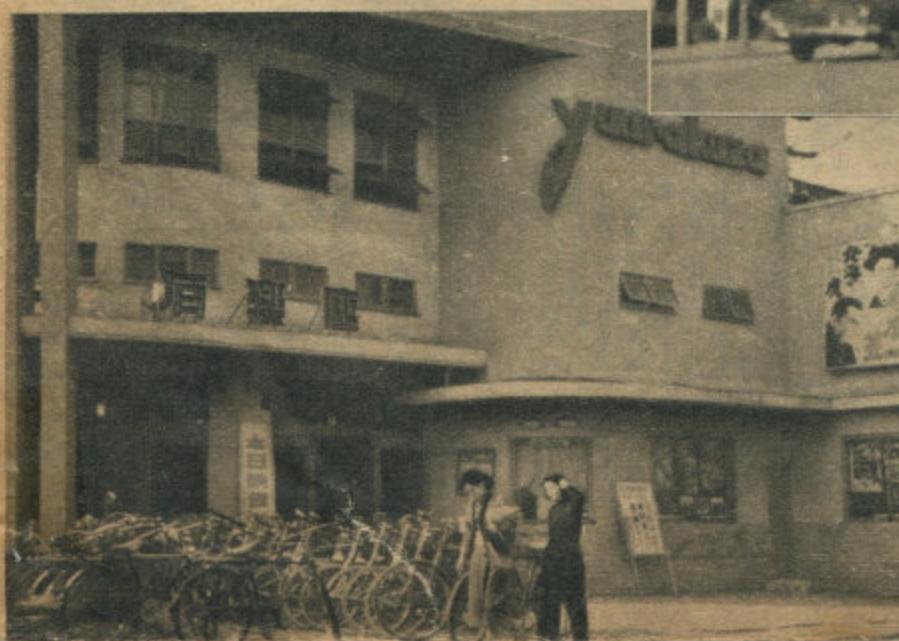
道には、ぱりと並んだ自転車が一大オバレードをなしてチ



として知られる後河原は県庁の東方にある一の坂川の両岸にある桜が川の清流に映する風趣はまことに美しい所として知られ、その他大内氏、毛利氏両時代にまつわる幾多の古跡なども、この附近に散在している。

新日本観光百選に入選した湯田温泉は、山口市の南端にあり、美しい山波に包まれた静かな温泉郷である。鋪装された通りには大きな旅館が立並び、いずれも近代設備を完備しており、心地良い霧雨気など湯田音頭に明け暮れる温泉街の情緒と相まって旅人の心を楽しませ、四季の清遊に好適地として広く親しまれている。

現在唯一の映画鑑賞団体として残っているのは、ワカバ会で、山口大学を中心広くインテリ会員を網羅し、芸術性の香り高い欧



米の優秀映画を上映して高級映画ファンに絶対的な支持があり、山口大学映画研究部が活躍している。郷土の彫刻家、故田坂柏雲氏の道元光善君が丹精籠めた十四体のキリスト磔罪の彫刻が内部に飾られているザビエル記念聖堂から、それが近くなると、和平の鐘が世界に響けとばかり、神の永遠の祝福を称えた山口に、新しく聞えてくる事であらう。

文、カメラ・樹林真爾
協力・山口県庁・山口市役所

記 土 風 場 り 盛 ·

岡 山



中国山脈に源を発し、清流豊かな田園風景を映し、日本三公園の一つ「後楽園」をかかるようにして南下、瀬戸内海にそそぐ旭川——この流域に東西十二キロ、南北二十一キロの「備前岡山」がひらけている。

岡山市は城下町で、江戸時代から本格的な発展をみせ、明治維新とともに県庁の所在地となり、明治二十二年に市制をしき、昭和二十年六月二十九日の空襲で市の三分の二が焼失した。戦後は隣接町村合併で、二十七年には四度目の市域拡張から市内に国鉄の駅が九つもあるB級都市となつた。

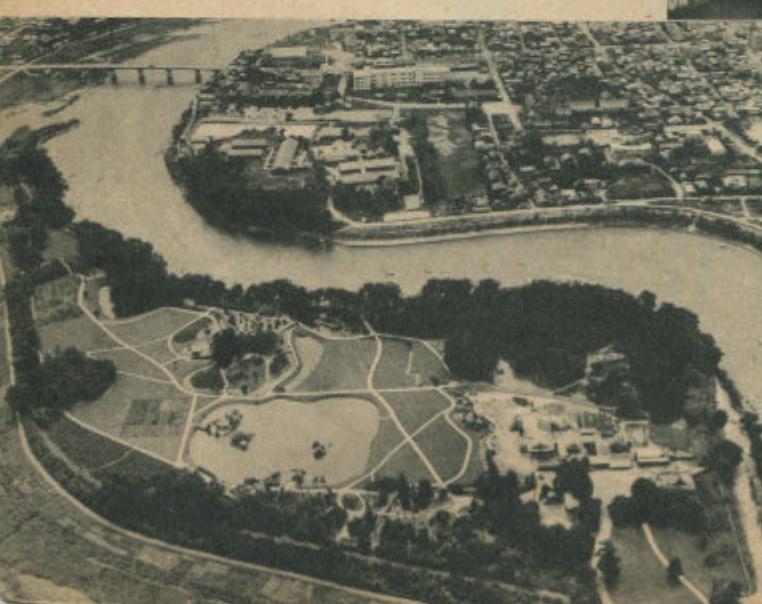
陰陽、中四国連絡のポイントである岡山駅は伯備線、津山線、吉備線、四国に渡る宇野線の分岐点である。プラットホームにはフジ色のワンピースに純白の帽子を着けた五人の「桃娘」が胸のアゴに当地の名産「白桃」を一杯入れて涼しい眼で車窓に近付き、旅の息吹を満喫させて與れる。

「トップ・モードが活歩しているかと思えば、

↑岡山駅の息吹・桃娘。

田舎そのものの洋装婦人が下駄ばきでヨコヨチ……」とティザイナーの中原淳一氏が岡山市を批評しているが、岡山の街の姿はその通りかも知れない。モダンな岡山駅の前にコワブキのバラック街がうごめいていたり、シルバー・アーケイドがいたる所で切断されたり……、そんな街の中に都会文化と田舎文化が交錯しているのであるから全く不調和極まりない。人工の幹をつくした名園の鬱郁高い後楽園も、池田隆政・厚子夫妻の経営する岡山新名所・池田産業動物園も不調和の中の名所として存在しているのである。

さて、岡山市の映画館は「戦災後、市街中心の布障が破られ、市の周辺に乱立、七館から一躍十六館に増え、完全に観客動員の限界をオーバーし、人口二万に一館」の



←天下に名高き後楽園と旭川。（機上より撮影）



→千日前の若玉館。
夜の千日前、映画街。左手に木下興業の本陣
白鳥座が見える。



→千日前の若玉館。
夜の千日前、映画街。左手に木下興業の本陣
白鳥座が見える。

千日前の西方三百メートルの所に、市長の経営する大福座がある。邦画三番館で、二三本建六十円。庶民階級のオアシスだ。

岡映は千日前の筋に続く表八ヶ町商店街を北へ一キロの所にある。戦後、洋画進出の波に乗って登場、今春大改装を行い、東宝直営になり、ハリウッドものを上映している。

岡山駅前の中筋には、昨年十一月、福武興業社ご自慢の歌舞伎座が誕生した。鉄筋第二階建で、舞台は上方

業者の常識は破られた。相次ぐ町村合併で市の人口は現在二十三万に増えているが、一館当りの入場者は戦前に比べて半減。そのため封切館でも二本建、二番館になると三本建や特別奉仕」と銘打った入場料割引などで客寄せに四苦八苦の態である。

岡山市の映画館は、木下大サーカスの本部木下興業（千日前）と福武興業社（岡山駅前）の二つの顔役に牛耳られている。木下の方は岡山第一の繁華街（千日前）に、金馬館、若

玉館、文化劇場、白鳥座の四館を有している。千日前はパンコと風船ゲームが盛んで、岡山駅前の中筋、奉還町とともに「パンコの億万長者が二人生れた」という。戦後イの一番に建てられた金馬館はお粗末なバラック建。つい最近までは二番切の二本建だったが客足が少く、遂にニュース専門館として再出発した。お隣りの文化劇場ではストリップや一流の劇団が実演をするが、一日の入場者が百人を割る日もあるという。邦

画二番の三本建。木下興業のドル箱白鳥座は娯楽街の真只中で氣焰をあげ、鉄筋三階建の近代設備を誇っている。大映々画を中心とした邦画館。その隣りの若玉館では邦画封切の二本建。

松竹直営の松映は金馬館の前にある。戦前は音園館の名前で親しまれて来たが、戦災後は石ぶきに改裝され、松竹独特の雰囲気を持っており、松竹映画封切で客足は盛んである。

千日前の西側二百メートルの所には、市長の経営する大福座がある。邦画三番館で、二三本建六十円。庶民階級のオアシスだ。

岡映は千日前の筋に続く表八ヶ町商店街を北へ一キロの所にある。戦後、洋画進出の波に乗って登場、今春大改装を行い、東宝直営になり、ハリウッドものを上映している。

岡山駅前の中筋には、昨年十一月、福武興業社ご自慢の歌舞伎座が誕生した。鉄筋第二階建で、舞台は上方

↓岡山一の商店街、表八力町の夜景。



↑岡山で始めてシネマスコープを公開したのは福武興業
社の歌舞伎座である。

↓東宝直営の岡映は上之町にある。



→新西大寺町にある大福座。



の歌舞伎をそのまま再現出来る。シネマスコープもこの六月当市で始めて実現出来た。洋画一本建。前の松竹座は邦画封切の二本建。福武社長に三子あり、長男は歌舞伎座を、次男は松竹座を経営している。また三男は百貨店「天満屋」の西にあるセントラルをやっている。ここは洋画の封切館で、時には名画の二本建もある。

セントラルのやや北にチトセという木造平屋建の洋画二番館があり、活劇もの上映で稼いでいる。チトセは戦前から洋画館だった。

歌舞伎座の北八百メートル、チトセの北五百メートルの地点に、戦後、銀映がお目見得した。洋画二番館。

銀映の西方に戦後派の日劇。最初は洋画の二番館で甘んじていたが、三本建サービスの口火を切つたり、阪神と同時封切をやるなど波乱万丈をきわめている。

以上のはか、市の周辺に洋邦画の二番館がいくつも出来て、市街地の映画館をおびやかしているが自らの経営もあり楽でなさそうだ。

最後に岡山市内の繁華街を少しき散策してみよう。
勿論、岡山の繁華街の中心は千日前。前記五つの映画館が密集し、バチンコと風船ゲームの騒音が耳をおおう。バチンコは四百五十台を最高に、稼ぐ者と稼がれる者とが娛樂を超越してしのぎをけずつていて。

→戦前からの洋画封切館チトセは活劇上映で大いに気泡をあげている。



↑岐阜の長良川から本職の漁師と漁を招いて、後楽園附近の旭川で撮影を始めた。



↑チトセの北にある銀映は洋画二番館で、大いに稼ぐ。



↑岡山名物、陸の真珠、温泉のマスカット。

東中山下にあるセントラルは洋画封切館。



千日前の北緯は岡山一の商店街、表八カ町。巾十メートルの舗装道路の上に、一商店当たり十万円を投じて、シルバーアーチードがこの春出来た。通りの真中どころに鉄筋六階建の百貨店・天満が白タイル張りでそびえている。アーチードの下には鉛蘭燈が取り付けられ、商店のネオンと天幕が景気をつけている。

この筋の表裏を私営のチンチン電車が走り、西方、柳川、西川を経て岡山駅に達する。

大分

墓地公園から市内を望む（遠景は別府湾）



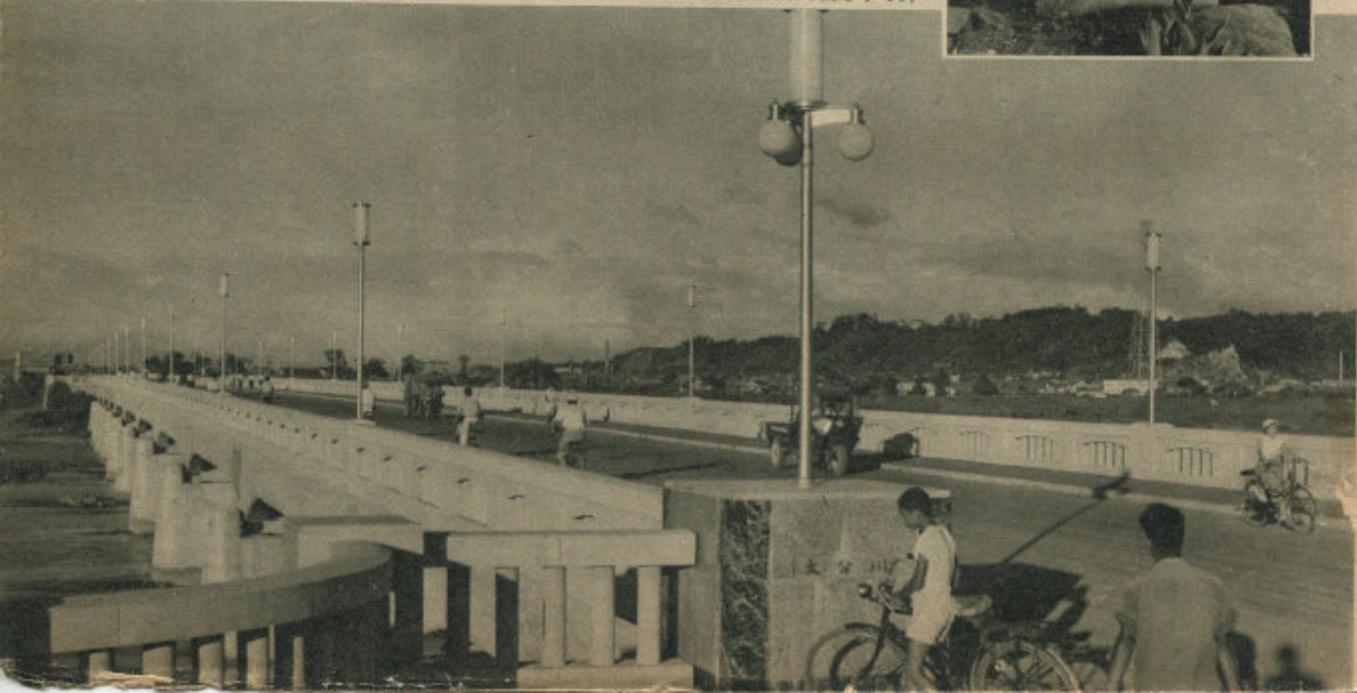
「別府の隣りだ」と言われて、「あ、そうか」と氣付かれる、人口十万の大分市も、三百八十年前、戦国末期の大友二十一代宗麟時代は、今日、想像することも出来ない位、賑やかではあつたらしい。

豊後、筑後の全部、豊前、筑前、肥後の一部を支配し、薩摩の島津、中国の毛利、四国の長曾我部を圧し、鎮西の権勢を誇り、城下の府内に神宮寺浦を開いて、ボルトガル、シナと交易し、切支丹を容れ、教会を建て、東洋一の貿易都市として、二十万の人口を集め、京都、堺、博多に比肩する大都市であった。

大友時代に培われた政治権力の集中度や、経済力の蓄積量が、秀吉、家康を恐れさせ、江戸時代に領土は細分化され、府内城の主も幾度か変り、あれ「別府の隣りの大分市」とはなつたのである。

若くして去った、天才作曲家「荒城の月」の池澤太郎の像と、これも郷土出身の明治文豪氏の彫像を中心とした、大手通りの遊歩公園はじめ、市内五指に余る群小公園は、上田市長の言う文化都市大分の象徴でもあるが、最近、名を高めたのは、三井プロ「野球の生態」で知られた高崎山の猿である。後楽園のノンプロ野球でも、宣伝に一役買っていた。市長の夢は飛躍して、今、日本最初の切支丹博物館の建設にあるようだ。猿から神へ――

ボルトガル船渡來を記念する碑→





↑ 名西映劇



↓ アポロ映劇



↑ テアトル若草 ↓ 中央映劇



人類史を超えた嬉しい夢ではないか。戦前、劇場二、映画館四であつたが、二十一年七月、八月に戦災、焼太りは、官庁街と金融機関、興行街であることは、当市ののみではあるまいが、現在一場未の小屋を除いて、映画館が十館となつた。(この内、二館は本年八月末に竣工)二万に一館の比率にはや、乱立の傾向は見られるが、お隣りの別府が、遊客を当てこんだにしても、人口十万に十七館の群雄割拠に比べると、閑散で、堅実と云えよう。

日豊本線の中間駅、大分は、久大、豊肥の終着駅でもあり、まづ、東九州の交通都市だが、駅は古くさい旧時代の建物、いずれは改裝されようが、どこにも見られる駅前の繁華街が、ここではない。市長の方針もあるが、終戦後、くすくしていいる裡で地価が暴騰し、銀行資本家も一寸手が出ない格恰。駅前通りを北へ、約二百米行くと、右側に、一尺の小さい新東宝で、市内最大豪華な中劇院八百五十名の、中央映画劇場(東宝、新東宝)と同じく八百五十名の名画劇場(松竹)が隣り合つてゐる。近来低調の東宝と、スケールの小さい新東宝で、市内最大豪華な中劇院も、このところ順調とは言えないが、そこは歩合館の有難さで、結構体面は保つてゐる。九月以降は、東宝に大作が待機しているので、秋口からは稼ぐと思われる。

ライバル名劇は、昨年「廿四の鐘」(君の名は)によつて、県興行ベスト・ワンを占めたが、これは、松竹、東映二本立ての賜物。現在、松竹のみで、番組編成にも苦勞がある。封切としては宣伝が地味だ。

電車通りから西へ、若草公園の一角に、唯一の洋画封切館、テアトル若草がある。フィードも真先にとり入れ、固定した人気を持つ。月中、「二週はインテリ向き」、他の二週は西部劇、スリラーのアクションものを組み、競争相手のないのが強味。難を云えば、電車通りの繁華街や、竹町商店街から離れていることで、見るために入る客のみで、フリーラ入場は期待出来ない。経営者、渡辺氏は、当市の

東映



↑改装なった大分東映

↓トキハ地下映劇入口とトキハデパート

↓繁華街の竹町商店街



代表的な興行人で、電車通りのトキハ・デパートに、地下劇場をも経営している。大映、日活の二本立ては、何といつても強力であるが、それよりも、大分バスのターミナルと、デパート、映画館の立体的な経営は、立地条件として申分なく、全国的なテストケースとして注目されている。数百万を投じた冷房装置も大都市なみで「沙漠は生きている」警察日記「月は上りぬ」「楊貴妃」は、夫々記録的大入りを示した。若い支配人が勉強家で、観客の嗜好を、精密なデータにまとめているのも偉いが、変化に富んだ日活作品と、色彩の大作の大映では、質量共に、他の邦画上映館を常に圧倒しているようだ。

電車通りから東へのびて、大分東映がある。今年三月、大洋映劇を改称改装、新発足した。大洋時代は、松竹、東映の二番館、三本立て五十円劇場として、庶民に親しまれたが、封切館としての成績はまだ十分とは言えない。農村の二十才前後の青年が観客で、錦之助なり、千恵藏、右太工門が強い。二本立てナイショには、二日に跨る観客も少くない。日活を除く邦画各社の二番館に、東映映劇がある。戦時中、東大分への発展を見こして建設されたが、戦後の電車通りを中心とする繁栄のため置去られ、二本立て四十円も仲々苦しいところ。東映のライバル

鶴倉文夫作の作曲家滝廣太郎像
(遊歩公園)

← お猿の王国・高崎山麓

商店街竹町の西端に、洋画二番館のアボロ映劇がある。戦後、最初に洋画を上映した先駆者であるが、現在は、二本立てに工夫をこらし、作品の選択が比較的の自由なのと、宣伝費が少くてすむので堅実な経営を行っている。毎土曜日の夜市に、フーリ入场が多く、ウケに入っている。

市の西部に、西大分映劇がある。邦洋画各社の二番館で、客筋は、富士紡績と花街を中心としている。

昭和一十三年、二十四年頃は、一ヶ月二十万から二十五万の観客が、市内映画館につめかけたが、現在は、月平均十五万。デフレの影響は作品の敗退となり、興行街にも不景気風が吹いて来たことになるが、シャーナリストに選かれた作品は一応安定しているようだ。色彩でも「子姫」クラスの中途半端な内容では失敗するが、「おふくろ」「姉妹」「女中ッ子」

↓ 歩道公園（映像は朝倉文夫の「みどりのかげ」）

が成功するところに、眠った様な大分市にも、頼もしいものが感じられる。これには、大分合同新聞社主催の市民劇場としての文化事業も陰の力となつてゐるようだ。映画協会の高松氏は言う、「今日、唯一の大衆娯楽—映画を、もっと安く、より多くの人に楽しんでもらいたい。五十円以下は無税にする様、政府にお願いすると共に、フィルム料金の値下げを会社に申入れ、映画館側には、気安く、親子併用で、楽しめる雰囲気を、市民に与えるよう、伝えている。例えば、宣伝方法も、もっと高尚にしなければ、市民生活に溶けこめず、從つて効果もあるまい」。

白雉城下の、平和な大分市にも、次第に、文化的な力強い歩みが、映画館という社会の一隅から盛上りつゝあるようだ。

文・清田嘉宣
カメラ・川島進



大分市役所庁舎・県教育会館（上は国鉄大分駅前広場）

十 部 国
通 信 社



新・盛り場風土記

青森



▲ 青函連絡船とヤミニ屋と……、青森駅附近の表景
津軽富士といわれる岩木山は津軽乙女の巣窟である

東北線と奥羽線の終点、青森。このホームは日本一長いといわれる。

北海道との連絡は人を埠頭までみちびくだけでなく、貨車を船に積むためにレールがあり、ホームがある。かくて日本一長いホームになってしまった。

青森市の繁華街も、船と汽車がどこから発つか、どこに着くかで大いに変わった。

みちのくの外ヶ浜なる呼子島の古歌にててくる磐知島、安方の部落はあつたにしても「青森」の部落はなかつた。たゞ海上から見る目にもあさやかに青々と茂つた森があつた」と記録に残っている。

▲ 津軽藩が南部備の野邊地港のような開港地を求めたのは、油川であつたところをみて、いわば青



↑新町通りの夜景。戦災で崩壊した青森市もこんなに復興した。

東宝・新東宝→系の青森映劇。



↑市の中央に建てられた観音像。年に一度此處で戦災死した人々の慰靈祭が盛大に行われる。



い森の東に大きな川が流れ、漁民が散在していた漁村に過ぎなかつたろう。それが殿様のお声がかりで船が入り、荷が動くようになつた。防波堤もなにもないのだから、避難には堤川に入るより外ない。船問屋や船乗りの命拾いをなぐさめる彼女たちの屯ろする場所が、この附近に蜡集するのは当然である。

蜆貝町、塩町、米町、大町、大工町、鐵治町、寺町などと新興都市建設計画を着々とすめた意気込みが想像される。ところが「青い森」はどこへ行つたかといふと、そのころには天然記念物の指定も保存もなかつたので、削りとられ、果ては一邸宅の庭園におさまるくらいになつてしまつた。これも明治四十三年の大火で、緑の森は全く姿を消した。(青森市沿革史) 明治維新のアブレ・ケールが青森市であるから、現状破壊的精神が性の解放へます向うのは歴史の本道らしい。青森市に高等學校を誘致しようとしたが、風紀が悪くて、弘前市にとられてしまつた。(いまは県庁所在地で新制大学のないのは青森市だけだと、現市長は大学誘致に必死になつてゐる) 明治二十二年の大火で塩町から遊郭が移転、堤川を越えて茶屋町に三階建の妓楼をたて、夜は大堤灯が堤川の波に映えたというから相当なもの。

明治天皇が北海道に御渡海した地点に蒸氣船へ通うハシケの橋橋があつた。もちろん北海道へ行く人も汽車を降りて、ここから乗つ



← 西部劇上映で人気のあるロマンス座。

↑ 近代的な建築を誇る歌舞伎座。

↓ 駅の近くにある青森松竹(左)と新興劇場(右)。ヤミ市場はこの道の奥にある。

洋画二番の第一劇場も、西部劇・ギャンブル映画で大いに稼いでいる。



たし、天候が悪ければ二、三泊の観悟とお金が必要であつた。そこで、ぐらいの悪天候でも突破できる船ができ、鉄道の連絡が順調になれば、乗客・貨物が青森駅の方へ移転、青森駅が拡張され、出入口が町並にして一つ南下した。そして現在の繁華街——駅前通り即ち新町通りができるが、あがつた。青森県には日本一がまだ一つある。リンゴ。二十八年度の実収高は千八百五十九万二千箱、今年度は二千五十六千箱が予想されており、平年作一千八百万箱)を上回ることが確かなようである。目下、早生ものの祝の収穫期にある。青森駅を出ると、このリンゴが

堤河畔のマーケットに隣接してオデオン座がある。



↑駅と連絡船を結ぶ日本一長いホーム。

↑青森港の岩壁。青函連絡船が見える。



これでも買わぬか」とデモ陳列をやつてゐる中を東洋劇場と青森映画劇場の二館とデパート二つ（富士屋、松木屋）があり、南へ町並を一つ下れば、県庁、警察、裁判所、赤十字、県立中央病院など橋籠から集場までの一切の真跡について用が足りるという調法さである。

戦後のカツギ屋さんは汽車を待つ間を映画館で過すのが一はん安かつたというが、青森駅からすぐ南に、いまもなお繁盛をきわめているマーケット近くに、青森松竹（松竹封切



館）新興劇場（日活・大映封切）の一館が仲よく向い合って、大いにお客を吸引している。新町通りを二通りか三通りくらい小さくした店舗街が、昔なつかしい夜店通りの名前で親しまれている。

この夜店通りには洋画（番館）第一劇場とロマンス座（洋画封切）がある。往来の繁華街大町（いまても問屋筋がスラリと並んでいる）は老年の感じだがには米画専門の歌舞伎座があり、堤川の河畔に並ぶマーケットの端に洋画専門のオデオン座がある。このほか国際劇場（日活封切）、堤川をこえると高榮劇場（松竹封切）、日の出劇場、と書くと映画館が十館ある。わずか人口十二万の小都市に、十八館もの映画館があるということは、



それだけに宣伝戦の激しさが窺える。

戦災で青森市全市が焼野原になり、死者千人を出したが、そのさい厄をまぬかれた青森駅から、合浦公園が眺められたという。この哀しみが報音像（三田慶・氏作）となつて、柳町ロータリーから下界の人間の哀歎に苦笑しておられる。このロータリーは戦災記念の五十メートル幅員道路の真中にデ

ント構え、旧七月七日の七夕祭には青森名物のネブタおどりをみるのに絶好の場所である。

青森市は船と汽車で繁栄がきまる。戦後微々たる存在であった舗詰工場も昨年からの北洋漁場再開で、やつと一と思ついた。市繁榮の一策に競輪がはじめられた。このため合浦公園の一隅にある公認競技場はつぶされて競輪場となり、残りの半分は駐留軍の住宅地帯に貸与された。花見や海水浴には肩身の狭い思いをしている。

町中バチンコ屋の前に、朝から自転車が並ぶという風景の中で威容を示しているのは県立図書館である。コンクリート二階建、工費七千万円という地方財政窮屈のさに相当な決断を要しただらう。蔵書の数は三度の火災で全滅の憂目に遭つたから、まあ文句はいわれることにして、外装を今年中に完成文化の日までに落成式をあげたい。といつてゐるが、これが青森市に落着きをあたえるキッカケになるかも知れない。

新・盛り場風土記

福井



福井市復興の像

福井市は大阪から六時間、東京から十二時間、丁度太平洋を底とした不等辺三角型の頂点にある。歴史的には京・大阪の影響を受け、今日も文化・経済的に関西との交流が多く、東京の影響はあまりないようだ。

古代、縦体天皇の出生地であったことはさておき、戦国時代「北の庄」として猛将柴田勝家が拠つた所であり、徳川家康の孫松平忠通が封せられてから福井と改称された。

市街は足羽川をはさんで南北に伸び、九十九橋・新橋が両岸を結んでいる。雨量が多く、気温湿度が機業に適しているところから、羽二重・人絹の生産は全国的に有名。特に人絹は全国生産の半分を占め、福井シルクの名を世界に轟

庶民的な盛り場・日之出商店街



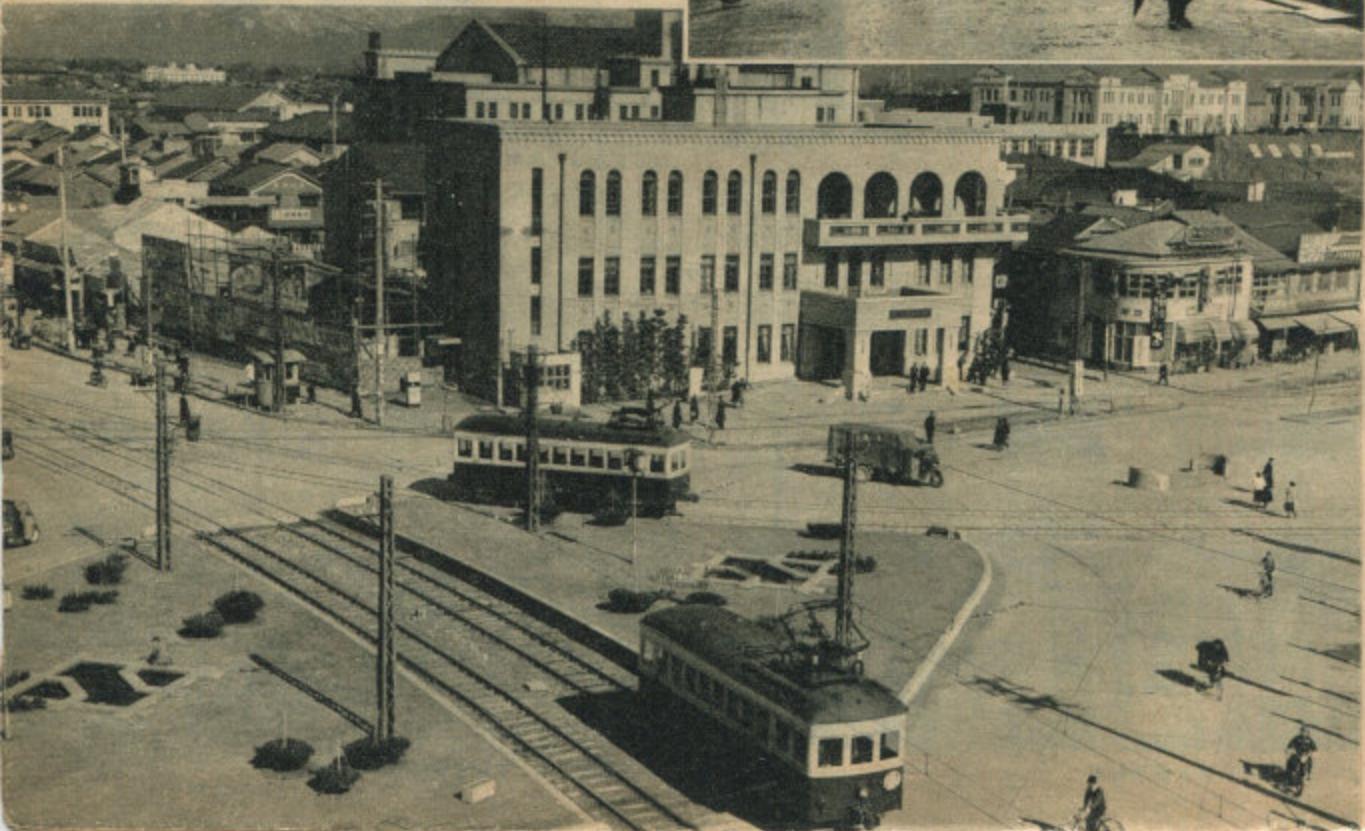
かせている。

さて、今日この頃、福井を訪れる人は、その復興ぶりもさりながら、駅前を縱走する街路の素晴しさに驚くだろう。戦災、地震と徹底的に破壊された為、熊家現市長は宅地の二割を道路に買上げ、大福井市建設の礎とし、将来の大躍進が期待される。

交通は駅を中心とする京福電鉄大野芦原線、福武鉄道武生線が東西に延び、市内バス、郊外バスも駅を起点としている。とくに京福線沿線の大本山永平寺、泉都芦原、奇勝東尋坊は宗教のメッカとして、又観光の地としてあまりにも有名である。

駅前から程近く、旧松平侯本丸城跡に石垣とお濠に囲まれた福井県庁がある。その昔、多くの家臣

大名町ロータリー・ここが福井の中心地となる





を引具して通つた橋も、現在はおえら方の外車や、お役所勤めのホワイトカラー諸君で、朝夕賑つてゐる。しかし、石垣の曲線、堀の色に、往時の壮大な景観を充分に偲ぶことができる。

ところで、福井市には盛り場らしい盛り場はない。これは福井人内攻的な性格と、消費階級が地味な商人、近郊の農民であるためだろう。強いて盛り場を求めれば、駅を起点とした本町通り、日之出、新栄商店街がある。この商店街は戦後の闇市が整理されたもので、現在でも闇市という人もあるが、新しい商法とバラエティに富んだ宣伝で、田舎の顧客を引きつけている。

日之出商店街東口には中央劇場（定員一〇〇〇名）がある。地震場に崩壊しなかつた唯一の劇場で、今まで洋画専門館だったが、今年の一月から同系の国際劇場と入替り、松竹、日活専門館となつた。中刺は、戦後他に魅けて洋画を上映し、一時は人気の尖端にあつたが、最近やや不振。とはいへ、何といっても地の利を占る關係上、客足は相当なものだ。

新栄商店街の西に丸の内劇場（定員六二〇）がある。元来は洋画セントラル館として出発したが、現在ではストリップ専門に転向し、同時上映の洋画はおそれもの程度である。これと向合つた旧松竹座は、鉄筋の立派な建物ながら、何しろサイレント時代のものであり、トーキーには致命的欠陥があつて、一時はバチンコ屋になつたこともある。現在休館状態にあり、老喫



シネマスコで客を呼ぶ洋画のメトロ



福井東宝は大名町ロータリーの近く



場地帯にある権南劇場



福井東宝と同じく加賀産業経営の大衆館



シネスコで立ちなおった国際劇場



佐佳枝劇場は一番古い映画館だ

画ファンの思い出の種になつてい
るのが聞の山だ。ここから西に二
丁、佐佳枝町に佐佳枝劇場（定
員二〇四〇）がある。県下最大の
「だるま屋」として県下の人々に親
しまれて来た。その間信一氏は県
の財界、教育界に貢献して來たが、
取扱力をもち、場所もよくネオン
も美しい、誠に恰好な映画館だが、
残念ながら洋画二番では魅力に乏
しく、客も引きにくい。以上三館
うち寄せるデフレの波には勝てず、
昨年十一月増資による一部債務の
償上げをやり、更に本年に入つて
から他人資本による増資と、かつて
の「坪川のだるま屋」が薄らい
で来たことは、一部の人に惜しま
れている。

旧松竹座と佐佳枝劇場の東西に
隣接して、県下唯一の百貨店「だる
ま屋」がある。鉄筋三階、かつて
吉田自由党派の代議士として活躍
した坪川信三氏の実兄信一氏の経
営になり、過去二十数年、福井の
「だるま屋」として県下の人々に親
しまれて来た。その間信一氏は県
の財界、教育界に貢献して來たが、
取扱力をもち、場所もよくネオン
も美しい、誠に恰好な映画館だが、
残念ながら洋画二番では魅力に乏
しく、客も引きにくい。以上三館
うち寄せるデフレの波には勝てず、
昨年十一月増資による一部債務の
償上げをやり、更に本年に入つて
から他人資本による増資と、かつて
の「坪川のだるま屋」が薄らい
で来たことは、一部の人に惜しま
れている。

三七等、昔からの老舗が建ちなら
うち寄せるデフレの波には勝てず、
昨年十一月増資による一部債務の
償上げをやり、更に本年に入つて
から他人資本による増資と、かつて
の「坪川のだるま屋」が薄らい
で来たことは、一部の人に惜しま
れている。

一時はパン屋になつたこともあ
る。現在休館状態にあり、老喰

シネスコで客を呼



工場地帯にある構



福井駅前の整然とした広場



北陸一の福井地方裁判所



↑ 番に囲まれた県庁

所謂大船調が受けないことも原因として、バスで客を誘致しても成績はあまり上らず、洋画に転向してシネスコを設置し、第一回作品「聖衣」を封切つて好評だった。この片町通りと大名町通りの間に挟まる一帯を通称馬場通りといい、伊藤忠、丸伝、東洋レーション各支店、地元商社が軒をつらね、人織物の中心地をなしている。新橋を南にバスで約十分、木田商店街の入口には横濱劇場がある。邦画セカンド館だが、大和紡績、福井精糸、酒井精糸等の工場が近くにあるため、評判映画の一番と大衆料金のサービスで、案外の客を呼んでいる。

以上で映画館を中心としたステチを述べたが、人口十万に満たない小都市に映画館八館が競つて居る現状では、いかにも鳴物入りで宣伝しても思うようには行かない様である。これは映画館だけではない。他の諸工業にしても、県の基本工業である機業が思わしくない現状ではどこも同じである。各機業工場では、スフ、ピニロン等への転換が考えられているが、資本の関係でそれも思う様には行かない現状である。

新・盛り場風土記

酒田

山形県

「本間様には及びはせぬが

せめてなりたや殿様に

こう古老から語り伝えられた想

と云つた方が通りが良く、戦後も

ジヤーナリズムはその甚大な所有

地を農地改革によって解放した斜

陽地主本間家にメスを入れようと

統々やって来た。その中の作家武

田泰淳はルポルタージュ「酒田の

本間家」(中央公論一七年秋季文

芸特輯号)を書き、大宅壯一は「週

刊朝日」(一九一九年七月四日号)の

「日本拌見」に「酒田」をとりあ

げ、その中で本間家の歴史を興味

深く書いてある。またそのどつち

にも、暴露記事で戦後の話題をさ

らったマーク・ゲインが本間家の

倉庫に金の延棒を探しに来たこと

を書いている。(いかに本間様で

も、その様な原始遺産はなかつた)

酒田市は山形県の北部、日本海

に面し穀倉地帯を背景として芭蕉

の「奥の細道」で名高い最上川の

河口を抱いてる港都で、人口は

ご時勢の町村合併で近隣十ヶ村を

吸収し六万余から九万七千にふく

れあがつた新興中都市である。歴

史上から例をひくと、江戸時代に

は「関西の堺」と並び「東北の堺

と称せられた商港都市で当時を偲

ばせるものも、もはや少いが西鶴

の「日本永代藏」に出てくる船問

屋の鎧屋などは現存し、最上川の

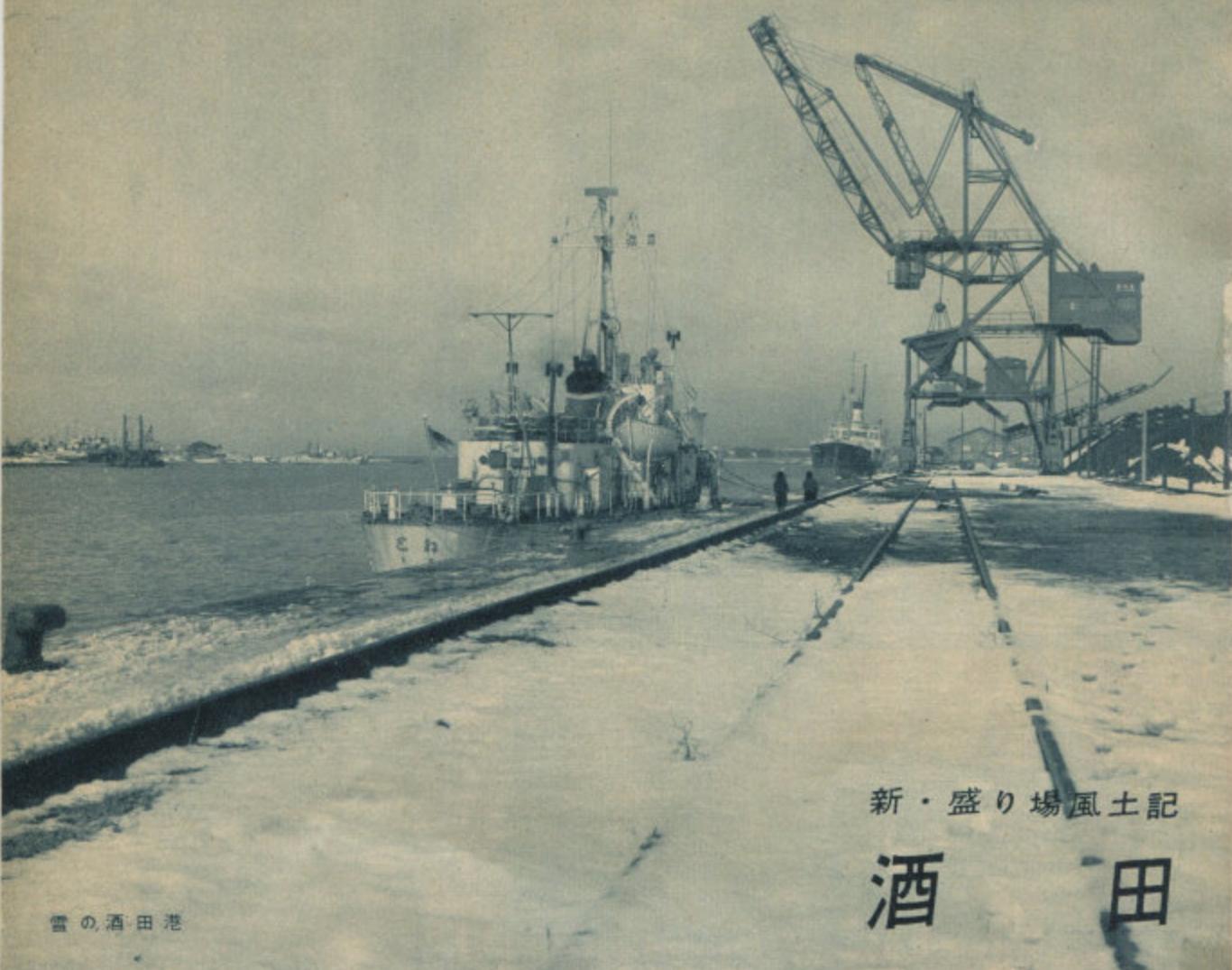
支流新井田川に並ぶ。いろは倉

などで僅かに名残りをとどめてい

る。ふりかえって新しい酒田市は

昭和十五、六年頃より海浜地帯に

市の中心繁華街、上中町風景



日活酒田劇場

化学産業を主とする鉄興社大浜工場など、数社の黒煙を吐く煙突があり、始めるにつれて変貌を加え始め、港も河口港としての短所を補うため数回の改修整備を行い、今年は更に一万吨級の接岸を約束する工事プランが着手されようとしている。新潟港に次ぐ日本海の良港として、殊に中共貿易を明日にひかえて、酒田港の未来は明るい。

そう云えば山形県を訪ねた人々は酒田に立寄ると、県内の何処にもない明るい活気を感じると云つてゐる。昭和二十七年にはバスケットボールのインターハイ（全国高校籠球大会）昭和三十年には一種公認のグランドで陸上競技のインターハイ（全国高校陸上競技大会）が開催され、市民のスポーツ熱は相当に高い。これを除いても



酒田市には東北の何處にも見出せない例が市政にある。保守の堅型と云われる東北にあって、市会の分野で革新が今一步で保守にせまつていることである。ここには工場地帯の労働者層を中心として組織の力が示されており、これがまた酒田市の進歩性を支える力となつてきている。働く若い市民を中心としてつくられている映画サークル

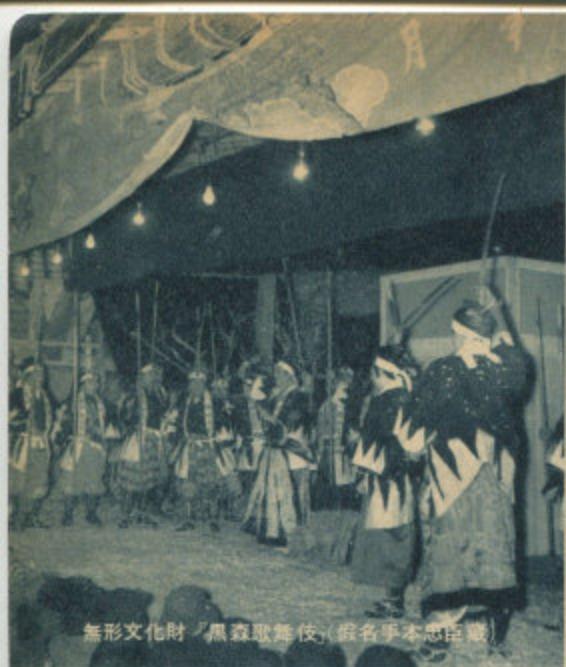
「酒映演」（酒田映画演劇鑑賞会）も既に五周年を迎え、会員一千人を容しておらず、地方のサークルとして全国的に珍しいケースとなつてゐるのも土地柄と云えよう。

市街は碁盤目刻まれており、袋小路や、くねった路は殆どない。小路や、くねった路は殆どない。官庁街の本町通り、繁華街の仲町銀座、娯楽街（映画館・パチンコ屋）の内匠町通りの三本舗道が小



シバタ映劇

路を挟んで中心部をなしており、ここに酒田の映画館五館の中、四館がある。本町と仲町に挟まれた柳小路には元ダンスホールを買収して洋画専門館に建直した「グリーンハウス」（支配人佐藤久一氏）がある。当時の二四年一人口五万の小都市では、洋画専門館は成り立つまいと噂されながらも、戦後文化的に充たされなかつた市民の



無形文化財『黒森歌舞伎』(假名手本忠臣蔵)



中央座



駅前風景



グリーン・ハウス



港座

欲求を抱みながら、本誌で評論家清水晶氏の賞讃した設備まで持つて来た手腕は買われる。現在はシネマも設備し、G.F.C.（グリー・ン友の会）を育成したり、詩集「録館」の発行、週一回の「文化映画」による芸能公演などのふんい気は知識層を中心として比較的青年層に魅力を持たれている。駅から一番近い内匠町東部には昨年の夏から今一つの洋画館「シバタ映画劇場」（支配人長谷川高次氏）が竣工した。「シバタ」では四本トランクのシネスコが県下最初という看板で大々的に近郷まで宣伝し、洋画ファンの大衆層を狙う方針で邦画（新東宝、独立）と併映し着々観客をまとめている。最近のヒットは「帰らざる河」「足ながおじさん」である。この通りを下ると二角目に老舗「中央座」（支配人渡部鶴夫氏）がある。この館で

は大映、東映のフィルムを扱い、「シバタ」出現までは駅からも一度近く近郷の観客層を多く握つていた感があつたので多少なりの痛手はあつたろうと予想される。然し良いフィルムは観客層の枠をなくし「新・平家物語」は〇〇人入ったと老舗の強味を見せている。この通りを更に下ると旧「酒田劇場」の経営者が變り日活直當になった「日活酒劇」がある。「中央座」から「日活酒劇」に至る徒步三分の間はパチンコ屋と飲食店、ソバ屋が幾軒となくある。日曜ともなれば映画館の宣伝放送、パチンコ屋の子供、や、往き交う人の群などで、すっかり娯楽街と化して仕舞う。「酒劇」が日活直當になったのは昨年の十一月からで本当の客層は固つてないようだ。支配人（額賀正義氏）も「この規模の都市で一社のフィルムで行くことは難しいが、直當の強味



はるかに望む雪の鳥海山



東平田の新観光地



飛島の蛸



芭蕉や西鶴の永代蔵で知られる鎌谷邸

で封切りもので対抗し客層をひろくすることは出来る」と云つてゐるので、松竹ものでこなして来たこの館をどう切替えて行くかはみるものもある。昨年十一月以来のヒットは「続警察日記」、「乳房よ永遠なれ」などである。仲町銀座街を港に向つて通し、坂を登りつめると日本海と酒田港を一望する日和山公園に至るが、坂の手前で右に曲つて間もなく行くと港に近い「港座」（支配人佐藤三五郎氏）がある。この館は火災で焼失して十九年五月新装してお目見得したが、酒田市では最も収容力（定員八〇〇）のある館で新劇公演などにも利用されている。フィルムは松竹・東宝を扱つてゐるが、今春の正月興行では「ジャンケン娘」「二等兵」で一二、〇〇〇という市映画界始つて以来の記録的当りをみせてゐる。

素朴な情趣はお国自慢の民謡にも滲み出でる。（莊内おばこ）「おばこ来るかや」と、田園の離れまで出て見たばコバエテくおばこ来もせず用のない煙草売りなど、ふれて来るコバエチく



日本開拓 現在は美術館になっている

熊本

国立公園大阿蘇は国内はもとより遠く海外のアメリカ、パワイ、欧洲の観光客で賑わい、彼等が連発するワンダフルの声とともに、いまや世界のグレート・マウント、アソとして国際観光に大きく飛躍しようとしている。この噴煙やま

ない阿蘇の御神火とともに古きときをたがえず毎年夏の夜、不知火海上にあらわれる靈火、不知火「しらぬひ」はいくたの伝説に千古の

詩を秘めて南国の海山に情熱の宿

を燃やす火の国肥後の氣性を象徴し上地の大きな誇りとなつてい

る。とくに昨年二月、「君の名は。

の岸恵子、大坂志郎による阿蘇ロ

ケが行われ、押し寄せたファンで

火口下の広い草千里の現地を埋め

たほどの熱狂振りをみせた。

この阿蘇山麓を背景とする熊本

市は福岡市についての九州第二の大都會。戦前は行政軍都として、



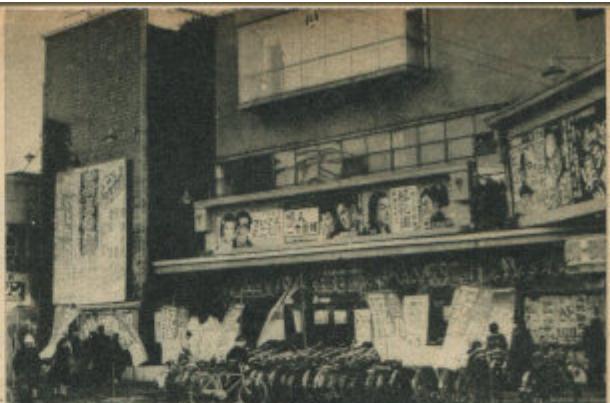
* 古風な外観を持つ東雲映劇。

→熊本市の俯瞰。左手の森は熊本城、遠く阿蘇の外輪が望まれる。



* 池の各所から水の湧くことで有名な水前寺の庭園。





いまは行政教育、観光産業の中心地として繁栄しているが、天正十六年加藤清正が祀後の太守に封ぜられてからわが国三大名城の一つである熊本城の築城、治山、治水、産業の開発などが進み、更に寛永九年に細川忠利が小倉から祀後五十四万石の領主に移封され、明治維新までの二百四十年間肥後文化の中心城下町として発達した。

熊本城は、一名銀杏城と呼ばれ、巨大的な石垣が独自の造形美を誇っている。本丸展望台からは遙かに阿蘇の噴煙がのぞまれ、脚下には名園水前寺公園、東北に立田山、本妙寺を含める緑の森の都・熊本の全貌を一望におさめ、西南には

有明海に浮ぶ初支丹殉教袁史を綴っている。

るロマンの魅力に満つ天草の島々、目の前に花岡山頂の平和の道標に建てられたわが国最初の大宝塔仏、舍利塔の尊嚴な姿が見える。

玄関口熊本駅前から約一丁、白川添いに二本木遊廓が並ぶ。入口付近にわが国同盟繩業のハシゴと、

下通りの二地区からなっているが、大正の初めから活動街の盛り場と付近にわが国同盟繩業のハシゴと、

して賑わったのが新市街。いま盛況の電気館（大映、洋画）富士館

（松竹、東映）はさきの東雲とともに熊本映画興行の華わけ的な存在で、創立が最も古く無声時代を中心城下町として発達した。

雲ストライキを起した東雲棧庭経てきた中年以上の映画ファンに

闘争が僅に昔の面影を残している。いまもその館名を親めている。

この棧を建てたのが当時堂島にそこの人ありといわれた相場師中島茂喜之助氏が創め、そのあとを長男義夫氏が経営。富士館の前身が朝日館だが、戦災と火災の二回の災

のことを、いまは寺崎喜芳氏が経営。

熊本唯一の冷暖房を備えた代表邦



↑富士、電気、花月、銀映のある新市街の夜景。裏は小さな呑屋が並ぶサラリーマンのオアシス。

→商店街の中心、手取本町。



・戦災をまぬがれた上通商店街のネオン。



→南九州唯一のシネスコを誇る大洋映劇



浮城で見た全勝座



洋画専門の新世界館



画館としてお目見得した。代表社員の大塚孟氏は生粋の肥後人氣質の持主で業界の人望を集めている。興収はともに熊本での上位クラス極く近くに改義した花月劇場（日活、洋画、東雲と同経営）と東宝銀映（東宝、新東宝）が戦後の新興館として着実な地歩を固めつゝあるが、銀映には最近のヒットに「浮雲」があり、洋画再映館の光音座と一緒に県議會重末喜氏が經營、好調な実績をみている。

この盛り場は戦災で大きくな変遷し、四散して北の方の手取本町に洋画専門の大洋映画劇場と新世界館が建ち、大洋、鶴屋の両百貨店の併立と共に新興の繁華街が誕生

した。大剣は九州最大のシネマスコープ専門で、聖衣を封切り、またビスタビジョンを設備し熊本の近代館と自負している。正月興行には九州一の興収をみたことがあり、支配人飯塚正男氏が経営主の県興行協会長山口泰司氏の女房役として活躍。街を距てて対する上映場所は欧洲ものを上映し、波止場。恐怖の報酬などが好評だった。支配人金子正昌氏は九州映画興行界の大先輩として業界に重きをなし、経営主木下嵩氏のよき伴侶となっている。隣接の上通り筋には全映座（松竹、東宝、経営主新井梅太郎氏）があり、女の一生。浮雲。が人気を呼んだ。

のほか熊本で演劇を併行する唯
つの歌舞伎座（再映）は三牧万吉
氏（興行界の重鎮）に経営され、
演劇ファンに昔から堅い地盤を持
つており、また熊本駅前の南映（新
東宝、松竹）、南熊本駅前の昭栄（再
映）の両館が大劇チーンとして
場末の観客を吸収している。



東宝・新東宝の銀映



争を避けどこも安定した経営におかれていることは恵れた環境下にあるといえよう。しかし反面これが顧客サービス面への積極さを钝らせがちとなり、一層の努力がファンから望まれている。

名所旧蹟に富む吉野町だけに年中行事の郷土まつりも多く、とくに全市をあげての桜咲く開春四月の火の国まつり、全国より参集する信者で賑う日蓮宗本山古刹本妙寺の七月の頓写会、郡部から集まる自慢の飾り馬を勢子が追いたて市中をわり歩く勇しい九月の藤崎宮隨兵まつりは代表的なものとして名高い。また、おてもやん、キンキラキン、五ツ木の子守唄など全国に歌われている郷土民謡も自慢のタネである。

行政文化都市に、阿蘇、霧島、雲仙の衛星温泉群を控え、その他あまたの観光好条件をそなえた熊本は春から夏秋にかけて杖を引く観光客、文化人の後を絶つことがなく、県市をはじめ民間団体ではいま一層の完璧な観光施設の充実をはかるうとしており、それにつれて盛り場の特色ある将来の繁栄が約束づけられている。

肥後狂句

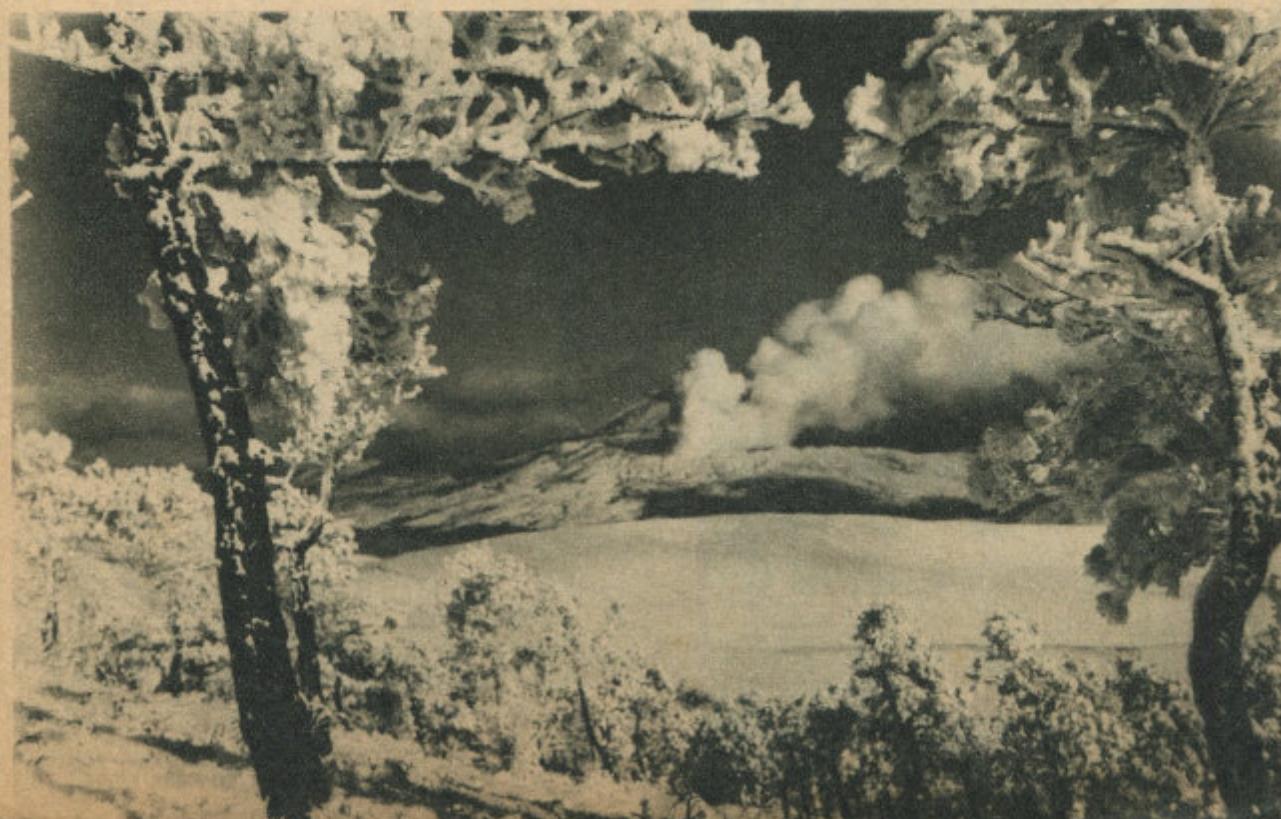
添いとげて

阿蘇見る度に胸震い

文 楽

・ 橋

協 力・熊本日日新聞社



横浜風景場盛り新・ミナトナ

YOKOHAMA

語る人 六崎市之介氏



伊勢佐木町通り



駐留軍とお百姓さんいる風景

新しい商店街が出来たのですが、敗けたものの立場と

横浜というと六崎さんを思い出すのですが、日本に初めての洋画専門館オデヲン座を開いたのはいつ頃でしたか

あれは明治四十四年十二月でしたね、独逸人のワタマンという

のがニューヨーフア商会という雑貨貿易商をやつて居り、映画フィルムもさかんに輸入したのですが、

それを試写して興行者に見せるため、いまで云う試写室を作ろう

といふので、出来たのがオデヲン座なのです。私はそのバンドマ

スター（音楽指揮者）として入ったのですが、それが縁で、いまではオデヲン座の経営を引きついでやって

この言葉が流行したのです。横浜

つ児の小林勇（東京新聞）さんや、

東京から毎週駆けつけて来る古川

居るわけです。
「目切」という言葉が出来たのは、たしかオデヲン座からでしたね。

岩淵茂という支配人が居まして、潮風に当つて来るためには、映画フィルムの人つている辯には、

一巻一巻にテープで封をしてあつたのを、その封を切つて、はじめ

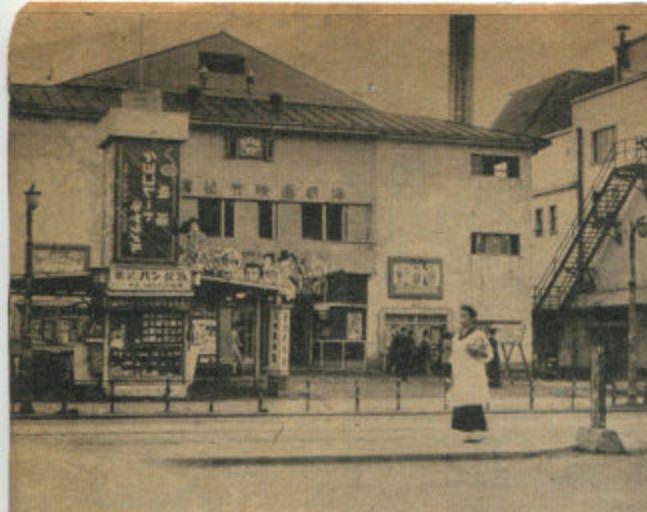
てオデヲン座で映写するから、これを封切映写と云つた。そこから

一七七才になりました。昨年は生きた日本の映画史だというのです。

今日はひとつ、六崎さんに横浜の新らしい盛り場の話を聞いて、ただきたいのです。いまも盛り場の伊勢佐木町を通り乍ら、空地だけなげなので驚いたのです。

横浜は日本でも一番ひどい接収のあつた土地で、全国の六十二%を占めているというのです。土地が二百四十万八千坪、建物が二十万一千坪、山下公園の海岸寄りが全部住宅地として接收され、繁華街の伊勢佐木町界隈でも、五万四千坪が接收され、遂この間まで飛行場になつてしましました。今日二万坪ばかり返還になり、これまで飛行場になかつていました。

新らしい商店街が出来たが、敗けたものの立場と



オクタゴン劇場の隣りに松竹がある



オデヲン座



盛り場の直ぐ裏に、この原っぱ



最初のレアルト劇場



グランド劇場



接收されたオデヲン座（オクタゴン劇場という）

伊勢

たもの、立場と
駐留

して、文句も云えませんでした。
オオンでもつけば、盛り場として
夜の賑やかさも出ますが、書問
は駐留軍や近在のお百姓さん達が、
露店の商人とわたり合っている位
で、住宅街が遠く郊外へ移つてしまつた淋しさは、かくすわけに行
きません。もとのオデヲン座はま
だ接收されて、オクタゴン劇場と
呼ばれ、駐留軍の専用です。その
横隣りに松竹とヨコハマ東映があり、大映封切のグランド劇場と、
日活館が向い合つて、オクタゴン
と並んで伊勢佐木町通りにあります。
この伊勢佐木町通りは、以前は
日活館が向い合つて、オクタゴン
延びました。戦前九十八万人だった
横浜の人口がぐつとふえて、この
頃は百四万人ばかりになりました
が、それに八丁目まで延びたとい
うことが、盛り場としての伊勢佐
木町を、どうにか恰好づけている
わけです。

いまのオデヲン座は、伊勢佐木
町と背中合せの曙町に新設しまし
たが、オクタゴンの代替として、
駐留軍の方でこゝを物色してくれ
たのです。

「あの女の顔のある丸いマーク
は、なつかしいものですね。」
「ワグマン時代からあれでした
からね。いまのオデヲンを建てる
頃は、まだこの辺一帯瓦礫の山で
いた。向い側にあるレアルト劇場
が、この土地では戦後第一に出来
た映画館で、開館当時は素晴らし
い景気でした。この頃は野毛（宮
川町）方面が盛り場として非常な
発展ぶりで、この両地区で十の封
切映画館がありますが、外画が五



子地の番

のロケがここで行われた。向うに見える船が水上木賃。野毛山の市長公舎の下には、温泉マークのホテルや、キャバレーが密集している。野毛の電車通りを挟んで、

新東宝封切の光音座、洋画のマックアーサー、国際の二館がある。マックアーサー劇場には、マックアーサーによく似た軍人が、赤いセーターの日本少女と仲よく切符を買っていた。この



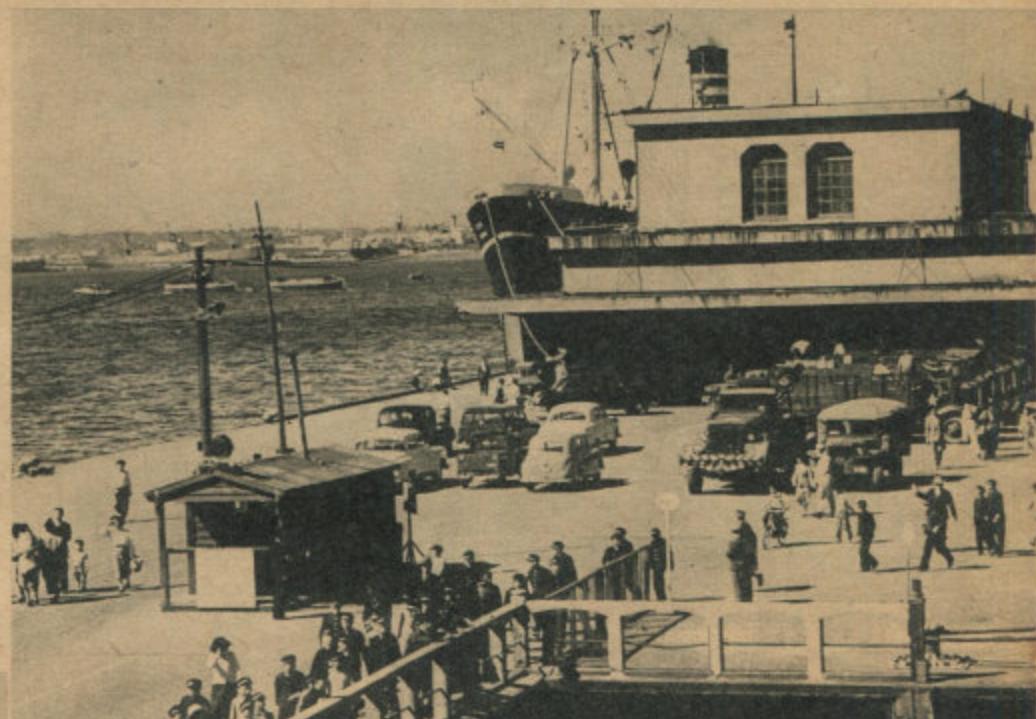
マックアーサー劇場のひと時



さびしきエトランゼの見本

前、邦画が五館、どうも外画の方が歩がよいようです。六崎さん、伊勢佐ヨナラして木町から野毛へ出る途中に、接收解除になつた原っぱがあり、道路の真中の塔に寄りかかって、伊太利人らしい青年が一人、もう二日位立ちつづけじゃないかと思うほど、石像のように突っ立っている。クニヘ帰る旅費の工面でもしているのか、それとも十年の恋人を待つつもりか……。さびしきエトランゼの見本である。

野毛のクスピリ横丁は、横浜自由労務者の集団地、松竹映画「やつさもつさ」や「混血児」



メリケン波止場の修学旅行



市長公舎の下には温泉マークのホテルやキャバレーが密集している



ミス・ヴィヴィアン・リーの上田慶子さん



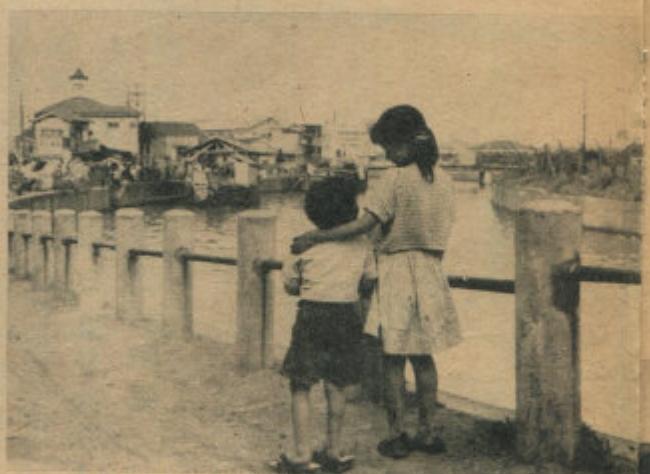
横宝劇場の田辺美智子さん



野毛商店街



外人墓地に暮色たたよう頃



野毛クスブリ横丁と川と水上ホテル

春こゝで「風と共に去りぬ」のロードシヨウをした時、全市の婦人に呼びかけてヴィヴィアン・リーの日本版を募集した。その時に当選して、豪華なドレスや赤い靴を賞品に貰った幸運なお嬢さんは、タイピストの上田慶子さん（十九）だった。そのお写真がこれである。

山下公園の海軍道路が、まだ返されないのは、浜つ児の憂鬱の一いつだが、メリケン波止場は解除になって、今日も大きなイギリス船が横づけになって、修学旅行の中学生や、船員相手のミス・ニッポンが、色とりどりのアラベスクを織出している。

港を見おろす高台の外人墓地に暮色がただよい、ロマンスを追うアベックの胸に、異国の歌が夢をさ、やく頃、野毛の商店街は光の油に埋もれ、馬車道につた一つ、繁華街を離れて建つ横宝劇場のシандリアの下に、並んで聞えた案内ガール田辺美智子さんの明るい笑顔が、花のように咲つた。

野毛の電車通りを挟んで、く切符を買っていた。この

新・盛り場風土記 小樽



天狗山頂から望む小樽全貌

という、たつた三行の短歌のため
に小樽の町はゆがめられて印象づ
けられていると小樽の人は抗弁す
る。そして古くは岡田嘉子から水
の江滝子、松原操、小林伸江、柴
田早苗、岡本敦郎、近くは石原裕
次郎からアカデミー女優のナンシ
ー・梅木まで生れているではない
かと肩をそびやかす。

声の荒さよ。と読んだ啄木の心
境は知るべくもないが、豪快なジ
ヤンブ・スキーのメツカ天狗山を
頂点に全市が山坂でささえられる
この町は、年中そのおもて（頬）
を日本海の冷い海に吹きつけられ、
明治の開拓の昔から函館につぐ漁
港として、木材、雑穀、石炭の集
散地で栄えた当時を考えれば、威
勢のよい塙枯れた声の商人たちの
町であつてこそ、一番ふさわしい
姿なのかも知れない。

その港小樽も、トント戦後は昔
の面影を失つた。

斜陽の街である現実は、32年度
一年間の生活保護世帯が二万八千
世帯、延人員約八万人にもおよぶ
ことでわかるういうもの。こ
の数字は人口千人につき二〇・四
人、北海道で第二位の貧乏人の多
い町の汚名をいただいてしまつた。

しかし不況のどん底にあえぎ乍
らも、商魂の逞しさと道産品の多
く性質は、新しい町造りに余念が
ない。33年3月の調査によれば、
テレビは32世帯に一台、毎日五組
の新家庭が生れ、電気とガスの使
用量は年々伸びる一方だし、成人

かなしきは小樽の町よ
歌ふことなき人々の
声の荒さよ

—啄木—



小樽シャンツエ 天狗山



手宮の古代文字



住吉神社大祭の海上渡御

男子は日に、一・四合の酒をたしなみ、一二・三本の煙草をふかしているそうである。

二十万に八百人足りないこの町で数を誇るのは、映画館が二十四で全道一の競争地であることと市内に国鉄の駅が十一もあり、火葬場が九つもあることである。けだらぬものはない。

さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりという記録保持者も生れている。

さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい



府指令の町村合併を忠実に守ったために出来たおかげで、ヤキ場の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい

う記録保持者も生れている。さて問題の盛り場だが、戦後の中には年になつた三体を焼いたばかりとい



賑わう小樽花園銀座街



新装なつた小樽電気館

洋画は小樽映劇とスバル座文化劇場の三館となつており、月一五〇万から二五〇万どまりの興収をあげている。興行主の系統からいと山下興行が電気館など三館、田村興行が行が映劇など五館、樋口興行が館を傘下におさえ、このほか須貝興行が中央座、花園映劇、全道

的に強い組織を持つ本間興行が小樽東映を所有し、それぞれ昔ながらの虚々実々の商法で全道一の楽しい客寄せの争いを続けている。

な不況はこの町とても例外ではない。現在二館が売りに出され、新聞広告をわざわざしているとか。斜陽の街にふさわしい話題ではなかろうか。

文
カメラ 森正男
松宮保夫

新・盛り場風土記・

甲府



↑甲府は山に囲まれた、富士山の見える盆地の底の都市である。

↓満開の桜花を前景に、甲府郊外の武田神社がある。



（三年）秀吉の臣浅野長政により漸く竣工したもので、今では近代的な洋風建築の県庁となつてゐるが、本丸東半分は往年のまゝ保存され、舞鶴公園として市民の自慢のタネとなつてゐる。

甲府市は街を貫いて東西に走る中央線によつて南北に二分され、南部を下町、北部を山の手、とも呼んでゐる。これから市内の盛り場を一巡してみよう。

駅前通りはこのほど区画整理が出来て、道幅二十六米の平和通りは、相生町通り迄一直線に貫き、さながら東京の昭和通りを偲ばせ

新宿から中央線に乗り、富士山麓の関門大月を過ぎて、長い長い箕子トンネルをくぐると間もなく「馬子も葡萄を喰いながら」（芭蕉）の名句で知られる葡萄郷勝沼に着く。このあたりから甲府盆地の展望はいよいよ開け、こゝから約四十分で甲府に到着する。

甲府は山梨県の首都で人口十二万余、戦国時代の名将武田信玄の歴史を語る古跡が多い。元来甲府市は城下町として発達したが、昭和二十年七月八日の戦災を受けて街の八割迄が焼失し、市の中心部を始めとして古い甲府の面影をとどめていた民家の土蔵建築も、灰燼に帰してしまつた。しかし、それから九年を経た今日迄の復興振りはめざましく、街の装いも戦前を凌ぐに至り、その復興の迅速さは他の戦災都市を驚かせている。

駅頭に下り立つと、封建社会のこよなき象徴甲府城が目前に迫つてゐる。甲府城は舞鶴城又は一条山山城とも呼ばれ、一五九四年（文



駅に下りると眼前に、舞鶴城にそびえるオベリスク（水晶）型の謝恩塔が見える。→

駅前の県庁脇を一キロ半ばかり行くと、そこが盛り場で、電気、中央両館が並んでいる。



その盛り場の中心地にある甲府名物の岡島デパート

甲府松竹映劇は松竹・東映の封切館で、銀峰座は松竹洋画等を上映して洋画ファンを喜ばせている。兩館とも富塚孝吉氏（東映重役）、前興連会長の経営館で、支配人は岩崎利吉氏。岩崎氏は外語の仏語科出身のインテリで、かつては教員をした事もあるという変り種で、「君の名は・第一部」では、甲信越二番線上映で二週間続映、

甲府松竹映劇は松竹・東映の封切館で、銀峰座は松竹洋画等を上映して洋画ファンを喜ばせている。兩館とも富塚孝吉氏（東映重役）、前興連会長の経営館で、支配人は岩崎利吉氏。岩崎氏は外語の仏語科出身のインテリで、かつては教員をした事もあるという変り種で、「君の名は・第一部」では、甲信越二番線上映で二週間続映、

甲府松竹映劇は松竹・東映の封切館で、銀峰座は松竹洋画等を上映して洋画ファンを喜ばせている。兩館とも富塚孝吉氏（東映重役）、前興連会長の経営館で、支配人は岩崎利吉氏。岩崎氏は外語の仏語科出身のインテリで、かつては教員をした事もあるという変り種で、「君の名は・第一部」では、甲信越二番線上映で二週間続映、

甲府松竹映劇は松竹・東映の封切館で、銀峰座は松竹洋画等を上映して洋画ファンを喜ばせている。兩館とも富塚孝吉氏（東映重役）、前興連会長の経営館で、支配人は岩崎利吉氏。岩崎氏は外語の仏語科出身のインテリで、かつては教員をした事もあるという変り種で、「君の名は・第一部」では、甲信越二番線上映で二週間続映、

甲府宝塚劇場は東宝の封切館で、社長は倉鹿野氏。山梨県は東宝社長小林一三氏の郷里であるので、甲宝は同氏後援のもとに経営されている。戦前は市の南街太田町にあったが、戦後は中心街の春日町に移転し、アミューズメント・センターの一部を形成している。尚、倉鹿野氏は東宝撮影所長雨宮氏とも親交がある関係上、東宝映画の甲府ロケを勧誘し、「決闘鍵屋」の撮影を行い、観光宣伝にも役立った。

「統・思春期」の生徒のハイキングの場面は昇仙峡で、現地ロケが長期間行われた。昇仙峡は天下に聞えた景勝地である。



電気、中央に向いて甲府宝塚劇場がある。



↑甲信越道の上りを見せたという甲府松竹。



電気館前を東に進むと甲府銀座で、商店は種々の装いをこらし、ネオンの下、夜の雰囲気が他の通りには見られない。裏春日町通りには飲屋が多い。岡島デパートの四辻を北に進むと紅梅町、オリオン街で、パチンコ屋と飲屋が軒を並べた所謂飲樂街である。この中心にはオリオンバレスがあり、RKO、メトロ、ユニヴァーサル等の洋画を上映している。社長上村文一氏は手腕家で、名もないこの汚い町をオリオン街として発展させた功績は真に大きい。

尚、この中央部から東南方、関川に沿つて若松町の芸者街があり、反対の西南方には赤穂区域穴切町があつて、夜毎なかくの繁昌ぶりである。

次に山の手に移るが、戦前には思いも及ばなかつた市の北方、朝日町、白木町方面に街がどんどん伸びて行つた。こゝに着目した小野興行は白木町通りにヒカリ座を新築した。ヒカリ座は東宝を除くく邦画の再上映館で、館も美しく料金も安いので客が多い。

駅の北口を出て、ゆるやかな相川扇状地の上に作られた一直線の参道を二軒ばかり北へ行くと、こゝもりとした森の中に清楚な武田神社がある。こゝは謂う迄もなく武田信玄を祀つた神社で、この附近一帯は鷹狩ヶ崎と呼ばれている。

毎年、青葉若葉の季節になると、日暮里は市内魚町に居住し、金手

（日に青葉、山ほど、さす初體）の句は必ず新聞雑誌に登場する程天下に有名であるが、この作者山口素室は市内魚町に居住し、金手

駅の裏側が山の手で、戦後ヒカリ座が出来た。↓

町尊体寺の境内にその墓がある。併誌「雲母」の続卒者飯田蛇笏氏も甲府郊外の境川に健在だし、市内に併説熱の盛んなのも故なしとしない。

既に述べたが、甲府の繁華街は

集めてその經營は割合といふよう

映画館によつて起り、映画館によつて支えられていると云つても過

言ではない。しかし、甲府の映画界には先に紹介した四興行者七館があり、市内とその周辺の観客を

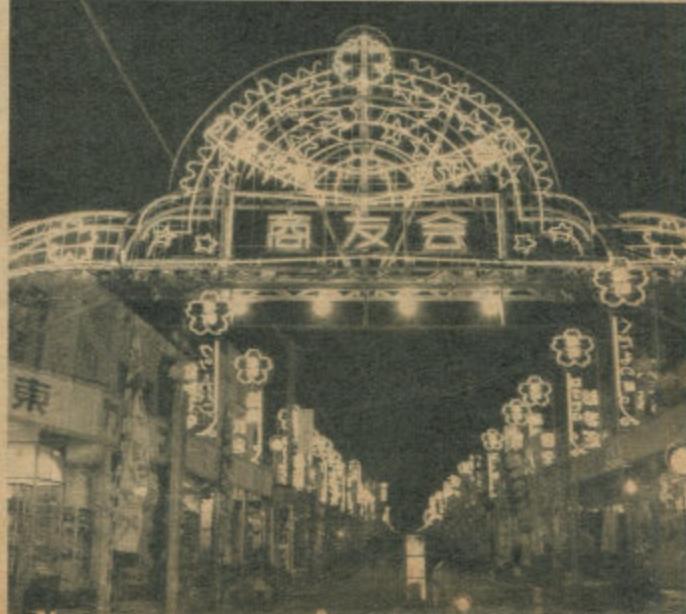


であるが、最近の動向として、近日新築を噂されているものに、旧中見世通りに新宿武蔵野館チエーンとして甲府武蔵野館があり、これに対抗するものとして、その隣接地に小野興行が旧中央館跡の復興を計画し、更に甲府宝塚もここに地上地下のモダン劇場を新築せんとする模様である。もしこれらが実現の暁は、この狭い盆地に十館にのぼる映画館がひしめき合う事になるので、流れ客の少ない市内では、その客には限度があるため自然犠牲になる館も出る事は当然考えられる。目下甲府市興行界にはかなり緊迫した空気が流れおり、将来多難を思われるものがあるのは、このためであろう。

文・大間伝吉
カメラ・向山真彦



←俳句の町、甲府には山口葉堂の墓がある。



盛り場一帯には温泉旅館もあり、ネオンが輝く。→



新・盛り場風土記

蒲田

毎日1万の乗降客を呑吐するにはあまりに貧弱な蒲田駅

東京都と神奈川県の間に、上流を多摩川と呼び、下流を六鶴川といふ、川原にゴルフリンクの見える川が流れている。この川にかけられた鉄橋を東海道線の汽車や電車が一日に何百回となく走る。橋の南が川崎市で、北が東京都大田区蒲田になる。

蒲田と書いて、「かまた」と読む。「かばた」ではない。蒲田が、一躍天下にその名を知られたのは、いまから三十七年前、ここに松竹が映画の撮影所を設けてからだ。その頃の蒲田は、どこにも見られる中小都市の郊外風景と同じで、茶店が二、三軒と、風呂屋と床屋があり、あとは砂ほこりの立つ田舎道を挟んで、ワラ葺きの農家が点在するといった光景だった。その農家の並んだ通りから路次を入れ

った蒲川のそばに、中村化学研究所という、木造と煉瓦作りの、小さな工場があった。これを松竹が買収して、松竹キネマ撮影所の看板をあげたのが、大正九年六月である。撮影所といっても、表門に当たるところに、木の丸太柱が二本建ち、そこに入るとなだらか広い原っぱと、水溜りの汚ない池があり、その奥の方に倉庫のような木造の建物と、いまいち赤煉瓦の小さな建物があつた。木造の方がステージにあたられ、煉瓦の方が事務所に使われていた。蒲田のことを、「あれは—かまた—と統むんだよ」とは、当時の映画通を示すチョイとしたセスチュアの一つだった。

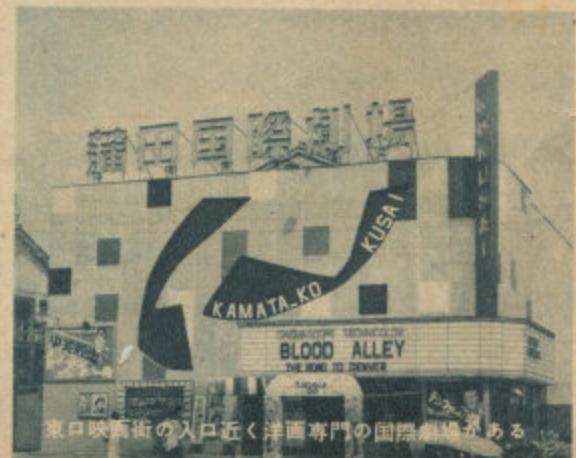
電車がまだ通らない頃は、東京から蒲田へは煙の出る汽車ボツボツ



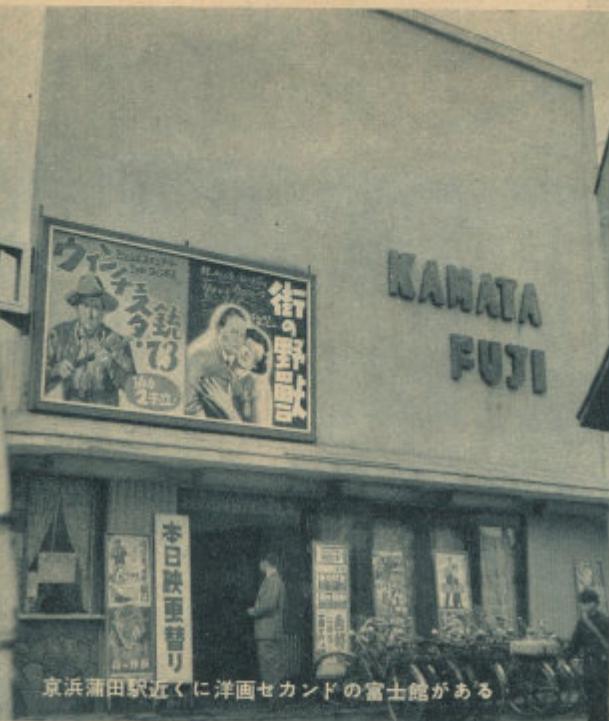
駅の西口、目蒲線の方へ抜ける通りの様子



駅の東口を出ると羽田空港へ一直線のメイン・ストリートが見える



東口映画街の入口近く洋画専門の国際劇場がある



京浜蒲田駅近くに洋画セカンドの富士館がある



手前が大映封切の蒲田大映
その向うが新東宝封切の蒲田東宝

楽しい小旅行にでも出るような気分だった。殊に二等車をのぞいて、そこに顔見知りの監督や俳優でもいると、いよいよ旅行気分満喫だ。それが、いまではドア・エンジンがシューとしまる電車に乗って、二三度揺られているうちに、もう蒲田だ。

東海道線蒲田駅にしては、あまりにもお粗末な、木造の小汚ない駅を中心にして、蒲田の盛り場は東口と西口に開けている。東口は、以前に撮影所のあつた方で、いわば本通りであるから、ここから国際空港の羽田飛行場へ行くメイン・ストリートは、地方の県庁所在地の中都市位の街並が一貫している。東口の映画街は、そのメイン・ストリートの裏側で、駅の出口から右の方へ二三分行くと、そこには開かれる。

この映画街は、さきに川崎映画街をつくって成功した美須謹氏が、戦後に土地を手に入れ、五年ほど前に、いまの蒲田東映劇場を建てたのを手はじめとして、順次蒲田松竹、蒲田大映、蒲田東宝、蒲田日活、蒲田国際、蒲田文化の七館を一区画の中央に建て、有力な娛樂センターとしてつくったものである。このうち、国際と、日活が、洋画封切、文化が洋画の再映で、松竹、大映、東映は、各々その館名の示す会社の封切をやり、新東宝を東宝劇場で封切している。だから、日活と東宝以外の内外の封切映画は、この東口映画街へ来れば全部見られることになる。

この七館を経営している美須興業部は、同じ系統の川崎にある十



東口のどん尻に控える東映封切の蒲田東映



松竹封切の蒲田松竹と洋画の新田日活



西口にある東宝新切の蒲田宝塚、その向うにアトール蒲田

東口の盛り場は、この辺から更に東へ進んで、京浜電車の蒲田駅近くにある「のんべえ横丁」につづき、五系統からなるバスの往復と共に、東口所在の人口四万六千に加え、近くの桜谷二万七千、羽田二万二千、六郷五万二千の人達の集散地となっている。歩を転じて、今度は、例のボロ駅を渡つて西口へ出てみる。西口は、戦後のヤミ市で発展した盛り場である。西口から目黒や五反田へ通う私鉄の電車は、ついこの間まで、田園や畠の中を、一本ボルでガタゴト走っていたものだ。それが、現在では商店がぎっしり狭い道路にひしめき、東口を圧倒する賑かさになった。人口も、西口は五万二千、それに近くの矢口が二万八千あり、一本ボ

一の映画館と、フィルムの掛持ち（交換）をするために、専用のジープを一台持つていて、六郷橋の上を、一日に何回となく往復させている。誠に壯觀というべし。

ところで、この東口映画街の一

角にある蒲田国際劇場の通りをそ

のまま進むと、溝川をへだてて、

工場の板塀につき当る。この板塀

の中こそは、いまこそ高砂香料と

かいう会社の工場になつてゐるが、

昭和十一年一月に、大船へ引越す

まで、さつきいった松竹撮影所の

あつた跡である。しかも、その溝

川には、この間まで「松竹橋」の

影あととの読めた石の標識が建つて

いたそうだ。思えば、あのベンベ

ン草の生い茂る板塀の中で、栗島

み子の「虞美人草」以来、いく

百、いく千の夢物語が、つくられ

たことであろう。そして、大正正

昭和の何百万、何千万のファンの

渴仰を一身にあつめた美男、美女

スターが、この中から生れ、育ち

華やかな多くのロマンスをふりま

いたことであろう。あれから僅か

二十年に過ぎないが、いまは、松

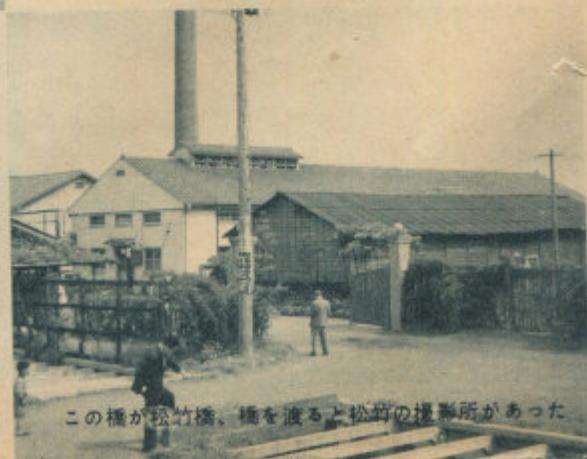
竹橋の名も消え失せ、昔の傍を知

る人は、段々数少なくなった。い

まのうちに「松竹映画発生の地」

とでもいつた標識を、心ある人た

ちによつて建てておくべきであろ



この橋が松竹橋、橋を渡ると松竹の撮影所があった



西口の線路にそった日活封切のパレス座



池上線蓮沼駅近くにある南星座

ルのガタゴト電車は、高速度のドア・エンジンにかわり、戦時中都心をのがれたサラリーマンの家庭が沿線に集まつたから、西口に集まる人口は馬鹿にならない。それにも拘らず、西口の欠点は、道路が狭く、屋並みがゴミゴミして、悪と不潔を思わせる雰囲気を持つ。

東口にくらべて都市計画が不完全なためであろう。

西口にある映画館は、線路添いに、日活封切の蒲田パレス、帝都座等があり、商店街の真ん中に出た東宝封切の蒲田宝塚が、邦画再映のテアトル蒲田と競合せに



駅の西口に出ると狭い通りを人がごった返している

隣合っている。それから少し行って、蓮沼駅のそばに、洋物再映の南星座と邦画再映のヒカリ座がある。東口にくらべて、西口の映画館は、散在しているから、興行街としての特徴は持っていない。

蒲田駅の乗降客は、あのボロ駅のくせに、平日十一万、物日には十七万かかるという。これに対

して、蒲田駅周辺の映画館は、現在(桃谷、雄色を含め)十九館あり、今年の末にはまた二、三館ふえる見込みだそうだ。新館を建て

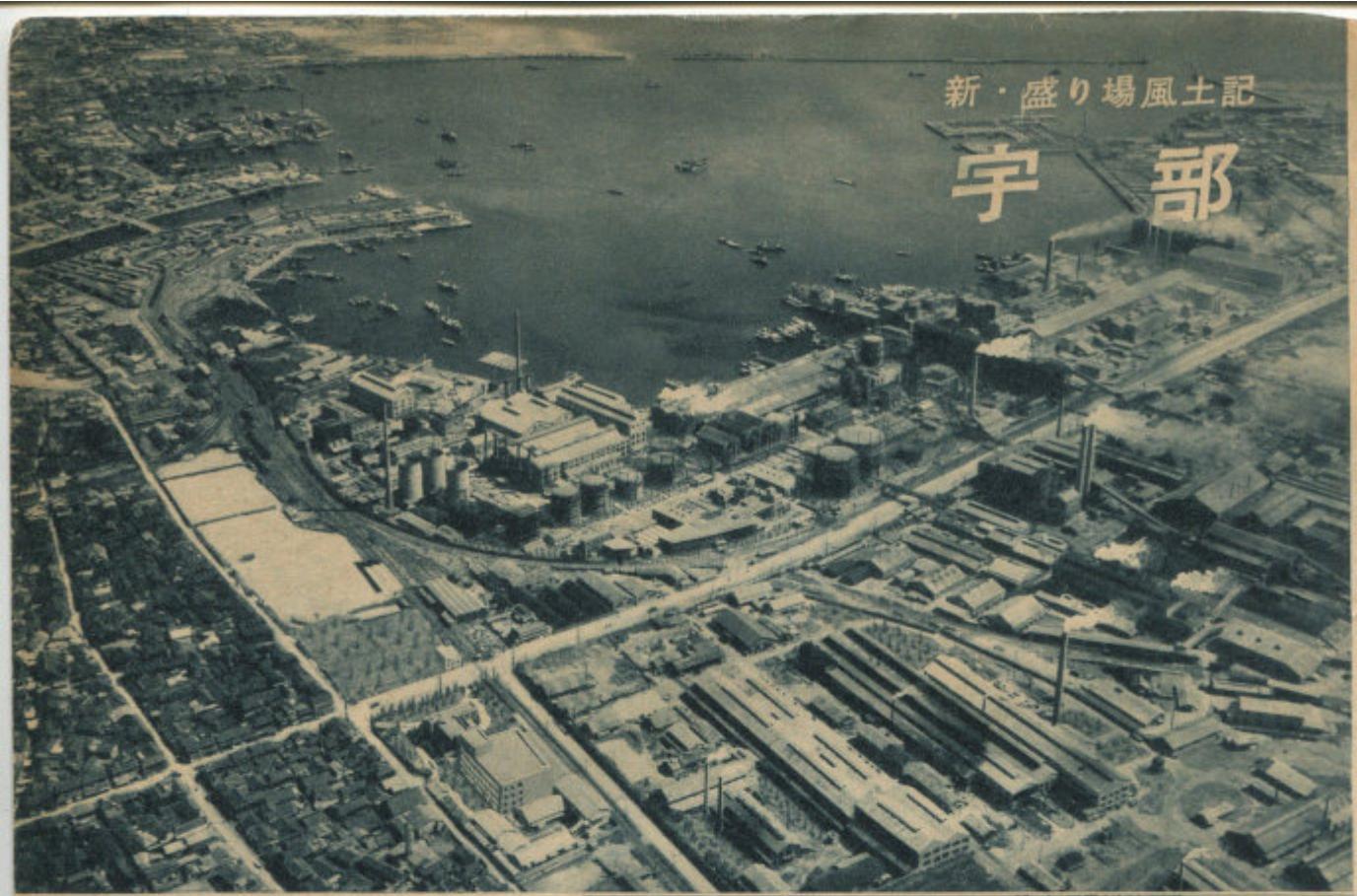
るは、興業には素人の「風呂屋とか建具屋とかが多い」という。だ

文
・田中純一郎
カメラ・一置夏洋

から地主が地価の値上がりを見越して、仲々手放さない。空地が未だ多いのはそのためだ。東口の空地が「時価一坪」十七万円だとうから呆れる。それにしても、気になるのは蒲田駅近辺の混雑ぶりだ。附近には有名な死の踏切もある筈だ。駅自体の改革は勿論、駅附近の区画整理は、地元民の急務であろう。

新・盛り場風土記

宇部



↑西部工場地帯・煙突の煙が空を圧している



↑宇部新東宝

大映系の宇部劇場→

盛り場「新世界街」にある



宇部を知らない人は、山陽本線「西宇部駅」のプラットホームに立って、駅前があまりに寂風景なため「宇部」とはこんなところかと失望するであろう。しかしここから電車に乗換えて十分、三つ目「宇部駅」に降りてみると林立する煙突、空を敵う黒煙行き交うバス、活気に溢れた街の表情に驚く。宇部は周防灘に流出する厚東川、真綿川の冲積作用によつてきたところで北は中国山脈の低い山山に囲まれ、南は内海をへだてて九州の連山を眺めることができる。いまから約百十年前、石炭がまだ「五平太」と呼ばれていたころ、糸をつむしのひき車からヒントを得て向田七右衛門、九十郎兄弟が「南蛮車」をつくり石炭堀りの道具として大きな役割を果たしていくが、娘たちが娘さんかぶりで、その南蛮車を押しながら玲玲南蛮唄を歌つた。のちの「南蛮音頭」と変つて、「新川祭（五月）、みなと祭（七月）、石炭祭（十一月）の三大祭のはか南蛮音頭コンクール（八月）では各町内が競って歌い踊りまくる。

→ハーネス押せ押せ押せ押せ

揚る五平太の「ヤットコセ」堅坑堀りヨ
「アト山サキ山

お前はパンコかギヨツコラサ

揚る五平太に「ヤットコセ」堅坑堀りヨ
こうして石炭景氣と共に村は活況をみせはじめ、人口も急激にふくれ上つて、大正十一年一月一日村から一躍市制を施行、そうして黒ダイヤ。の小都市も飛躍に飛躍を重ね、石炭を原燃料とする工業へと伸び、よいよ近代都市としての色を濃くした。宇部産業のみの親、渡辺祐策翁の死後その数多い事業は、宇部興産株式会社に統一され、四つの部門である石炭、硫安、セメント、鉄工が宇部港にのぞむ百万坪の埋立地に恰も同一工場の如く相並び、いずれも相互に助け合つていくという合理的な経営法は特色として経済界に高く評価されている。宇部曹達株式会社の名も知られて、大小の炭鉱は実に六十鉱の多

← 東部東映
時代劇ファンの人気を集めている

きを数える。ここもお多聞にもれず戦災都市で市街の四分の一を焼失したが、駅前広場から東へのびて五十メートル道路や真締川畔の近代的白亜の市庁舎は、その復興のめざましさを物語っている。一方商店街では戦後速早く現在の北町筋に開市が立つてからそのまま繁華街の中心になつたが、この筋の東詰めにある「新世界隈」を中心として、さらに東へ新錦橋通りから樂天地へと続いている。新世界隈はパチンコ、キヤバレー、飲み屋が目白押しに軒を並べ、夜ともなれば装飾街燈やネオンもきらびやかに七彩の洪水となる。このど真中に新東宝直営の宇部新東宝映劇（支配人前田繁喜氏）がある。試写会や前夜祭などによる独自の宣伝で評判がよい。最近のヒ

↓ 西部東映・東部東映におとらぬ盛況



ットでは「しいのみ学園」「たそがれ酒場」があげられる。宇部興行界の異色として東（あずま）系があり、東長丸氏（六五）が当つている。氏は二十二年経営不振の大映（大映）宇部劇場を引受け、以後映画の好況に目をつけ、事業として二十六年繁華街中央の老舗として市民に馴染みの深い（松竹）新川座を建てた。また、同年四月には駅前に大きさ、設備に於て県下一の東劇（シネスコ常設）を新築、独特の高踏的雰囲気がインテリ層にマッチしたものとみえ、洋画専門館として独走を続けている。三十一年には五十メートル道路中央日抜き通りに完全防音の（日活）長栄劇場を建て、更に十月南陽映劇を買収し（洋画）丸劇をつくった。一人の人が五館を持ったことに驚

ろいた市民は、その劇場名を集めみると「東部」「新川」の「東」「長」「丸」となることがわかつて二度びっくりした。氏は東の錦橋通りにモデル館としてスタジアム式の洋画館を計画中ときくが、とも角宇部興行界の大御所的存在である。支配人花田國彦氏もこの五館を兼ねて英腕を揮っている。毎日曜午前中「宇部劇場」と「新川座」で利害を離れてのニュース、短篇上映は新しい試みとして市民によろこばれている。石炭と工場の都市だけに絶対違わぬ客をにぎつている東映専門館が東西にある。

東部東映（支配人西来謙一氏）、西部東映（支配人木村三生氏）がそれで、時代劇は東映のうたい文句をそのままミーハー的観客で仲の服わいを示しているのも町の



洋画専門館として新発足の 九劇



←長栄劇場
中央目抜き通りの偉観

カラーを反映したものとして面白い。駅前広場を左に渡辺翁記念会館に通ずる松島通りに、戦後洋画ファンに親しまれていた宇部センタルも今は宇部銀映（支配人傳水定男氏）と改名、東宝封切館として、低料金で人気を博している。実演専門を止めて洋画の名画再上映館として再発足した「見初座」も結構受けている。他方文化面でも結構受けている。

「字部」を認識せしめたものに宇部好楽協会（会長俵田寛夫氏。宇部興産常務）がある。演奏旅行をする人で字部を知らない音楽家はなく、渡辺翁記念会館の音響のよさと聴衆のよさは既に中央樂壇でも定評となっている。会員二千五百、二十一年三月創立以来多くの音楽家が字部を訪れた。ラザール・レヴィ、シゲツティ、メニュー

↓唯一のシネスコ館・東劇



← 東宝系の宇部銀映 ↑ 松竹系の新川座

ヒン、コルトー、ソロモン、ケンブ、ヒツシユ、そのほかN響、東響、ブダペスト四重奏団などぞえきれない。音楽映画「カーネギホール」「夜明け前」「ホーフマン物語」などの字部上映も同協会の後援があつてふんぎりがついたと

いうが、これは他の都市に類例のないものとして特筆に値しよう。サークルでは批評家グループの映画木曜会（会長中尾義之氏）が推せん映画の決定、合評会、批評文を郷土紙「ウベニチ新聞紙」に掲載し、市民の映画観賞の指針とな



↑ 風光明媚な市民憩いの地小野湖

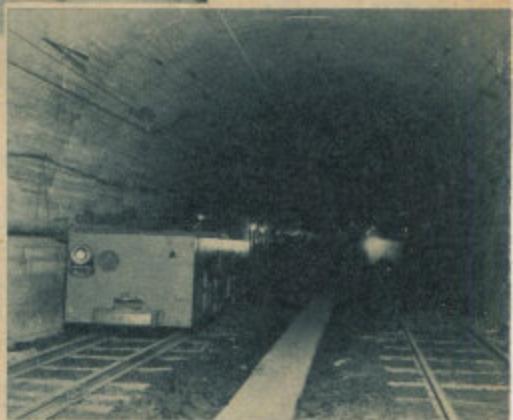
海底をはしる鉄道車電

つてゐるほか、会員制度（会員千名）の映画観賞会（会長為近舍生氏）がある。字部出身唯一の映画人として東映東京のスター萩原子（デビュー作品「飛燕空手打ち」）がある。

人口十六万とはいゝ、字部経済圏と目される隣接都市を合して計算してみると、映画人口は十一万五千とみなすことが出来る。工業都市としての字部の前途は益々洋洋たるもので、本年六月完成をめざして山陽化学工業が三十五億の巨費を投じて西の居能町に建設中のほか、西沖の山の埋立地に発電所の建設も本ぎました今日、二十五年をピークにした映画景気も降り坂を歩いているが、三十一年を契機に経営法の如何によつてはまだ延びる可能性は大いにあるとみるのが至当ではあるまい。

〔応募作品〕

文・カメラ
鶴本 実
杉山 孝幸



渡辺翁記念館・銅像は渡辺裕策翁

新・盛り場風土記

姫路



↑ラセン式城廊を中心とする姫路城のパノラミック

もちろん現在は城廊全体が国宝。さつと八億の巨費を計上して大改修工事のさ中、周辺の城門城壁など一通り終つていよいよ大天守の解体に着手する。その完成は八年後の予定だから今年一ぱいで軒轅交錯する桃山建築の豪華を仰ぐことができなくなる。それがあらぬか昨今、城を目指す観光客あとを絶たず、昨年度の登闇者数は実に三十二万余、登闇料金八百万円を越すという時ならぬお城ブームを描き出した。

この城は天正九年、羽柴秀吉が三層の天守を築いたあと慶長六年、池田輝政が関ヶ原の歎功により播州領主として五十二万石の封を受け九ヶ年の日子を費して今日の美しい形に造り直した。ご存じの剣聖宮本武蔵にまつわる史話やら、播州皿屋敷にからむ伝説など多くのエピソードをもっているが、わけて名高いのは運命の美女、千姫が大阪落城後の傷心の身を嫁いで来たことだ。いまも残る亞壁の西の丸は彼女が時の城主本多忠則に再嫁の節、化粧料十万石で造営されたものである。

そこで時代劇映画には絶好のロケ地なのだ。衣笠貞之助の大作「大阪夏の陣」のロケで城壁の一部を爆破してから撮影隊は縮め出されてしまった。戦後そのタブウも自然解消となり、多い時は三社のロケが鉢合せする。最近の代表作は東宝の「宮本武蔵」と松竹の「女の園」。

播磨野はあしたすがしき朝霧の
松の上なる白さきの城

長塚 鋼



↓中心道路から見える姫路城

田市街はこの城をまん中に発達していたが和昭廿年七月三日、晚の大空襲で最も繁華な部分が一瞬にして焦土となつた。もつとも復興のスピードは福井市に次ぎ全国第二位とまで言われたけれど、その反面に都市計画が立ちおくれ新市街は玩具箱をひっくり返したような形相を呈している。

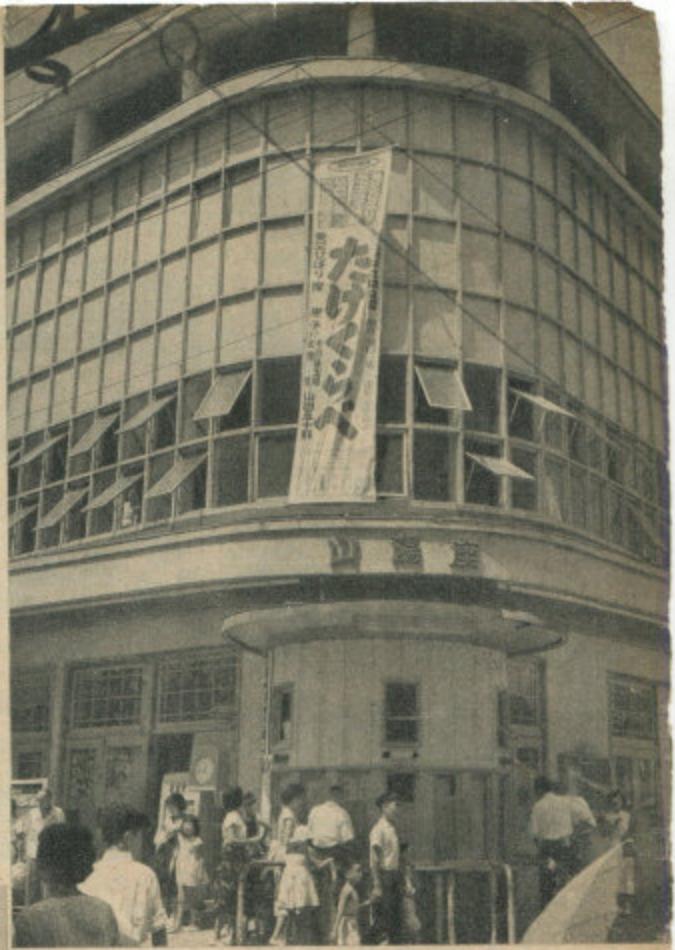
早い話が人口廿六万のこの町に盛り場らしい盛り場がない。東西十五キロ、南北十八キロの市域（この中には従業員八千を数え施設は八種を凌ぐ製鉄王国、日鉄広畑も含まれている）に興行場がバラバラに散在して廿館。艺漢としてまとまりがつかないから、ここには国鉄姫路駅を扇の要として括がる旧市域内の十館に焦点をしほつて

て紹介する。

中央幹線は近く国鉄の新姫路駅が移転する場所から城の大手門まで南北一直線に完成した幅員五十メートルの大観光道路。名を大手前通とよぶ。観光都市ヒメジの新しい性格はこの道を中心にして論じなければならぬようだ。

すなわち道の東側に六館、西側に四館というせり合いで、今後どちら側が興行の主導権を握るかにファンの関心がよせられている。但しこの三月開館した姫路大劇といふ鉄筋三階建（建築費四千五百万円）洋画館の登場により軍配が西へ傾き出したのは確からしい。

姫路大劇は日本で何番目とかのワンフロア・スロープ式客席に定員一千。シネスコ、ビスタビジ



↑第二山陽座 ↓姫路松映・下は新星劇場



↑姫路映劇



←姫路大劇

ヨン、冷暖房からテレビまで据えつけ新作洋画一本建てが圧倒的な滑り出しをみせ、おかげで從来「洋画の沙漠」といわれた姫路にグンと洋画ファンの数がふえた。しかしこの現象の解明は大劇社長吉岡庄蔵氏にも判らぬという。同氏は県興行協会副会長をはじめ物々しい肩書きが五指に余る存在。吉岡興行のチキン館も十を数え、クサつた館を入れて立ち直らせる名人としても定評がある。

大劇の場所は十二所前町といい皿屋敷のヒロインお菊をまつる二所神社の所在地、お宮に並んである。女社長で話題をまいた神戸第一興行眞武喜代子さんの所だが、いまの経営は大阪映画興行社。ボツンと離れ小島の形だった

のが隣りに大劇が出来たため興行場立地条件でよく言われる1+1+3の方程式通り、俄かに活気を呈してきた。

以上の二館とトリオを組み「西側」の吸引力となつてるのは松竹映画の姫路松竹座。俚謡にまで歌われたマーチストリート二階町と、花街魚町の両端を押えているだけに独自の客層をもつっている。経営は姫路松竹座KKで専務の栗岡一雄氏は石橋を二度叩くという性格の人だから館の信用も堅い。

西の三役に対する東側の大閑格は、第一、第二の二つの山陽座。前者は東映、後者は大映と新東宝、二つの館が小溝小路という繁華街を中心に向い合っている地の利と、戦前から売り込んだ山陽座のネーム・バリュウと、姫路にそのもの



↑第一山陽座

吉岡庄蔵氏
(大劇社長)



↓姫路松竹座

↓ハリウッド劇場





ズバリの大映、東映映画とで常に興行街をリードし続けて来た。経営は関西興行KK。前述の吉岡氏はこここの専務でもある。

山陽座の東方に日活の姫路松映、西方に東宝南座、南に洋画二番の新星劇場があつて、ベルセウス星座の形に似ている。松映は明石に四館をもつ柏木興行（社長柏木約吉氏）の経営で邦画二番から昨年末、日活封切に転向した。南座は第一封切に昇格したり二番におどしたりしながら姫路唯一の直営館として活躍している。新星は再映二本建て六十円のシステムで微動だにせぬ老舗をもち、駅に最も近い地の利を見事に活用している。経営は山陰に本拠をもつ米子興行。この一群からぐっと北へ離れて播磨總社という神社の境内にシネスコ洋画の姫路映劇がある。経営は神戸セントラル興行（社長広岡紀雄氏）館周辺の雰囲気がすぐれ、

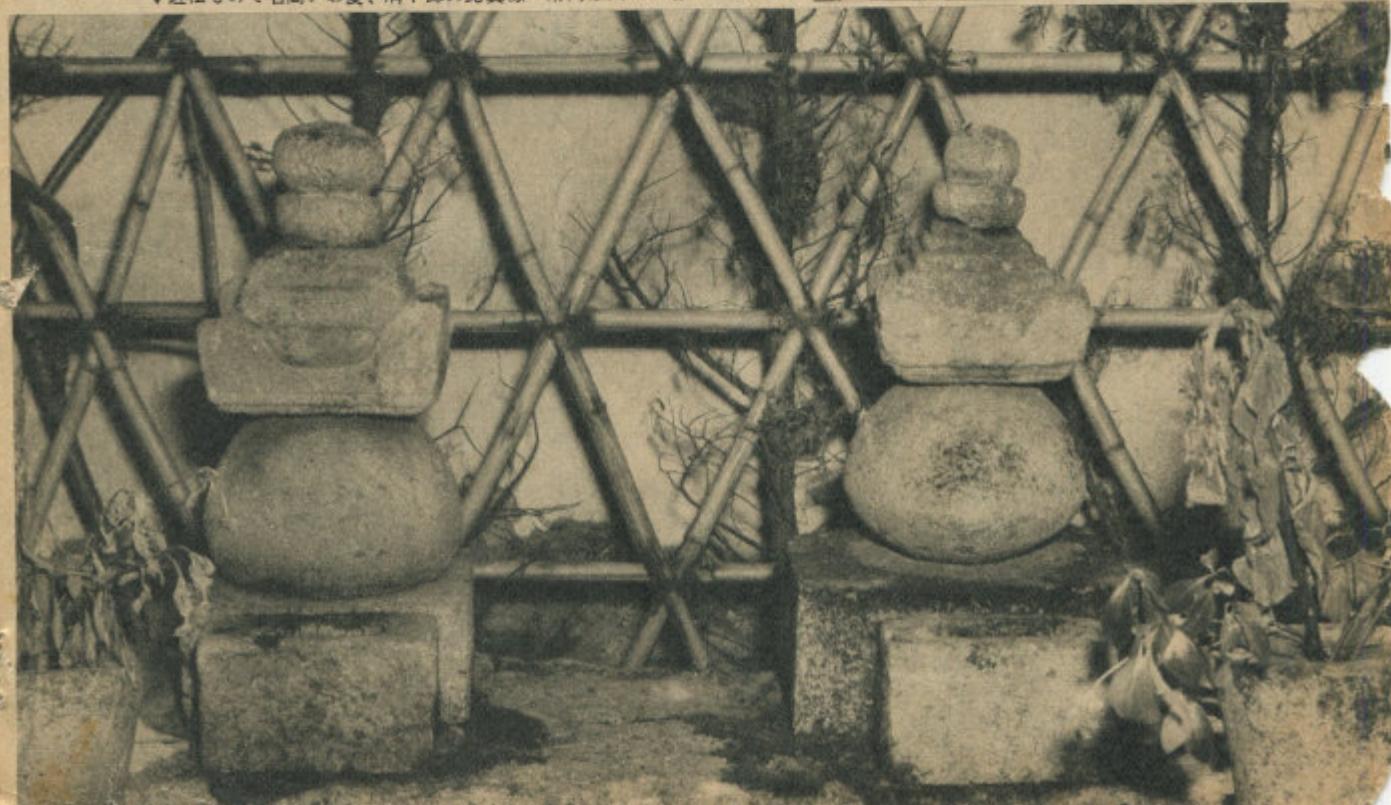
水準の高い観客層を誇る。それだけに渋いもので確実な数字をあげる。このほかに邦画の番線おぢでコツコツ稼いでいる白鷺館がある。

さて全市廿館が盆正月に次ぐ書入れのこの四月に出した数字は、入場人員で三十五万。興取で二千三百余万円。このうち五割は近郊農漁村の人たちが支えているため、

田園都市姫路興行街のパロマーテークは農山魚村の景気に直結すると云つてよい。従つて郷土作家岡部知二氏の小説「城」の語る如く「封建」の氣風いまだ濃いこの町は新しい手を打とうともせず、戦後空前の豊作予想なるものに満腔の期待と自信をかけ、ここ一両年来ニヨリともしなかつた渋面にはのかながらも明るい笑いを浮べ始めたところである。

文
カメラ
君島龍之介
紫田耕司

↓近松も名高いお夏清十郎の比翼塚・市内最大の人通り御幸通り→



新・盛り場風土記

自由ヶ丘



本屋

「自由ヶ丘」が地名として誕生したのは、関東大震災以後である。丁度東京の中心地から真南に位置するこの土地は、当時大根島であり、療養地帯でもあって東京府下荏原郡碑文町大字権現前という大変な名前で、えらく物寂しいところであった。何んでも、舞踊研究家の石井漠さんが三十年前にこの地に根を下ろして、この名づけ親であつたらしく、昭和三年に「自由ヶ丘」と命名した。東横線が渋谷から横浜桜木町まで延長され、統いて大井から出る大井線がこれから更に溝ノ口まで延び、その交差点となつてから、急速に住宅地が発展して行つた。したがつて駅前を中心として商店街が繁栄したが、戦争中ごとく焼野原にされてしまった。

戦争中はこの土地名の「自由」という名が当時間題化して改名を迫られたのであるが、この地に住む文化人が中心となり、当局の圧力に抵抗した甲斐があつて、とうとう「自由ヶ丘」で終始通してしまつた話は、今でも語り草となつてゐる。

「自由ヶ丘」が本当に人々の注目を浴びて発展したのは、戦後である。終戦直後のシンボルであった「自由」という言葉にまことにふさわしく、街の空気全体が何んとなく開放感が漲っていた。しかも雰囲気を愛するこの土地の人々は、商店街の建物にしろ道路の幅、街路樹の果てまでうるさい位の発言をして行つた。おかげで盛り場には付きものの不健康な不良の影がなく、全く自由人というタイプの散歩者が多い感じだ。

この街の特徴は、一口に云つて銀座の雰囲気に近いようだ。銀座に勤務する人々が大半を占めているわけでもあるまいが、品物でも銀座と同じものがある。勿論慎段もそれと同じ位で、安い物などは一切売れない。肉類、魚類などでも高価なものほど売れる。戦後の有名店の「モンブラン」とい





う洋菓子屋は、年間一億五千万円の売り上げといふ。いわば高級洋菓子階級の人々がこの土地に多く居住しているわけだ。最近では日本橋、銀座あたりの有名店がここに支店を設置しようという運動が激しく、洋装店、アクセサリー店、本屋が大変繁盛している。そして質屋の数も大変多いのもこの土地に住む人々の気質を物語つているようである。

自由ヶ丘への散歩客は、この土地の人々は勿論、九品仏、田園調布、奥沢、大岡山、学芸大学といふ土地に住む人が大半を占めている。この土地が日増しに発展しつつある。

つある証拠にこんな小さな所に銀行が六つもある。また自由ヶ丘を中心には、ありとあらゆる学校がたくさんあることも、特徴の一つである。学校と云えば、最近日本一の料理学校が出来上った。その名を田村魚菜学園と云つて、鉄筋四階建、託児所、映写設備、階段教室、ホール、出版部まで備えており、生徒の数が六千人。渋谷からわずか十分位の自由ヶ丘の映画興行は、決して他の都市の興行を標準には出来ない。この土地の人々は邦画よりも洋画を愛し、その洋画も都心のロードショウ級の洋画しか見ない人が多い。



浦和



浦和駅と駅前の広場。

冬の中とは云いながら風もな
い晴れた日曜日の昼下り、深い木
立に包まれて子供連れの散歩など
には恰好な市民のオアシス、調宮
神社の広い境内に、大人と子供が
僅かに二組か三組。

孤につままれそうな気持で、今
度は名所の別所沼へ体を向けると
ここちらほらの人影——釣糸垂
れた大人や子供、沼の開りを逍遙
する人、たしかにこの小公園にい
なければならぬ人達がない。

名物の競馬も今日はなく、街に
も映画館にもバチンコ屋にも、日
曜日だからと云つて目立つた人波
は見受けられない。僅かに文化セ
ンター埼玉会館で行つてゐるNH
Kのど自慢県決勝に活気を見せて
いるだけ。十四万の人口は一体ど
うしているのだろう。

週刊朝日「日本拌見」で、あの
花森安治氏がいみじくも名附けた
「ペッド・タウン」が今更ながら
うなずける。さても今日は日曜日、
東京通りのサラリーマン達が、た
まさかの日曜日、深々?と暖いそ
のベッドで、安らかな眠りを貰っ
ているのかもしれない。

浦和市——東京駅から四十分、
ラッシュ時には五分おき位に往来
する電車に乗れば、僅か十五分で
赤羽——東京都——に着く程近い所に
あるのに、どこか遠い地方の小都
市のように思つてゐる人が多い。
それも道理、明治四年から県庁が
あつたが、人口四万で市制の布か
れたのがなんと昭和九年、居城、
社寺、港等近世都市發展の核なし
云々」と、市発行の沿革誌にちや
んと載つてゐる。関東大震災と今
度の戦災で、東京の人口がどつと
流れ込み、俄かに十四万の人口に



↑急行の通過する浦和駅。県庁通りの大きなアーケード。



堂々たる埼玉県庁の建物。



デパートから転じた浦和銀座のパチンコ屋。



埼玉大学（旧浦和高校）の正門。



盛り場に地の利を占めた浦和東宝。

膨れ上ったが、その三割の人口、働きざかり、樂しみざかりが多いが世間東京へ移動するので、勢い東京の衛星都市的な性格は免れない。然し、そもそも浦和の名前の発祥は、昔この辺りまで東京湾がえぐれていて、海岸線屈曲、風光明媚、よつて「浦曲」（うらわ）と名付けられた。その後は仲仙場の宿場町で、氣候もよく天災もなく、至極のんびり育つて来たようだ。

さてこの街の映画館は……と云うと僅か四つ、一館當り三万五千の勤員人口を抱えながら、尚且どこも青息吐息で、浦和東宝・石井支配人の言葉を借りると「業界七不思議の一つ」と云う。稅務署も首をかしげている。

このうち戦後開館はたつた一つ、市内目抜通り当市唯一のTデパート・廃業の折、映画館になりそうな噂もあつたが実現しなかつた。これでは逆に人口が映画館数の限界をオーバーしている珍現像だ。一つは地元に興行社もなく、又ベッド・タウンの住人の眠りを醒ます程の素晴らしい興行設備をもとうとする果敢な資本家の情熱を誰も持合わせていない故かもしれぬ。

市の南寄りに「浦和東宝」（東宝封切）がある。平日の昼間などは先づひつそりしたもの、土・日曜がどうやら、当たったプロは「浮雲」「どぶ」の類、こんな時は遙々と近在からの観客も集まる。

繁華街、通称浦和銀座の略々中央にあるのが「浦和劇場」（大映封切、東映）と「浦和パレス」（日活封切、松竹）いずれも東京三ツ葉興行経営、支配人は坂田正威氏、前者の昨年度ヒットは「七人の侍」



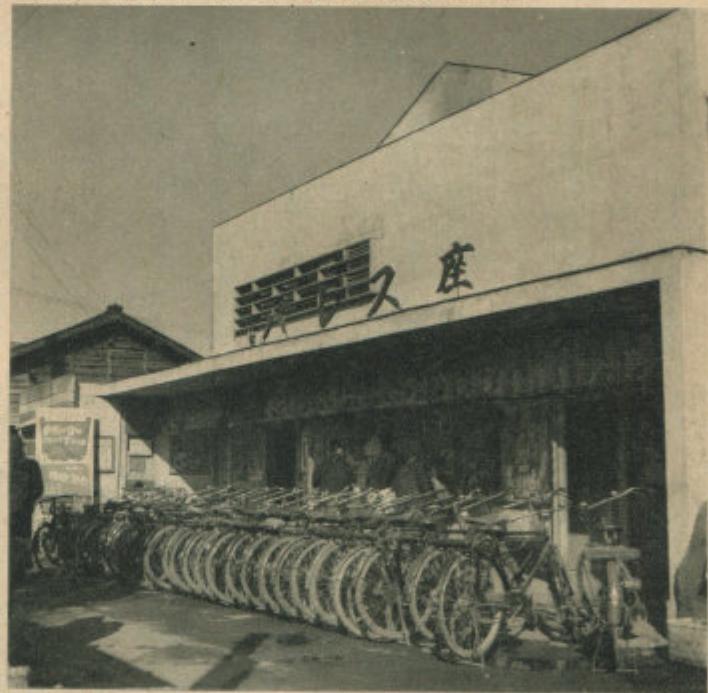
←浦和銀座の中央にある浦和劇場。



ワイド・スクリーンをもつ当市の大劇場シアタ・パール。



浦和銀座は当市唯一の盛り場地帯。



市の中心からややはなれたパレス座。

「千姫」「山根大夫」。後者は「二十四の瞳」でひどく当たったが、幸いこの街でも大人とちがつて子供は動員の対象となるから、子供向はどこでも一応あてているようだ。浦和ではアクション物がダメだという定説があり、この辺にもこの街の性格がありそうだ。

北へ行って「シアタ・パール」

（又の名を北浦和映画劇場・洋画専問）二本立てで全市の学生、サラリーマンが対象で、定員も五百チケット、この街では一番大きく、昨年三月ワイド・スクリーンに改裝した。千葉の山崎興行經營、支配人は野沢寿徳氏、昨年のヒット

は「ローマの休日」「浮気なカロリーヌ」あたりだった。

「シネスコの設備でもして、思ひきり入れて見たいんですがね」とは支配人の抱負だが、抱負だけに実現はむづかしいと云う反証かもしれない。小屋の入口から一寸中をのぞいて、廊下に客がうろうろしていると、そのまま帰ってしまう客もあるという。座われないなら見ない、というゼイタクなお客もすいぶんいるらしい。

さて問題の二時間半制について各支配人に水を向けると、異口同音賛成だった。但し「入場料は百円でも、お客様は二本立ての一本が五十円と云うそろばんで来る人が多い。インテリやサラリーマンの世論なんてあてになりませんよ」と淋しそうに洩らす人もいた。

ともかく浦和という街は興行界にとって鬼門らしい。どんなに客を動員しようとしても街の人達は大した関心ももたず、周辺の田舎の人達も上野、浅草、或いは大宮

（浦和から電車で五分、人口は浦



和と同じ七十四万に映画館八館)に逃げてしまい、およそ地元の映画館に愛着がないらしい「どうせ観るなら東京で……」と人々は通勤の帰りに、設備のよい東京の映画館を利用するし、日曜でも通勤バスは使える。これでは映画館主も、観客動員にも設備改善にも積極的な意欲も持ちえないのかかもしれない。むしろそれよりも、赤字を出さない消極的な防衛に精一杯なのだろう。

前記の市唯一のTデパートも、映画館ならぬバチンコ屋に衣替えし、派手に人を集めているが、いずれにしても油和の盛り場は、十四万の人口に似ず、お淋しいことである。汽車が停らね県庁所在地「と花森氏のキヤツチ・フレーズに使われたが、すべては不利な条件を背負わされたこの都市の宿命かもしれない。しかし、浦和銀座にはアーチ式のネオンが婉々とつづき、鉄筋五階の県庁舎へ向う太通りには近代的なアーケードも完成し、県都完成への逞しい意欲は見せているが。

市役所御自慢の、日本で清水市に次ぐ二番目の短波放送が、市内十一ヵ所にスピーカーを設けて、市民へのサービス放送を行い、テーマ音楽の「春の海」が、往時の平和な「浦曲の里」を象徴して澄んだ空に流れ行く。ペッド・タウンが何時の日か市民のスイート・タウンに変ぼうするとき、すばらしい映画のバラダイスも又数多く完成することであろう。その頃の浦和の盛り場に、心からの期待をよせる。

ベッド・タウンの名を象徴するようなサラリーマンの住宅街。

文
カ
メ
ラ
・
一
斎
藤
夏
洋
夫



八戸

はちのへ



上 秋祭りにくり出す豪華な山車
左 天然記念物うみねこの棲息地、燕島
下 日本中の漁船の集結する湊川口港

「唄に夜明けたかもめの港
船は出て行く 南へ北へ
波の岬は潮けむり

この正調「八戸小唄」が某レコード会社で「鶴さん龜さん」と題するお座敷ソングの替え唄に化けたからたまらない。この町の市長から「市民をブショクするも甚しい」と著作権侵害であわや法廷闘争となりかかった。

何しろみなと八戸は東北最大の商工漁港で鮮魚水揚年間一、五〇〇万貫、全国三位の漁港で、その市民歌に等しいものがこの「八戸小唄」であるというのが十四万市民の市民感情だというのである。

当市は「本州北端青森県の太平洋寄り」岩手県境に接する水産工業都市」というのが市発行市勢要覧のうたい文句で、天然記念物「うみねこの棲息地 燕島や、大映作品「幻の馬」ロケ地県立種差公園は、國立公園十和田と結んだ北国きっての観光地で「おらが国さ」の御自慢も多いのに、関東以西に行けば一口で八戸を「はちのへ」と読んでくれる人のいかに少い事か、つい、県外に端的に宣伝出来るのはこの「八戸小唄」しかなないというのが市民のコンプレックス交りの自負となるわけ。

新興都市たる面目躍如としたエビヅリードだろう。

八戸市は寛文四年盛岡の南部十万石が城主病歿と共に断絶のうちに逢いかけたところ時の幕府の小藩政策で二万石を八戸藩に分割相続となつて以来八戸港から江戸長崎への回漕が行われ、港と共に





↑八戸港附近唯一の映画劇場



↑セカンドで稼ぐ第二中央劇場



↓東映物のオデオン座



發展して来た。然し明治維新までの歴史は愚昧な藩政と大凶作と百姓の一揆のそれであり、そうした立おくれは現在でも県下切っての非文化的都市という定評にも残つてゐるようだ。

敗戦当時の興行界の状況を見て、その一端がうかがえよう。映画館は浜通りに松竹館と旧市内に戸東宝の二館があつたのみでこれで七万の人口を相手の劇場だったわけだから当時の興行界は眠れるにひとしいものであつた。ところが翌二年に旧市内長横町に土建業者の城前栄太郎氏が「銀映劇場」を建てセントラルと大映の封切を行つたところ、當時獨の鳴き声(?)が聞えたという田圃であつたがこの野中の一軒家には連日長蛇の列がつくられるというアームを現出した。

銀映の三年に及ぶ我が世の春はこの地域に劇場進出をうながして、二四年に八戸協和興行(社長泉山重吉氏)の「中央劇場」が、二六年には中村文化興行(社長中村邦男氏)の「文化劇場」が誕生し、ようやく座して客を待つ戦後興行界の蜜月時代から自由競争の世に移り出した。

それ以来今日までこの長横町界隈は映画街として市きつての繁華街となり、スローモーな市の都市計画を尻目に奔放な成長をとげてゐるわけだ。東北本線尻内駅から支線八戸駅に降り立つて繁華街に出るまで十分、官守街を経た十字路が中心地三日町だが、その先

シネマでは背中合せの「中央劇場」が二九年九月に從一二尺横三五尺にスクリーンを改造、仙台に次ぐ東北二番目の早手廻しのところをみせ、「聖衣」は平日の三倍の興収をあげた。

同館は高館米軍基地に駐屯する黄色いリボンの第七騎兵師団からくり出す客で仲々にぎやかだが最近遠い浜通りの客のために大型バスを買って往復無料サービスといふ新手に出た。チエーン劇場(第一中央)が隣接し東宝系セカンドで稼いでいる。

最近附近では元ローラースケート場(日本会館)も大映洋画で仲入りし、中村文化興行が地上三階地下一階のシネマ館(中に東映封切館とニュース館も入る)を建設中で正月完成したら東北一と

がこの長横町通りで今の中央通りだ。まず「八戸日活」がこの十一月から大映封切から日活封切に変つた。八年に亘る銀映劇場時代の大映ファンをどう切りかえるという岐路に立つているが貸館で城前興行と日活の共同經營というわけだが県下初の日活直営館といふことになった。正月から日活全プロとなるので大映作品は何処へゆくかと話題を集めいたが、これはお向いの「文化劇場」が十一月一週「湯島の白梅」から契約、松竹との二本建てとなつた。同館は元々が洋画ファン相手で稼いだところで九月にシネマスクリーン(従一六尺、横三六尺)を設備している。



↑アクション物専門で稼ぐ映画館　↓松竹封切館の八戸松竹

↑特飲街入口近くの八戸日活小劇場



↑市きっての老舗、八戸東宝



↑県下のトップを切ったシネスコ館、中央劇場

の尊を生めば、更に隣接して同系の大映封切館として作家北村小松氏宅を買収整地しているから明春までに市内劇場は一挙に十八館となる盛況振りでようやく戦国時代の様相を呈して来た。

この盛り場から二丁それたばか

りに孤立をかこつ老舗「八戸東宝」

もこの中心街への進出を虎視眈々

とねらいつつあるが日下東宝の看

板を背負って孤軍奮闘の形だ。二

八年三和興行との貸館契約満了と

共に館主の中村喬一郎氏の経営に

代つたが、場所のズレを宣伝でカ

バードするという戦法で、これと思

う作品には興収の一〇%—一五%

を投する。「ジヤンケン娘」では

実に二五%，館前で客にジャンケ

ンをさせ勝った方を優待すると、

一か八かの戦術までやる。

八戸市は三里に及ぶなきの寝

床の一本町で繁華街の切れ目はヒ

ヨウタンのようくびれる。第二

のふくれ目が小中野地帯で工場、

漁業施設が集結し小中野特飲街も

市切つてのにぎわいだ。全国の漁

↓集会場だった日米会館



←日活直営館の八戸日活劇場

文・カメラ・横田・雄士
協力・和井田

この先は八戸港までの一里の間はいかのカーテンと魚の氾濫する浜通りだが八戸港を見下す高台にボツンと円屋根の「鮫映劇」が地元と漁師相手の和洋二番館だ。市興行協会長後藤健次氏の經營によるものである。この高台から海の彼方の山手に高台キヤンプがあるが基地の町には水目沢劇場など二館がよきによきとたち市の興行界の一分野を受持つている。

人口十四万に十八館とは素人にしての整備や産業の発展からしたるまだまたというのが業者の一致した強気で、このところ市の興行界ばかりは先進地を勇敢に追い越す勢いにあるようだ。(応募作品)

船をあつめる新井川をはさんで対峙する四館はいずれも前記中央通り劇場の出先チーンだ。「文化系」オデオン座はこの西方にあつて東映シリース大当たりの波にのってこのところ人員では市内のトップ、五五〇名の定員で月四万人も動員するが半分は子供相手で終日かしましい。「日活小劇場」は小中野花柳街の襟首あたりに四月店開きし日活と洋画のアクション物で売り、河向うの中劇系「港映劇」の洋画活劇と共に氣の荒い派通りの人気に投じて居り、老舗「松竹館」が「文化劇場」と松竹大映のかけもちで手がない。

↓メイン・ストリート三日町通り



↑日本一といわれるするめ→



高崎市は東京から車で約二時間の地点にある。明治三十二年四月に市制施行以来五十有余年、その間幾多の苦難と闘いながらも高崎は黙々と発展への道を辿り続けた。不幸にして県庁を前橋に奪われ、高崎の目をみたが、高崎線、上越線、信越線、両毛線、八高線の岐点として年間約百万人の乗降人員は群馬県の表玄関の名に相応しい。人口一二五、二六九人を数える商工業都市である。

城跡には今次大戦終了まで高崎歩兵第十五連隊が置かれ、繁華街もそこを中心に発展した。しかし、今は兵舎の大部分は取り壊され、代つて市役所、電信電話公社等が建ち並び整然たる官庁街を作り、高崎城の跡は僅に残された大手門の石垣とお堀に囲まれのみである。

城跡近く、高崎公園の堤に立てば遙か城山の頂に白衣の観音像を望む。この白衣觀音は市の事業家井上保三郎氏の志により昭和十一年竣工されたもので高さ四十米、内部に十階を設け、二十体の仏像が安置されている日本一の立觀音である。

また眼下には幕末時の先覚者小栗上野介忠順斬罪の地烏川の流が走っている。

繁華街近くには、時の封建制度

の犠牲となり二十余才の生涯を閉じた悲劇の人、駿河大納言忠長卿の墓所がある。

拉張工事は着々進んでいるもの、城災を受けぬ高崎市の道幅は

新・盛り場風土記

高崎



盛り場・中央銀座鈴蘭通り

東宝映画劇場



高崎東宝映画劇場

（古河市）

氏の経営で、スマートな洋画専門館として学生、インテリ層に親しまれている。ただ暖冷房装置が完備されていないのは新館としてはさか寂しい。「マナスルに立つ」では案外成績がいいようだ。

ここから昔の中仙道だった通りを二、三分北へ行き、左に折れ、

連雀町通りに出ると、左手にやはり鳥井氏経営の高崎銀星座がある。

ビカデリーの出来る前は洋画専門

館として、特に歐州映画の上映に力を入れていたが、ビカデリーの完成と共に邦画専門館に転向、日活、新東宝系の作品でかせいである。

支配人はビカデリーの支配人

金井喜儀氏が兼ねている。この連

雀町通りを西へ行くと田町通りへ

出る。かつて高崎一洪川間の市電

の走っていた通りで、今はさして

あるべきだろ？

先ず駅前通りを右手へ、衣料問

屋が軒を並べる一角に、今年の八月開館したビカデリー映画劇場があ

る。元野中興行にあつた島井清

狭く、裏通りには大正時代を思わせるひなびた街並もある。駅の東には、真赤な鉄泥をはき出す鉄工所などが建ち並び、高崎鐵道管理局の前を少し行き、右に折れば、県唯一の公認競馬場がある。

田町通り、晴町通り、中央銀座

すずらん通りなどの繁華街は、絶て駅の西にあり、南北にのびてい

る。現在、高崎市の映画館は八館を

数える。一館二万人の割をもって

すれば稍多いが、全国的な新館ラ

ッシュの今日、この程度は当然と

みるべきだろ？

先ず駅前通りを右手へ、衣料問

屋が軒を並べる一角に、今年の八月開館したビカデリー映画劇場があ

る。元野中興行にあつた島井清



国際映画劇場



オリオン座



高崎メトロ



高崎銀星座

月開館したピカデリー映画劇場がある。元野中興行にあつた鳥井清の走っていた通りで、今はさして



松竹オリオン



ピカデリー映画劇場



高崎松竹



高崎電気館

広くないアーケードの商店街を前橋、渋川方面行のバスやトラックが引きも切らない。その田町通りを横切り、旧連隊の営門に向かって歩くと、数十米にして駄町通り、通称国際通りの十字路に至る。この南北に走る道幅五米ばかりの通りを右に折れて、少しゆくと、右手に野中興行経営の高崎国際劇場がある。この八月までは松竹系の封切館として婦人層に親しまれていたが、オリオン座と松竹の新改築によって東映系の封切館に転向、時代劇ファンのメッカとなつた。最近では「海の百万石」が当つた。

支配人は徳橋涉氏。雜踏をかきわけ更に進むと、道は国際通りから中央銀座すずらん通りに変る。国際劇場から二つ目の、狭い露路を左に折れた虹燈の巷、柳川町の一角に、広瀬保次氏経営の株式会社電気館がある。大映系の封切館だが、目立ぬ場所だけにもう少しのスマートさが欲しい。「日本かく戦えり」が最近のヒットだそうだ。

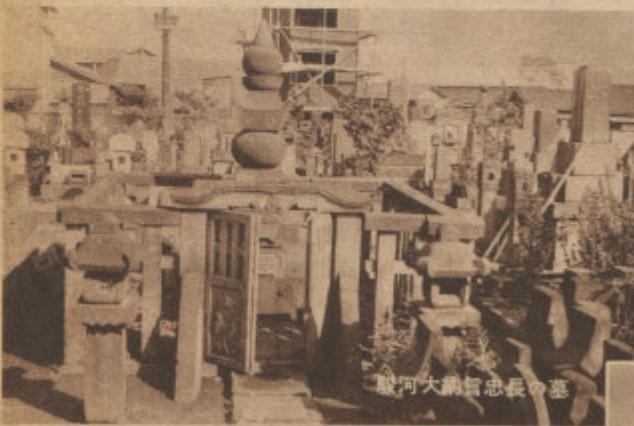
支配人は角田重太郎氏。すずらん通りを更に北に進むと野中興行自慢の映画デパート、オリオン座どもが成程とうなづける。二階のオリオン座は、野中唯一の洋画専門館で、支配人は矢島氏。両館とも都合的なスマートさと設備の良さで相当の成績を上げている。

この松竹、オリオンから二十米程の所に高崎東宝映画劇場がある。昭和十三年頃より今日まで東宝直系の封切館としてその歴史は長い。支配人安居亀氏は独特な番組編成





高崎駅前広場



段河大輔信忠長の墓

で広範囲な観客を抱んで居り、地方受けしない都會カラの作品で結構かせいである。「ならず者」と「吸血蛾」の二本を組ませ高崎ツ子の荒ツはい氣性を巧みにあやつり、大当たりをとるなど、その手腕の程がうかがわれる。最近のヒット作は「白夫人の妖恋」「女因と共に」等がある。もう一館、銀星座の斜向いに洋画専門館の高崎メトロ映画劇場がある。神楽坂メトロの池田興業の経営だが新設のオリオン・ピカデリーに客種を食われ経営不振の氣味はまぬかれぬ。上映作品も遅い。

こうざつと見渡した處、設備の良い館にいくらか歩がありそうである。高崎には邦画四館、洋画一



国道・中仙道



高崎公園

文
・ 阿 部
・ 山 口 秀 夫
・ カメラ・阿 部 忍

館が適当といわれるが、これからもこの映画興行地図は何度となく書き換えられるだろう。尚、映画観客団体として高崎映画サークル協議会（責任者高井高、会員數一千三百人）があるが、未だ映画を安くみようと云う城を出ていない。古さと新しさを有する高崎が今後どのよくな発展をするか興味ある問題である。



高崎競馬場

松竹
グランドスコープ

総天 然色

豪華スターの異色喜劇！
女も欲しい名も欲しい！ ペテン師にかつがれた田舎の顔役！

嘘みつかれたり顔役

高伴

淳二郎

監督

中村

登朗

・

原作

九路映子

北条秀司

桂沢村

脚本

小貞子

椎名利夫

金治

・

殿山泰司

野辺かほる

大木

実

か
お

や
く

東映スコープ。



昭和三十三年度芸術祭参加作品

働くもの、歓びを描いた快心の青春抒情篇!!

裸の大陽

はだか

たい

よう

監督

製作
大川

巳代治

企画・本田延三郎
原作・水室和敏
脚本・新藤兼人
撮影・宮島義勇
音楽・齊藤也寸志
依田一郎

江原眞二郎
中原ひとみ
仲代達矢
岩星山丘さとみ
崎美形智
中原ひとみ
加根子子
駿河英治郎
雄子子
勧矢



画面3倍・興味100倍

東映スコープ。

群衆の中に消えた殺人犯!!
迫真のロケーションカメラが捉えた
驚異の犯罪ドキュメンタリー!!

監督
小沢茂弘

企画
撮影
脚本
福島宏之
長谷川安代
斎藤公之

警視庁物語

夜の野獸

東阿山花浜千松神加 波小堀

野部本沢由 石本田藤島宮
英九百規 光治州麟德合

郎男一衛子子平隆嘉 進江二

東
映

大型映画は東映

★★映画は大映★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

求めてはならぬ年下の学生の胸にくずれゆく人妻の肌！



大映スコープ

総天然色

渴き

かわ

原作・太田経子
脚本・船橋和郎
監督・島耕二
撮影・小原謙治

山本富士子
崎敬
佐川順子
利信
柴田吾郎
南左斗子
多々良純
見明凡太朗

川口浩
野添ひとみ
高松英郎
小野道子
伊藤雄之助

原作・開高健
脚本・白坂依志夫
監督・増村保造
撮影・村井博

この女は俺が買った！
無名の一少女をスター
の座にのし上げた
青年の野望！

大映スコープ
総天然色

三人と玩具

きよ

じん

がん